2017(平成29年度)開講の教養教育・人間科学科目のシラバス目次

頁	科目コード	科目名	クラス	担当教員名	年度	学年	開講学期	曜日・時限	単位区分	単位数
1	01001003	教職実践演習(高)	01	東野　充成	2017	4年	後期	金曜 1限	査定外	2, 2.0
2	01001020	哲学Ⅰ	01	中村　雅之	2017	2年	前期	月曜 1限	選必	2, 2.0
3	01001020	哲学Ⅰ	02	中村　雅之	2017	2年	前期	月曜 2限	選必	2, 2.0
4	01001020	哲学Ⅰ	03	中村　雅之	2017	2, 3年	前期	金曜 2限	選必	2, 2.0
5	01001030	哲学Ⅱ	01	中村　雅之	2017	2年	後期	月曜 1限	選必	2, 2.0
6	01001030	哲学Ⅱ	02	中村　雅之	2017	2, 3年	後期	金曜 2限	選必	2, 2.0
7	01001034	哲学と現代Ⅰ	01	中村　雅之	2017	2, 3, 4年	前期	木曜 4限	選	2, 2.0
8	01001035	哲学と現代Ⅱ	01	中村　雅之	2017	2, 3, 4年	後期	木曜 4限	選	2, 2.0
9	01001080	倫理学Ⅱ	01	堺　正憲	2017	2年	後期	月曜 1限	選必	2, 2.0
11	01001080	倫理学Ⅱ	02	堺　正憲	2017	2, 3年	後期	金曜 2限	選必	2, 2.0
12	01001120	歴史学Ⅰ	01	水井　万里子	2017	2年	前期	月曜 2限	選必	2, 2.0
14	01001120	歴史学Ⅰ	02	水井　万里子	2017	2, 3年	前期	金曜 2限	選必	2, 2.0
15	01001270	心理学Ⅰ	01	山口　雄介	2017	2年	前期	月曜 2限	選必	2, 2.0
16	01001320	文学Ⅰ	01	荻原　桂子	2017	2年	前期	月曜 2限	選必	2, 2.0
17	01001420	教育学Ⅰ	01	東野　充成	2017	2年	前期	月曜 2限	選必	2, 2.0
18	01001443	教育システム論	01	東野　充成	2017	2, 3, 4年	後期	金曜 3限	選	2, 2.0
20	01001506	英語CⅠ	15	本村　香緒	2017	2年	前期	月曜 5限	必	1, 1.0
20	01001506	英語CⅠ	07	江口　雅子	2017	2年	前期	月曜 5限	必	1, 1.0
21	01001506	英語CⅠ	18	田吹　昌俊	2017	2年	前期	月曜 5限	必	1, 1.0
21	01001506	英語CⅠ	17	前田　雅子	2017	2年	前期	月曜 5限	必	1, 1.0
22	01001506	英語CⅠ	08	川龍　麗美	2017	2年	前期	月曜 5限	必	1, 1.0
22	01001506	英語CⅠ	09	田吹　香子	2017	2年	前期	月曜 5限	必	1, 1.0
23	01001506	英語CⅠ	10	隈部　歩	2017	2年	前期	月曜 5限	必	1, 1.0
23	01001506	英語CⅠ	11	林　惠子	2017	2年	前期	月曜 5限	必	1, 1.0
24	01001506	英語CⅠ	12	岡裏　浩美	2017	2年	前期	月曜 5限	必	1, 1.0
25	01001506	英語CⅠ	13	山本　将司	2017	2年	前期	月曜 5限	必	1, 1.0
25	01001506	英語CⅠ	14	渡邉　裕子	2017	2年	前期	月曜 5限	必	1, 1.0
26	01001506	英語CⅠ	06	河野　世莉奈	2017	2年	前期	月曜 5限	必	1, 1.0
26	01001506	英語CⅠ	16	デニス　ジョーンズ	2017	2年	前期	月曜 5限	必	1, 1.0
27	01001506	英語CⅠ	01	原田　昴	2017	2年	前期	月曜 5限	必	1, 1.0
27	01001506	英語CⅠ	02	八丁　由比	2017	2年	前期	月曜 5限	必	1, 1.0
28	01001506	英語CⅠ	03	大野　瀬津子	2017	2年	前期	月曜 5限	必	1, 1.0
28	01001506	英語CⅠ	04	森　千鶴	2017	2年	前期	月曜 5限	必	1, 1.0
29	01001506	英語CⅠ	05	池田　景子	2017	2年	前期	月曜 5限	必	1, 1.0
29	01001507	英語CⅡ	14	渡邉　裕子	2017	2年	後期	月曜 5限	必	1, 1.0
30	01001507	英語CⅡ	15	本村　香緒	2017	2年	後期	月曜 5限	必	1, 1.0
30	01001507	英語CⅡ	16	デニス　ジョーンズ	2017	2年	後期	月曜 5限	必	1, 1.0
31	01001507	英語CⅡ	17	前田　雅子	2017	2年	後期	月曜 5限	必	1, 1.0
31	01001507	英語CⅡ	18	田吹　昌俊	2017	2年	後期	月曜 5限	必	1, 1.0
32	01001507	英語CⅡ	01	本村　香緒	2017	2年	後期	月曜 5限	必	1, 1.0
32	01001507	英語CⅡ	02	八丁　由比	2017	2年	後期	月曜 5限	必	1, 1.0
33	01001507	英語CⅡ	03	大野　瀬津子	2017	2年	後期	月曜 5限	必	1, 1.0
33	01001507	英語CⅡ	04	森　千鶴	2017	2年	後期	月曜 5限	必	1, 1.0
34	01001507	英語CⅡ	05	池田　景子	2017	2年	後期	月曜 5限	必	1, 1.0
34	01001507	英語CⅡ	06	河野　世莉奈	2017	2年	後期	月曜 5限	必	1, 1.0
35	01001507	英語CⅡ	07	江口　雅子	2017	2年	後期	月曜 5限	必	1, 1.0
35	01001507	英語CⅡ	08	川龍　麗美	2017	2年	後期	月曜 5限	必	1, 1.0
36	01001507	英語CⅡ	09	田吹　香子	2017	2年	後期	月曜 5限	必	1, 1.0
36	01001507	英語CⅡ	10	隈部　歩	2017	2年	後期	月曜 5限	必	1, 1.0
37	01001507	英語CⅡ	11	林　惠子	2017	2年	後期	月曜 5限	必	1, 1.0
37	01001507	英語CⅡ	12	岡裏　浩美	2017	2年	後期	月曜 5限	必	1, 1.0
38	01001507	英語CⅡ	13	山本　将司	2017	2年	後期	月曜 5限	必	1, 1.0
39	01001513	英語DⅠ	07	八丁　由比	2017	2年	前期	金曜 3限	選必	1, 1.0
39	01001513	英語DⅠ	04	ロング　Ⅲ　ロバート	2017	2年	前期	木曜 3限	選必, 選	1, 1.0
40	01001513	英語DⅠ	03	前田　雅子	2017	2年	前期	木曜 2限	選, 選必	1, 1.0
40	01001513	英語DⅠ	02	ロング　Ⅲ　ロバート	2017	2年	前期	火曜 5限	選必, 選	1, 1.0
41	01001513	英語DⅠ	06	大野　瀬津子	2017	2年	前期	木曜 5限	選必, 選	1, 1.0
41	01001513	英語DⅠ	05	山本　将司	2017	2年	前期	木曜 5限	選必, 選	1, 1.0
42	01001513	英語DⅠ	01	ラックストン　イアン	2017	2年	前期	火曜 5限	選必, 選	1, 1.0
42	01001514	英語DⅡ	07	前田　雅子	2017	2年	後期	金曜 3限	選必, 選	1, 1.0
43	01001514	英語DⅡ	01	ラックストン　イアン	2017	2年	後期	火曜 5限	選必, 選	1, 1.0
43	01001514	英語DⅡ	02	ロング　Ⅲ　ロバート	2017	2年	後期	火曜 5限	選必, 選	1, 1.0
44	01001514	英語DⅡ	03	八丁　由比	2017	2年	後期	木曜 2限	選必, 選	1, 1.0
44	01001514	英語DⅡ	04	ロング　Ⅲ　ロバート	2017	2年	後期	木曜 3限	選必, 選	1, 1.0

2017(平成29年度)開講の教養教育・人間科学科目のシラバス目次

頁	科目コード	科目名	クラス	担当教員名	年度	学年	開講学期	曜日・時限	単位区分	単位数
45	01001514	英語DⅡ	05	吉村　理一	2017	2年	後期	木曜 5限	選必, 選	1, 1.0
45	01001514	英語DⅡ	06	大野　瀬津子	2017	2年	後期	木曜 5限	選必, 選	1, 1.0
46	01001515	ドイツ語Ⅲ	02	平川　要	2017	2年	前期	木曜 3限	選必, 選	1, 1.0
47	01001515	ドイツ語Ⅲ	01	渡辺　アンゲリカ ヘ	2017	2年	前期	火曜 5限	選必, 選	1, 1.0
47	01001515	ドイツ語Ⅲ	03	渡辺　アンゲリカ ヘ	2017	2年	前期	木曜 5限	選必, 選	1, 1.0
48	01001516	ドイツ語Ⅳ	03	山本　達夫	2017	2年	後期	木曜 5限	選必, 選	1, 1.0
49	01001516	ドイツ語Ⅳ	01	山本　達夫	2017	2年	後期	火曜 5限	選必, 選	1, 1.0
50	01001516	ドイツ語Ⅳ	02	山本　達夫	2017	2年	後期	木曜 3限	選必, 選	1, 1.0
51	01001517	中国語Ⅲ	02	篠原　征子	2017	2年	前期	木曜 3限	選必, 選	1, 1.0
52	01001517	中国語Ⅲ	01	岡村　真寿美	2017	2年	前期	火曜 5限	選必, 選	1, 1.0
53	01001517	中国語Ⅲ	04	岡村　真寿美	2017	2年	前期	木曜 5限	選必, 選	1, 1.0
53	01001517	中国語Ⅲ	03	一木　達彦	2017	2年	前期	木曜 5限	選必, 選	1, 1.0
54	01001518	中国語Ⅳ	04	篠原　征子	2017	2年	後期	木曜 5限	選必, 選	1, 1.0
55	01001518	中国語Ⅳ	01	野村　和代	2017	2年	後期	火曜 5限	選必, 選	1, 1.0
56	01001518	中国語Ⅳ	03	一木　達彦	2017	2年	後期	木曜 5限	選必, 選	1, 1.0
57	01001518	中国語Ⅳ	02	一木　達彦	2017	2年	後期	木曜 3限	選必, 選	1, 1.0
58	01001519	フランス語Ⅲ	01	古野　千恵	2017	2年	前期	火曜 5限	選必, 選	1, 1.0
58	01001519	フランス語Ⅲ	02	甲斐　春香	2017	2年	前期	木曜 5限	選必, 選	1, 1.0
59	01001521	フランス語Ⅳ	01	古野　千恵	2017	2年	後期	火曜 5限	選必, 選	1, 1.0
59	01001521	フランス語Ⅳ	02	甲斐　春香	2017	2年	後期	木曜 5限	選必, 選	1, 1.0
60	01001522	韓国語Ⅲ	01	井田　茂雄	2017	2年	前期	火曜 5限	選必, 選	1, 1.0
60	01001522	韓国語Ⅲ	02	崔　相振	2017	2年	前期	木曜 5限	選必, 選	1, 1.0
61	01001523	韓国語Ⅳ	02	崔　相振	2017	2年	後期	木曜 5限	選必, 選	1, 1.0
61	01001523	韓国語Ⅳ	01	井田　茂雄	2017	2年	後期	火曜 5限	選必, 選	1, 1.0
62	01001525	選択英語Ⅱ	01	渡邉　浩明	2017	2年	後期	金曜 5限	選	1, 1.0
63	01001526	国際関係論	01	玉村　健志	2017	2年	後期	月曜 2限	選必	2, 2.0
64	01001528	東アジア論	01	後藤　啓倫	2017	2年	後期	月曜 2限	選必	2, 2.0
65	01001529	職業と社会	01	東野　充成	2017	2, 3年	後期	金曜 2限	選必	2, 2.0
66	01001531	日本語表現法	01	水井　万里子	2017	2, 3年	後期	金曜 2限	選必	2, 2.0
67	01001532	サスティナビリティー論	01	東野　充成	2017	2, 3, 4年	前期	金曜 3限	査定外	0, 0.0
69	01001533	法学Ⅰ	01	小野　憲昭	2017	2年	前期	月曜 1限	選必	2, 2.0
70	01001601	経営学Ⅰ	02	小江　茂徳	2017	2年	前期	金曜 2限	選必	2, 2.0
71	01001601	経営学Ⅰ	01	小江　茂徳	2017	2年	前期	月曜 2限	選必	2, 2.0
72	01001602	経営学Ⅱ	01	小江　茂徳	2017	2年	後期	金曜 2限	選必	2, 2.0
73	01001603	経営組織論	01	小江　茂徳	2017	2年	前期	金曜 3限	選	2, 2.0
74	01002040	日本国憲法	01	小野　憲昭	2017	2年	前期	月曜 2限	選必	2, 2.0
75	01002120	社会学Ⅰ	01	森　康司	2017	2年	前期	月曜 2限	選必	2, 2.0
76	01002137	西洋社会史Ⅰ	01	水井　万里子	2017	2, 3, 4年	前期	金曜 3限	選	2, 2.0
78	01002138	西洋社会史Ⅱ	01	水井　万里子	2017	2, 3, 4年	後期	金曜 3限	選	2, 2.0
79	01002220	政治学Ⅰ	01	本田　逸夫	2017	2年	前期	月曜 1限	選必	2, 2.0
81	01002220	政治学Ⅰ	02	本田　逸夫	2017	2年	前期	月曜 2限	選必	2, 2.0
82	01002220	政治学Ⅰ	03	本田　逸夫	2017	2, 3年	前期	金曜 2限	選必	2, 2.0
83	01002230	政治学Ⅱ	01	本田　逸夫	2017	2年	後期	月曜 1限	選必	2, 2.0
85	01002230	政治学Ⅱ	02	本田　逸夫	2017	2年	後期	月曜 2限	選必	2, 2.0
86	01002230	政治学Ⅱ	03	本田　逸夫	2017	2, 3年	後期	金曜 2限	選必	2, 2.0
87	01002235	日本政治論Ⅰ	01	本田　逸夫	2017	2, 3, 4年	前期	金曜 3限	選	2, 2.0
88	01002236	日本政治論Ⅱ	01	本田　逸夫	2017	2, 3, 4年	後期	金曜 3限	選	2, 2.0
89	01002370	地域研究Ⅰ	01	成末　繁郎	2017	2年	前期	月曜 2限	選必	2, 2.0
90	01002370	地域研究Ⅰ	02	成末　繁郎	2017	2, 3年	前期	金曜 2限	選必	2, 2.0
92	01002380	地域研究Ⅱ	02	近藤　直也	2017	2年	後期	月曜 2限	選必	2, 2.0
93	01002380	地域研究Ⅱ	01	近藤　直也	2017	2年	後期	月曜 1限	選必	2, 2.0
94	01002505	リレーセミナー	01	水井　万里子	2017	2, 3, 4年	前期	水曜 5限	選	2, 2.0
95	01002741	選択日本事情A	01	上野　まり子	2017	2年	前期	金曜 2限	選	2, 2.0
96	01002742	選択日本事情B	01	アプドゥハン　恭子	2017	2年	後期	月曜 2限	選	2, 2.0
97	01002770	日本事情C	01	上野　まり子	2017	2年	前期	金曜 2限	査定外, 選	0, 0.0, 2.0
98	01002780	日本事情D	01	石川　朋子	2017	2年	後期	金曜 2限	査定外, 選	0, 0.0, 2.0
99	01006130	日本語CⅠ	01	アプドゥハン　恭子	2017	2年	前期	木曜 5限	査定外, 選	0, 0.0, 1.0
100	01006140	日本語CⅡ	01	アプドゥハン　恭子	2017	2年	後期	木曜 5限	査定外, 選	0, 0.0, 1.0
101	01007295	健康スポーツ科学論	01	小幡　博基	2017	2, 3, 4年	後期	水曜 5限	選	2, 2.0
102	01009105	職業指導	01	永田　萬享	2017	4年	後期	金曜 5限,金	査定外	4, 4.0
103	01009201	教育心理学	01	佐藤　友美	2017	1年	前期	水曜 5限	査定外	2, 2.0
104	01009203	教育原理	01	東野　充成	2017	1年	前期	月曜 5限	査定外	2, 2.0
105	01009208	教育実習	01	東野　充成	2017	4年	前期	金曜 1限	査定外	3, 3.0
106	01009208	教育実習	02	東野　充成	2017	4年	前期	金曜 2限	査定外	3, 3.0

2017(平成29年度)開講の教養教育・人間科学科目のシラバス目次

頁	科目コード	科目名	クラス	担当教員名	年度	学年	開講学期	曜日・時限	単位区分	単位数
107	01009215	教職論	01	東野　充成	2017	1年	後期	月曜 5限	査定外	2, 2.0
109	01009310	教育社会学	01	東野　充成	2017	1年	後期	水曜 5限	査定外	2, 2.0
110	01009402	哲学Ⅱ	02	中村　雅之	2017	1年	第4クォーター	月曜 2限	選必	1, 1.0
111	01009402	哲学Ⅱ	01	中村　雅之	2017	1年	第3クォーター	月曜 2限	選必	1, 1.0
112	01009406	教育学Ⅱ	03	東野　充成	2017	1年	第4クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
113	01009406	教育学Ⅱ	04	東野　充成	2017	1年	第4クォーター	月曜 2限	選必	1, 1.0
114	01009406	教育学Ⅱ	02	東野　充成	2017	1年	第3クォーター	月曜 2限	選必	1, 1.0
115	01009406	教育学Ⅱ	01	東野　充成	2017	1年	第3クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
116	01009412	歴史学Ⅱ	01	水井　万里子	2017	1年	第3クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
117	01009412	歴史学Ⅱ	02	水井　万里子	2017	1年	第3クォーター	月曜 2限	選必	1, 1.0
118	01009412	歴史学Ⅱ	03	水井　万里子	2017	1年	第4クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
119	01009412	歴史学Ⅱ	04	水井　万里子	2017	1年	第4クォーター	月曜 2限	選必	1, 1.0
120	01009425	経済学Ⅱ	01	小江　茂徳	2017	1年	第3クォーター	月曜 2限	選必	1, 1.0
121	01009425	経済学Ⅱ	02	小江　茂徳	2017	1年	第4クォーター	月曜 2限	選必	1, 1.0
122	01009427	経営学Ⅱ	02	小江　茂徳	2017	1年	第4クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
123	01009427	経営学Ⅱ	01	小江　茂徳	2017	1年	第3クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
124	01009429	社会学Ⅱ	02	未定	2017	1年	第3クォーター	月曜 2限	選必	1, 1.0
125	01009429	社会学Ⅱ	01	未定	2017	1年	第3クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
126	01009429	社会学Ⅱ	04	未定	2017	1年	第4クォーター	月曜 2限	選必	1, 1.0
127	01009429	社会学Ⅱ	03	未定	2017	1年	第4クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
128	01009434	心理学Ⅱ	04	佐藤　友美	2017	1年	第4クォーター	月曜 2限	選必	1, 1.0
129	01009434	心理学Ⅱ	03	山口　雄介	2017	1年	第4クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
130	01009434	心理学Ⅱ	02	佐藤　友美	2017	1年	第3クォーター	月曜 2限	選必	1, 1.0
131	01009434	心理学Ⅱ	01	山口　雄介	2017	1年	第3クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
132	01009435	健康スポーツ科学論	04	小幡　博基	2017	1年	第4クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
133	01009435	健康スポーツ科学論	01	小幡　博基	2017	1年	第1クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
134	01009435	健康スポーツ科学論	02	小幡　博基	2017	1年	第2クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
135	01009435	健康スポーツ科学論	03	小幡　博基	2017	1年	第3クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
136	01009436	スポーツ実技Ⅰ	01	小幡　博基	2017	1年	第1クォーター	月曜 2限	選必	.5, 0.5
137	01009436	スポーツ実技Ⅰ	02	小幡　博基	2017	1年	第2クォーター	月曜 2限	選必	.5, 0.5
138	01009437	スポーツ実技Ⅱ	01	小幡　博基	2017	1年	第3クォーター	月曜 2限	選必	.5, 0.5
139	01009437	スポーツ実技Ⅱ	02	小幡　博基	2017	1年	第4クォーター	月曜 2限	選必	.5, 0.5
140	01009438	異文化間コミュニケーシ	01	加藤　鈴子	2017	1年	第1クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
142	01009441	西洋近現代史	02	水井　万里子	2017	1年	第2クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
143	01009441	西洋近現代史	01	水井　万里子	2017	1年	第1クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
144	01009442	東南アジア文化論	01	成末　繁郎	2017	1年	第1クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
145	01009442	東南アジア文化論	02	成末　繁郎	2017	1年	第2クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
146	01009443	心理適応論	02	山口　雄介	2017	1年	第2クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
147	01009443	心理適応論	01	山口　雄介	2017	1年	第1クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
148	01009444	東アジア論	01	後藤　啓倫	2017	1年	第3クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
149	01009444	東アジア論	02	後藤　啓倫	2017	1年	第4クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
150	01009447	国際経営論	02	小江　茂徳	2017	1年	第2クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
151	01009447	国際経営論	01	小江　茂徳	2017	1年	第1クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
152	01009448	サスティナビリティ論	01	大田　真彦	2017	1年	第3クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
153	01009450	日本近現代史	02	宮浦　崇	2017	1年	第4クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
154	01009450	日本近現代史	01	宮浦　崇	2017	1年	第3クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
155	01009451	日本文学	01	荻原　桂子	2017	1年	第1クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
156	01009451	日本文学	02	荻原　桂子	2017	1年	第2クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
157	01009452	コンピテンシー論	01	東野　充成	2017	1年	第1クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
158	01009452	コンピテンシー論	02	東野　充成	2017	1年	第2クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
159	01009454	日本社会論	01	森　康司	2017	1年	第1クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
160	01009454	日本社会論	02	森　康司	2017	1年	第2クォーター	月曜 1限	選必	1, 1.0
161	01009470	国際協働演習	01	玉村　健志, 加藤	2017	4年	前期		査定外	0, 0.0
163	01009601	英語ＩC-1	15	林　惠子	2017	1年	第1クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
164	01009601	英語ＩC-1	09	山本　将司	2017	1年	第1クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
165	01009601	英語ＩC-1	10	八丁　由比	2017	1年	第1クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
166	01009601	英語ＩC-1	11	大野　瀬津子	2017	1年	第1クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
167	01009601	英語ＩC-1	12	前田　雅子	2017	1年	第1クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
168	01009601	英語ＩC-1	13	田吹　昌俊	2017	1年	第1クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
169	01009601	英語ＩC-1	14	才津　絢子	2017	1年	第1クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
170	01009601	英語ＩC-1	06	圍迫　雅彦	2017	1年	第1クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
171	01009601	英語ＩC-1	05	池田　景子	2017	1年	第1クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
172	01009601	英語ＩC-1	04	前田　雅子	2017	1年	第1クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
173	01009601	英語ＩC-1	02	八丁　由比	2017	1年	第1クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5

2017(平成29年度)開講の教養教育・人間科学科目のシラバス目次

頁	科目コード	科目名	クラス	担当教員名	年度	学年	開講学期	曜日・時限	単位区分	単位数
174	01009601	英語ＩC-1	01	漆原　朗子	2017	1年	第1クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
175	01009601	英語ＩC-1	03	大野　瀬津子	2017	1年	第1クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
176	01009601	英語ＩC-1	08	山本　将司	2017	1年	第1クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
177	01009601	英語ＩC-1	07	渡邉　裕子	2017	1年	第1クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
178	01009602	英語ＩC-2	13	田吹　昌俊	2017	1年	第2クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
179	01009602	英語ＩC-2	14	才津　絢子	2017	1年	第2クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
180	01009602	英語ＩC-2	15	林　惠子	2017	1年	第2クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
181	01009602	英語ＩC-2	09	山本　将司	2017	1年	第2クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
182	01009602	英語ＩC-2	10	八丁　由比	2017	1年	第2クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
183	01009602	英語ＩC-2	11	大野　瀬津子	2017	1年	第2クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
184	01009602	英語ＩC-2	12	前田　雅子	2017	1年	第2クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
185	01009602	英語ＩC-2	02	八丁　由比	2017	1年	第2クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
186	01009602	英語ＩC-2	01	漆原　朗子	2017	1年	第2クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
187	01009602	英語ＩC-2	05	池田　景子	2017	1年	第2クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
188	01009602	英語ＩC-2	04	前田　雅子	2017	1年	第2クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
189	01009602	英語ＩC-2	06	園迫　雅彦	2017	1年	第2クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
190	01009602	英語ＩC-2	07	渡邉　裕子	2017	1年	第2クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
191	01009602	英語ＩC-2	08	山本　将司	2017	1年	第2クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
192	01009602	英語ＩC-2	03	大野　瀬津子	2017	1年	第2クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
193	01009603	英語ⅡC-1	10	ロング　Ⅲ　ロバート	2017	1年	第1クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
194	01009603	英語ⅡC-1	09	ラックストン　イアン	2017	1年	第1クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
195	01009603	英語ⅡC-1	11	渡邉　浩明	2017	1年	第1クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
196	01009603	英語ⅡC-1	12	福永　淳	2017	1年	第1クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
197	01009603	英語ⅡC-1	13	ﾋｯｸｽ　ｼﾞｪｰﾑｽ　ｴﾄﾞ	2017	1年	第1クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
198	01009603	英語ⅡC-1	14	ｳｨｱ　ｹｳﾞｨﾝ　ﾓｰﾘｽ	2017	1年	第1クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
199	01009603	英語ⅡC-1	15	ランパート　メイソン	2017	1年	第1クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
200	01009603	英語ⅡC-1	03	渡邉　浩明	2017	1年	第1クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
201	01009603	英語ⅡC-1	08	ランパート　メイソン	2017	1年	第1クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
202	01009603	英語ⅡC-1	07	ｳｨｱ　ｹｳﾞｨﾝ　ﾓｰﾘｽ	2017	1年	第1クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
203	01009603	英語ⅡC-1	06	ﾋｯｸｽ　ｼﾞｪｰﾑｽ　ｴﾄﾞ	2017	1年	第1クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
204	01009603	英語ⅡC-1	05	マッカイ　マイケル	2017	1年	第1クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
205	01009603	英語ⅡC-1	04	福永　淳	2017	1年	第1クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
206	01009603	英語ⅡC-1	01	ラックストン　イアン	2017	1年	第1クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
207	01009603	英語ⅡC-1	02	ロング　Ⅲ　ロバート	2017	1年	第1クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
208	01009604	英語ⅡC-2	10	ロング　Ⅲ　ロバート	2017	1年	第2クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
209	01009604	英語ⅡC-2	11	渡邉　浩明	2017	1年	第2クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
210	01009604	英語ⅡC-2	12	福永　淳	2017	1年	第2クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
211	01009604	英語ⅡC-2	13	ﾋｯｸｽ　ｼﾞｪｰﾑｽ　ｴﾄﾞ	2017	1年	第2クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
212	01009604	英語ⅡC-2	14	ｳｨｱ　ｹｳﾞｨﾝ　ﾓｰﾘｽ	2017	1年	第2クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
213	01009604	英語ⅡC-2	15	ランパート　メイソン	2017	1年	第2クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
214	01009604	英語ⅡC-2	09	ラックストン　イアン	2017	1年	第2クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
215	01009604	英語ⅡC-2	02	ロング　Ⅲ　ロバート	2017	1年	第2クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
216	01009604	英語ⅡC-2	04	福永　淳	2017	1年	第2クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
217	01009604	英語ⅡC-2	05	マッカイ　マイケル	2017	1年	第2クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
218	01009604	英語ⅡC-2	06	ﾋｯｸｽ　ｼﾞｪｰﾑｽ　ｴﾄﾞ	2017	1年	第2クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
219	01009604	英語ⅡC-2	07	ｳｨｱ　ｹｳﾞｨﾝ　ﾓｰﾘｽ	2017	1年	第2クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
220	01009604	英語ⅡC-2	08	ランパート　メイソン	2017	1年	第2クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
221	01009604	英語ⅡC-2	01	ラックストン　イアン	2017	1年	第2クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
222	01009604	英語ⅡC-2	03	渡邉　浩明	2017	1年	第2クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
223	01009605	英語ⅢC-1	02	前田　雅子	2017	1年	第3クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
224	01009605	英語ⅢC-1	01	前田　雅子	2017	1年	第3クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
225	01009606	英語ⅢC-2	02	前田　雅子	2017	1年	第4クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
226	01009606	英語ⅢC-2	01	前田　雅子	2017	1年	第4クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
227	01009607	英語ⅣC-1	09	ランパート　メイソン	2017	1年	第3クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
228	01009607	英語ⅣC-1	06	福永　淳	2017	1年	第3クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
229	01009607	英語ⅣC-1	10	ｳｨｱ　ｹｳﾞｨﾝ　ﾓｰﾘｽ	2017	1年	第3クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
230	01009607	英語ⅣC-1	08	ロング　Ⅲ　ロバート	2017	1年	第3クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
231	01009607	英語ⅣC-1	07	ラックストン　イアン	2017	1年	第3クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
232	01009607	英語ⅣC-1	02	ラックストン　イアン	2017	1年	第3クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
233	01009607	英語ⅣC-1	05	マッカイ　マイケル	2017	1年	第3クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
234	01009607	英語ⅣC-1	03	ランパート　メイソン	2017	1年	第3クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
235	01009607	英語ⅣC-1	04	ｳｨｱ　ｹｳﾞｨﾝ　ﾓｰﾘｽ	2017	1年	第3クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
236	01009607	英語ⅣC-1	01	福永　淳	2017	1年	第3クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
237	01009608	英語ⅣC-2	09	ランパート　メイソン	2017	1年	第4クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5

2017(平成29年度)開講の教養教育・人間科学科目のシラバス目次

頁	科目コード	科目名	クラス	担当教員名	年度	学年	開講学期	曜日・時限	単位区分	単位数
238	01009608	英語ⅣC-2	06	福永　淳	2017	1年	第4クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
239	01009608	英語ⅣC-2	07	ラックストン　イアン	2017	1年	第4クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
240	01009608	英語ⅣC-2	08	ロング　Ⅲ　ロバート	2017	1年	第4クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
241	01009608	英語ⅣC-2	10	ｳｨｱ　ｹｳﾞｨﾝ　ﾓｰﾘｽ	2017	1年	第4クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
242	01009608	英語ⅣC-2	05	マッカイ　マイケル	2017	1年	第4クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
243	01009608	英語ⅣC-2	04	ｳｨｱ　ｹｳﾞｨﾝ　ﾓｰﾘｽ	2017	1年	第4クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
244	01009608	英語ⅣC-2	03	ランパート　メイソン	2017	1年	第4クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
245	01009608	英語ⅣC-2	02	ラックストン　イアン	2017	1年	第4クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
246	01009608	英語ⅣC-2	01	福永　淳	2017	1年	第4クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
247	01009609	英語ＶC-1	12	八丁　由比	2017	1年	第3クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
248	01009609	英語ＶC-1	11	才津　絢子	2017	1年	第3クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
249	01009609	英語ＶC-1	10	山本　将司	2017	1年	第3クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
250	01009609	英語ＶC-1	09	田吹　昌俊	2017	1年	第3クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
251	01009609	英語ＶC-1	08	大野　瀬津子	2017	1年	第3クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
252	01009609	英語ＶC-1	13	林　惠子	2017	1年	第3クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
253	01009609	英語ＶC-1	05	八丁　由比	2017	1年	第3クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
254	01009609	英語ＶC-1	01	大野　瀬津子	2017	1年	第3クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
255	01009609	英語ＶC-1	02	團迫　雅彦	2017	1年	第3クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
256	01009609	英語ＶC-1	03	渡邉　裕子	2017	1年	第3クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
257	01009609	英語ＶC-1	04	山本　将司	2017	1年	第3クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
258	01009609	英語ＶC-1	06	池田　景子	2017	1年	第3クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
259	01009609	英語ＶC-1	07	漆原　朗子	2017	1年	第3クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
260	01009610	英語ＶC-2	09	田吹　昌俊	2017	1年	第4クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
261	01009610	英語ＶC-2	10	山本　将司	2017	1年	第4クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
262	01009610	英語ＶC-2	11	才津　絢子	2017	1年	第4クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
263	01009610	英語ＶC-2	12	八丁　由比	2017	1年	第4クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
264	01009610	英語ＶC-2	08	大野　瀬津子	2017	1年	第4クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
265	01009610	英語ＶC-2	13	林　惠子	2017	1年	第4クォーター	木曜 3限	選必	.5, 0.5
266	01009610	英語ＶC-2	05	八丁　由比	2017	1年	第4クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
267	01009610	英語ＶC-2	04	山本　将司	2017	1年	第4クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
268	01009610	英語ＶC-2	06	池田　景子	2017	1年	第4クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
269	01009610	英語ＶC-2	01	大野　瀬津子	2017	1年	第4クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
270	01009610	英語ＶC-2	02	團迫　雅彦	2017	1年	第4クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
271	01009610	英語ＶC-2	03	渡邉　裕子	2017	1年	第4クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
272	01009610	英語ＶC-2	07	漆原　朗子	2017	1年	第4クォーター	金曜 2限	選必	.5, 0.5
273	01009611	英語ⅥC-1	04	渡邉　浩明	2017	1年	第3クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
274	01009611	英語ⅥC-1	05	ﾋｯｸｽ　ｼﾞｪｰﾑｽ　ｴﾄﾞ	2017	1年	第3クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
275	01009611	英語ⅥC-1	01	ロング　Ⅲ　ロバート	2017	1年	第3クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
276	01009611	英語ⅥC-1	03	ﾋｯｸｽ　ｼﾞｪｰﾑｽ　ｴﾄﾞ	2017	1年	第3クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
277	01009611	英語ⅥC-1	02	渡邉　浩明	2017	1年	第3クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
278	01009612	英語ⅥC-2	05	ﾋｯｸｽ　ｼﾞｪｰﾑｽ　ｴﾄﾞ	2017	1年	第4クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
279	01009612	英語ⅥC-2	04	渡邉　浩明	2017	1年	第4クォーター	水曜 2限	選必	.5, 0.5
280	01009612	英語ⅥC-2	01	ロング　Ⅲ　ロバート	2017	1年	第4クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
281	01009612	英語ⅥC-2	02	渡邉　浩明	2017	1年	第4クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
282	01009612	英語ⅥC-2	03	ﾋｯｸｽ　ｼﾞｪｰﾑｽ　ｴﾄﾞ	2017	1年	第4クォーター	水曜 1限	選必	.5, 0.5
283	01009645	選択英語4T-1	01	渡邉　浩明	2017	1年	第3クォーター	金曜 5限	選	.5, 0.5
284	01009646	選択英語4T-2	01	渡邉　浩明	2017	1年	第4クォーター	金曜 5限	選	.5, 0.5
286	01009701	ドイツ語ＩＡ	03	渡辺　アンゲリカ　イ	2017	1年	第1クォーター	月曜 3限	選必	.5, 0.5
287	01009701	ドイツ語ＩＡ	01	渡辺　アンゲリカ　イ	2017	1年	第1クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
288	01009701	ドイツ語ＩＡ	02	平川　要	2017	1年	第1クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
289	01009702	ドイツ語ＩＢ	03	渡辺　アンゲリカ　イ	2017	1年	第2クォーター	月曜 3限	選必	.5, 0.5
290	01009702	ドイツ語ＩＢ	02	平川　要	2017	1年	第2クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
291	01009702	ドイツ語ＩＢ	01	渡辺　アンゲリカ　イ	2017	1年	第2クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
292	01009703	ドイツ語ⅡＡ	03	平川　要	2017	1年	第3クォーター	月曜 3限	選必	.5, 0.5
293	01009703	ドイツ語ⅡＡ	01	未定	2017	1年	第3クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
293	01009703	ドイツ語ⅡＡ	02	平川　要	2017	1年	第3クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
294	01009704	ドイツ語ⅡＢ	03	平川　要	2017	1年	第4クォーター	月曜 3限	選必	.5, 0.5
295	01009704	ドイツ語ⅡＢ	01	未定	2017	1年	第4クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
296	01009704	ドイツ語ⅡＢ	02	平川　要	2017	1年	第4クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
297	01009709	中国語ＩＡ	03	一木　達彦	2017	1年	第1クォーター	月曜 3限	選必	.5, 0.5
298	01009709	中国語ＩＡ	04	野村　和代	2017	1年	第1クォーター	月曜 3限	選必	.5, 0.5
299	01009709	中国語ＩＡ	02	野村　和代	2017	1年	第1クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
300	01009709	中国語ＩＡ	01	一木　達彦	2017	1年	第1クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
301	01009710	中国語ＩＢ	03	一木　達彦	2017	1年	第2クォーター	月曜 3限	選必	.5, 0.5

2017(平成29年度)開講の教養教育・人間科学科目のシラバス目次

頁	科目コード	科目名	クラス	担当教員名	年度	学年	開講学期	曜日・時限	単位区分	単位数
302	01009710	中国語ＩＢ	04	野村　和代	2017	1年	第2クォーター	月曜 3限	選必	.5, 0.5
303	01009710	中国語ＩＢ	01	一木　達彦	2017	1年	第2クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
304	01009710	中国語ＩＢ	02	野村　和代	2017	1年	第2クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
305	01009711	中国語ＩＩＡ	03	一木　達彦	2017	1年	第3クォーター	月曜 3限	選必	.5, 0.5
306	01009711	中国語ＩＩＡ	04	野村　和代	2017	1年	第3クォーター	月曜 3限	選必	.5, 0.5
307	01009711	中国語ＩＩＡ	02	平川　要	2017	1年	第3クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
308	01009711	中国語ＩＩＡ	01	一木　達彦	2017	1年	第3クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
309	01009712	中国語ＩＩＢ	03	一木　達彦	2017	1年	第4クォーター	月曜 3限	選必	.5, 0.5
310	01009712	中国語ＩＩＢ	04	野村　和代	2017	1年	第4クォーター	月曜 3限	選必	.5, 0.5
311	01009712	中国語ＩＩＢ	02	野村　和代	2017	1年	第4クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
312	01009712	中国語ＩＩＢ	01	一木　達彦	2017	1年	第4クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
313	01009717	フランス語ＩＡ	02	コモン　ティエリ	2017	1年	第1クォーター	月曜 3限	選必	.5, 0.5
314	01009717	フランス語ＩＡ	01	コモン　ティエリ	2017	1年	第1クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
315	01009718	フランス語ＩＢ	02	コモン　ティエリ	2017	1年	第2クォーター	月曜 3限	選必	.5, 0.5
316	01009718	フランス語ＩＢ	01	コモン　ティエリ	2017	1年	第2クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
317	01009719	フランス語ＩＩＡ	02	コモン　ティエリ	2017	1年	第3クォーター	月曜 3限	選必	.5, 0.5
318	01009719	フランス語ＩＩＡ	01	コモン　ティエリ	2017	1年	第3クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
319	01009720	フランス語ＩＩＢ	02	コモン　ティエリ	2017	1年	第4クォーター	月曜 3限	選必	.5, 0.5
320	01009720	フランス語ＩＩＢ	01	コモン　ティエリ	2017	1年	第4クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
321	01009725	韓国語ＩＡ	02	崔　相振	2017	1年	第1クォーター	月曜 3限	選必	.5, 0.5
322	01009725	韓国語ＩＡ	01	崔　相振	2017	1年	第1クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
323	01009726	韓国語ＩＢ	02	崔　相振	2017	1年	第2クォーター	月曜 3限	選必	.5, 0.5
324	01009726	韓国語ＩＢ	01	崔　相振	2017	1年	第2クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
325	01009727	韓国語ＩＩＡ	02	崔　相振	2017	1年	第3クォーター	月曜 3限	選必	.5, 0.5
326	01009727	韓国語ＩＩＡ	01	崔　相振	2017	1年	第3クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
327	01009728	韓国語ＩＩＢ	02	崔　相振	2017	1年	第4クォーター	月曜 3限	選必	.5, 0.5
328	01009728	韓国語ＩＩＢ	01	崔　相振	2017	1年	第4クォーター	月曜 4限	選必	.5, 0.5
329	01009771	日本語IA	02	アプドゥハン　恭子	2017	1年	第1クォーター	火曜 5限	査定外, 選	0, 0.0, 0.5
329	01009771	日本語IA	01	上野　まり子	2017	1年	第1クォーター	月曜 5限	査定外, 選	0, 0.0, 0.5
330	01009772	日本語ＩＢ	01	上野　まり子	2017	1年	第2クォーター	月曜 5限	査定外, 選	0, 0.0, 0.5
331	01009772	日本語ＩＢ	02	アプドゥハン　恭子	2017	1年	第2クォーター	火曜 5限	査定外, 選	0, 0.0, 0.5
332	01009773	日本語ＩＩＡ	01	上野　まり子	2017	1年	第3クォーター	月曜 5限	査定外, 選	0, 0.0, 0.5
333	01009773	日本語ＩＩＡ	02	アプドゥハン　恭子	2017	1年	第3クォーター	火曜 5限	査定外, 選	0, 0.0, 0.5
333	01009774	日本語ＩＩＢ	01	上野　まり子	2017	1年	第4クォーター	月曜 5限	査定外, 選	0, 0.0, 0.5
334	01009774	日本語ＩＩＢ	02	アプドゥハン　恭子	2017	1年	第4クォーター	火曜 5限	査定外, 選	0, 0.0, 0.5
335	01009775	日本語ＩＩＩＡ	01	アプドゥハン　恭子	2017	1年	第1クォーター	水曜 5限	査定外, 選	0, 0.0, 0.5
335	01009776	日本語ＩＩＩＢ	01	アプドゥハン　恭子	2017	1年	第2クォーター	水曜 5限	査定外, 選	0, 0.0, 0.5
225	01009777	日本語ＩＶＡ	01	アプドゥハン　恭子	2017	1年	第3クォーター	水曜 5限	査定外, 選	0, 0.0, 0.5
336	01009778	日本語ＩＶＢ	01	アプドゥハン　恭子	2017	1年	第4クォーター	水曜 5限	査定外, 選	0, 0.0, 0.5
337	01009785	日本事情ＩＡ	01	アプドゥハン　恭子	2017	1年	第1クォーター	月曜 2限	査定外, 選	0, 0.0, 1.0
337	01009787	日本事情ＩＩＡ	01	アプドゥハン　恭子	2017	1年	第3クォーター	月曜 2限	査定外, 選	0, 0.0, 1.0

教職実践演習（高） (Practical Seminar for Teacing Profession)

科目コード：01001003
担当教員：東野　充成
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
電気工学コース, 電子工学コース,　,　,
単位区分：査定外,　単位数：2, 2.0,　対象学年：4年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 1限,　講義室：(コラボ教育支援棟)Co-1B
更新日：2017/06/12 07:03:21

授業の概要

●授業の目的

教育職員免許法にのっとり、大学における教職課程の総まとめを行うとともに、教員という職業に携わる者としての力量形成を図る。

●授業の位置づけ

授業は、大きく以下の4つの柱からなる。

①ディスカッションやロールプレーを通して、教師としての使命や責任を体得する。

②ボランティアやフィールドワークを通して、社会性やコミュニケーション能力を身につける。

③現職の高校教諭との討論や学校参加を通して、生徒の理解を促進し、学校・学級経営の実態を理解する。

④模擬授業などを通して、教科指導の力量の定着を図る。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

教員免許状の取得希望者は必修である。工業の免許取得希望者も、履修することが望ましい。

授業項目

1回　イントロダクション
（これまでの学校生活、学修をふり返って）
これまでの学校生活や大学生活を振り返り、省察する。

2回
教職の意義と教員の役割①（グループディスカッション）
ディスカッションを通して、教職の意義や役割について省察する。

3回　教職の意義と教員の役割②（ロールプレー）
ロールプレーを通して、教職の意義や役割について省察する。

4回　地域フィールドワーク実習①
学校外教育施設での見学・体験学習を行う。

5回　地域フィールドワーク実習②
学校外教育施設での見学・体験学習を行う。

6回　生徒指導・進路指導・学級経営①
（グループディスカッション）
ディスカッションを通して、生徒指導等のあり方について省察する。

7回　生徒指導・進路指導・学級経営②（ロールプレー）
ロールプレーを通して、生徒指導等のあり方について省察する。

8回　生徒指導・進路指導・学級経営③
（学校現場の見学・調査）
学校見学、学校関係者との討論を通して、生徒指導等のあり方について省察する。

9回　生徒指導・進路指導・学級経営④
（見学調査を踏まえた討論）
見学・討論を踏まえて、生徒指導等のあり方について省察する。

10回　数学模擬授業①
教育実習での経験を踏まえて、模擬授業を行う。

11回　数学模擬授業②
教育実習での経験を踏まえて、模擬授業を行う。

12回　工業教科模擬授業①
教育実習での経験を踏まえて、模擬授業を行う。

13回　工業教科模擬授業②
教育実習での経験を踏まえて、模擬授業を行う。

14回　模擬授業に基づく討論
上記の模擬授業に基づき、教科指導のあり方について討論する。

15回　まとめ
4年間の教職課程を振り返って、自らの教職としてのあり方について省察する。

16回　試験
上記の内容を基に、レポート等による試験を行う。

授業の進め方

本授業は、ディスカッション、ロールプレー、体験学習、模擬授業など、すべて演習形式で進めるため、受講者の積極的な参加が必須である。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
これまでに履修してきた教職課程科目及びその他の活動を反省的にふり返るとともに、使命感や責任感、社会性やコミュニケーション能力の伸長を図る。
2. 教員としての課題を認識し、知識・技術の定着を図る。
3. 教職及び教科指導に関する知識・技術の再確認を行う。

成績評価の基準および評価方法

平素の授業態度（30%）　発表内容（30%）　最終レポート（40%）

授業外学習（予習・復習）の指示

学習指導要領、各種法令、各種審議会答申、教育に関する記事などに常に目を通しておくこと。

キーワード

教師としての資質向上・力量形成

教科書

●教科書　なし

参考書

高等学校学習指導要領（総則・数学・工業）

各種審議会答申

教育六法

その他、教育に関する各種新聞記事等

備考

【履修上の注意事項】
①教員免許（数学）取得希望者は、必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することが望ましい。

②学外での活動に積極的に参加するとともに、主体的に授業に参画すること。

③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

【オフィスアワー等】
全体のマネジメントは、東野が行う。オフィスアワーは研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

電子メールアドレス

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

哲学Ⅰ (Philosophy Ⅰ)

科目コード：01001020
担当教員：中村　雅之
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:02:57

授業の概要

（月曜１限）

●授業の概要

ほとんど死語となりつつある「教養」概念について、現代、必要とされる内実をもっているか、考察する。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

受講には、特段の前提知識は要求されない。

授業項目

第１回　大正教養主義
第２回　戦前の学制
第３回　阿部次郎
第４回　三木清
第５回　マルクス主義
第６回　河合栄治郎
第７回　岩波文化と講談社文化
第８回　新制大学
第９回　唐木順三
第10回　大学紛争
第11回　実用的教養？
第12回　サブカルチャーの位置
第13回　教養の退場
第14回　現代の教養
第15回　試験問題解説

授業の進め方

講義形式でおこなう。配布プリントを精読すること。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

合理的思考の前提となる、他人の文章を精読する能力・習慣を身につけることを目指す。
1.
特定の問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
2. それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

成績評価の基準および評価方法

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）

で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

キーワード

教養主義、旧制高校、反知性主義

教科書

授業時に資料を配布。

参考書

筒井清忠『新しい教養を求めて』（中公叢書、2000年）本館　閲覧室１階　002/T-7　研究用図書

備考

【履修上の注意事項】
講義をよく聴きとって、ノートを作成すること。

【オフィスアワー等】
月曜日：15：00～16：00

電子メールアドレス

nakamura@dhs.kyutech.ac.jp

哲学Ⅰ (Philosophy Ⅰ)

科目コード：01001020
担当教員：中村　雅之
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:02:57

授業の概要

（月曜１限）

●授業の概要

ほとんど死語となりつつある「教養」概念について、現代、必要とされる内実をもっているか、考察する。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

受講には、特段の前提知識は要求されない。

授業項目

第１回　大正教養主義
第２回　戦前の学制
第３回　阿部次郎
第４回　三木清
第５回　マルクス主義
第６回　河合栄治郎
第７回　岩波文化と講談社文化
第８回　新制大学
第９回　唐木順三
第10回　大学紛争
第11回　実用的教養？
第12回　サブカルチャーの位置
第13回　教養の退場
第14回　現代の教養
第15回　試験問題解説

授業の進め方

講義形式でおこなう。配布プリントを精読すること。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

合理的思考の前提となる、他人の文章を精読する能力・習慣を身につけることを目指す。
1.
特定の問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
2. それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

成績評価の基準および評価方法

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）

で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

キーワード

教養主義、旧制高校、反知性主義

教科書

授業時に資料を配布。

参考書

筒井清忠『新しい教養を求めて』（中公叢書、2000年）本館　閲覧室１階　002/T-7　研究用図書

備考

【履修上の注意事項】　講義をよく聴きとって、ノートを作成すること。

【オフィスアワー等】　月曜日：15：00～16：00

電子メールアドレス

nakamura@dhs.kyutech.ac.jp

哲学Ⅰ (Philosophy Ⅰ)

科目コード：01001020
担当教員：中村　雅之
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース, 電気工学コース, 電子工学コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2, 3年
開講学期：前期,　クラス：03,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:02:58

授業の概要

（金曜２限）

●授業の概要

クリティカル・シンキング入門

本講義は、２、３年生を対象とした中級講義である。批判的・論理的思考を身につけることを目指す。

●授業の目的

論理的文章の書き方を身につける。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

受講には、特段の前提知識は要求されない。

授業項目

第１～２回　　批判的・創造的思考
第３～５回　　推論のやり方
第６回　　レポート検討Ⅰ
第７～８回　　因果的説明
第９～11回　　表現の明確化
第12回　　レポート検討Ⅱ
第13～15回　　理由の評価

授業の進め方

演習形式でおこなう。熟慮の上、課題に取り組むこと。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

合理的思考の前提となる、他人の文章を精読する能力・習慣を身につけることを目指す。
1.
事実の検証方法、議論の仕方、論理的推論の方法を身につける。
2. 他人に伝わる日本語表現の方法を身につける。

成績評価の基準および評価方法

講義進行中に課せられる２回の小レポートと期末レポートの合計点で評価する。

小レポート各25％、期末レポート50％。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調

べておくこと。

キーワード

クリティカル・シンキング、論理、批判

教科書

授業時に資料を配布。

参考書

フィッシャー『クリティカル・シンキング入門』（ナカニシヤ出版、2005）141.5/F-5

備考

【履修上の注意事項】
小レポート、期末レポートは単位の必須要件なので、必ず提出すること。

【オフィスアワー等】
月曜日：15：00～16：00

電子メールアドレス

哲学 II (Philosophy II)

科目コード：01001030
担当教員：中村　雅之
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:21

授業の概要

（月曜1限）

●授業の概要

哲学書はなぜ難解なのか

哲学の本は、なぜ難しいのだろうか。理解のしにくさ、難解さはどこから来るのだろうか。哲学の代表的古典を素材に、文化的差異、翻訳の問題、日本語の問題などを検討しつつ、哲学書の難解さの由来を探る。また、一般に「読むということ」はどのような営みなのかも考えてみたい。それゆえ、哲学の古典を素材に個々の哲学説を解説する講義ではないので注意すること。

●授業の目的

哲学の古典を読むことにより、難解さの由来、また一般に「わかる」とはどういうことか、「読む」とは、どのような行為なのかを理解する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

受講には、特段の前提知識は要求されない。

授業項目

第１回 「分からない」とはどういうことか。
第２回 文化的背景の違い
第３回 翻訳の問題
第４回 日本語の問題
第５回 プラトン『パイドン』
第6回 デカルト『省察』
第7回 カント『純粋理性批判』
第8回 ハイデガー『存在と時間』

授業の進め方

講義形式でおこなう。配布プリントを精読すること。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

合理的思考の前提となる、他人の文章を精読する能力・習慣を身につけることを目指す。
1.
典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
2. それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

成績評価の基準および評価方法

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

キーワード

西洋哲学、翻訳、日本語

教科書

授業時に資料を配布。

参考書

『プラトン全集』（岩波書店）131.3/P-5/1

備考

【履修上の注意事項】

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

『プラトン全集』（岩波書店）131.3/P-5/1

【オフィスアワー等】

月曜日：15：00～16：00

電子メールアドレス

nakamura@dhs.kyutech.ac.jp

哲学 II (Philosophy II)

科目コード：01001030
担当教員：中村　雅之
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース, 電気工学コース, 電子工学コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2, 3年
開講学期：後期,　クラス：02,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(コラボ教育支援棟)Co-1A
更新日：2017/06/12 07:03:21

授業の概要

（月曜1限）

●授業の概要

哲学書はなぜ難解なのか

哲学の本は、なぜ難しいのだろうか。理解のしにくさ、難解さはどこから来るのだろうか。哲学の代表的古典を素材に、文化的差異、翻訳の問題、日本語の問題などを検討しつつ、哲学書の難解さの由来を探る。また、一般に「読むということ」はどのような営みなのかも考えてみたい。それゆえ、哲学の古典を素材に個々の哲学説を解説する講義ではないので注意すること。

●授業の目的

哲学の古典を読むことにより、難解さの由来、また一般に「わかる」とはどういうことか、「読む」とは、どのような行為なのかを理解する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

受講には、特段の前提知識は要求されない。

授業項目

第１回　「分からない」とはどういうことか。
第２回　文化的背景の違い
第３回　翻訳の問題
第４回　日本語の問題
第５回　プラトン『パイドン』
第6回　デカルト『省察』
第7回　カント『純粋理性批判』
第8回　ハイデガー『存在と時間』

授業の進め方

講義形式でおこなう。配布プリントを精読すること。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

合理的思考の前提となる、他人の文章を精読する能力・習慣を身につけることを目指す。
1.
典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
2. それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

成績評価の基準および評価方法

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

キーワード

西洋哲学、翻訳、日本語

教科書

授業時に資料を配布。

参考書

『プラトン全集』（岩波書店）131.3/P-5/1

備考

【履修上の注意事項】

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

『プラトン全集』（岩波書店）131.3/P-5/1

【オフィスアワー等】

月曜日：15：00～16：00

電子メールアドレス

nakamura@dhs.kyutech.ac.jp

哲学と現代Ⅰ (Contemporary Philosophy Ⅰ)

科目コード：01001034
担当教員：中村　雅之
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース, 電気工学コース, 電子工学コース,　,　,
単位区分：選,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2, 3, 4年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：木曜 4限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:02:58

授業の概要

さまざまな具体例の分析を通じて、インターネット等を通じた情報の洪水の中で、確かな情報を見分け、議論の欺瞞を見抜く力を養う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

受講には、特段の前提知識は要求されない。

授業項目

第１回～第３回　食の「偽装」「隠蔽」に見る思考停止
第４回～第６回　思考停止するマスメディア
第７回～第９回　厚生年金記録改竄を巡る思考停止
第10回～第12回　「遵守」はなぜ思考停止につながるのか
第13回～第15回　司法への市民参加を巡る思考停止

授業の進め方

演習形式でおこなう。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

合理的思考の前提となる、他人の文章を精読する能力・習慣を身につけることを目指す。
1.
テキストの内容を簡潔に要約し、それに基づいて発表をおこなう能力を身につける。
2.
テキストが提出する問題を巡って討論することにより、思考力・文章力・論理的表現力を養う。

成績評価の基準および評価方法

レポート60%、毎回の発表と、討論への参加度40%。

授業外学習（予習・復習）の指示

前もってテキストをよく調べておくこと。

キーワード

思考停止、法令遵守

教科書

郷原信郎　『思考停止社会』（講談社現代新書）081/K-3/1978

参考書

備考

【履修上の注意事項】

各回の担当者は、責任をもって準備すること。

【オフィスアワー等】
月曜日：15：00～16：00

電子メールアドレス

nakamura@dhs.kyutech.ac.jp

哲学と現代 II (Contemporary Philosophy II)

科目コード：01001035
担当教員：中村　雅之
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース, 電気工学コース, 電子工学コース,　,　,
単位区分：選,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2, 3, 4年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：木曜 4限,　講義室：(総合教育棟北)C-2A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:21

授業の概要

科学技術が引き起こすさまざまな倫理的問題を、具体的な事例に即して考察する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

受講には、特段の前提知識は要求されない。

授業項目

第１回～第２回　ニセ科学
第３回～第５回　自然志向の罠
第６回～第９回　警鐘報道の功罪
第10回～第15回　科学報道のメディア・リテラシー

授業の進め方

演習形式でおこなう。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

合理的思考の前提となる、他人の文章を精読する能力・習慣を身につけることを目指す。
1.
テキストの内容を簡潔に要約し、それに基づいて発表をおこなう能力を身につける。
2.
テキストが提出する問題を巡って討論することにより、思考力・文章力・論理的表現力を養う。

成績評価の基準および評価方法

レポート60%、毎回の発表と、討論への参加度40%。

授業外学習（予習・復習）の指示

前もって、テキストをよく調べておくこと。

キーワード

メディア・リテラシー、ニセ科学、リスク論

教科書

松永和紀　『メディア・バイアス』（光文社新書）404/M-28

参考書

備考

【履修上の注意事項】
各回の担当者は、責任をもって準備すること。

【オフィスアワー等】
月曜日：15：00～16：00

電子メールアドレス
nakamura@dhs.kyutech.ac.jp

倫理学Ⅱ (Ethics Ⅱ)

科目コード：01001080
担当教員：堺　正憲
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2E講義室
更新日：2017/06/12 07:03:21

授業の概要

●授業の背景

現代の目覚しい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要さを再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の概要

先ず、「倫理学とは何か」の問題を考察し、次いで、古代ギリシア哲学の展開を概観することによって、愛知（知恵を愛する）としての哲学との関連で倫理学の対象領域を考える。さらに、ギリシア哲学とキリスト教との出会いによって生じた、理性と信仰の関係の問題を考察した上で、信仰の理解という特徴を持つところの、古代西方教会最大の教父であるアウグスティヌス（３５４－４３０）の世界観、人間（人生）観、歴史観を概観する。本年度の授業では、アウグスティヌス著『神の国』（全２２巻）の第１巻から第１１巻までの内容の要点を概観する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

人間の学としての倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、国家・社会や自然との関連とともに超越者（神）との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方とについて深く考えるための材料を提供することを目的としており、人間（自己）理解のための基礎をつくるものである。

授業項目
１．倫理学とは何か
２．Ethicsとは何か
３．哲学とは何か
４．古代ギリシア哲学
５．万物（自然）の原理の探求
６．人生の規範となる価値の探求
７．プラトンのイデア
８．アリストテレスの不動の動者

９．キリスト教とギリシア哲学との出会い
１０．アグスティヌス著『神の国』についての概説
１１．自殺の問題
１２．キリスト教の神とローマの神々
１３．キリスト教と新プラトン哲学
１４．天の国と地の国の起源
１５．期末試験
１６．期末試験解説

授業項目

第１回 倫理学と哲学（１）
第２回 倫理学と哲学（２）
第３回 倫理学と哲学（３）
第４回 倫理学と哲学（４）
第５回 古代ギリシア哲学―万物の原理の探求
第６回
古代ギリシア哲学―生き方の規範としての価値の探求
第７回 古代ギリシア哲学―自然の問題と人間の問題の総合
第８回 哲学とキリスト教
第９回 西洋中世哲学
第10回
アウグスティヌス著『神の国』全22巻についての概説
第11回 『神の国』第１巻―自殺の問題
第12回 『神の国』第２～４巻―神々の問題
第13回 『神の国』第５巻―運命、神の摂理
第14回 『神の国』第６巻―ヴァロ[ウァルロ]の説の批判
第15回 前期末試験
第16回 試験の解説、等

授業の進め方

上記の項目に従って講義する。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

世界と人間（人生）についての人類の知的探求の展開を知ることによって、われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解し、自ら世界と人間（人生）について思索するようになることを目標とする。

具体的には以下の項目を目標とする。

１．われわれの持つ知には、感覚的知、物事についての経験的知、物事の原因についての理論的（技術的、学問的）知、などがあることを理解する。
２．ギリシア哲学は先ず万物（自然）の原理を探求したことを理解する。
３．ギリシア哲学は次に人生の規範となる価値を探求したことを理解する。
４．ギリシア哲学は更に万物の原理と人生の規範となる価値とを統合する原理を探求したことを理解する。
５．キリスト教の世界観と人間観（人生観）を理解する。
６．自ら世界と人間（人生）の意味について関心を持って思索することができる。

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身に着ける。
2.
人生の目標や意義について考えることの重要さを理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

成績評価の基準および評価方法

期末試験（100%）で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回の授業に関連するキーワードについて授業前及び授業後に調べ、理解に努めること。

キーワード

倫理学、哲学、古代ギリシア哲学、イデア、不動の動者、キリスト教、アウグスティヌス、信仰の理解、神の国、ローマの神々、新プラトン哲学、天の国と地の国

教科書

●教科書

アウグスティヌス著/服部英次郎訳『神の国（一）』（岩波文庫）132.1/A-8/1『神の国（二）』132.1/A-8/2
『神の国（三）』132.1/A-
8/3を教科書とするが、要点を板書しながら授業を進め、必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業の中で提示する。

備考

【履修上の注意事項】
本授業は、全体が連続した内容になっていますので、欠席すると前後のつながりが分からなくなります。授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

【オフィスアワー等】
質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

電子メールアドレス

E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp

倫理学Ⅱ (Ethics Ⅱ)

科目コード：01001080
担当教員：堺　正憲
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース, 電気工学コース, 電子工学コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2, 3年
開講学期：後期,　クラス：02,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟北)C-3A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:21

授業の概要

●授業の背景

現代の目覚しい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要さを再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の概要

先ず、「倫理学とは何か」の問題を考察し、次いで、古代ギリシア哲学の展開を概観することによって、愛知（知恵を愛する）としての哲学との関連で倫理学の対象領域を考える。さらに、ギリシア哲学とキリスト教との出会いによって生じた、理性と信仰の関係の問題を考察した上で、信仰の理解という特徴を持つところの、古代西方教会最大の教父であるアウグスティヌス（３５４－４３０）の世界観、人間（人生）観、歴史観を概観する。本年度の授業では、アウグスティヌス著『神の国』（全２２巻）の第１巻から第１１巻までの内容の要点を概観する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

人間の学としての倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、国家・社会や自然との関連とともに超越者（神）との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方とについて深く考えるための材料を提供することを目的としており、人間（自己）理解のための基礎をつくるものである。

授業項目
１．倫理学とは何か
２．Ethicsとは何か
３．哲学とは何か
４．古代ギリシア哲学
５．万物（自然）の原理の探求
６．人生の規範となる価値の探求
７．プラトンのイデア
８．アリストテレスの不動の動者
９．キリスト教とギリシア哲学との出会い
１０．アグスティヌス著『神の国』についての概説
１１．自殺の問題
１２．キリスト教の神とローマの神々
１３．キリスト教と新プラトン哲学
１４．天の国と地の国の起源
１５．期末試験
１６．期末試験解説

授業項目

第１回 倫理学と哲学（１）
第２回 倫理学と哲学（２）
第３回 倫理学と哲学（３）
第４回 倫理学と哲学（４）
第５回 古代ギリシア哲学―万物の原理の探求
第６回
古代ギリシア哲学―生き方の規範としての価値の探求
第７回 古代ギリシア哲学―自然の問題と人間の問題の総合
第８回 哲学とキリスト教
第９回 西洋中世哲学
第10回
アウグスティヌス著『神の国』全22巻についての概説
第11回 『神の国』第１巻―自殺の問題
第12回 『神の国』第２～４巻―神々の問題
第13回 『神の国』第５巻―運命、神の摂理
第14回 『神の国』第６巻―ヴァロ[ウァルロ]の説の批判
第15回 前期末試験
第16回 試験の解説、等

授業の進め方

上記の項目に従って講義する。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

世界と人間（人生）についての人類の知的探求の展開を知ることによって、われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解し、自ら世界と人間（人生）について思索するようになることを目標とする。

具体的には以下の項目を目標とする。

１．われわれの持つ知には、感覚的知、物事についての経験的知、物事の原因についての理論的（技術的、学問的）知、などがあることを理解する。
２．ギリシア哲学は先ず万物（自然）の原理を探求したことを理解する。
３．ギリシア哲学は次に人生の規範となる価値を探求したことを理解する。
４．ギリシア哲学は更に万物の原理と人生の規範となる価値とを統合する原理を探求したことを理解する。
５．キリスト教の世界観と人間観（人生観）を理解する。
６．自ら世界と人間（人生）の意味について関心を持って思索することができる。

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身に着ける。
2.

人生の目標や意義について考えることの重要さを理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

成績評価の基準および評価方法

期末試験（100%）で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回の授業に関連するキーワードについて授業前及び授業後に調べ、理解に努めること。

キーワード

倫理学、哲学、古代ギリシア哲学、イデア、不動の動者、キリスト教、アウグスティヌス、信仰の理解、神の国、ローマの神々、新プラトン哲学、天の国と地の国

教科書

●教科書

アウグスティヌス著/服部英次郎訳『神の国（一）』（岩波文庫）132.1/A-8/1『神の国（二）』132.1/A-8/2『神の国（三）』132.1/A-8/3を教科書とするが、要点を板書しながら授業を進め、必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業の中で提示する。

備考

【履修上の注意事項】
本授業は、全体が連続した内容になっていますので、欠席すると前後のつながりが分からなくなります。授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

【オフィスアワー等】
質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

電子メールアドレス

E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp

歴史学Ⅰ (History Ⅰ)

科目コード：01001120
担当教員：水井　万里子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:02:58

授業の概要

（月曜２限）

●授業の背景

現代日本に暮らす私たちは「移民」「難民」というキーワードに対してどのようなイメージを描くだろうか。人が生まれ育った地から移動する理由はいくつもある。歴史の中で、貧困や戦争、迫害から逃れ、多くの人々がグローバルに移動してきた。また、よりよい人生を求めて新天地に移動する人々、世界的に広がる貿易に従事しながらビジネスのために移動する人々もいる。移動した先での同化や包摂・排除の問題も、世界各地のマイノリティを取り巻く課題である。

●授業の目的

グローバル・ヒストリーの視角から、国境を越えた広域な人の移動を歴史的に検討し、現代にいたるまでの様々な事例を通して因果関係や変容過程の理解力、多様な文化への理解力を高める。
調べものと課題レポートの作成を通じて、歴史学の資料収集、情報整理、構成案作成、考察までの表現法を段階的に身につける。

●授業の位置づけ

暗記の必要はないので、高校の世界史の学習とは異なる学習方法を身につける必要が出てくる。調べものについては図書館と連携した調査方法のガイドを授業内で行うので参考にすること。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

人文社会選択必修科目に含まれる。多様な文化を理解する力を身につけるための基礎的な知識を学ぶ。

授業項目

① ガイダンス
② 歴史学の方法とテーマ
③ 移動と歴史
④ ディアスポラ論
⑤ セファルディン
⑥ 情報検索とレポート作成
⑦ 民族と移動
⑧ 労働と移動
⑨ 図書検索とレポート作成
⑩ 植民地と移動
⑪ 人権と移動
⑫ 移動と文化受容

⑬ 多文化社会の形成
⑭ グローバル化における移動
⑮ まとめ

授業の進め方

授業ではスライドを用いて講義を進める。履修者は配布された資料を使ってノートテーキングを行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

本授業では以下の達成目標を置き、多様な文化の理解、論理的思考・表現力を身につける。
1. 歴史学の考え方を理解する。
2. 歴史学における時間軸・空間的枠組みについて理解する。
3.
歴史に関わる文献調査、日本語による歴史記述を習得する。

成績評価の基準および評価方法

期末時に提出するレポートは自由論題で、主に授業外の学習として自主的に行う。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。テストは論述式。

●成績評価

レポート　40％

期末テスト　60％

授業外学習（予習・復習）の指示

自由課題のレポートを計画的に作成するので、授業時間外に付属図書館やインターネットなどで情報収集を進めておく。

キーワード

移動、労働、難民、離散、植民地、グローバル化

教科書

教科書は用いない。

参考書

R.コーエン『グローバル・ディアスポラ』明石書店、2012年。334.4/C-6/2

備考

【履修上の注意事項】
第一回目の授業で注意点を述べます。授業中に紹介する図書や文献を参考にし、自ら積極的に理解を深めることに努めてください。

【オフィスアワー等】
質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスまで。
学期中のオフィスアワーは月曜日12時30分から13時30分まで（Ｃ－３０５）

電子メールアドレス

mizui@dhs.kyutech.ac.jp

歴史学Ⅰ (History Ⅰ)

科目コード：01001120
担当教員：水井　万里子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース, 電気工学コース, 電子工学コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2, 3年
開講学期：前期,　クラス：02,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(教育研究1号棟)1-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:02:58

授業の概要

（金曜２限）

●授業の背景

現代日本に暮らす私たちは「移民」「難民」というキーワードに対してどのようなイメージを描くだろうか。人が生まれ育った地から移動する理由はいくつもある。歴史の中で、貧困や戦争、迫害から逃れ、多くの人々がグローバルに移動してきた。また、よりよい人生を求めて新天地に移動する人々、世界的に広がる貿易に従事しながらビジネスのために移動する人々もいる。移動した先での同化や包摂・排除の問題も、世界各地のマイノリティを取り巻く課題である。

●授業の目的

グローバル・ヒストリーの視角から、国境を越えた広域な人の移動を歴史的に検討し、現代にいたるまでの様々な事例を通して因果関係や変容過程の理解力、多様な文化への理解力を高める。
調べものと課題レポートの作成を通じて、歴史学の資料収集、情報整理、構成案作成、考察までの表現法を段階的に身につける。

●授業の位置づけ

暗記の必要はないので、高校の世界史の学習とは異なる学習方法を身につける必要が出てくる。調べものについては図書館と連携した調査方法のガイドを授業内で行うので参考にすること。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

人文社会系選択必修科目に含まれる。多様な文化に対する理解力を身につけるための基礎的な学習を行う。

授業項目

① ガイダンス
② 歴史学の方法とテーマ
③ 移動と歴史
④ ディアスポラ論
⑤ セファルディン
⑥ 情報検索とレポート作成
⑦ 民族と移動
⑧ 労働と移動
⑨ 図書検索とレポート作成
⑩ 植民地と移動
⑪ 人権と移動
⑫ 移動と文化受容
⑬ 多文化社会の形成
⑭ グローバル化における移動
⑮ まとめ

授業の進め方

授業はスライドを用いた講義形式で行う。期末テストの前にはキーワードをあげて内容を振返る。自由課題レポートは時間学習として行い学期末に提出する。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

本授業では多様な文化を理解する力を身につけるために、以下の達成目標を設ける。
1. 歴史学の考え方を理解する。
2. 歴史学における時間軸・空間的枠組みについて理解する。
3.
歴史関連の文献資料調査、日本語による歴史記述を習得する。

成績評価の基準および評価方法

期末時に提出するレポートは自由論題で、主に授業外の学習として自主的に行う。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。テストは論述式。

●成績評価

レポート　40％

期末テスト　60％

授業外学習（予習・復習）の指示

自由課題のレポートを計画的に作成するので、授業時間外に付属図書館やインターネットなどで情報収集を進めておく。

キーワード

移動、労働、民族、離散、植民地、グローバル化

教科書

教科書は用いない。

参考書

R.コーエン『グローバル・ディアスポラ』明石書店、2012年。334.4/C-6/2

備考

【履修上の注意事項】

第一回目の授業で注意点を述べます。授業中に紹介する図書や文献を参考にし、自ら積極的に理解を深めることに努めてください。

【オフィスアワー等】

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスまで。
学期中のオフィスアワーは月曜日12時30分から13時30分まで（Ｃ－３０５）

電子メールアドレス

mizui@dhs.kyutech.ac.jp

心理学Ⅰ (Psychology Ⅰ)

科目コード：01001270
担当教員：山口　雄介
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(総合教育棟北)C-3A講義室
更新日：2017/06/12 07:02:58

授業の概要

（月曜１限）

●授業の目的

さまざま心理的問題を取り上げ、その現状、原因や背景について講義し、私達がそれらの問題にどのように対応したらよいのかを共に考えながら学ぶことを目的とする。

●授業の位置づけ

大学生が属する青年期は、「もはや子どもではないが、まだ大人ではない」という構造のあいまいな境界性を特徴とする時期である。そのため、青年期はライフサイクルの中でもっとも心理的混乱が生じやすい時期とされている。メンタルヘルスに関する正しい知識を身につけ、健やかな生活を送る基盤作りを目指す。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識はとくに必要ではない。

授業項目

１回　オリエンテーション・心の健康とは？
２回　青年期を生きる①
３回　青年期を生きる②
４回　青年期を生きる③
５回　ストレス
６回　心身症
７回　神経症
８回　人格障害（境界例）
９回　うつ病
10回　統合失調症
11回　その他の精神病理①
12回　その他の精神病理②
13回　心の健康を保つために①
14回　心の健康を保つために②
15回　まとめ

授業の進め方

上記の項目にしたがって講義する．講義内容の理解を促すための演習や復習レポート，予習を目的としたレポートを課す．

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
自己と他者に対する理解を深め、人間全般に対する関心を持つことができる。
2.
心の問題についての知識を深め、自分自身のメンタルヘルスに関心を持つことができる。

成績評価の基準および評価方法

試験80％、レポート20％で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回に記載されているキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

キーワード

発達、人格、臨床心理学、社会心理学

教科書

●教科書

使用しない。適宜資料を配付する。

●参考書

榎本博明著『はじめてふれる心理学』（2013）サイエンス社　140/E-7/2　第２版

川瀬正裕・松本真理子・松本英夫著『心とかかわる臨床心理　第２版』（2006）ナカニシヤ出版　146/K-8/2

参考書

備考

【履修上の注意事項】
授業には積極的に参加すること。適宜紹介する図書を参考にし、理解を深めること。

【オフィスアワー等】
月曜日４限目

電子メールアドレス

yusuke.yamagucci@gmail.com

文学Ⅰ (Literature Ⅰ)

科目コード：01001320
担当教員：荻原　桂子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-3C講義室
更新日：2017/06/12 07:02:58

授業の概要

活字離れが危惧される現代において、学生の読書力の低下が危惧されている。
文学作品を深く読むことによって、読書力と生きる力を高める。読書には、自分をつくるという働きのほかに、他者の視点をを自分のなかにもつというも働きもある。読書を通じて、自分を客観的にみるという視点がうまれるのである。自分の主観から少し離れて、他者から自分を見るという客観的な視点をもつことができるようになる。自分の主観とは独立した他者の観点に接することで、自分に距離をもって接することができるようになる。こうした言語行為の経過が、焦げ付いた状況から自分を解放してくれる。授業では、考えながら読む古典読みに焦点をあわせ、文学作品を読んでみる。ここでいう古典とは、古文ではなく時間や空間の変遷にも色褪せず、文学作品の魅力を普遍的に発揮するものである。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

宮沢賢治の作品を読みながら、文学作品の読みかたを修得し、文学への関心・興味を深める。

授業項目

第１回　文学について
第２回　宮沢賢治の童話について
第３回　宮沢賢治「どんぐりと山猫」
第４回　宮沢賢治「注文の多い料理店」
第５回　宮沢賢治「水仙月の四日」
第６回　宮沢賢治「月夜のでんしんばしら」
第７回　宮沢賢治「鹿踊りのはじまり」
第８回　宮沢賢治『銀河鉄道の夜』について
第９回　宮沢賢治「午后の授業」「活版所」「家」
第10回　宮沢賢治「ケンタウル祭の夜」「天気輪」
第11回　宮沢賢治「銀河ステーション」
第12回　宮沢賢治「北十字とプリオシン海岸」
第13回　宮沢賢治「鳥を捕る人」
第14回　宮沢賢治「ジョバンニの切符」
第15回　文学のまとめ
第16回　期末試験

授業の進め方

文学作品講読を中心に、文体論・物語論・言語行為論について講義する。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 文章理解を深めること。
2. 時代背景、文化状況の中で作品を読解すること。
3.
通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。
4.
文学に興味を持ち、文学作品を読むことで、読解力・表現力をつける。

成績評価の基準および評価方法

授業への積極的態度（20%）と期末試験（80%）で評価する。
60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

予習として次回取り上げる作品を通読しておくこと。復習として全文が掲載されていない作品については全文を読む。

キーワード

文体論・物語論・言語行為論

教科書

『教室の中の宮沢賢治』花書院

参考書

授業中に紹介する。

備考

毎回出席を取るので、遅れずに着席すること。
教科書で取り上げる作品以外も、授業で紹介した
作品は積極的に読むこと。

電子メールアドレス

ogihara@kwuc.ac.jp

教育学Ⅰ (Pedagogy Ⅰ)

科目コード：01001420
担当教員：東野　充成
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-1C講義室
更新日：2017/06/12 07:02:58

授業の概要

（月曜２限）

●授業の目的

家族と子どもに焦点を合わせる。子どもにとって家族とは決して情愛の場のみではない。そもそも、「子をなす」という点からして、繰り返される中絶と日進月歩で進歩する生殖技術に象徴されるように、現代社会では様々な価値観が交錯している。また、たとえこの世に生まれ落ちたとしても、児童虐待や貧困によって生命・身体が危機にさらされる子どもも後を絶たない。

さらに、こうしたミクロな問題だけでなく、少子化や家庭の経済格差、家族政策など、家族と子どもはマクロな社会問題でもある。本講義では、こうした諸事情に焦点を合わせ、現代社会における家族と子どもの諸問題について講義する。

●授業の位置付け

本講義では、臨床社会学の観点から家族と子どもの問題について講義する。臨床の知は、科学の知に対して、現場への参与や解決に資する実践性を重視するところにその特徴があるが、本講義でもこうした立場に則り、アクチュアルな事例を紹介していく。同時に、単純な因果論や責任論、対策論に帰することなく、教育問題や社会問題そのものが生成していく過程に、構築主義の観点から迫っていく。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義を受講するにあたって前提となる知識は必要ないが、家族社会学や家族法学など、授業で解説する諸概念について理解することが必須である。また、人文社会選択必修科目のひとつとして、社会的・多角的な観点及び一定の表現力が受講には必要となる。

授業項目

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

１回　オリエンテーション
授業の進め方、評価方法、授業内容の簡単な紹介を行う

２回　胎児とは何者なのか？
堕胎に関する日本の法規制の現状と課題、堕胎に関する論争を解説する。

３回　生殖技術のポリティクス
生殖医療に関する現状とその倫理的な課題について講義する。

４回　子どもが減って何が悪い！
少子化の現状を確認するとともに、少子化問題の構築性について講義する。

５回　児童虐待論Ⅰ
児童虐待に関する現在の法規制と今後の課題について講義する。

６回　児童虐待論Ⅱ
児童虐待事件の紹介を通して、児童虐待の発生と予防のメカニズムについて講義する。

７回　児童虐待論Ⅲ
児童虐待への対応策としての、家族法の現状と課題について講義する。

８回　中間テスト
上記の内容から、論述式の中間試験をおこなう。

９回　家庭教育と格差社会
家庭の階層によって教育や地位の達成にどのような格差が存在するのか講義する。

10回　子どもの貧困Ⅰ
日本における子どもの貧困の現状について講義する。

11回　子どもの貧困Ⅱ
子どもの貧困対策の現状と今後の課題について講義する。

12回　現代の家族政策
教育・労働・福祉など、現代日本の家族政策の現状と課題について講義する。

13回　ワーク・ライフ・バランス
ワーク・ワイフ・バランスの取り組みに関する現状と課題について講義する。

14回　まとめ
これまでのまとめを行う。

15回　試験
第9回～第14回までの内容から、論述式の筆記試験を行う。

16回　解説
試験の解答解説を行う。

授業の進め方

レジュメを基にした、講義形式で行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 現代日本の家族と子どもの問題に関する理解を深める。
2.
家族に関する問題そのものが生成する過程についても理解を深め、通俗的な言説を相対化する視点を得る。
3.
中間テスト及びレポート課題を通して、文章表現能力を高める。

成績評価の基準および評価方法

中間テスト　　50％

期末テスト　50％

レポートの評価に当たっては、論理的に論が展開されているかを重視する。

授業外学習（予習・復習）の指示

①開講期間中に下記参考文献を一読すること。

②子ども問題に関する最新の動向を把握するため、講義期間中には新聞等を講読すること。

キーワード

中絶、生殖技術、少子化、児童虐待、格差、貧困、家族政策

教科書

特に指定しない。

参考書

増田雅暢『これでいいのか少子化対策』ミネルヴァ書房　334.3/M-7

上野加代子ほか『児童虐待のポリティクス』明石書店　367.6/U-3

阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波書店　081/I-2-4/1157-2

備考

【履修上の注意事項】

①講義内容の十分な理解を得るため、参考文献を各自読むこと。

②最高裁判所のホームページなどを用いて、判例に目を通すこと。

③その他参考となる図書や判例、資料等を授業の中で随時紹介していく。

【オフィスアワー等】

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受けつける。

電子メールアドレス

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育システム論 (Educational Systems Theory)

科目コード：01001443
担当教員：東野　充成
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース, 電気工学コース, 電子工学コース,　,　,
単位区分：選,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2, 3, 4年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 3限,　講義室：(コラボ教育支援棟)Co-1B
更新日：2017/06/12 07:03:21

授業の概要

●授業の目的

教育システムは、それ自体で自律したシステムを形成する一方、他の社会システムと密接不可分な関係を持ち、社会変動や社会的再生産に与している。本講義では、教育システムと司法システムとの接点に発生する諸種の問題を取り上げ、教育と法律とのかかわりについて検証する。その際、特に自由や平等、公正など、近代社会が追及してきた価値の相克をめぐる問題に焦点を合わせ、こうした諸価値の実現に教育が果たすべき役割や、逆に教育がこうした諸価値の実現を阻害する構造・過程について、発表および討論を通して考究する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

毎回テーマを決め、受講者のプレゼンテーションをもとに進める。プレゼンテーション後は、全員で討議する。

授業項目

授業は講義・演習形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。また、１回
程度、与えられたテーマに関してプレゼンテーションを求め、全員でその内容について討議する。

１回 オリエンテーション
　テーマ設定、授業の進め方、評価方法などに関するオリエンテーション
２回 校則問題
　子どもの自由と規律との関係
３回 学校とプライバシー
　情報社会における子どもの私事性の確保について
４回 法の下の平等と教育（１）－同和教育論－
　同和問題を通した、教育における平等について
５回 法の下の平等と教育（２）－外国人児童生徒の教育－
　在日外国問題を通した、教育における平等について
６回 法の下の平等と教育（３）－障害児教育論－
　障害児問題を通した、教育における平等について
７回 生命倫理と子ども（１）－非嫡出子問題－
　非嫡出子相続分事件の検討を通した、子どもの平等について
８回 生命倫理と子ども（２）－生殖医療問題－
　生殖医療問題を通した、生命倫理と学問の自由について
９回 生命倫理と子ども（３）－中絶問題－
　中絶問題を通した、女性の生き方の自由について

10回 日の丸・君が代と学校
　日の丸・君が代訴訟の検討を通した、教師の教育の自由について
11回 エホバの証人剣道受講拒否事件
　エホバの証人剣道受講拒否事件を通した、信教の自由と政教分離について
12回 教科書検定裁判
　教科書検定裁判の検討を通した、学問と教育の自由について
13回 旭川学力テスト事件
　旭川学テ事件の検討を通した、教育権のあり方について
14回 パターナリズム論
　自由に介入するパターナリズムの範囲や水準について
15回 まとめ
　これまでの総括
16回 試験
　レポート等による試験

授業の進め方

受講者による発表と、それに基づく討論形式で進める。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
教育と法律のかかわりについて理解を深め、自由、平等、公正といった価値について考究する。
2. 調査能力・プレゼンテーションの技術を身につける。
3. 討論の技術を身につける。

成績評価の基準および評価方法

　プレゼンテーション・討議での発言など平素の授業態度
50％

　期末レポート
50％

　プレゼンテーション内容、発言内容、レポートの評価に当たっては、論理的に論が展開されているかを重視する。

授業外学習（予習・復習）の指示

教育に関する最新の動向を摂取するため、新聞等に必ず目を通すこと。

キーワード

　日本国憲法　教育基本法　教育権　少年法　自由　平等　公正　人権

教科書

指定しない。

参考書

授業の中で適宜指定する。

備考

【履修上の注意事項】
・授業の中で指示する参考文献、記事、判例等を授業時間外に読んでおくこと。
・その他、少年事件や教育問題に関する最新の動向に注意すること。

【オフィスアワー等】
　研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

電子メールアドレス

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

英語ＣＩ (English Ｃ Ｉ)

科目コード：01001506
担当教員：本村　香緒
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：15,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(コラボ教育支援棟)Co-1A
更新日：2017/06/12 07:02:59

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣＩ (English Ｃ Ｉ)

科目コード：01001506
担当教員：江口　雅子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：07,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(教育研究1号棟)1-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:02:59

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣＩ (English Ｃ Ⅰ)

科目コード：01001506
担当教員：田吹　昌俊
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：18,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:02:59

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

電子メールアドレス

英語ＣＩ (English Ｃ Ⅰ)

科目コード：01001506
担当教員：前田　雅子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：17,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:02:59

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

電子メールアドレス

英語ＣＩ (English Ｃ Ｉ)

科目コード：01001506
担当教員：川龍　麗美
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：08,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(総合教育棟北)C-1B講義室
更新日：2017/06/12 07:02:59

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣＩ (English Ｃ Ｉ)

科目コード：01001506
担当教員：田吹　香子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：09,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(教育研究1号棟)1-3C講義室
更新日：2017/06/12 07:02:59

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣＩ (English Ｃ Ⅰ)

科目コード：01001506
担当教員：隈部　歩
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：10,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(教育研究5号棟)5-2A講義室
更新日：2017/06/12 07:02:59

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣＩ (English Ｃ Ⅰ)

科目コード：01001506
担当教員：林　惠子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：11,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(総合教育棟北)C-3A講義室
更新日：2017/06/12 07:02:59

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣＩ (English Ｃ Ｉ)

科目コード：01001506
担当教員：岡裏　浩美
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：12,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:02:59

授業の概要

本講義は、小説・詩・伝記・エッセイを始めとする英語で書か
れた良質な「文学作品」に触れることで、総合的な英語読解能力
を身につけると同時に、文章を読み解く力を養うことを目的とし
ている。毎回の授業ではそれぞれ担当者を決め、「文学」に関す
る英語でのプレゼンテーションを行ってもらうことを通し、自ら
の論点を他人に分かりやすく伝えるという過程を通し、情報発信
能力の向上にも努めてもらいたい。毎回の授業では、語彙力強化
の為、授業内容に即した単語テストを行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

１．　Introduction
２．　Lauguage of Humor
３．　George Bernard Shaw, Pygmalion
４．　Japanese Stories in Translation: Kenji and Ryunosuke
５．　Suzanne Vega,“ Luca”
６．　Two Autobiographies: Martin Luther King and Ellen Glasgow
７．　Graham Green, A Sort of Life
８．　Raymond Carver の短篇小説
９．　Haiku and Japanese Poems
10．　Four Types of Poetry
11．　Tennessee Williams, A Streetcar Named Desire
12．　Benjamin Franklin, “Thirteen Virtues” and “Poor Richard’s Maxims”
13．　Tim O'Brien,“ Ambush”
14．　Lori Peikoff,“ Table for Two”
15．　Charles Dickens, Great Expectations

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 提供されるテーマや技能訓練について、1
年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

成績評価の基準および評価方法

授業への積極的参加態度30％、プレゼンテーション20％、小
テスト10％、期末テスト40％で評価する。総合評価で60％以上
を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のある教科書の該当箇所を事前
に読んでおくこと。尚、プレゼンテーション担当者はエッセイに
ついて要約・疑問点・問題点を記したレジュメを作成すること。

キーワード

教科書

教科書：ＡｍｅｒｉｃａｎＤｙｎａｍｉｃｓ（ 金星堂）　ＩＳＢＮ:
9784764739444

参考書

備考

【履修上の注意事項】
・３分の２以上の出席を履修の原則とする。
・十分な予習をすること。
・積極的な授業への参加を求める。

【オフィスアワー等】
質問や連絡事項がある場合には、メールにて対応する。
tmknagakawa@yahoo.co.jp

電子メールアドレス

英語ＣＩ (English Ｃ Ⅰ)

科目コード：01001506
担当教員：山本　将司
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：13,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(教育研究1号棟)1-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:02:59

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣＩ (English Ｃ Ⅰ)

科目コード：01001506
担当教員：渡邉　裕子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：14,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-2F講義室
更新日：2017/06/12 07:02:59

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣＩ (English Ｃ Ｉ)

科目コード：01001506
担当教員：河野　世莉奈
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：06,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:02:59

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣＩ (English Ｃ Ｉ)

科目コード：01001506
担当教員：デニス　ジョーンズ
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：16,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(コラボ教育支援棟)Co-1B
更新日：2017/06/12 07:02:59

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣＩ (English Ｃ Ｉ)

科目コード：01001506
担当教員：原田　昴
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-2E講義室
更新日：2017/06/12 07:02:58

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣＩ (English Ｃ Ｉ)

科目コード：01001506
担当教員：八丁　由比
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 5限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:02:58

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣＩ (English Ｃ Ⅰ)

科目コード：01001506
担当教員：大野　瀬津子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：03,
曜日・時限：月曜 5限,
講義室：(教育研究3号棟)プロジェクトラボラトリ
更新日：2017/06/12 07:02:58

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣＩ (English Ｃ Ⅰ)

科目コード：01001506
担当教員：森　千鶴
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：04,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:02:58

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣⅠ (English Ｃ Ⅰ)

科目コード：01001506
担当教員：池田　景子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：05,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(教育研究5号棟)5-2B講義室
更新日：2017/06/12 07:02:59

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣⅡ (English Ｃ Ⅱ)

科目コード：01001507
担当教員：渡邉　裕子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：14,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(教育研究6号棟)6-2A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:22

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣⅡ (English Ｃ Ⅱ)

科目コード：01001507
担当教員：本村　香緒
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：15,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(コラボ教育支援棟)Co-1A
更新日：2017/06/12 07:03:22

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣⅡ (English Ｃ Ⅱ)

科目コード：01001507
担当教員：デニス　ジョーンズ
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：16,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(コラボ教育支援棟)Co-1B
更新日：2017/06/12 07:03:22

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣⅡ (English Ｃ Ⅱ)

科目コード：01001507
担当教員：前田　雅子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：17,
曜日・時限：月曜 5限,
講義室：(教育研究3号棟)プロジェクトラボラトリ
更新日：2017/06/12 07:03:22

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

電子メールアドレス

英語ＣⅡ (English Ｃ Ⅱ)

科目コード：01001507
担当教員：田吹　昌俊
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：18,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:22

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

電子メールアドレス

英語ＣⅡ (English Ｃ Ⅱ)

科目コード：01001507
担当教員：本村　香緒
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(総合教育棟北)C-3A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:21

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣⅡ (English Ｃ Ⅱ)

科目コード：01001507
担当教員：八丁　由比
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 5限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:21

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣⅡ (English Ｃ Ⅱ)

科目コード：01001507
担当教員：大野　瀬津子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：03,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:21

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣⅡ (English Ｃ Ⅱ)

科目コード：01001507
担当教員：森　千鶴
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：04,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-2F講義室
更新日：2017/06/12 07:03:21

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣⅡ (English Ｃ Ⅱ)

科目コード：01001507
担当教員：池田　景子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：05,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(教育研究5号棟)5-2B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:21

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣⅡ (English Ｃ Ⅱ)

科目コード：01001507
担当教員：河野　世莉奈
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：06,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:21

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣⅡ (English Ｃ Ⅱ)

科目コード：01001507
担当教員：江口　雅子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：07,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(教育研究1号棟)1-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:21

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣⅡ (English Ｃ Ⅱ)

科目コード：01001507
担当教員：川龍　麗美
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：08,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-1C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:21

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣⅡ (English Ｃ Ⅱ)

科目コード：01001507
担当教員：田吹　香子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：09,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(教育研究1号棟)1-3C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:21

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣⅡ (English Ｃ Ⅱ)

科目コード：01001507
担当教員：隈部　歩
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：10,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(教育研究1号棟)1-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:21

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣⅡ (English Ｃ Ⅱ)

科目コード：01001507
担当教員：林　惠子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：11,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(総合教育棟北)C-1B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:22

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＣⅡ (English Ｃ Ⅱ)

科目コード：01001507
担当教員：岡裏　浩美
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：12,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:22

授業の概要

本講義では、銃規制、人種、移民といった現代アメリカ社会を
考える上で不可欠なトピックと扱った英文を読み解くことで、総
合的な英語能力を養うと同時に、現代社会を取り巻く問題を英語
で考える能力を養うことを目的とする。受講生には、各セッショ
ンのテーマに即したプレゼンテーションを行ってもらい、毎回の
セッションで扱われているトピックに関する深い考察を行っても
らうと同時に、論点を他人に分かりやすく伝えるという過程を通
し、情報発信能力の向上にも努めてもらいたい。毎回の授業で
は、語彙力強化の為に単語テストを実施する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

1．Introduction
2．Unit 1,　The Popularity of the Japanese Language
3．The Job Search for College Seniors
4．Visiting the Birthplace of Jazz
5．What Makes Hollywood Films Wonderful?
6．Is Illegal Immigration a Problem?
7．Gun Control: Two Opposing Sides
8．Wall Street After 9/11
9．The Future of Auto Industry
10．Major League Dreams and Odds
11．F1 Racing Comes to America!
12．Enviornmental Champions Muir and Pinchot
13．Balancing Growth and Protectionism
14．The Leadership of Female CEO’s
15．Today’s Feminist Movement（ 予定）

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 提供されるテーマや技能訓練について、1
年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

成績評価の基準および評価方法

授業への積極的参加態度30%、プレゼンテーション20%、

小
テスト10%、期末テスト40%で評価する。総合評価で60%以上
を合格とする

授業外学習（予習・復習）の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のある教科書の該当箇所を事前
に読んでおくこと。尚、プレゼンテーション担当者はエッセイに
ついて要約・疑問点・問題点を記したレジュメを作成すること。

キーワード

教科書

教科書：『English Through Literature 文学で学ぶ英語リーディング』（研究社）ISBN: 978-4-327-42185-4

参考書

備考

【履修上の注意事項】
・３分の２以上の出席を履修の原則とする。
・十分な予習をすること。
・積極的な授業への参加を求める。

【オフィスアワー等】
質問や連絡事項がある場合には、メールにて対応する。
tmknagakawa@yahoo.co.jp

電子メールアドレス

英語ＣⅡ (English Ｃ Ⅱ)

科目コード：01001507
担当教員：山本　将司
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：13,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-2E講義室
更新日：2017/06/12 07:03:22

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＤⅠ (English D I)

科目コード：01001513
担当教員：八丁　由比
学部・学科：共通コース
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：07,
曜日・時限：金曜 3限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:00

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＤⅠ (English D I)

科目コード：01001513
担当教員：ロング　Ⅲ　ロバート　ウィリアム
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：04,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-2E講義室
更新日：2017/06/12 07:02:59

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＤⅠ (English D I)

科目コード：01001513
担当教員：前田　雅子
学部・学科：知能制御工学コース, 建築学コース,
都市環境デザインコース,
単位区分：選, 選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：03,
曜日・時限：木曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:02:59

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＤⅠ (English D I)

科目コード：01001513
担当教員：ロング　Ⅲ　ロバート　ウィリアム
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：02,
曜日・時限：火曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-2E講義室
更新日：2017/06/12 07:02:59

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＤⅠ (English D I)

科目コード：01001513
担当教員：大野　瀬津子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：06,
曜日・時限：木曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-2F講義室
更新日：2017/06/12 07:02:59

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＤⅠ (English D I)

科目コード：01001513
担当教員：山本　将司
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：05,
曜日・時限：木曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-2E講義室
更新日：2017/06/12 07:02:59

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＤⅠ (English D I)

科目コード：01001513
担当教員：ラックストン　イアン　チャールズ
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：火曜 5限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:02:59

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＤⅡ (English D Ⅱ)

科目コード：01001514
担当教員：前田　雅子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：07,
曜日・時限：金曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:22

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＤⅡ (English DⅡ)

科目コード：01001514
担当教員：ラックストン　イアン　チャールズ
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：火曜 5限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:22

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＤⅡ (English DⅡ)

科目コード：01001514
担当教員：ロング　Ⅲ　ロバート　ウィリアム
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：02,
曜日・時限：火曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-2E講義室
更新日：2017/06/12 07:03:22

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＤⅡ (English DⅡ)

科目コード：01001514
担当教員：八丁　由比
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：03,
曜日・時限：木曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2E講義室
更新日：2017/06/12 07:03:22

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＤⅡ (English DⅡ)

科目コード：01001514
担当教員：ロング　Ⅲ　ロバート　ウィリアム
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：04,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-2E講義室
更新日：2017/06/12 07:03:22

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＤⅡ (English DⅡ)

科目コード：01001514
担当教員：吉村　理一
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：05,
曜日・時限：木曜 5限,
講義室：(教育研究3号棟)プロジェクトラボラトリ
更新日：2017/06/12 07:03:22

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

英語ＤⅡ (English DⅡ)

科目コード：01001514
担当教員：大野　瀬津子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：06,
曜日・時限：木曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-2E講義室
更新日：2017/06/12 07:03:22

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

ドイツ語III (German III)

科目コード：01001515
担当教員：平川　要
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：02,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:00

授業の概要

●授業の背景
　人間の思考は言語によって作り出される。すなわちどの言語に
よって物事を考えるか、が肝心である。異文化理解には、その言
語に対する知識が欠かせない。言語と文化に関する理解を深め、
国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界
の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュ
ニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互
理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。
●授業の目的
　音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習すること
によってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解す
る。
●授業の位置付け
　１年次に行われた「ドイツ語Ⅰ、Ⅱ」（独検4
級程度）に引き
続きドイツ語の基礎を学習するとともに、中級ドイツ語（独検3
級程度）に挑戦する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

第１回
ドイツ語Ⅰ・Ⅱの復習、発音の復習、日常使う単語の確認
第２回
ドイツへ　さまざまな人々　いろいろな文化（１）
第３回
ドイツへ　さまざまな人々　いろいろな文化（２）
第４回　旅行大国ドイツ（１）
第５回　旅行大国ドイツ（２）
第６回　ドイツ生まれの車（１）
第７回　ドイツ生まれの車（２）
第８回　発音テスト（１）
第９回　パンとドイツ料理（１）
第10回　パンとドイツ料理（２）
第11回　ヨーロッパの付加価値税（１）
第12回　ヨーロッパの付加価値税（２）
第13回　ドイツ人は犬が好き（１）
第14回　ドイツ人は犬が好き（２）
第15回　発音テスト（２）、前期授業の確認

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 具体的な指示を聞き取ることができる。
2. 平易なテクストを理解することができる。
3. 基礎語彙を使って単文を書くことができる。
4. 要求や意思を簡単に伝えることができる。

成績評価の基準および評価方法

授業への取り組み（出席等）30%、発音のテスト20%、期末
テスト50%

授業外学習（予習・復習）の指示

教科書付属のＣＤを何度も聞いて復習すること。
毎回の課題を着実に行うこと。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

森田悟、川上博子、跡森美音「たいむりぃ」（朝日出版社、2016 年）ISBN: 9784255523879

参考書

備考

【履修上の注意事項】
・授業には必ず辞書を持参すること。
・辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳して
くること。
・ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペ
ディアなどの百科事典を活用すること。

【オフィスアワー等】
授業時間の前後

電子メールアドレス

ドイツ語III (German III)

科目コード：01001515
担当教員：渡辺　アンゲリカ　ペートラ
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：火曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:00

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

ドイツ語III (German III)

科目コード：01001515
担当教員：渡辺　アンゲリカ　ペートラ
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：03,
曜日・時限：木曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:00

授業の概要

●授業の背景
　人間の思考は言語によって作り出される。すなわちどの言語に
よって物事を考えるか、が肝心である。異文化理解には、その言
語に対する知識が欠かせない。言語と文化に関する理解を深め、
国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界
の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュ
ニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互
理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。
●授業の目的
　音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習すること
によってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解す
る。
●授業の位置付け
　１年次に行われた「ドイツ語Ⅰ、Ⅱ」（独検4
級程度）に引き
続きドイツ語の基礎を学習するとともに、中級ドイツ語（独検3
級程度）に挑戦する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

第１回
ドイツ語Ⅰ・Ⅱの復習、発音の復習、日常使う単語の確認
第２回
ドイツへ　さまざまな人々　いろいろな文化（１）
第３回
ドイツへ　さまざまな人々　いろいろな文化（２）
第４回　　旅行大国ドイツ（１）
第５回　　旅行大国ドイツ（２）
第６回　　ドイツ生まれの車（１）
第７回　　ドイツ生まれの車（２）
第８回　　発音テスト（１）
第９回　　パンとドイツ料理（１）
第10回　　パンとドイツ料理（２）
第11回　　ヨーロッパの付加価値税（１）

第12回　ヨーロッパの付加価値税（２）
第13回　ドイツ人は犬が好き（１）
第14回　ドイツ人は犬が好き（２）
第15回　発音テスト（２）、前期授業の確認

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 具体的な指示を聞き取ることができる。
2. 平易なテクストを理解することができる。
3. 基礎語彙を使って単文を書くことができる。
4. 要求や意思を簡単に伝えることができる。

成績評価の基準および評価方法

授業への取り組み（出席等）30%、発音のテスト20%、期末
テスト50%

授業外学習（予習・復習）の指示

教科書付属のＣＤを何度も聞いて復習すること。
毎回の課題を着実に行うこと。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

森田悟、川上博子、跡森美音「たいむりぃ」（朝日出版社、2016 年）ISBN: 9784255523879

参考書

備考

【履修上の注意事項】
・授業には必ず辞書を持参すること。
・辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳して
くること。
・ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペ
ディアなどの百科事典を活用すること。

【オフィスアワー等】
授業時間の前後

電子メールアドレス

ドイツ語Ⅳ (German Ⅳ)

科目コード：01001516
担当教員：山本　達夫
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：03,
曜日・時限：木曜 5限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:22

授業の概要

●授業の背景
人間の思考は言語によって作りだされる。すなわち、どの言語
によって物事を考えるか、が肝心である。異文化理解には、その
言語に対する知識が欠かせない。言語と文化に関する理解を深
め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは
世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コ
ミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との
相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。
●授業の目的
音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習すること
によってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解す
る。
●授業の位置付け
前期「ドイツ語Ⅲ」に引き続きドイツ語の基礎を学習するとと
もに、中級ドイツ語（独検3
級程度）に挑戦する。学生職君に
は、授業の枠を超えて、積極的に直接ドイツの伝統・文化に触れ
て欲しい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

第１回　蚤の市（１）
第２回　蚤の市（２）
第３回　ドイツの大学（１）
第４回　ドイツの大学（２）
第５回　クリスマス（１）
第６回　クリスマス（２）
第７回　発音テスト（１）
第８回　原子力発電（１）
第９回　原子力発電（２）
第10回　ドイツの中の日本（１）
第11回　ドイツの中の日本（２）
第12回　ドイツ文を読む（１）

第13回　ドイツ文を読む（２）
第14回　ドイツ文を読む（３）
第15回　発音テスト（２）、後期授業の確認

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
2. 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
3. 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
4.
自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

成績評価の基準および評価方法

授業への取り組み（出席等）30%、発音のテスト20%、期末
テスト50%

授業外学習（予習・復習）の指示

教科書付属のＣＤを何度も聞いて復習すること。
毎回の課題を着実に行うこと。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

森田悟、川上博子、跡森美音「たいむりぃ」（朝日出版社、2016 年）ISBN: 9784255523879

参考書

備考

【履修上の注意事項】
・授業には必ず辞書を持参すること。
・辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳して
くること。
・ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペ
ディアなどの百科事典を活用すること。

【オフィスアワー等】
授業時間の前後

電子メールアドレス

ドイツ語Ⅳ (German Ⅳ)

科目コード：01001516
担当教員：山本　達夫
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：火曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:22

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

ドイツ語Ⅳ (German Ⅳ)

科目コード：01001516
担当教員：山本　達夫
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：02,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:22

授業の概要

●授業の背景
　人間の思考は言語によって作りだされる。すなわち、どの言語
によって物事を考えるか、が肝心である。異文化理解には、その
言語に対する知識が欠かせない。言語と文化に関する理解を深
め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは
世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コ
ミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との
相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。
●授業の目的
　音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習すること
によってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解す
る。
●授業の位置付け
　前期「ドイツ語Ⅲ」に引き続きドイツ語の基礎を学習するとと
もに、中級ドイツ語（独検3
級程度）に挑戦する。学生職君に
は、授業の枠を超えて、積極的に直接ドイツの伝統・文化に触れ
て欲しい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

第１回　蚤の市（１）
第２回　蚤の市（２）
第３回　ドイツの大学（１）
第４回　ドイツの大学（２）
第５回　クリスマス（１）
第６回　クリスマス（２）
第７回　発音テスト（１）
第８回　原子力発電（１）
第９回　原子力発電（２）
第10回　ドイツの中の日本（１）
第11回　ドイツの中の日本（２）
第12回　ドイツ文を読む（１）
第13回　ドイツ文を読む（２）
第14回　ドイツ文を読む（３）
第15回　発音テスト（２）、後期授業の確認

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
2. 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
3. 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
4.
自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

成績評価の基準および評価方法

授業への取り組み（出席等）30%、発音のテスト20%、期末
テスト50%

授業外学習（予習・復習）の指示

教科書付属のＣＤを何度も聞いて復習すること。
毎回の課題を着実に行うこと。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

森田悟、川上博子、跡森美音「たいむりぃ」（朝日出版社、2016 年）ISBN: 9784255523879

参考書

備考

【履修上の注意事項】
・授業には必ず辞書を持参すること。
・辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳して
くること。
・ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペ
ディアなどの百科事典を活用すること。

【オフィスアワー等】
授業時間の前後

電子メールアドレス

中国語III (Chinese III)

科目コード：01001517
担当教員：篠原　征子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：02,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(教育研究4号棟)4-1A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:00

授業の概要

中国語ⅠⅡで習得した内容を確認しながら、新しい語彙や文法
を学習し、初級から中級へのステップアップを目指す。読む・書
く・聞く・話すの4
つの技能をバランスよく伸ばし、日常生活に
役立つ基礎的な運用能力を養っていく。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

1．　第11課
2．　第11課
3．　第12課
4．　第12課
5．　第13課
6．　第13課
7．　テスト（11－13）
8．　第14課
9．　第14課
10.　第15課
11.　第15課
12.　第16課
13.　第16課
14.　テスト（14－16）
15.　まとめ

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 具体的な指示を聞き取ることができる。
2. 平易なテクストを理解することができる。
3. 基礎語彙を使って単文を書くことができる。
4. 要求や意思を簡単に伝えることができる。

成績評価の基準および評価方法

出席20％、音読10％、試験70％

授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場　簡明
版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

参考書

備考

【履修上の注意事項】
講義回数の2/3 以上出席すること。

【オフィスアワー等】
メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp
研究室：総合教育棟413

電子メールアドレス

中国語III (Chinese III)

科目コード：01001517
担当教員：岡村　真寿美
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：火曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:00

授業の概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりした目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、確実な知識として身につけていくことを目標とする。自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてほしい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

1．　第11課
2．　第11課
3．　第12課
4．　第12課
5．　第13課
6．　第13課
7．　テスト（11－13）
8．　第14課
9．　第14課
10.　第15課
11.　第15課
12.　第16課
13.　第16課
14.　テスト（14－16）
15.　まとめ

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 具体的な指示を聞き取ることができる。
2. 平易なテクストを理解することができる。
3. 基礎語彙を使って単文を書くことができる。
4. 要求や意思を簡単に伝えることができる。

成績評価の基準および評価方法

定期試験70％、平常点30％。合計60 点以上を合格とする。
平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

予習：
①新出単語のピンインと日訳を記入しておく。
②本文とポイントを一読しておく。
復習：
①ポイントを再確認する。
②モデル会話を暗唱する。
③問題を解いてみる。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場　簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

参考書

備考

【履修上の注意事項】
全講義回数の2/3 以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。
履修上の細かな注意点について、第 1 回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

【オフィスアワー等】
連絡先は、人間科学事務室にたずねること。

電子メールアドレス

中国語III (Chinese III)

科目コード：01001517
担当教員：岡村　真寿美
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：04,
曜日・時限：木曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:00

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

中国語III (Chinese III)

科目コード：01001517
担当教員：一木　達彦
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：03,
曜日・時限：木曜 5限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:00

授業の概要

中国語ＩＩで習得した内容を確認しながら、新しい語彙や文法
を学習し、初級から中級へのステップアップを目指す。読む・書
く・聞く・話すの4
つの技能をバランスよく伸ばし、日常生活に
役立つ基礎的な運用能力を養っていく。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

1．　第11課
2．　第11課
3．　第12課
4．　第12課
5．　第13課
6．　第13課
7．　テスト（11－13）
8．　第14課
9．　第14課
10．　第15課
11．　第15課
12．　第16課
13．　第16課
14．　テスト（14－16）
15．　まとめ

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 具体的な指示を聞き取ることができる。
2. 平易なテクストを理解することができる。
3. 基礎語彙を使って単文を書くことができる。
4. 要求や意思を簡単に伝えることができる。

成績評価の基準および評価方法

出席20％、音読10％、試験70％

授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場　簡明
版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

参考書

備考

【履修上の注意事項】
講義回数の2/3 以上出席すること。

【オフィスアワー等】
メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp
研究室：総合教育棟413

電子メールアドレス

中国語Ⅳ (Chinese Ⅳ)

科目コード：01001518
担当教員：篠原　征子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：04,
曜日・時限：木曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:23

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

中国語Ⅳ (Chinese Ⅳ)

科目コード：01001518
担当教員：野村　和代
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：火曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:22

授業の概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君そ
れぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つで
あろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を
見据えて、各人しっかりした目的意識を持って授業に臨むことが
重要である。
　とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこと
もまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修
しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本
講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、確実な知
識として身につけていくことを目標とする。自分の「中国語力」
のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてほ
しい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

1．　第１課
2．　第２課
3．　第３課
4．　第４課
5．　第５課
6．　復習
7．　テスト（１－５）
8．　第６課
9．　第７課
10．　第８課
11．　第９課
12．　第10課
13．　復習
14．　テスト（6−10）
15．　まとめ

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
2. 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
3. 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
4.
自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

成績評価の基準および評価方法

定期試験70％、平常点30％。合計60 点以上を合格とする。
　平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

予習：
①新出単語のピンインと日訳を記入しておく。
②本文とポイントを一読しておく。
復習：
①ポイントを再確認する。
②モデル会話を暗唱する。
③問題を解いてみる

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：陳淑梅、劉光赤『しゃべっていいとも中国語2
ステッ
プアップ編』（朝日出版社）ISBN: 9784255452296

参考書

備考

【履修上の注意事項】
全講義回数の2/3 以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。
　履修上の細かな注意点について、第１回の講義時に説明するの
で、必ず出席すること。

【オフィスアワー等】
連絡先は、人間科学事務室にたずねること。

電子メールアドレス

中国語Ⅳ (Chinese Ⅳ)

科目コード：01001518
担当教員：一木　達彦
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：03,
曜日・時限：木曜 5限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:23

授業の概要

中国語ⅠⅡで習得した内容を確認しながら、新しい語彙や文法
を学習し、初級から中級へのステップアップを目指す。読む・書
く・聞く・話すの4
つの技能をバランスよく伸ばし、日常生活に
役立つ基礎的な運用能力を養っていく。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

1．　第１課
2．　第２課
3．　第３課
4．　第４課
5．　第５課
6．　復習
7．　テスト（１－５）
8．　第６課
9．　第７課
10.　第８課
11.　第９課
12.　第10課
13.　復習
14.　テスト（6−10）
15.　まとめ

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
2. 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
3. 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
4.
自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

成績評価の基準および評価方法

出席20%、音読10%、試験70%

授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：陳淑梅、劉光赤『しゃべっていいとも中国語2ステッ
プアップ編』（朝日出版社）ISBN: 9784255452296

参考書

備考

【履修上の注意事項】
講義回数の2/3 以上出席すること。

【オフィスアワー等】
メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp
研究室：総合教育棟413

電子メールアドレス

中国語Ⅳ (Chinese Ⅳ)

科目コード：01001518
担当教員：一木　達彦
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：02,
曜日・時限：木曜 3限,
講義室：(戸畑インタラクティブ学習棟)戸畑MILAIS
更新日：2017/06/12 07:03:22

授業の概要

中国語ⅠⅡで習得した内容を確認しながら、新しい語彙や文法
を学習し、初級から中級へのステップアップを目指す。読む・書
く・聞く・話すの4
つの技能をバランスよく伸ばし、日常生活に
役立つ基礎的な運用能力を養っていく。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

1．　第１課
2．　第２課
3．　第３課
4．　第４課
5．　第５課
6．　復習
7．　テスト（１－５）
8．　第６課
9．　第７課
10.　第８課
11.　第９課
12.　第10課
13.　復習
14.　テスト（6−10）
15.　まとめ

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
2. 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
3. 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
4.
自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

成績評価の基準および評価方法

出席20％、音読10％、試験70％

授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：陳淑梅、劉光赤『しゃべっていいとも中国語2ステッ
プアップ編』（朝日出版社）ISBN: 9784255452296

参考書

備考

【履修上の注意事項】
講義回数の2/3 以上出席すること。

【オフィスアワー等】
メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp
研究室：総合教育棟413

電子メールアドレス

フランス語III (French III)

科目コード：01001519
担当教員：古野　千恵
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：火曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:00

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

フランス語III (French III)

科目コード：01001519
担当教員：甲斐　春香
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：02,
曜日・時限：木曜 5限,　講義室：(教育研究1号棟)1-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:00

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

フランス語IV (French IV)

科目コード：01001521
担当教員：古野　千恵
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：火曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:23

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

フランス語IV (French IV)

科目コード：01001521
担当教員：甲斐　春香
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：02,
曜日・時限：木曜 5限,　講義室：(教育研究1号棟)1-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:23

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

韓国語III (Korean III)

科目コード：01001522
担当教員：井田　茂雄
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：火曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:00

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

韓国語III (Korean III)

科目コード：01001522
担当教員：崔　相振
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：02,
曜日・時限：木曜 5限,　講義室：(教育研究1号棟)1-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:00

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

韓国語IV (Korean IV)

科目コード：01001523
担当教員：崔　相振
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：02,
曜日・時限：木曜 5限,　講義室：(教育研究1号棟)1-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:23

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

韓国語IV (Korean IV)

科目コード：01001523
担当教員：井田　茂雄
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必, 選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：火曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:23

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

選択英語 II (Selective English II)

科目コード：01001525
担当教員：渡邉　浩明
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選,　単位数：1, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:23

授業の概要

Intended for students with the score of 450 or higher on TOEIC, this advanced intermediate course aims at helping the students achieve 600 or higher. With this objective in mind, all classes are conducted entirely in English to improve students' overall English proficiencies and TOEIC score without relying on test taking techniques. The students, therefore, will be asked to do various English trainings: reading aloud, dictation while reading aloud, sentence retention, and shadowing, as well as practices on Moodle.

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

This course is a continuous course of Selective English I. However, Selective English I is not a prerequisite for registration.

授業項目

1. Introduction, demonstration of training menu
   Course introduction: explanation of textbooks, training sheet and grading method, instructions on training menu
2. TOEIC pre-test
   Taking a TOEIC mock test
3. English training and textbook study 1
   English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and studying textbooks
4. Quiz, English training and textbook study 2
   Taking a quiz, followed by English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and studying textbooks
5. Quiz, English training and textbook study 3
   Taking a quiz, followed by English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and studying textbooks
6. Quiz, English training and textbook study 4
   Taking a quiz, followed by English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and studying textbooks
7. Quiz, English training and textbook study 5
   Taking a quiz, followed by English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and studying textbooks
8. Review and mid-term exam
   Review and Listening & Reading exam based on the half-term materials
9. English training and textbook study 6
   English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and studying textbooks
10. Quiz, English training and textbook study 7
    Taking a quiz, followed by English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and studying textbooks
11. Quiz, English training and textbook study 8
    Taking a quiz, followed by English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and studying textbooks
12. Quiz, English training and textbook study 9
    Taking a quiz, followed by English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and studying textbooks
13. Quiz, English training and textbook study 10
    Taking a quiz, followed by English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and studying textbooks
14. Quiz, English training and textbook study 11
    Taking a quiz, followed by English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and studying textbooks
15. Quiz, English training and textbook study 12
    Taking a quiz, followed by English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and studying textbooks
16. Review and final exam
    Review and Listening & Reading exam based on the half-term materials

授業の進め方

All class sessions are conducted in English.
This class has quizzes, followed by English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and learning textbooks.

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

This course aims at helping students to achieve 600 or higher on TOEIC test without relying on test taking techniques.
1. To learn the expressions used in the TOEIC reading section and to demonstrate the competency by

completing training assignments.
2. To learn the expressions used in the TOEIC listening section and to demonstrate the competency by completing Moodle practices
3. To improve shadowing accuracy to demonstrate listening and speaking proficiencies
4. To raise TOEIC score by improving overall English proficiency
5. To achieve 600 points or higher on TOEIC without relying on test taking techniques

成績評価の基準および評価方法

Quiz 20%, Class activities 15%, Weekly English Training 20%, Moodle Practice 15%, Mid-Term Exam 10%, Final Exam 10%, TOEIC score improvement 10%
Students must have at least 60 % to pass.
Cheating on the training or Moodle practice results in failure (-100%).

授業外学習（予習・復習）の指示

Daily practice is required to complete Weekly English Training. Students must show the evidence of their training on the training sheet provided.
Moodle practice is mandatory.
Students are also expected to preview the textbook contents and look up unfamiliar words and phrases in the dictionary before attending each class session.

キーワード

TOEIC, shadowing, reading, listening, all English class

教科書

『TOEICテスト出まくりリスニング』神崎正哉著
コスモピア ISBN: 978-4902091922
『TOEICテスト出まくりリーディング』早川幸治著
コスモピア ISBN: 978-4864540490
『公式TOEIC Listening & Reading 問題集２』
Educational Testing Service (著)
国際ビジネスコミュニケーション協会 ISBN: 9784906033508

参考書

備考

【履修上の注意事項】
Two-third attendance is required for this class.
Dictionaries will be needed.
This course is intended for students with 450 or higher on TOEIC. Students with less than 450 on TOEIC should consult the instructor before taking this class.
Submit the copy of TOEIC score on the first day of class.

【オフィスアワー等】
Tuesday 14：40－16：00 (総合教育棟３Ｆ)

電子メールアドレス

国際関係論 (International Relations)

科目コード：01001526
担当教員：玉村　健志
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(教育研究3号棟)3-1A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:23

授業の概要

いま世界では、戦争や平和に関わる問題を初めとして、経済、環境、開発など、様々な分野で国際的な問題が発生している。現在の国際関係がどのように形成され、どのように変化してきたのか、またそれをどのように捉えられるかを考えることがこの講義の目的である。国際政治の性質とはどのようなものか、グローバリゼーションとは何か、国際的問題の解決のために国際機関はどのような役割を果たしうるのかなどの点を初めとして、現代の国際関係をどう捉えられるかを学んでいく。将来国際的な仕事に就くための、あるいは新聞や専門書などを読んで理解するための、国際関係に関する基礎的な知識を学ぶ。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

前提知識は特に必要としない。グローバルエンジニア（GE)コースの修了要件となるグローバル教養科目（G科目）の一つ。GEコースに所属しない学生には、人文社会系選択必修科目となる。旧カリキュラム科目のため2年生以上が履修可能。

授業項目

第１回　ガイダンス
第２回　グローバル化された世界
第３回
国際関係の性質①：「リアリズム」における国際政治観
第４回
国際関係の性質②：「リベラリズム」における国際政治観
第５回　主権国家体系と国家の役割
第６回　国民国家とナショナリズム
第７回　世界政府なき秩序と国際制度
第８回　国際機構の歴史
第９回　レポートの書き方
第10回　国際連合
第11回　内戦と紛争解決
第12回　人道を目的とする武力行使
第13回　EU
第14回　貧困と開発
第15回　持続可能な発展

授業の進め方

講義の中で受講生に様々な質問を行い、受講生とやり取りしながら進める。事前にお題を伝えるので、予め自分の意見をある程度考えておくことが望まれる。積極的な発言を期待したい。
毎回授業の終わりに授業の復習を兼ねてリアクションペーパ

ーを書いてもらう。その授業で扱ったトピックに関する簡単な質問に答え、自分の考えを論じてもらう。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
国際社会と国際機関に関する導入的な知識を身に着けてもらうことを目標とする。受講生が国際関係について学問的な理解を深めるとともに、自分なりの視点を持って意見を述べられるようになることを目指す。

成績評価の基準および評価方法

レポート60%、リアクションペーパー（授業内課題）30%、授業内での発言・意見の表明（クラスへの貢献）10%。合計で60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

ニュースを見たり新聞を読んだりして世界情勢や国際機構について予めある程度情報を得ておいてください。

キーワード

戦争と平和、グローバル化、国際関係、国際機構、国連、PKO、EU

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考文献は授業内で適宜紹介する。

備考

【履修上の注意事項】
教科書を使わないので、自分で講義を聴き、ノートをとり、配布資料を整理する必要がある。
授業ではみなさんに色々な質問をするので、積極的な発言を期待したい。

【オフィスアワー等】
質問は、講義の前後や下記のメールアドレスにて随時受け付ける。

電子メールアドレス

tamamura@ltc.kyutech.ac.jp

東アジア論 (East Asian Studies)

科目コード：01001528
担当教員：後藤　啓倫
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース, 知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(総合教育棟北)C-1B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:23

授業の概要

●授業の背景

現在の東アジアとりわけ日本、中国、韓国は、歴史認識や国境に関する様々な問題を抱えています。しかし、日本、中国、韓国は、これら問題の解決の糸口を見つけるどころか、これらをめぐって相互の対立を深めているように見えます。日中韓がともに納得するような共通理解はすぐには出てこないかもしれませんが、今後も模索し続ける必要はあるでしょう。そこで、この授業では、近代以降の日本と東アジア（特に中国・韓国）の歴史を学び今後の日本と東アジアとのかかわりについて考えます。

●授業の目的

本授業では、近代以降の日本がどのように東アジア（特に中国・韓国）とかかわってきたのかついて学びます。主に、戦争や植民地支配に関する事実と背景を解説していきます。日本と東アジアの関係史には現在でも未だに争点となる問題が多く含まれれています。東アジアの歴史を学ぶことで現在の日本を取り巻く国際環境の成り立ちを理解するとともに、自国だけでなく他国の立場からもみた近代以降の東アジアの歴史を理解することを目指します。

●授業の位置づけ

本授業では、現在の東アジア（特に日中韓）が抱える諸問題について歴史的観点からアプローチすることで、東アジアの歴史的事実に関する知識を習得し、東アジアを多角的な観点から論じる姿勢を身につけます。歴史的に考察することを通じて、現在の問題を相対化する視点を養います。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識は特に必要ない。関心のある学生は歴史学、政治学、日本政治論の受講を勧める。

授業項目

第１回　ガイダンス
第２回　近代国家日本の登場と東アジア国際秩序の変容
第３回　日清戦争と義和団事件
第４回　日露戦争
第５回　韓国併合
第６回　日本の植民地支配
第７回　第一次世界大戦と東アジア
第８回　第一次世界大戦後の東アジア

第９回　満洲事変
第10回　日中戦争
第11回　日中戦争の長期化
第12回　太平洋戦争
第13回　戦時下の人々
第14回　21世紀の東アジア
第15回　まとめ

授業の進め方

授業は講義形式で行なう。配布資料等を用いて補足説明をする。授業項目は学生の理解、関心に応じて変更する場合もある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 日本と東アジアの歴史的事実に関する知識の習得
2. 歴史認識において多様な立場があることを理解する
3.
歴史的に考察することを通じて、現在の東アジアが抱える問題とそれに関する報道などを相対化して考える姿勢を養う

成績評価の基準および評価方法

期末試験（100%）の結果で評価する。60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

授業で扱う事件や登場人物に関する参考文献をその都度紹介するので、参考文献を通じて復習し、理解に努めること。

キーワード

日本、中国、韓国、東アジア、歴史

教科書

教科書は使用しない。参考文献は授業中に紹介する。

参考書

備考

【履修上の注意事項】
教科書を使わないので、自分で講義を聴いてノートをとる必要がある。

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

職業と社会 (Occupation and Society)

科目コード：01001529
担当教員：東野　充成
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース, 電気工学コース, 電子工学コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2, 3年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(コラボ教育支援棟)Co-1B
更新日：2017/06/12 07:03:23

授業の概要

教育と職業との結びつきについて講義する。学校は、組織化・計画化されたカリキュラムを通して、子どもを社会化する機関であると同時に、人材を配分し、その配分や地位の高低が発生することを正当化する機関でもある。現在、学校を通して人材がどのように配分されているのか、それを正当化するものとは何のか、学校と職業との結びつきにどのような齟齬が出来しているのか、こうした諸問題について講義する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

2年生以上が履修できる、人文社会系選択必修科目のひとつである。

授業項目

第１回　学校の機能
オリエンテーション及び学校の機能に関する簡単な説明を行う。
第２回　高校改革と高卒労働市場
高校改革の現状と課題、高卒労働市場の現状と課題について講義する。
第３回　大学改革のいま
大学改革の現状と課題について講義する。
第４回　大学におけるキャリア教育と大卒労働市場
大学におけるキャリア教育と大卒労働市場の現状と課題について講義する。
第５回　大学教育の効用（１）
大学教育を受けることによる効用を、利子率という概念から解説する。
第６回　大学教育の効用（２）
利子率という概念を用いて、教育の効果について解説する。
第７回　高学歴化と職業構造の変化（１）
なぜ高学歴化が進行するのか、それを説明する諸理論について講義する。
第８回　高学歴化と職業構造の変化（２）
なぜ高学歴化が進行するのか、それを説明する諸理論について講義する。
第９回　新卒採用市場と採用に関する法理
新規学卒市場の現状と課題、採用に関する労働法理について講義する。
第10回　ニート・フリータ問題（１）
ニートの原因や背景、社会的な課題について講義する。
第11回　ニート・フリーター問題（２）
フリーターの原因や背景、社会的な課題について講義

する。
第12回　ワーク・ライフ・バランス（１）
過労死や過労自殺、ブラック企業・ブラックバイト問題について講義する。
第13回　ワーク・ライフ・バランス（２）
望ましいワーク・ライフ・バランスのあり方について講義する。
第14回　まとめ
これまでのまとめを行う。
第15回　試験
上記の内容から、試験を行う。
第16回 解説
試験の解説を行う。

授業の進め方
レジュメを基にした講義形式で進める。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）
1. 教育と職業に関する基礎的な概念や理論を理解する。
2. 現代社会の労働問題の原因や背景について理解する。
3. 自らの職業観や社会的な諸課題について表現できる。

成績評価の基準および評価方法
期末試験（レポート）100％

授業外学習（予習・復習）の指示
労働問題や教育問題に関する記事等に目を通すこと。

キーワード
労働市場　教育改革　利子率　人的資本論　葛藤理論　ニート　フリーター　ワーク・ライフ・バランス

教科書
指定しない。

参考書
授業の中で適宜紹介する。

備考

電子メールアドレス
higashi@dhs.kyutech.ac.jp

日本語表現法 (Japanese Writing)
科目コード：01001531
担当教員：水井　万里子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース, 電気工学コース, 電子工学コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2, 3年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(教育研究1号棟)1-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:23

授業の概要
金曜2限

●授業の概要

他人に伝わる文章を書く前提として、図書館での調査の仕方および文献の基本的な読解力を身につける。特定の主題についてのさまざまな情報を整理し、期末にはある程度の長さのレポートが作成できるようにする。

本講義は、２、３年生を対象とした中級講義である。表現力や論理的思考を身につけることを目指す。

●授業の目的

論理的文章の書き方を身につける。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ
人文社会系選択必修科目に含まれる。

授業項目
①　ガイダンスとテーマの設定
②　文献調査と資料検索
③ マップの作成
④ アウトラインの作成
⑤ 詳細資料検索・見出しとタイトルのつけ方
⑥ レポートの書き方と段落
⑦　文献表とパスファインダー
⑧ 小括と発表
⑨ 目次と構成
⑩ 個別発表
⑪ 個別発表
⑫ 個別発表
⑬ レポート提出
⑭ 最終発表
⑮ 講評とまとめ

授業の進め方
履修者が自分のテーマで調査学習を行い、レポート作成を通じ論理的思考力と課題解決力、表現力を

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）
本授業では履修者が自分のテーマで調査学習を行い、レポート作成を通じ論理的思考力と課題解決力、表現力を身につけるために以下の目標を置く
1. 文献調査、情報検索の方法を身につける。

2. 学術的な日本語表現の方法を身につける。
3. 調査学習の結果をまとめて発表する
4. 調査レポートを作成する。

成績評価の基準および評価方法

講義進行中に課せられる２回の小レポートと期末レポートの合計点で評価する。

授業内課題60％

調査レポート40％。

60％以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示をする調査課題を、次回までに準備しておくこと。自由課題のレポートの作成を行う。

キーワード

文献調査、資料検索、レポート作成

教科書

用いない

参考書

授業内に指示する。

備考

【履修上の注意事項】

第一回目の授業で注意点を述べます。授業中に紹介する図書や文献を参考にし、自ら積極的に理解を深めることに努めてください。

【オフィスアワー等】

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスまで。

学期中のオフィスアワーは月曜日12時30分から13時30分まで（Ｃ－３０５）

電子メールアドレス

mizui@dhs.kyutech.ac.jp

サスティナビリティー論 (Introduction to Sustainability)

科目コード：01001532
担当教員：東野　充成
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース, 電気工学コース, 電子工学コース,　,　,
単位区分：査定外,　単位数：0, 0.0,　対象学年：2, 3, 4年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-2F講義室
更新日：2017/06/12 07:03:00

授業の概要

授業の背景

1980年代後半以降、サスティナビリティーおよび持続可能な開発の概念が国際的に提唱されている。持続可能な開発とは、一般的に、将来世代がそのニーズを充足する能力を損なうことなく、現在世代のニーズを充足する開発と定義され、世代間の衡平性が強調される。20世紀を通して拡大してきた経済社会活動のあり方では、上記の定義を満たすことは困難であると見られており、環境問題への対応などに関し、グローバルからローカルレベルで様々な試行錯誤が行われている。

授業の目的

持続可能な開発に係る背景、考え方、および現在の取組みについて理解し、サスティナビリティーに基づいた社会のあり方について考える。

授業の位置づけ

グローバル時代の教養として、持続可能な開発に係る基礎知識を身につける。本授業の内容は、持続可能な開発のための教育（ESD）の一環とも位置づけられ、持続可能な社会づくりの担い手の育成にも貢献することが期待される。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

2年次以降の学生が受講できる、選択科目のひとつである。GEコースへの進学を希望する学生は、受講することが望ましい。

授業項目

第１回　オリエンテーション
　テーマの設定と今後の工程について説明する。
第２回　20世紀の経済社会発展と公害問題
　日本を中心に、公害問題の発生とその後の展開について
第３回　「持続可能な開発」の提唱
　持続可能性という概念が成立・普及した過程について
第４回　地球環境問題と国際的枠組み
　地球環境が問題化した過程と、それに対応する国際的な枠組みについて
第５回　気候変動１―京都議定書とパリ協定

温暖化問題に関する京都議定書とパリ協定について
第６回　気候変動２―低炭素社会に向けた取組み
排出権取引など、低炭素社会に向けた取り組みについて
第７回　自然環境・生物多様性1－熱帯林の消失と保全策
熱帯林の消失の現状と保全のあり方について
第８回　自然環境・生物多様性１―
日本の農山村・里山の変化
日本の農山村や里山の環境変化と保全のあり方について
第９回　自然環境・生物多様性２― 生態系の保全
外来種問題など、生態系の破壊の現状と保全のあり方について
第10回　政府の政策とサスティナビリティ
サスティナビリティを達成するための政策の現状と課題について
第11回　企業とサスティナビリティ
サスティナビリティを達成するための企業活動のあり方について
第12回　地域コミュニティとサスティナビリティ
サスティナビリティを達成するための地域コミュニティのあり方について
第13回　ライフスタイルとサスティナビリティー
サスティナビリティを達成するための我々のライフスタイルについて
第14回　教育とサスティナビリティー
サスティナビリティを達成するための教育のあり方について
第15回　試験
上記の内容から試験
第16回 まとめと解説
授業の総括及び試験の解説

授業の進め方

班ごとにテーマを決め、プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションの内容を基に、ディスカッション形式で授業を進める。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
サスティナビリティーに係る基礎知識を身につけ、持続可能な世界へ向けたグローバルな動向を理解できるようになる。
2.
日本の持続可能な社会づくりに関する現状、取組みの特性や意義を、国際社会との関係性の中で理解できるようになる。

成績評価の基準および評価方法

プレゼンテーション60%、ディスカッションへの寄与度40%で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

プレゼンテーションの準備を行うこと。
次回のテーマに従って、全員が予習すること。

キーワード

持続可能な開発、地球環境問題、気候変動、自然環境・生物多様性、政府政策、企業、地域コミュニティ、ライフスタイル

教科書

特に指定しない。

参考書

佐藤真久、阿部治編著『ESD入門:持続可能な開発のための教育』（2012）筑波書房371.5/S-3

トレイシー・ストレンジ, アン・ベイリー著; OECD編; 濱田久美子訳『よくわかる持続可能な開発』（2011）明石書店ISBN: 9784750334844

備考

【履修上の注意事項】
普段から新聞等に目を通し、関連するトピックに関する問題意識を育てておく。

【オフィスアワー等】

授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

電子メールアドレス

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

法学Ⅰ (Introduction to Japanese Law Ⅰ)

科目コード：01001533
担当教員：小野　憲昭
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟北)C-1B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:00

授業の概要

私達が日常生活を円滑に営むためには、日常生活関係を規律する法を知っておく必要があります。
そのため、本講義では、法の特性や構造、その機能を明らかにするとともに、わが国の主要法令である憲法、民法、刑法の基本原則、生きた方である判例の意義とその読み方について講義します。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

社会生活を営む上で必要な最低限度の決まりを知り、社会の一員として要求される素養を身につけ、社会における人と人との関係の有るべき姿を考えるきっかけにして頂きたいと思っています。

授業項目

1.0 法学を学ぶために
2.0 憲法の役割と基本原則を知る①
　最高法規、個人の尊厳、基本的人権
3.0 憲法の役割と基本原則を知る②
　国民主権、権力分立、違憲審査制
4.0 民法の役割と基本原則を知る①
　私的自治、所有権の絶対、過失責任
5.0 民法の役割と基本原則を知る②
　公共の福祉、信義則、権利濫用
6.0 刑法の役割と基本原則を知る①
　罪刑法定主義、犯罪の要件
7.0 刑法の役割と基本原則を知る②
　刑罰、刑事手続き
8.0 刑法の役割と基本原則を知る③
　裁判員制度、刑事責任と民事責任
9.0 法の特性、構造と機能を知る①
　社会規範、法規範の特性
10.0 法の特性、構造と機能を知る②
　社会統制、活動促進、紛争解決、法源
11.0 判例の読み方を知る
　判例の意味、判例集、判例の読み方・調べ方
12.0 判例を読む①
　事実の概要、判旨、判例部分の抽出
13.0 判例を読む②
　判例と学説、判例研究の意味
14.0 法律の視点から社会を読む
15.0 試験
16.0 試験解説・まとめ

授業の進め方

レジュメを配布し、その内容に沿って授業を進めます。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

身近な法律問題を素材としながら、私達の日常の生活関係を規律する法の中で、特に財産取引に関する法の存在や仕組みを知り、法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得することを目標としています。
1.
日常生活における取引関係を規律する法の存在や仕組みを知る。
2. 法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得する。
3.
社会における人間関係の有るべき姿を考えることができるようになる。

成績評価の基準および評価方法

期末試験の結果（100%）で評価します。

60点以上を合格とします。

授業外学習（予習・復習）の指示

復習を中心に講義内容を十分理解するよう心掛けてください。講義で話した内容、レジュメ、、図書館の参考図書を手がかりとして、論点ごとにノートにまとめる作業をしましょう。予習が必要な場合は、その都度支持します。その場合は、配布したレジュメ等を事前に読んできてください。

キーワード

規範 、秩序、権利、責任、救済

教科書

教科書は使用しません。レジュメ・資料を配布します。
石川他編集代表『法学六法　’17』信山社ISBN: 9784797257380

参考書

１）中川善之助著 泉 雄補訂補訂版法学日本評論社321/N-8/2
２）五十嵐 清著
法学入門［第３版］悠々社　ISBN：94640693X
３）芦部信喜（高橋和之 補訂）『憲法
第5版』（岩波書店、2011年）ISBN: 9784000227810
４）川井　健『民法概論１民法総則第３版』有斐閣
324　ISBN：4641134324
５）井田良著　基礎から学ぶ刑事法〔第5版〕有斐閣　ISBN：9784641220140
6)佐藤幸治他著『法律学入門〔第３版補訂版〕』有斐閣321/S-6/3-2

備考

【履修上の注意事項】
　講義には毎回出席すること。講義内容を十分理解するために、講義で話した内容、教科書、図書館の参考図書を手がかりとして、各論点ごとにノートにまとめる作業をしてみてください。

　質問があれば講義の前後いつでも受け付けます。

電子メールアドレス

経営学Ⅰ (Business Administration Ⅰ)

科目コード：01001601
担当教員：小江　茂徳
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：02,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟北)C-2A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:00

授業の概要

本講義は、経営学の基本概念や理論を理解することを目的としています。会社の成立や会社形態の種類といった制度的な領域から始め、企業経営の中枢である経営戦略やマーケティング、生産管理、そして後半では近年の経営課題について取り上げていきます。

我々の社会は企業の生産物である商品やサービスに溢れており、日常生活をより豊かにしています。しかし、それらについて我々が知っていることと言えば、せいぜい商品・サービスの名称や機能ぐらいではないでしょうか。実際には、企業の掲げる経営理念の下、緻密な市場調査や試作品の製作、ライバル企業との駆け引き、組織の管理、業務の効率化など、企業による不断の熟考や試行錯誤、努力によってそれらの商品・サービスは生み出されています。経営学は、こうした商品・サービスを生み出す様々な企業行動について研究してきた学問です。この講義を通じて経営学的な視点を身に付けることで、皆さんが日常的に目にする商品やサービスに対する見方が変わる端緒となればと考えています。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

事前に経営学の知識は必要ありません。経営学Ⅱや経営組織論等も受講し、経営学に関する知識を深めましょう。

授業項目

第１回　イントロダクション
　講義の内容と経営学に関して概説します
第２回　株式会社の誕生
　世界初の株式会社とその特徴について学びます
第３回　会社の形態
　会社の4形態とその特徴について学びます
第４回　経営戦略①
　企業の環境分析のツールについて学びます
第５回　経営戦略②
　経営理念と全社戦略について学びます
第６回　経営戦略③
　多角化戦略について学びます
第７回　経営戦略④
　競争戦略ついて学びます
第８回　前半復習テスト
　前半の復習テストを行います
第９回　マーケティング①
　マーケティング・ミックスのうち、商品、流通について学びます
第10回 マーケティング②
　マーケティング・ミックスのうち、販売促進、価格に

ついて学びます
第11回　日本的経営
日本企業の特徴的な経営スタイルについて学びます
第12回　コーポレートガバナンス
企業の不祥事を防ぐ為の企業統治のあり方について学びます
第13回　企業の社会的責任
企業が持つ多大な影響力とその責任について学びます
第14回　経営学の貢献
経営学がいかに貢献できるのか学びます
第15回　総括と後半復習テスト
後半の復習テストを行います

授業の進め方
講義形式で進めていきます。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）
本講義は、経営学の基本的な考え方を理解することを目的とし、次を達成目標とする。
1. 経営学の基本概念を理解する。
2. 経営学の概念を用いて、企業行動を説明できる。
3. 企業が今日抱えている課題について理解する。

成績評価の基準および評価方法
講義中の小テスト（20%）と期末テスト（80%）で評価します。

授業外学習（予習・復習）の指示
講義の最初に前回の復習をするので、ノートや資料を見直しておくようにしてください。

キーワード
企業、経営戦略、マーケティング、生産管理、コーポレートガバナンス、CSR

教科書
特に指定しません。

参考書
各回のテーマに応じて適宜お知らせします。

備考
【履修上の注意事項】
日頃からニュースや新聞に目を通し、企業行動に関する情報を得るようにしてください。

【オフィスアワー等】
月曜日・3限

電子メールアドレス
講義中にお知らせします。

経営学Ⅰ (Business Administration Ⅰ)
科目コード：01001601
担当教員：小江　茂徳
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:00

授業の概要
本講義は、経営学の基本概念や理論を理解することを目的としています。会社の成立や会社形態の種類といった制度的な領域から始め、企業経営の中枢である経営戦略やマーケティング、生産管理、そして後半では近年の経営課題について取り上げていきます。
我々の社会は企業の生産物である商品やサービスに溢れており、日常生活をより豊かにしています。しかし、それらについて我々が知っていることと言えば、せいぜい商品・サービスの名称や機能ぐらいではないでしょうか。実際には、企業の掲げる経営理念の下、緻密な市場調査や試作品の製作、ライバル企業との駆け引き、組織の管理、業務の効率化など、企業による不断の熟考や試行錯誤、努力によってそれらの商品・サービスは生み出されています。経営学は、こうした商品・サービスを生み出す様々な企業行動について研究してきた学問です。この講義を通じて経営学的な視点を身に付けることで、皆さんが日常的に目にする商品やサービスに対する見方が変わる端緒となればと考えています。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ
事前に経営学の知識は必要ありません。経営学Ⅱや経営組織論等も受講し、経営学に関する知識を深めましょう。

授業項目
第１回　イントロダクション
講義の内容と経営学に関して概説します
第２回　株式会社の誕生
世界初の株式会社とその特徴について学びます
第３回　会社の形態
会社の4形態とその特徴について学びます
第４回　経営戦略①
企業の環境分析のツールについて学びます
第５回　経営戦略②
経営理念と全社戦略について学びます
第６回　経営戦略③
多角化戦略について学びます
第７回　経営戦略④
競争戦略ついて学びます
第８回　前半復習テスト
前半の復習テストを行います
第９回　マーケティング①
マーケティング・ミックスのうち、商品、流通について学びます
第10回 マーケティング②
マーケティング・ミックスのうち、販売促進、価格に

ついて学びます
第11回　日本的経営
日本企業の特徴的な経営スタイルについて学びます
第12回　コーポレートガバナンス
企業の不祥事を防ぐ為の企業統治のあり方について学びます
第13回　企業の社会的責任
企業が持つ多大な影響力とその責任について学びます
第14回　経営学の貢献
経営学がいかに貢献できるのか学びます
第15回　総括と後半復習テスト
後半の復習テストを行います

授業の進め方
講義形式で進めていきます。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）
本講義は、経営学の基本的な考え方を理解することを目的とし、次を達成目標とする。
1. 経営学の基本概念を理解する。
2. 経営学の概念を用いて、企業行動を説明できる。
3. 企業が今日抱えている課題について理解する。

成績評価の基準および評価方法
講義中の小テスト（20%）と期末テスト（80%）で評価します。

授業外学習（予習・復習）の指示
講義の最初に前回の復習をするので、ノートや資料を見直しておくようにしてください。

キーワード
企業、経営戦略、マーケティング、生産管理、コーポレートガバナンス、CSR

教科書
特に指定しません。

参考書
各回のテーマに応じて適宜お知らせします。

備考
【履修上の注意事項】
日頃からニュースや新聞に目を通し、企業行動に関する情報を得るようにしてください。

【オフィスアワー等】
月曜日・3限

電子メールアドレス
講義中にお知らせします。

経営学 II (Business Administration II)
科目コード：01001602
担当教員：小江　茂徳
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(教育研究3号棟)3-1A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:23

授業の概要
本講義は、経営学、とりわけ経営管理の基本概念や理論を理解することを目的としています。具体的には、モチベーションやリーダーシップ、グループダイナミクス等、主に企業内部のマネジメントに関わるテーマを取り上げていきます。
我々の社会は企業の生産物である商品やサービスに溢れており、日常生活をより豊かにしています。しかし、それらについて我々が知っていることと言えば、せいぜい商品・サービスの名称や機能ぐらいではないでしょうか。実際には、企業の掲げる経営理念の下、緻密な市場調査や試作品の製作、ライバル企業との駆け引き、組織の管理、業務の効率化など、企業による不断の熟考や試行錯誤、努力によってそれらの商品・サービスは生み出されています。経営学は、こうした商品・サービスを生み出す様々な企業行動について研究してきた学問です。この講義を通じて経営学的な視点を身に付けることで、皆さんが日常的に目にする商品やサービスに対する見方が変わる端緒となればと考えています。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ
予め経営学の知識を必要としません。経営学Ⅰ、経営組織論を受講し、経営に関する理解を深めてください。

授業項目
第１回 イントロダクション
講義の概要と経営学について概説します
第２回 組織均衡論
組織とその存続条件について学びます
第３回　科学的管理法
経営管理の礎について学びます
第４回 人間関係論
経営管理における人間関係の影響について学びます
第５回 仕事とモチベーション①
モチベーションの内容理論について学びます
第６回 仕事とモチベーション②
内発的動機付け、職務特性モデル、職務充実について学びます
第７回 仕事とモチベーション③
モチベーションの過程理論について学びます
第８回 前半復習テスト
前半の復習テストを実施します
第９回 リーダーシップ
リーダーシップの資質論と行動論について学びます
第１０回 グループの成長とリーダーシップ
グループの成長過程において求められるリーダーシップについて学びます

第１１回 グループダイナミクスとリーダーシップ
組織の集団的病理とその対応について学びます
第１２回 変革型リーダーシップ論
変革型リーダーの行動について学びます
第１３回 組織管理の実際①
企業の昇進管理について学びます
第１４回 組織管理の実際②
企業の教育訓練について学びます
第１５回 総括と後半復習テスト
後半の復習テストを実施します

授業の進め方
主に講義形式で進めていきます。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）
本講義では、経営管理に関する基礎を学ぶことを目的とし、以下を達成目標とします。
1. 経営学（経営管理）の基本概念を理解する。
2.
経営学（経営管理）の概念を用いて、様々な企業行動を説明できる。

成績評価の基準および評価方法
講義中の小テスト（20%）と期末テスト（80%）で評価します。

授業外学習（予習・復習）の指示
講義の最初に前回の復習をするので、ノートや資料を見直しておくこと。

キーワード
企業、モチベーション、リーダーシップ、グループダイナミクス

教科書
特に指定しません。

参考書
テーマに応じて適宜お知らせします。

備考
【履修上の注意事項】
日頃からニュースや新聞に目を通し、企業行動に関する情報を得ておくようにしてください。

【オフィスアワー等】
月曜日・3限

電子メールアドレス
講義中にお知らせします。

経営組織論 (Business Organization)

科目コード：01001603
担当教員：小江　茂徳
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-2E講義室
更新日：2017/06/12 07:03:00

授業の概要
この講義は、経営組織論の基礎的な概念や理論を理解することで、組織で生じる様々な問題の発見やその解決が図れるようになることを狙いとしています。具体的なテーマとして、組織構造、組織と外部環境との関わり、ならびに組織設計に焦点を当てていきます。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ
必ずしも経営学の知識を必要としませんが、経営学Ⅰ・Ⅱが既修であることを推奨します。

授業項目
第１回 イントロダクション
経営組織論について概説します
第２回 組織の構造①
官僚制について学びます
第３回 組織の構造②
官僚制の負の側面について学びます
第４回 組織の構造③
組織と外部環境のかかわりについて学びます
第５回 組織文化①
組織特有の価値観と経営との関わりについて学びます
第６回 組織文化②
組織文化の変革の方法について学びます
第７回 組織コミュニケーション
組織内のコミュニケーションの実際について学びます
第８回 前半復習テスト
前半の復習テストを行います
第９回 組織設計①
組織設計の意義について学びます
第１０回 組織設計②
組織設計における５つのポイントについて学びます
第１１回 組織設計③
組織形態の発展プロセスについて学びます
第１２回 組織設計④
組織の基本形態の特徴について学びます
第１３回 組織設計⑤
応用的な組織形態について学びます
第１４回 組織設計⑥
組織設計上の問題点について学び、組織設計全体について復習します
第１５回 後半復習テスト
後半の復習テストを実施します。

授業の進め方

主に講義形式で進め、適宜ディスカッションを取り入れていきます。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

本講義では、経営組織の基礎について理解することを目的とし、以下を達成目標とします。

1. 経営組織論の概念、理論について理解している
2. 経営組織論の概念を使い、現実の組織現象を説明できる

成績評価の基準および評価方法

レポート（60点）と講義中に行うテスト（20点×2）で評価します。

授業外学習（予習・復習）の指示

講義の最初に前回の復習をするので、ノートや資料を見直しておくようにしてください。

キーワード

経営組織、官僚制、組織構造、組織文化、組織設計

教科書

なし

参考書

テーマに応じて適宜紹介します。

備考

【履修上の注意事項】
日頃からニュースや新聞に目を通し、企業行動や組織に関する情報を得るようにしてください。

【オフィスアワー等】
月曜日・3限

電子メールアドレス

講義中にお知らせします。

日本国憲法 (Constitutional Law in Japan)

科目コード：01002040
担当教員：小野　憲昭
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(総合教育棟北)C-1B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:01

授業の概要

現代社会に生じているさまざまな問題を通じて、日本国憲法の改正論議が盛んになってきています。憲法とは何なのか、何のために存在するのかということを理解した上で、国家や社会とのかかわり方を考えていかなければなりません。そこで、本講義では、憲法の存在意義、日本国憲法が定める国家統治の仕組みや、基本的人権保障の目的、機能について講義します。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

国家統治の機構、基本的人権の保障が講義の中心ですが、憲法は政治と密接な関係がありますから、憲法を学ぶことは政治のあるべき姿を考える上でのきっかけとなります。我々が、個人として政治や国家といかに関わるべきかを考える上での有益な素材をえることができると思います。

授業項目

1.0 国家と法
2.0 憲法の意義・特質
3.0 国民主権の原理
4.0 平和主義
5.0 基本的人権の原理
6.0 法の下の平等・幸福追求権
7.0 内心の自由
8.0 表現の自由
9.0 経済活動の自由
10.0 人身の自由
11.0 参政権・社会権
12.0 国家統治の機構①―国会
13.0 国家統治の機構②―内閣
14.0 国家統治の機構③―裁判所
15.0 試験
16.0 解説・全体のまとめ

授業の進め方

レジュメや資料を配布して講義を進めます。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

憲法の存在意義、日本国憲法が定める国家統治の仕組みや、基本的人権保障の目的、機能を明らかにするとともに、現代における憲法の意義や問題状況を理解することを目標としています。

1. 憲法とは何か、その存在意義と役割を理解する。
2. 人権保障に関する基本的な知識を身につける。
3.

憲法問題の解決の仕方を通じて、国や社会とのかかわり方に

ついて主体的に考えることができるようになる。

成績評価の基準および評価方法

期末試験の結果（100%）で評価します。

60点以上を合格とします。

授業外学習（予習・復習）の指示

復習を中心に講義内容を十分理解するよう心掛けてください。講義で話した内容、教科書、図書館の参考図書を手がかりとして、論点ごとにノートにまとめる作業をしましょう。予習が必要な場合は、資料等を配布して、指示します。その場合は、授業前にｙ読んでおいてください。

キーワード

個人の尊厳、基本的人権、平和主義、民主主義

教科書

1）伊藤 正巳 著 憲法入門〔第４版補訂版〕有斐閣 323.1/I-17

2）石川他編集代表『法学六法　’17』信山社 320.9/I-1

参考書

1）芦部信喜（高橋和之 補訂）『憲法 第5版』（岩波書店、2011年）ISBN: 9784000227810

2）長谷部恭男『憲法　第5版』（新世社、2011年）ISBN: 9784883841684　ISBN: 9784883842186（第6版）

3)伊藤正己『憲法〔第3版〕』弘文堂ISBN：9784335300578

備考

法学に対する予備知識は特に必要ないのですが、社会問題や政治問題、国際情勢などに関心を持って受講して欲しいと思います。

質問があれば講義の前後いつでも受け付けます。

電子メールアドレス

社会学Ⅰ (Sociology Ⅰ)

科目コード：01002120
担当教員：森　康司
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース, 知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(総合教育棟北)C-2A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:01

授業の概要

社会をつくりだしているのは私たちである。同時に、私たちの考え方や感じ方も、社会に規定されているともいえる。私たちをとりかこむ「環境」である社会は、多くの場合はそれと意識されることなく、人々に特定の行為をさせたり、行為をさせないように誘導する。

社会学は、こうした社会のとらえがたい影響力を、独自の概念や方法によってとらえようとする学問である。社会学の観点から見れば、私たちは社会的環境から多くを与えられつつ、みずから社会のいろいろな側面を成り立たせていくという、循環的な関係のなかに生きている。

こうした循環的関係を目に見える形で（社会学的に）とらえる能力を身につけることができれば、それは変化の激しい現代社会を生きる上で、大きな武器となるだろう。

社会学Iでは、まず社会学の成立過程と、基本的な概念や考え方を網羅的に講義する。後半からは、世間の常識や自らの先入観を疑いつつ、現代社会が抱える各種の問題、中でも若者に関連したなかなか表面化しづらい問題について考察する予定である。講義を通して、社会学的なアプローチについて、関心を深めてもらえればと思う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

社会現象や現代人の生き方に関心がある人は、「社会科」が苦手であったり、「社会科」の知識がなくても十分参加できる学問である。授業を通して、現代の人間行動と社会についての社会学的な知識と分析力をつけることを促す。

授業項目

第１回　イントロダクション：「社会」とは
第２回　社会学の歴史
第３回　行為論
第４回　相互作用論
第５回　集団論
第６回　官僚制組織
第７回　科学的管理法①
第８回　科学的管理法②映画『Modern Times』
第９回　社会階層と社会移動
第10回　現代若者論①検証「キレやすい若者」
第11回　現代若者論②若者の規範意識は悪化したか
第12回　現代若者論③若者の非正規雇用リスク
第13回　現代若者論④検証「ニート化した若者」
第14回　現代若者論⑤草食化の虚実

第15回　現代若者論⑥非婚化晩婚化はなぜ進む

授業の進め方

上記項目に沿って講義形式で行う。ただし、順番・内容は社会情勢の変化、受講者数、受講生の希望などによって変更する場合がある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 社会学的なものの見方・考え方について理解する。
2. 社会学の基本的な知識を身につける。
3. 現代社会の諸問題を社会学的に解読する力を身につける。

成績評価の基準および評価方法

一定の出席を条件とした上で、期末試験で100%評価する。ただし、授業妨害行為は減点の対象とし、「代返」が発覚した場合は失格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

社会学の入門書を一冊は探して読んでみること。
配布資料の復習を行うこと。

キーワード

社会規範、社会化、地位と役割、基礎集団と機能集団、官僚制の逆機能、階層と階級、少年犯罪、非正規雇用、非婚化

教科書

適宜、資料を配布する。

参考書

備考

【履修上の注意事項】
配付資料に頼りきるのではなく、授業中の説明をよく聞き、口頭の説明で重要だと思った点や関心を惹かれた点、疑問点等を適宜メモすること。

【オフィスアワー等】
質問等は講義中、講義終了後に受けつける。

電子メールアドレス

西洋社会史Ⅰ (History of European Society Ⅰ)

科目コード：01002137
担当教員：水井　万里子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース, 電気工学コース, 電子工学コース,　,　,
単位区分：選,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2, 3, 4年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-1C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:01

授業の概要

●授業の背景

歴史学の基本的な方法として、「社会史」という分野がある。これは、歴史上に生きた人々の日常生活や文化、生き方などに光をあてて、当時の社会を再構成し、理解を深めることを目的とする。政治史、経済史などの分野と違い、「社会史」には年表に表されるような事件や重大な出来事はあまり出てこない。むしろ、長い時間をかけてじっくりと社会が変化していく過程を捉えていく。こうした社会史の課題として「モノ」「コト」の歴史は重要で、それぞれの「モノ」「コト」の起源、変化の過程、現代にどうつながるかをゆっくりと追いながら社会の変容についても考えることができる。

●授業の目的

西洋史における社会、技術、産業、文化について、個別トピック（例えば「庭」「銀行」「鋼」「蒸気機関」など）を各履修者がそれぞれ選択し検討する。これらのトピックは産業革命の時期にドイツで著された技術・社会関連の事典の項目である。この事典項目を出発点として、「工業化」を世界史の上で比較的早い段階で経験したヨーロッパの社会について、トピックの歴史的起源も確かめながら深く理解する。

●授業の位置づけ

本科目は選択課題によるレポート作成を中心とした歴史学上級科目で、「自由課題」演習型の授業である。まず、18世紀末から19世紀にかけて書かれたヨハン・ベックマン『西洋事物起源』の項目群から履修者が各自のテーマを選び、登録した後は、自由に調査を進める。参考資料の収集は、本学の図書館だけでなく、公共図書館や他大学の図書館を利用して行う場合がある。これらの調査をもとにプログレスレポート１、２（以下PR1・PR2）およびファイナルレポート（以下FR）の計3本を作成し提出する。　個別発表も各履修者は必ず一回以上おこない、他履修者の発表への質疑もあわせて評価の対象とする。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

副専攻上級科目に含まれる人文社会系の選択科目である。

授業項目

① テーマ登録
② 調査ガイド（文献検索について）
③ 調査ガイド（公共図書館と他大学図書館利用について）
④ プログレスレポート１提出

⑤ レポート返却とコメント　個別発表
⑥ 個別発表
⑦ 個別発表
⑧ 個別発表
⑨ 個別発表
⑩ プログレスレポート２提出　個別発表
⑪ レポート返却とコメント　個別発表
⑫ 個別発表
⑬ 個別発表
⑭ ファイナルレポート提出
⑮ まとめ

授業の進め方

授業時間内で届けでた調査課題にそって、PR1、PR2、FR3というレポートを3回提出、内容を個別発表する。毎回の授業の時間外に調査学習し、授業時には進捗を報告する。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

本授業では論理的な思考力と表現力、多様な文化の理解力を身につけるために以下の目標を設定する。
1.＜レポートに関する目標＞
①文献調査
2.＜レポートに関する目標＞
②資料分析
3.＜レポートに関する目標＞
③プレゼンテーション（２回）
4.＜レポートに関する目標＞
④オリジナリティ：独自の議論
5.＜レポートに関する目標＞
⑤プログレス（PR2とFRのみ）
6.＜個別発表に関する目標＞個別発表に対する質問

成績評価の基準および評価方法

プログレス・レポート１　20%

（上記レポート目標①から④各25%）

プログレス・レポート２　30%　（①から⑤各20%）

ファイナル・レポート　　40%　（①から⑤各20%）

発表および質疑　　10%　＊総合評価60%以上が合格

授業外学習（予習・復習）の指示

授業における各自のテーマの個別発表、レポート作成はすべて授業外の時間で行う。

キーワード

「西洋史」「技術史」「科学史」「社会史」

教科書

ヨハン・ベックマン『西洋事物起源１－４』岩波文庫、1999年。502/B-
4/1～3（担当教員が管理し、授業中に回覧した後で貸出）

参考書

各自が図書検索を通じてレポート課題にあったものを参考図書とする。

備考

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスまで。
学期中のオフィスアワーは月曜日12時30分から13時30分まで（Ｃ－３０５）

電子メールアドレス

mizui@dhs.kyutech.ac.jp

西洋社会史Ⅱ (History of European Society Ⅱ)

科目コード：01002138
担当教員：水井　万里子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース, 電気工学コース, 電子工学コース,　,　,
単位区分：選,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2, 3, 4年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:23

授業の概要

●授業の背景

歴史学の基本的な方法として、「社会史」という分野がある。これは、歴史上に生きた人々の日常生活や文化、生き方などに光をあてて、当時の社会を再構成し、理解を深めることを目的とする。政治史、経済史などの分野と違い、「社会史」には年表に表されるような事件や重大な出来事はあまり出てこない。むしろ、長い時間をかけてじっくりと社会が変化していく過程を捉えていく。こうした社会史の課題として「モノ」「コト」の歴史は重要で、それぞれの「モノ」「コト」の起源、変化の過程、現代にどうつながるかをゆっくりと追いながら社会の変容についても考えることができる。

●授業の目的

西洋史における社会、技術、産業、文化について、個別トピック（例えば「庭」「銀行」「鋼」「蒸気機関」など）を各履修者がそれぞれ選択し検討する。これらのトピックは産業革命の時期にドイツで著された技術・社会関連の事典の項目である。この事典項目を出発点として、「工業化」を世界史の上で比較的早い段階で経験したヨーロッパの社会について、トピックの歴史的起源も確かめながら深く理解する。

●授業の位置づけ

本科目は選択課題によるレポート作成を中心とした歴史学上級科目で、「自由課題」演習型の授業である。まず、18世紀末から19世紀にかけて書かれたヨハン・ベックマン『西洋事物起源』の項目群から履修者が各自のテーマを選び、登録した後は、自由に調査を進める。参考資料の収集は、本学の図書館だけでなく、公共図書館や他大学の図書館を利用して行う場合がある。これらの調査をもとにプログレスレポート１、２（以下PR1・PR2）およびファイナルレポート（以下FR）の計3本を作成し提出する。　個別発表も各履修者は必ず一回以上おこない、他履修者の発表への質疑もあわせて評価の対象とする。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

副専攻上級科目に含まれる人文社会系の選択科目である。

授業項目

① テーマ登録
② 調査ガイド（文献検索について）
③ 調査ガイド（公共図書館と他大学図書館利用について）
④ プログレスレポート１提出
⑤ レポート返却とコメント　個別発表
⑥ 個別発表
⑦ 個別発表
⑧ 個別発表
⑨ 個別発表
⑩ プログレスレポート２提出　個別発表
⑪ レポート返却とコメント　個別発表
⑫ 個別発表
⑬ 個別発表
⑭ ファイナルレポート提出　個別発表
⑮ まとめ

授業の進め方

授業時間内で届けでた調査課題にそって、PR1、PR2、FR3というレポートを3回提出、内容を個別発表する。毎回の授業の時間外に調査学習し、授業時には進捗を報告する。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

本授業では論理的な思考力と表現力、多様な文化の理解力を身につけるために以下の目標を設定する。
1.＜レポートに関する目標＞
①文献調査
2.＜レポートに関する目標＞
②資料分析
3.＜レポートに関する目標＞
③プレゼンテーション（２回）
4.＜レポートに関する目標＞
④オリジナリティ：独自の議論
5.＜レポートに関する目標＞
⑤プログレス（PR2とFRのみ）
6.＜個別発表に関する目標＞
②的確な質疑

成績評価の基準および評価方法

プログレス・レポート１　20%

（上記レポート目標①から④各25%）

プログレス・レポート２　30%　（①から⑤各20%）

ファイナル・レポート　40%　（①から⑤各20%）

発表および質疑　10%　＊総合評価60%以上が合格

授業外学習（予習・復習）の指示

授業における各自のテーマの個別発表、レポート作成はすべて授業外の時間で行う。

キーワード

「西洋史」「技術史」「科学史」「社会史」

教科書

ヨハン・ベックマン『西洋事物起源１－４』岩波文庫、1999年。502/B-
4/1～3（担当教員が管理し、授業中に回覧した後で貸出）

参考書

各自が図書検索を通じてレポート課題にあったものを参考図書とする。

備考

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスまで。
学期中のオフィスアワーは月曜日12時30分から13時30分まで（Ｃ－３０５）

電子メールアドレス

mizui@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅰ (Political Science Ⅰ)

科目コード：01002220
担当教員：本田　逸夫
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:01

授業の概要

（月曜１・２限）

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれら相互のつながりについて、どちらかといえば日本国内に重点を置いて学ぶ。新聞記事・論文や著書（の抜粋）などの比較的読みやすいプリントや視聴覚的な教材を用い、具体的な知識を得るとともに理論的な思考（「批判的思考」を含む）の訓練を行なう。一方通行的な授業ではなく、学生諸君の調査・発表（インターネットなども活用）、これをうけた討論などを重んじる。

政治学は民主主義国の市民あるいは社会人にとって必要な教養を含むが、だからといってそれを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現象は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこでこの講義では、学問としての作法にしたがいながら、政治現象と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学について考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政治学系の講義の基礎編が月曜の政治学Ⅰ及びⅡである。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

第１回　本講義の内容と方式の説明
第２回
ことばと政治シンボル操作の問題など。ケース・スタディを含む
第３回
ことばと政治「言霊」観の問題など。ケース・スタディを含む
第４回　「鉄の三角形」の意味と概要
第５回　「鉄の三角形」ケース・スタディ（１）
第６回　「鉄の三角形」ケース・スタディ（２）
第７回　政官関係・公益法人論など
第８回　戦争と政治（１）
第９回　戦争と政治（２）
第10回　従来の講義の補足と展開
第11回　ナショナリズム論（１）
第12回　ナショナリズム論（２）
第13回　市民的実践とNGO
第14回　試験

第15回　まとめ

ただし、以上の構成は時事やテクストなどの要素を考慮して変更することがある。

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
2. 上記の諸概念などを用いた分析の訓練
3.
いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
4.
一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
5.
発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

成績評価の基準および評価方法

期末試験（60％）および小テストの結果（40％）で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

※本講義では、事前の課題に基づく予習が前提であり、予習とそれに基づく事項の理解を確認する小テストをしばしば実施する。

事前に各回のテキストを熟読してわからない語句・事項を調べ、オリジナルな意見や質問を用意し（＝予習）、授業に備えること。

※本講義では、事前の課題に基づく予習が前提であり、予習とそれに基づく事項の理解を確認する小テストをしばしば実施する。講義後には、講義内容に関連するテーマを自ら設定して調査・学習を交えつつ考察した小論述的なコメントを書き（＝復習を兼ねた課題）、次の講義の際に提出すること。

キーワード

政治的象徴、鉄の三角形、ナショナリズム、市民社会、NGO

教科書

●教科書　なし。

●参考書　講義の中で適宜紹介する。

参考書

備考

【履修上の注意事項】

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

【オフィスアワー等】

月曜日12時－13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

電子メールアドレス

政治学Ⅰ (Political Science Ⅰ)

科目コード：01002220
担当教員：本田　逸夫
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:01

授業の概要

（月曜１・２限）

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれら相互のつながりについて、どちらかといえば日本国内に重点を置いて学ぶ。新聞記事・論文や著書（の抜粋）などの比較的読みやすいプリントや視聴覚的な教材を用い、具体的な知識を得るとともに理論的な思考（「批判的思考」を含む）の訓練を行なう。一方通行的な授業ではなく、学生諸君の調査・発表（インターネットなども活用）、これをうけた討論などを重んじる。

政治学は民主主義国の市民あるいは社会人にとって必要な教養を含むが、だからといってそれを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現象は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこでこの講義では、学問としての作法にしたがいながら、政治現象と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学について考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政治学系の講義の基礎編が月曜の政治学Ⅰ及びⅡである。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

第１回　本講義の内容と方式の説明
第２回
ことばと政治シンボル操作の問題など。ケース・スタディを含む
第３回
ことばと政治「言霊」観の問題など。ケース・スタディを含む
第４回　「鉄の三角形」の意味と概要
第５回　「鉄の三角形」ケース・スタディ（１）
第６回　「鉄の三角形」ケース・スタディ（２）
第７回　政官関係・公益法人論など
第８回　戦争と政治（１）
第９回　戦争と政治（２）
第10回　従来の講義の補足と展開
第11回　ナショナリズム論（１）
第12回　ナショナリズム論（２）
第13回　市民的実践とNGO
第14回　試験
第15回　まとめ

ただし、以上の構成は時事やテクストなどの要素を考慮して変更することがある。

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
2. 上記の諸概念などを用いた分析の訓練
3.
いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
4.
一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
5.
発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

成績評価の基準および評価方法

期末試験（60%）および小テストの結果（40%）で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

※本講義では、事前の課題に基づく予習が前提であり、予習とそれに基づく事項の理解を確認する小テストをしばしば実施する。

事前に各回のテキストを熟読してわからない語句・事項を調べ、オリジナルな意見や質問を用意し（＝予習）、授業に備えること。

※本講義では、事前の課題に基づく予習が前提であり、予習とそれに基づく事項の理解を確認する小テストをしばしば実施する。講義後には、講義内容に関連するテーマを自ら設定して調査・学習を交えつつ考察した小論述的なコメントを書き（＝復習を兼ねた課題）、次の講義の際に提出すること。

キーワード

政治的象徴、鉄の三角形、ナショナリズム、市民社会、NGO

教科書

●教科書　なし。

●参考書　講義の中で適宜紹介する。

参考書

備考

【履修上の注意事項】
上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足す

るのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

【オフィスアワー等】
月曜日12時－13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

電子メールアドレス

政治学Ⅰ (Political Science Ⅰ)

科目コード：01002220
担当教員：本田　逸夫
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース, 電気工学コース, 電子工学コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2, 3年
開講学期：前期,　クラス：03,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:01

授業の概要

（金曜２限）

後掲の諸テーマについて、資料を読みながら学び、政治学の基本的な概念や分析方法を学び、それらを用いて考察する能力を養成する。後半では、自由テーマによる演習方式も一部導入する。本講義では、全般に討論および論述に重点を置く。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

第１回　本講義の内容と方式の説明
第２回　予備的な講義とディスカッション
第３回　自由主義と民主主義（１）
第４回　自由主義と民主主義（２）
第５回　現実主義（１）
第６回　現実主義（２）
第７回　従来の講義の補足と展開
第８回　政治的責任（１）
第９回　政治的責任（２）
第10回　保守主義（１）
第11回　保守主義（２）
第12回　従来の講義の補足と展開
第13回　自由テーマ（１）
第14回　自由テーマ（２）
第15回　まとめ

ただし、以上の構成は時事やテクスト、学生諸君の関心などの要素を考慮して変更することがある。

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
2. 上記の諸概念などを用いた分析の訓練
3.
いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
4.
一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
5.
発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

成績評価の基準および評価方法

レポートの結果（100%）で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

事前に各回のテキストを熟読してわからない語句・事項を調べ、オリジナルな意見や質問を用意し（＝予習）、授業に備えること。講義後には、講義内容に関連するテーマを自ら設定して調査・学習を交えつつ考察した小論述的なコメントを書き（＝復習を兼ねた課題）、次の講義の際に提出すること。

キーワード

自由主義、現実主義、政治的責任、保守主義

教科書

●教科書　なし。

●参考書　講義の中で適宜紹介する。

参考書

備考

【履修上の注意事項】

政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

【オフィスアワー等】

月曜日12時－13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

電子メールアドレス

政治学 II (Political Science II)

科目コード：01002230
担当教員：本田　逸夫
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:23

授業の概要

（月曜１・２限）

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれらの相互連関について、どちらかといえば国際的な関係や地球大の問題に重点を置いて学ぶ。講義では新聞記事・論文や著書（の抜粋）等の活字資料＝プリントや視聴覚的な教材を活用し、具体的な知識の獲得と理論的思考（「批判的思考」を含む）の訓練を行なう。一方通行的な講義＝筆記ではなく、学生諸君の調査・発表（インターネット等も活用）、これをうけた討論等を特に重視する。政治学は民主主義国の市民あるいは社会人にとって必要な教養を含むが、だからといってそれを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現象は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこでこの講義では、学問としての作法にしたがいながら、政治現象と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学について考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政治学系の講義の基礎編が月曜の政治学Ⅰ及びⅡである。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

第１回　本講義の内容と方式の説明
第２回　批判的思考について
第３回　談合・独占と競争（１）
第４回　談合・独占と競争（２）
第５回　天下りと天上り
第６回　補足と展開
第７回　開発と補助金政治
第８回　開発と地方地方自治
第９回　「特別会計」
第10回　労働と政治
第11回　軍事化と平和研究
第12回　日常性と政治
第13回　補足と展開
第14回　試験
第15回　まとめ

ただし、以上の構成は時事やテクストなどの要素を考慮して変更することがある。

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
2. 上記の諸概念などを用いた分析の訓練
3.
いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
4.
一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
5.
発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

成績評価の基準および評価方法

期末試験（60%）および小テストの結果（40%）で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

※本講義では、事前の課題に基づく予習が前提であり、予習とそれに基づく事項の理解を確認する小テストをしばしば実施する。

事前に各回のテキストを熟読してわからない語句・事項を調べ、オリジナルな意見や質問を用意し（＝予習）、授業に備えること。

講義後には、講義内容に関連するテーマを自ら設定して調査・学習を交えつつ考察した小論述的なコメントを書き（＝復習を兼ねた課題）、次の講義の際に提出すること。

キーワード

政治的社会化、地方自治、国際政治、軍事化、開発独裁、多文化主義

教科書

●教科書　なし。

●参考書　講義の中で適宜紹介する。

参考書

備考

【履修上の注意事項】

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

【オフィスアワー等】

月曜日12時－13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

電子メールアドレス

政治学Ⅱ (Political Science Ⅱ)

科目コード：01002230
担当教員：本田　逸夫
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:23

授業の概要

（月曜１・２限）

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれらの相互連関について、どちらかといえば国際的な関係や地球大の問題に重点を置いて学ぶ。講義では新聞記事・論文や著書（の抜粋）等の活字資料＝プリントや視聴覚的な教材を活用し、具体的な知識の獲得と理論的思考（「批判的思考」を含む）の訓練を行なう。一方通行的な講義＝筆記ではなく、学生諸君の調査・発表（インターネット等も活用）、これをうけた討論等を特に重視する。政治学は民主主義国の市民あるいは社会人にとって必要な教養を含むが、だからといってそれを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現象は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこでこの講義では、学問としての作法にしたがいながら、政治現象と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学について考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政治学系の講義の基礎編が月曜の政治学Ⅰ及びⅡである。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

第１回　本講義の内容と方式の説明
第２回　批判的思考について
第３回　談合・独占と競争（１）
第４回　談合・独占と競争（２）
第５回　天下りと天上り
第６回　補足と展開
第７回　開発と補助金政治
第８回　開発と地方地方自治
第９回　「特別会計」
第10回　労働と政治
第11回　軍事化と平和研究
第12回　日常性と政治
第13回　補足と展開
第14回　試験
第15回　まとめ

ただし、以上の構成は時事やテクストなどの要素を考慮して変更することがある。

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
2. 上記の諸概念などを用いた分析の訓練
3.
いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
4.
一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
5.
発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

成績評価の基準および評価方法

期末試験（60%）および小テストの結果（40%）で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

※本講義では、事前の課題に基づく予習が前提であり、予習とそれに基づく事項の理解を確認する小テストをしばしば実施する。

事前に各回のテキストを熟読してわからない語句・事項を調べ、オリジナルな意見や質問を用意し（＝予習）、授業に備えること。

講義後には、講義内容に関連するテーマを自ら設定して調査・学習を交えつつ考察した小論述的なコメントを書き（＝復習を兼ねた課題）、次の講義の際に提出すること。

キーワード

政治的社会化、地方自治、国際政治、軍事化、開発独裁、多文化主義

教科書

●教科書　なし。

●参考書　講義の中で適宜紹介する。

参考書

備考

【履修上の注意事項】
上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

【オフィスアワー等】
月曜日12時－13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

電子メールアドレス

政治学Ⅱ (Political Science Ⅱ)

科目コード：01002230
担当教員：本田　逸夫
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース, 電気工学コース, 電子工学コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2, 3年
開講学期：後期,　クラス：03,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:23

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

日本政治論Ⅰ (Japanese Politics, Past and Present Ⅰ)

科目コード：01002235
担当教員：本田　逸夫
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース, 電気工学コース, 電子工学コース,　,　,
単位区分：選,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2, 3, 4年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 3限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:01

授業の概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本（の抜粋）や資料などを精読して学問的に（ジャーナリスティックに、ではなく）学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国（史）的な視野におちいらないためには、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は、会読をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。

上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

第１回　イントロダクション
第２回　人間性と政治（権力分立の問題など）
第３回　自由・人権観
第４回　戦後社会と管理化（１）
第５回　戦後社会と管理化（２）
第６回　戦後社会と管理化（３）
第７回　東北アジアと日本（１）
第８回　東北アジアと日本（２）
第９回　東北アジアと日本（３）
第10回　補足と展開
第11回　琉球・沖縄と日本（１）
第12回　琉球・沖縄と日本（２）
第13回　宗教と政治（１）
第14回　宗教と政治（２）
第15回　戦争・戦後責任論

ただし、学生諸君の関心やテクストなどの要因にしたがって、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
2. 上記の諸概念などを用いた分析の訓練
3.
いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
4.
一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
5.
発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

成績評価の基準および評価方法

報告と討論（80%）・レポート（20%）で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

比較政治（制度）論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義。

教科書

●教科書

プリントを配布する他、相談して決定（複数）。

●参考書　　講義の中で適宜紹介する。

参考書

備考

【履修上の注意事項】
本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論――独断や印象批評の応酬ではなく――を活発に行なうことなどが、求められる。　元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きした現代的で知的な関心と着実な学力（知識、読解・思考、表現等）の両方が期待される。ただし、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習（自ら補習）することが必要である。プリントを含むテクストを講義の前に読み、討論に備えてくるべきことは、いうまでもない。

【オフィスアワー等】
月曜日12時－13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

電子メールアドレス

日本政治論 II (Japanese Politics, Past and Present II)

科目コード：01002236
担当教員：本田　逸夫
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース, 電気工学コース, 電子工学コース,　,　,
単位区分：選,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2, 3, 4年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 3限,　講義室：(総合教育棟北)C-3A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:23

授業の概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本（の抜粋）や資料などを精読して学問的に（ジャーナリスティックに、ではなく）学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国（史）的な視野におちいらないように、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は、会読をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。　上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

第１回　イントロダクション
第２回　自由主義論（１）
第３回　自由主義論（２）
第４回　諸文明と「国際化」（１）
第５回　諸文明と「国際化」（２）
第６回　諸文明と「国際化」（３）
第７回　市民社会論（１）
第８回　市民社会論（２）
第９回　市民社会論（３）
第10回　補足と展開
第11回　厚生行政をめぐる政治（１）
第12回　厚生行政をめぐる政治（２）
第13回　政治的リアリズム
第14回　戦後政治をめぐって
第15回　補足とまとめ

ただし、学生諸君の関心やテクストなどの要因に従って、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
2. 上記の諸概念などを用いた分析の訓練
3.
いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
4.
一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
5.
発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

成績評価の基準および評価方法

報告と討論（80%）・レポート（20%）で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

比較政治（制度）論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義。

教科書

●教科書

プリントを配布する他、相談して決定（複数）。

●参考書

講義の中で適宜紹介する。

参考書

備考

【履修上の注意事項】
本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論――独断や印象批評の応酬ではなく――を活発に行なうことなどが、求められる。元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きした現代的で知的な関心と着実な学力（知識、読解・思考、表現等）の両方が期待される。ただし、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な学習意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習（自ら補習）することが必要である。プリントを含むテクストを講義の前に読み、討論に備えてくるべきことは、いうまでもない。

【オフィスアワー等】
月曜日12時－13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

電子メールアドレス

地域研究Ⅰ (Regional Studies Ⅰ)

科目コード：01002370
担当教員：成末　繁郎
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(教育研究3号棟)3-1A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:01

授業の概要

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

具体的な地域として取り上げるのは主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々であるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れる。またタイ国をはじめとして世界各地の均一化とローカル化との鬩ぎあいを具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。今期はともすれば単なる「迷信」とか「イカサマ」と切り捨てられることの多い宗教や呪術に焦点を当てて、現地の人々が知覚しているそれらの現象のリアリティをどのように理解するかを考える。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

第１回　「文化」という概念の定義
第２回　文化相対主義の問題点
第３回　象徴人類学から見た文化の概念
第４回　グローバル化を考える１　Hip-Hopの感染力その１
第５回　宗教　パート1　欧米の宗教研究の歴史的検討
第６回
宗教　パート2　19世紀以降の欧米の宗教研究の歴史の批判的検討
第７回
宗教　パート3　機能主義の台頭とフィールドワークの始まり
第８回　グローバル化を考える２　アイドルの普遍性その１
第９回
宗教　パート4　エスノセントリズムからの脱却と相対主義的な解釈の確立
第10回
宗教　パート5　呪術解釈における欧米の研究の問題点01
第11回　宗教
パート6　呪術解釈における欧米の研究の問題点02
第12回　グローバル化を考える３　ロックの浸透力その１
第13回　呪術の効果をめぐって01
第14回　呪術の効果をめぐって02
第15回
呪術研究の新しい方向性　事物と概念の境界を越える試み

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
相対主義的に考えるというdispositionを身につけること。
2.
世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

成績評価の基準および評価方法

期末試験（95％）及びレポート（５％）で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

動画サイト等で講義で取り上げる民族の実際の映像や画像を見ると講義の内容を立体的に理解するのに役立つ。

キーワード

文化相対主義、シンボル論、社会構造、出自理論と縁組理論、構造主義、妖術、アフォーダンス

教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

参考書

１）Roy Wagner 1978 Lethal Speech. Cornell University Press. ISBN: 0801411939

２）Martin Holbraad 2011 Can the Thing Speak? Open Anthropology Cooperative Press.

3）Tim Ingold　2010　Bringing Things to Life: Creative Entanglements in a World of Materials　University of Aberdeen.

備考

【履修上の注意事項】
地域研究は学際的な学問分野なので哲学・歴史学・社会学・経済学の講義を履修しておくことが望ましい。

【オフィスアワー等】
講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

電子メールアドレス

地域研究Ⅰ (Regional Studies Ⅰ)

科目コード：01002370
担当教員：成末　繁郎
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース, 電気工学コース, 電子工学コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2, 3年
開講学期：前期,　クラス：02,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-3C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:01

授業の概要

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

具体的な地域として取り上げるのは主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々であるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れる。またタイ国をはじめとして世界各地の均一化とローカル化との鬩ぎあいを具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。今期はともすれば単なる「迷信」とか「イカサマ」と切り捨てられることの多い宗教や呪術に焦点を当てて、現地の人々が知覚しているそれらの現象のリアリティをどのように理解するかを考える。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

第１回　「文化」という概念の定義
第２回　文化相対主義の問題点

第３回 象徴人類学から見た文化の概念
第４回 グローバル化を考える１　Hip-Hopの感染力その１
第５回 宗教　パート１　欧米の宗教研究の歴史的検討
第６回
宗教　パート２　19世紀以降の欧米の宗教研究の歴史の批判的検討
第７回
宗教　パート３　機能主義の台頭とフィールドワークの始まり
第８回 グローバル化を考える２　アイドルの普遍性その１
第９回
宗教　パート４　エスノセントリズムからの脱却と相対主義的な解釈の確立
第10回
宗教　パート５　呪術解釈における欧米の研究の問題点01
第11回 宗教
パート６　呪術解釈における欧米の研究の問題点02
第12回 グローバル化を考える３　ロックの浸透力その１
第13回 呪術の効果をめぐって01
第14回 呪術の効果をめぐって02
第15回
呪術研究の新しい方向性　事物と概念の境界を越える試み

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
相対主義的に考えるというdispositionを身につけること。
2.
世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

成績評価の基準および評価方法

期末試験（95％）及びレポート（５％）で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

動画サイト等で講義で取り上げる民族の実際の映像や画像を見ると講義の内容を立体的に理解するのに役立つ。

キーワード

文化相対主義、シンボル論、社会構造、出自理論と縁組理論、構造主義、妖術、アフォーダンス

教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

参考書

１）Roy Wagner 1978 Lethal Speech. Cornell University Press. ISBN: 0801411939

２）Martin Holbraad 2011 Can the Thing Speak? Open Anthropology Cooperative Press.

３）Tim Ingold　2010　Bringing Things to Life: Creative Entanglements in a World of Materials　University of Aberdeen.

備考

【履修上の注意事項】
地域研究は学際的な学問分野なので哲学・歴史学・社会学・経済学の講義を履修しておくことが望ましい。

【オフィスアワー等】
講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

電子メールアドレス

地域研究Ⅱ (Regional Studies Ⅱ)

科目コード：01002380
担当教員：近藤　直也
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(コラボ教育支援棟)Co-1A
更新日：2017/06/12 07:03:24

授業の概要

ケガレ論と「女性排除」論について考察する。従来の「ケガレ＝不浄」という視点の大きな落とし穴を指摘し、ケガレが人間生活の上で欠く事のできない重大な項目であることを再確認する。今までの研究史を総括的に回顧し、各研究者たちの長所・短所をじっくりと見極める。さらに、「女人禁制」思想にも言及し、なぜこれが日本文化の中に根強く残ってきたのか、その根源に迫る。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

教養教育科目の人文社会科目であり、受講にあたっては他の科目の履修を前提としない。

授業項目

1
婚姻を中心とした通過儀礼を媒介とする山・里・海の世界観
2 祝儀火忌避の民俗
3 女人禁制と山の神
4 山の論理と里の論理
5 異界と花嫁
6 花嫁の傘
7 ケガレとしての婚礼の火と山の神
8 婚礼の火と禁忌
9 山の「山の神」と里の「山の神」
10 対立概念としてのハレとケの再評価
11 ハレの視点に立ったケガレ論
12 ケの視点に立ったケガレ論
13 研究者のケガレ論
14 総括
15 期末試験
16 期末試験と解答の解説

授業の進め方

表記の各項目について具体事例をできるだけ多く取り上げつつ解説していく。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

この授業は、「多様な社会、さまざまな文化や価値観に関して広く学び、文化や社会や健康に関する幅広い、かつ多面的、多層的知識を獲得する」ことを目標とした授業の一つである。
具体的には、以下の項目を目標とする。
1.
従来のハレ中心的物の見方だけでなく、ケの方向から見たとき、ケガレが決して不浄ではなく、ケへの価値付けであるという基礎的な知識を修得する。
2.
花嫁を取り巻く諸儀礼が実家の娘から婚家の嫁へ変身するための極めて高度な文化的装置であったことを十分に理解する。
3.
花嫁がなぜ白無垢の着物を着なければならなかったか、その必然性を理解する。
4.
自分に人生の中で、一旦死に、再び生まれ変わる必然性があることを理解し、積極的に自発的に人生を生きられるようにする。

成績評価の基準および評価方法

期末に授業の理解度を確認するためのレポート試験を行う。レポート試験（８０％）・討論への参加意欲（２０％）で評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

毎回講義終了時に次回の予告をするので、その範囲は必ず読んで予習しておくこと。

キーワード

マタギ、女人禁制、山の神

教科書

近藤直也 著 『ケガレとしての花嫁』(鉱脈社)

参考書

近藤直也著『ハライとケガレの構造』(創元社)

備考

電子メールアドレス

地域研究Ⅱ (Regional Studies Ⅱ)

科目コード：01002380
担当教員：近藤　直也
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(コラボ教育支援棟)Co-1A
更新日：2017/06/12 07:03:23

授業の概要

ケガレ論と「女性排除」論について考察する。従来の「ケガレ＝不浄」という視点の大きな落とし穴を指摘し、ケガレが人間生活の上で欠く事のできない重大な項目であることを再確認する。今までの研究史を総括的に回顧し、各研究者たちの長所・短所をじっくりと見極める。さらに、「女人禁制」思想にも言及し、なぜこれが日本文化の中に根強く残ってきたのか、その根源に迫る。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

教養教育科目の人文社会科目であり、受講にあたっては他の科目の履修を前提としない。

授業項目

1
婚姻を中心とした通過儀礼を媒介とする山・里・海の世界観
2 祝儀火忌避の民俗
3 女人禁制と山の神
4 山の論理と里の論理
5 異界と花嫁
6 花嫁の傘
7 ケガレとしての婚礼の火と山の神
8 婚礼の火と禁忌
9 山の「山の神」と里の「山の神」
10 対立概念としてのハレとケの再評価
11 ハレの視点に立ったケガレ論
12 ケの視点に立ったケガレ論
13 研究者のケガレ論
14 総括
15 期末試験
16 期末試験と解答の解説

授業の進め方

表記の各項目について具体事例をできるだけ多く取り上げつつ解説していく。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

この授業は、「多様な社会、さまざまな文化や価値観に関して広く学び、文化や社会や健康に関する幅広い、かつ多面的、多層的知識を獲得する」ことを目標とした授業の一つである。
具体的には、以下の項目を目標とする。
1.
従来のハレ中心的物の見方だけでなく、ケの方向から見たとき、ケガレが決して不浄ではなく、ケへの価値付けであるという基礎的な知識を修得する。
2.
花嫁を取り巻く諸儀礼が実家の娘から婚家の嫁へ変身するための極めて高度な文化的装置であったことを十分に理解する。
3.
花嫁がなぜ白無垢の着物を着なければならなかったか、その必然性を理解する。
4.
自分に人生の中で、一旦死に、再び生まれ変わる必然性があることを理解し、積極的に自発的に人生を生きられるようにする。

成績評価の基準および評価方法

期末に授業の理解度を確認するためのレポート試験を行う。レポート試験（８０％）・討論への参加意欲（２０％）で評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

毎回講義終了時に次回の予告をするので、その範囲は必ず読んで予習しておくこと。

キーワード

マタギ、女人禁制、山の神

教科書

近藤直也 著 『ケガレとしての花嫁』(鉱脈社)

参考書

近藤直也著『ハライとケガレの構造』(創元社)

備考

電子メールアドレス

リレーセミナー (Relay Seminar)

科目コード：01002505
担当教員：水井　万里子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース, 電気工学コース, 電子工学コース,　,　,
単位区分：選,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2, 3, 4年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：水曜 5限,
講義室：(戸畑インタラクティブ学習棟)戸畑MILAIS
更新日：2017/06/12 07:03:01

授業の概要

●授業の背景

工業化・グローバル化が進んだ現代で、技術しゃと社会の関わりを考えていくことは、今後技術者としてのキャリアを築く上で大変重要である。

●授業の目的

本授業では、履修学生のキャリアと深いかかわりを持つ３つの課題、国際貢献、福祉と工学、企業と社会的責任、の学習を通して、技術者と社会貢献について理解を深める。グローバル化、高齢化が進み、技術者が所属する企業に対する社会の要請と責任に大きな注目が集まる現状を背景に、社会から求められる技術者の姿を事例学習し、将来のキャリアと結びつけながらグループ・ディスカッションを実施する。

それぞれのグループで多様な意見を出し合い、合意の形成を行い、これを発表することによって、各履修者が課題解決に導けるような能力を身につけることが目的である。

●授業の位置づけ

特定のテーマについて様々な視点から考察する講義であり、複数の教員がそれぞれの専門領域を活かして講義・演習を進め幅広く学習するオムニバス形式である。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

副専攻上級科目に含まれる。

授業項目

１回　オリエンテーション
２回　国際貢献と技術者①（水井・大田）
３回　国際貢献と技術者②（水井・大田）
４回　国際貢献と技術者③（水井・大田）
５回　国際貢献と技術者④（水井・大田）
６回　福祉工学とユニバーサルデザイン①（小幡）
７回　福祉工学とユニバーサルデザイン②（小幡）
８回　福祉工学とユニバーサルデザイン③（小幡）
９回　福祉工学とユニバーサルデザイン④（小幡）
10回　企業の社会的責任①（小江）
11回　企業の社会的責任②（小江）
12回　企業の社会的責任③（小江）
13回　企業の社会的責任④（小江）
14回　総合ディスカッション（水井）
15回　まとめ

授業の進め方

少人数を前提とした演習形式の授業であるため、受講制限を行うことがある。　詳細の方法と注意事項については、第1回目の授業で説明する。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

本授業ではキャリア観形成と多様な文化理解を目標として以下の達成目標を置く。
1. 資料を正しく理解する。
2. 自分の考えを持ち、積極的に意見を述べることができる。
3. 論旨明瞭なレポートを作成することができる。

成績評価の基準および評価方法

演習・ディスカッションへの貢献度、レポートで評価する。評価は基本的にコーディネーターが行う。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回に記載されているキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

キーワード

社会貢献、技術者、グローバル化、福祉、企業、社会責任、ＣＳＲ、キャリア学習

教科書

教科書は使用しない。

参考書

授業中適宜紹介する。

備考

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスまで。
学期中のオフィスアワーは月曜日12時30分から13時30分まで（Ｃ－３０５）

電子メールアドレス

mizui@dhs.kyutech.ac.jp

選択日本事情A (Elective Japanese Culture and Society A)

科目コード：01002741
担当教員：上野　まり子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:01

授業の概要

●授業の目的

留学生と共に日本の社会や文化等に関する知見を広め、考えを深める。留学生の出身国の事情も知り、異なる文化を理解する視点を養う。異なる背景を持つ人と意見を出し合って協働するための行動力を身につける。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

学生自身が興味のある話題を取り上げ、皆で討議する問題を提起する。討議のための資料を作成し、皆に討議資料を説明する。グループで意見を出し合い、発表する。自分の意見をまとめ、振り返る。
第１回　　アイスブレーキング
第２～４回　　文化と生活
第５～７回　　教育と社会
第８～９回　　大学生活
第10～11回　　社会の課題
第12～14回　　日本社会再考
第15回　　試験

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 相手の理解を確かめながら話す。
2. 背景の異なる相手に積極的に自己開示する力を持つ。
3. 異なる文化、社会について理解する視点を持つ。
4. 日本の社会や文化について考えを深める。
5. グループで協働して調査、発表する姿勢を獲得する。

成績評価の基準および評価方法

発題と資料作成（20%）、毎回のノート（30%）、試験（20%）、討論への参加度（30%）で評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

テーマについて事前の課題を考えて授業に臨む。

キーワード

「日本社会」「文化」「討論」「異文化理解」

教科書

●教科書　特に指定しない

参考書

備考

【履修上の注意事項】
グループ学習形式で行う。積極的に自己を振り返り、意見を出すこと、他人の考えを深く知る姿勢を持つこと。

【オフィスアワー等】
月曜日３限

電子メールアドレス

選択日本事情Ｂ (Elective Japanese Culture and Society B)

科目コード：01002742
担当教員：アプドゥハン　恭子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：選,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 2限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:24

授業の概要

最近のニュースの話題について留学生と共に討議する。留学生の出身国の事情も知り、日本社会や文化について様々な視点から考察する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

第1回 アイスブレーキング
第2～11回 問題提起と討議、グループ発表
第12～14回 グループでポスター作成
第15回 ポスター発表

授業の進め方

１．最近のニュースから、学生自身が興味ある話題を取り上げ、皆で討議する問題を提起する。討議のための資料を作成し、
皆に討議資料を説明する。グループで意見を出し合い、その内容を発表する。自分の意見をまとめ、振り返る。
２．グループで興味のある課題を掘り下げて、ポスターを作って、発表する。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 相手の理解を確かめながら話すことができる
2. 背景の異なる相手に積極的に自己開示することができる
3. 異なる文化や価値観を客観的に分析することができる
4.
グループで協働して討議を深め、意見をまとめる姿勢を獲得する

成績評価の基準および評価方法

授業への参加度（40%）、毎回のノート（20%）、問題提起・ポスター（40%）

授業外学習（予習・復習）の指示

ニュースに関心を持ち、日本や世界の最新の動向を確認しておくこと。

キーワード

日本社会、ニュース、グループ討議、異文化理解、ポスター発表

教科書

特になし

参考書

備考

オフィスアワー：木曜３、４限　総合教育棟C－303号室

電子メールアドレス

日本事情C (Japanese Study C)

科目コード：01002770
担当教員：上野　まり子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：査定外, 選,　単位数：0, 0.0, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:01

授業の概要

日本人学生と共に、日本及び他の留学生の出身地の地理・歴史・政治・経済などに関する知見を広め、考えを深める。留学生が日本と関わる際に知っておくべき、日本の地理・歴史・政治・経済などに関する知識を習得する。自分の出身地と他地域の同異を分析し、その背景を考察する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

留学生と日本人学生が協同して学習を進める。日本及び母国の地理・歴史・政治・経済などに関する基本的な事項について日本語で紹介する。また、他の参加者の意見にも耳を傾け、話し合いに参加する姿勢を育てる。

授業項目

第１回　データでみる日本
第２回　日本の地理・気候
第３回　憲法
第４回　政治制度
第５回　選挙と世論
第６回　戦後経済史
第７回　消費者をめぐる問題
第８回　労働問題と社会保障
第９回　宗教
第10回　日本の歴史（１）
第11回　日本の歴史（２）
第12回　現代日本社会の諸問題
第13回　福岡県の地理と歴史
第14回
日本の地理・歴史・政治・経済についてのまとめ作成
第15回　総まとめ討論会

授業の進め方

留学生は自国について、日本人学生は日本について輪番で発表を行い、基本的な事項の確認とともに時事問題にも目を向ける。発表終了後はクラス全体で討論をし、その結果を振り返りシートにまとめる。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

これから社会人として日本という国と関わりを持っていく上で必要な「常識」とされる知識を身につける。
1. 相手の理解を確かめながら話す。
2. 背景の異なる相手に積極的に自己開示する力を持つ。
3. 異なる文化や社会を客観的に分析する力を持つ。
4. 日本の社会についての考えを深める。

成績評価の基準および評価方法

レポート（30%）、発表（30%）、振り返りシート（20%）、授業への参加度（20%）で評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

新聞やテレビなどで日本や世界の最新の動向を確認しておくこと

キーワード

「日本史」「日本地理」「政治・経済」「異文化理解」「討論」

教科書

特に指定しない

参考書

図書館３階の日本語学習書コーナーに参考となる本があるので、自分に合う本を探して学習すること。

備考

電子メールアドレス

mari_426_yuzu@yahoo.co.jp

日本事情Ｄ (Japanese Study Ｄ)

科目コード：01002780
担当教員：石川　朋子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：査定外, 選,　単位数：0, 0.0, 2.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:24

授業の概要

日本社会におけるコミュニケーションで、人間関係を調節するためにどのような表現が使われているかを、さまざまな例（会話、手紙文など）を通して観察・考察する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

ある状況で、どんな表現が選択されるかは、文化によって違いがある。日本語において適切とされる表現の観察を通じて、日本文化・日本社会に対する理解を促進する。

授業項目

第１回　　人間関係を調節する表現についての概論
第２－４回　さまざまな表現と使い方
第５－７回　頼むとき・頼まれたとき
第８－10回　苦情を言うとき・言われたとき
第11回　　意見を述べる
第12回　　感謝・謝罪
第13回　　ほめる・ほめられる
第14回　　母国文化についてのまとめ作成
第15回　　総まとめ発表会

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
丁寧な表現とくだけた表現がどのように使い分けられるかを理解する。
2.
「たのむ」「ことわる」「苦情をいう」などといった、人間関係を悪くするかもしれない場面で用いられる表現について知るとともに、その背景にある日本文化についての理解を深める。

成績評価の基準および評価方法

授業の途中で課す小レポート（70%）と授業への参加度（30%）で評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。

キーワード

「日本社会」「人間関係」「待遇表現」

教科書

特に指定しない

参考書

備考

【履修上の注意事項】
図書館３階の日本語学習書コーナーに参考となる本があるので、自分に合う本を探して学習すること。

【オフィスアワー等】
アプドゥハン教員を通して質問すること。

電子メールアドレス

日本語ＣＩ (Japanese ＣＩ)

科目コード：01006130
担当教員：アプドゥハン　恭子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：査定外, 選,　単位数：0, 0.0, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：木曜 5限,
講義室：(戸畑インタラクティブ学習棟)戸畑MILAIS
更新日：2017/06/12 07:03:01

授業の概要

●授業の目的

様々な話題に応じた語彙や表現を学び、自分に興味のあることを詳しく説明できる力を育てる。

●授業の位置付け

会話やスピーチなど、中上級話者の話す能力を養う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

第１回　インタビューと他者紹介
第２回　前回のフィードバック：話し方を考える
第３回　きっかけを語る
第４回　方法説明のスピーチ
第５回　失くした体験
第６回　図の分析
第７回　性格を分析する
第８回　うごきの説明
第９回　健康・ストレス解消法
第10回　物語の説明（１）
第11回　物語の説明（２）
第12回　ゲームの説明
第13回　最近の出来事
第14回　将来の夢
第15回　日本の文化に慣れるとは

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 詳しい説明や描写ができる。
2. 聞き手の興味や理解を確かめながら話せる。
3. 共に話を展開させる聞き方を身につける。
4. メモをもとにスピーチができる。

成績評価の基準および評価方法

授業への参加度（30%）、授業内での発表（30%）、説明方法のスピーチ（40%）で評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

毎回小課題を出すので、それを元に復習をすること。

キーワード

「会話」「スピーチ」「説明」「興味をもってもらう」

教科書

●教科書

１）荻原稚佳子他：日本語上級話者への道（スリーエーネットワーク）810.7/O-22

参考書

備考

【履修上の注意事項】
毎回の授業で得た手がかりを基に、共に会話を深めることができる話し手、聞き手となるよう心がけること。自分の話し方を内省し、課題を克服する努力をすること。

【オフィスアワー等】
木曜日４限

電子メールアドレス

日本語Ｃ Ⅱ (Japanese Ｃ Ⅱ)

科目コード：01006140
担当教員：アプドゥハン　恭子
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース,　,　,
単位区分：査定外, 選,　単位数：0, 0.0, 1.0,　対象学年：2年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：木曜 5限,
講義室：(戸畑インタラクティブ学習棟)戸畑MILAIS
更新日：2017/06/12 07:03:24

授業の概要

●授業の目的

各自の日本語能力を総合的に評価して、不十分な点を自覚し、それをどのようにして獲得していったらよいか、自分なりの学習方法を確立することを目的とする。

●授業の位置付け

日本語学習のまとめとして自律的に学習する態度を確立する。具体的には、日本語能力試験Ｎ１の問題を客観的な指標の一つとして参考にしながら、自分の日本語能力を測る。小レポートを書いて、それを推敲してプレゼンテーションに発展させる。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

第１回　イントロダクション：自己評価とは
第２回　自分の力を知る：語彙の広さ、量
第３回　前回のフィードバック、練習
第４回　自分の力を知る：文法的な正確さ
第５回
前回のフィードバック、文法の正確さのための練習
第６回
自分の力を知る：主旨や発話者の意図を理解する力
第７回　前回のフィードバック、練習
第８回　自分の力を知る：論理的に話を組み立てる力
第９回　前回のフィードバック、練習
第10回　自分の力を知る：表現力・説得力
第11回　前回のフィードバック、練習
第12回　プレゼンテーションに向けて（１）構成
第13回　プレゼンテーションに向けて（２）説得力
第14回　プレゼンテーションに向けて（３）練習
第15回　プレゼンテーション

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 自分の日本語能力を客観的に評価できる。
2. 不十分な技能を磨くための学習方法を知る。
3. 自律的に日本語を学ぶ態度を身に付ける。
4. 説得力のあるプレゼンテーションができる。

成績評価の基準および評価方法

授業への参加度・課題（50%）、プレゼンテーション（50%）で評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

毎回の課題をきちんと提出し、復習を主に心がけること。

キーワード

「自己評価」「自律的学習」「日本語能力試験Ｎ１」

教科書

特になし

参考書

備考

【履修上の注意事項】

【オフィスアワー等】
木曜日４限

電子メールアドレス

健康スポーツ科学論 (Exercise Prescription)

科目コード：01007295
担当教員：小幡　博基
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
共通コース, 電気工学コース, 電子工学コース,　,　,
単位区分：選,　単位数：2, 2.0,　対象学年：2, 3, 4年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：水曜 5限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:24

授業の概要

●背景

「生活習慣病」（これまでの“いわゆる「成人病」”）の危険因子として、肥満、高血糖、高血圧、精神的ストレスなどが指摘されている。これらの危険因子は運動実践によって十分に軽減される事が、広く認識されている。そこで健康増進のため体力水準に応じた運動実践が必要である。

●目的

「生活習慣病」のこれらの危険因子は、運動実践によって十分に軽減される。そこで健康増進のため体力水準に応じた運動実践が必要であり、それらに関する生理学的基本的事項について理解を深める。さらに、ヒトの生理的機能や身体運動に対する科学的思考能力の育成を目指すと共に「運動処方」の基本計画の策定基礎の確立を目指す。

●位置付け

毎回、ヒトの生理機能や身体運動に関する教授学習を行なう。

通常、教室における講議形式をとる。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

1 オリエンテーション（授業概要、評価方法の説明）
2
現代社会の健康問題（１）～疾病構造、平均寿命、健康寿命～
3 現代社会の健康問題（２）～肥満～
4 現代社会の健康問題（３）～生活習慣病発症～
5 運動・スポーツに関する生理学的基礎（総論）
6 ａ．身体運動のエネルギー
7 ｂ．運動器
8 ｃ．体温調節
9 ｄ．栄養と休養
10
運動処方の実際（総論）運動処方野や療法、身体トレーニングの概念
11
メディカルチェック（運動実施のための健康診断）、性、年齢、活動水準に応じた運動処方
12 スポーツ障害の予防に関する諸問題
13 生涯スポーツ

授業の進め方

基本的には講義形式で進めるが、各テーマについて学習したことを発表する機会を設ける。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 今日的な健康概念の理解
2.
ヒトの生理機能の基礎および運動の仕組みに関する基本的知識の習得
3. 運動処方や身体のトレーニング計画の立案・実施

成績評価の基準および評価方法

出席状況、発表・ディスカッションへの貢献度、期末レポートで評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回に記載されているキーワードについて、事前に調べ、理解に勤めること。

キーワード

ヒトの生理機能、身体のトレーニング、体力＝健康度の向上、生活習慣病

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考書は授業中に適宜紹介する。

備考

【履修上の注意事項】
受講生は年度始めの健康診断を受けて、その結果の大略を把握しておくこと。

【オフィスアワー等】
毎週月曜日の６時限目（16：30－18：00）

電子メールアドレス

obata@dhs.kyutech.ac.jp

職業指導 (Vocational Guidance)

科目コード：01009105
担当教員：永田　萬享
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
電気工学コース, 電子工学コース,　,　,
単位区分：査定外,　単位数：4, 4.0,　対象学年：4年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 5限,金曜 6限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室,(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:24

授業の概要

社会的分業である職業に関する社会科学的認識を持つことと、職業能力を開発する手だてとしての職業教育のあり方を通して、社会のなかでの個人の位　置をつかみ、自立した職業生活を営むことができるようになることを目指す。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業では、①モノを作ることや働くことによって姿を現してくる社会と人間の関係に見られる奥深い真実の世界を、現実の企業社会、労働社会の織りなす具体的なデータに基づいて検討を加える。②さらに、高校教育後のいわゆる中等後段階における技術・職業教育の有り様を、職業教育・訓練の公共化の観点から現状分析する。

授業項目

第１回：　職業指導とは？
第２回：　職業指導の社会的基底
第３回：　経済政策と青少年問題
第４回：　労働と職場の現実－大企業
第５回：　労働と職場の現実－中小企業
第６回：　産業社会と職業分布－ブルーカラー労働
第７回：　産業社会と職業分布－ホワイトカラー労働
第８回：　内部形成と外部形成
第９回：　青年の自立と高校職業教育－工業系
第10回：　青年の自立と高校職業教育－商業・ビジネス系
第11回：　各種・専修学校における職業教育－ものづくり系
第12回：
各種・専修学校における職業教育－非ものづくり系
第13回：　公共職業訓練と能力開発－国立系
第14回：　公共職業訓練と能力開発－都道府県立系
第15回：　まとめ
第16回：　職業の様々な側面
第17回：　職業観の変容
第18回：　生きがいと職業
第19回：　社会的分業と職業
第20回：　職業選択の意味
第21回：　職業選択と情報
第22回：　情報化の進展と職場の変化
第23回：　女性の職場進出と労働
第24回：　男女雇用機会均等法の成立と現在
第25回：　各種・専修学校と生涯教育
第26回：　公的職業訓練の動向
第27回：　企業内教育とOJT
第28回：　企業外部の教育機関とOffJT
第29回：　学校教育と職業教育
第30回：　まとめ
第31回：　試験

授業の進め方

講義を中心として進めるが、学外授業として工場見学や各種の職業教育機関、ジョブカフェ、ハローワークなどの視察を計画している。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

現代社会における職業の性格について社会科学的認識を深めることによって、職業情報を正しく理解するための一定の判断力を養成すること。
1.
現代社会における職業の性格について社会科学的認識を深めることによって、職業情報を正しく理解するための一定の判断力を養成することを目指す。
2.
職業的自立のための具体的方策として職業教育のあり方についてもその現状を通して検討する。

成績評価の基準および評価方法

成績評価は授業への参加程度と出席状況（20%）、講義の合間に行う小レポート（30%）、期末試験（50%）によって行う。

授業外学習（予習・復習）の指示

①講義内容の十分な理解を得るために下記の参考文献を各自読むこと。②授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

キーワード

職業指導　キャリア教育　専修学校　公共職業訓練　企業内教育

教科書

教科書は使わないが、適宜資料を配付する。

参考書

①鎌田慧『日本人の仕事』1986年、平凡社　ISBN:：978-4582705027　②木村保茂、永田萬享『転換期の期の人材育成システム』学文社、2005年、ISBN：4762013692
③斎藤貴男『希望の仕事論』岩波新書、2004年　④森岡孝二『就職とは何か』岩波新書、2011年

備考

①教員免許取得希望者（工業）は必ず履修すること。②本授業についての質問や学習相談を受けるため、授業終了後をオフィスアワーとする。なお、授業に関する質問等は下記のメールアドレスで随時受け付ける。

電子メールアドレス

nagata@fukuoka-edu.ac.jp

教育心理学 (Educational Psychology)

科目コード：01009201
担当教員：佐藤　友美
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：査定外,　単位数：2, 2.0,　対象学年：1年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：水曜 5限,　講義室：
更新日：2017/06/12 07:03:01

授業の概要

各発達段階の特徴を踏まえ、学校で行われる様々な教育実践が児童・生徒にどのような影響をおよぼすのかについて学び、グループワークなどを通じて、教育心理学の理論に基づいた実践案を考える。また、教育現場における発達援助の在り方を学ぶ。したがって授業では、教育心理学の知識を習得するだけでなく、その知識を活用して教育方法を考えることになるため、積極的な授業参加が求められる。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識は特に必要ではない。

授業項目

1.0
教育心理学入門：教育者として教育心理学を学ぶことの意義
2.0 発達①　児童期の発達
3.0 発達②　思春期・青年期の発達
4.0 発達③　生涯発達
5.0 学習の基礎①　条件づけによる学習
6.0 学習の基礎②　条件づけと動機づけ：ほめる
7.0 学習の基礎③　原因帰属
8.0 生徒との関わり①　様々な教育方法
9.0 生徒との関わり②　生徒集団の理解
10.0 生徒との関わり③　教育評価の方法
11.0
個性の理解①　生徒の個性を理解する：パーソナリティの諸理論
12.0 個性の理解②　知能と知能指数
13.0 個性の理解③　障害の理解
14.0 総括①　教育方法に関するグループワーク発表
15.0 総括②　教育心理学の系統的理解
16.0 定期試験

授業の進め方

上記の項目にしたがって講義する。講義の内容の理解をより深めるための小レポートやグループワークを課す。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 教育実践に関わる教育心理学の基礎的な知識を習得する。
2.
習得した知識を教育実践や発達援助に活かすことができるよう、生徒や教育を様々な観点から考える力を養う。

成績評価の基準および評価方法

小レポート，グループ発表および期末試験により評価する。小レポートおよびグループ発表40%，期末試験60%の割合で成績を評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

予習を必要とする場合は事前に資料を配布するので授業前に事前に見ておくこと。理解を確認するために小レポート課題を課すので，必ず提出すること。

キーワード

発達，学習，教育

教科書

特になし

参考書

鎌原 雅彦・竹綱 誠一郎『やさしい教育心理学 第4版』（2015）有斐閣アルマ

備考

電子メールアドレス

教育原理 (Principle of Education)

科目コード：01009203
担当教員：東野　充成
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：査定外,　単位数：2, 2.0,　対象学年：1年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-1C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:01

授業の概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育の理念並びに教育に関する歴史および思想」に関して講義を行い、次の点を目標とする。

①教育に関する基礎的な概念を修得するとともに、教育を広く人間全体の営みの中に位置づけ、多角的に考察する視点を獲得する。

②教育や子どもを歴史的、通文化的な視点から相対化し、現代日本の教育のあり方について検証する。

③自らが志向する教育観や子ども観を構築し、表現できるようにすること。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3 つの柱からなる。

①教育には様々な近接する概念が存在する。本授業では、教育にまつわる多様な概念を解説した上で、教育的人間関係や教授法などの変遷に見る教育思潮、教育観などを講義する。

②子どもという存在は決して自明のものではなく、時代や空間が異なれば、子どもに対する考え方や発達のあり方も大きく異なる。本授業では、歴史的、通文化的な子どもや発達の多様性を踏まえたうえで、現代社会における子どもの発達・学習の課題等について講義する。

③学校教育は現在、教育の中心的な場となっているが、その役割や課題とはいかなるものなのか。現代の学校教育を歴史的、国際比較的に相対化し、その課題や役割について講義する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

１回　教育に対する原理的理解の重要性
教育を原理的に理解することとはどういうことか、今後の講義を俯瞰する。

２回　西洋教育思想の流れ
近世から現代まで、西洋における教育思想の系譜を概説する。

３回　日本教育思想の流れ
近世から現代まで、日本における教育思想の系譜を概説する。

４回　西洋における「子ども」の誕生と変遷
産業革命や市民革命を経て、子どもがどのような存在として立ち上がったのか講義する。

５回　日本における「子ども」の誕生と変遷
明治期以降、日本において子どもがどのような存在として立ち上がったのか講義する。

６回　教育的人間関係と教授法の変遷
教授法や教員の役割の変化から、教育思想や教育制度の変遷を概説する。

７回　人間の発達課題と教育の役割
時期と集団という観点から人間の発達課題と教育の役割について講義する。

８回　教育の公共性と私事性
教育のもつ、公共的な性格と私事的な性格、両者の関係性について講義する。

９回　学校教育の国際比較
西洋とアジアの学校教育制度の現状を紹介して、日本と比較する。

10回　日本の学校教育の歴史
主に明治期以降の日本の学校教育制度の展開について概説する。

11回　日本の学校教育の現在と教育改革の動向
日本の学校教育の現状と今後の課題について講義する。

12回　現代の教育問題
いじめ、不登校など、現代社会が抱える教育問題について概説する。

13回　生涯学習社会の到来
学校を超えて生涯学習する社会の重要性と課題について講義する。

14回　社会変動と教育
現代社会の構造的な社会変動と教育の課題について講義する。

15回　試験
上記の内容から、論述式の筆記試験を行う。

16回　解説
試験の解答解説を行う。

授業の進め方

レジュメを基にした講義形式で進める。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
自らの子ども観・教育観や志向する教育制度や教育実践を深める。
2.
多角的な営みとしての教育について、理解を深められるようにする。
3. 思考する教育観を的確に表現できるようにする。

成績評価の基準および評価方法

期末テスト　100%

授業外学習（予習・復習）の指示

①講義内容を十分に理解するため、下記の参考文献のうち少なくともひとつを開講期間中に一読すること。

②開講期間中は、教育に関する最新の動向を摂取するため、新聞等に必ず目を通すこと。

キーワード

子ども観・教育観　生涯発達・生涯学習　教育問題

教科書

●教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。

参考書

柴田義松他『教育原論』学文社371/S-13

田嶋一『やさしい教育原理』371/T-4

備考

【履修上の注意事項】

教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することがのぞましい。

【オフィスアワー等】

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

電子メールアドレス

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育実習 (Teaching Practice)

科目コード：01009208
担当教員：東野　充成
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
電気工学コース, 電子工学コース,　,　,
単位区分：査定外,　単位数：3, 3.0,　対象学年：4年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2F講義室
更新日：2017/06/12 07:03:02

授業の概要

教育実習の事前指導、模擬授業、実習、事後指導を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

教員免許状取得希望者は必修である。工業の免許取得希望者も履修することが望ましい。。

授業項目

1回 事前指導
　実習に際しての心構えなどについて講義する。
2回 模擬授業（1）
　模擬授業をおこない、実践力を身につける。
3回 模擬授業（2）
　模擬授業をおこない、実践力を身につける。
4回 模擬授業（3）
　模擬授業をおこない、実践力を身につける。
5回 模擬授業（4）
　模擬授業をおこない、実践力を身につける。
6回 模擬授業（5）
　模擬授業をおこない、実践力を身につける。
7回 模擬授業（6）
　模擬授業をおこない、実践力を身につける。
8回 模擬授業（7）
　模擬授業をおこない、実践力を身につける。
9回 教育実習（1）
　教育実習を行う。
10回 教育実習（2）
　教育実習を行う。
11回 教育実習（3）
　教育実習を行う。
12回 教育実習（4）
　教育実習を行う。
13回 教育実習（5）
　教育実習を行う。
14回 教育実習（6）
　教育実習を行う。
15回 教育実習（7）
　教育実習を行う。
16回 事後指導
　教育実習を振り返り、反省点や今後の課題を抽出する。

授業の進め方

事前事後指導は講義と討論で、模擬授業後には全員で改善点等について話し合う。

実習期間中は、実習校の先生の指導に服すること。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 模擬授業を通して、教育実践力の基礎を身につける。
2.
教育実習を通して、実際の学校の様子について理解するとともに、教育実践力のさらなる向上を目指す。

成績評価の基準および評価方法

事前事後指導・模擬授業の様子　50%
実習校からの評価　50%

授業外学習（予習・復習）の指示

日頃より指導する教科の教材や問題集等に目を通し、授業で利用できるものなどを収集し、教材を作成すること。
教案を丁寧に作成し、1時間の授業を滞りなく進められるよう、十分に準備すること。

キーワード

事前事後指導　模擬授業　観察実習　指導実習　研究授業

教科書

用いない。

参考書

それぞれの教科の高等学校学習指導要領

備考

【履修上の注意事項】
3年次に実習申込みの手続きを行っていない者は履修できない。
実習先の確保は基本的に各自で行うこと。

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育実習 (Teaching Practice)

科目コード：01009208
担当教員：東野　充成
学部・学科：宇宙工学コース, 機械工学コース,
知能制御工学コース, 建築学コース, 都市環境デザインコース,
電気工学コース, 電子工学コース,　,　,
単位区分：査定外,　単位数：3, 3.0,　対象学年：4年
開講学期：前期,　クラス：02,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2F講義室
更新日：2017/06/12 07:03:02

授業の概要

教育実習の事前指導、模擬授業、実習、事後指導を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

教員免許状取得希望者は必修である。工業の免許取得希望者も履修することが望ましい。。

授業項目

1回 事前指導
　実習に際しての心構えなどについて講義する。
2回 模擬授業（1）
　模擬授業をおこない、実践力を身につける。
3回 模擬授業（2）
　模擬授業をおこない、実践力を身につける。
4回 模擬授業（3）
　模擬授業をおこない、実践力を身につける。
5回 模擬授業（4）
　模擬授業をおこない、実践力を身につける。
6回 模擬授業（5）
　模擬授業をおこない、実践力を身につける。
7回 模擬授業（6）
　模擬授業をおこない、実践力を身につける。
8回 模擬授業（7）
　模擬授業をおこない、実践力を身につける。
9回 教育実習（1）
　教育実習を行う。
10回 教育実習（2）
　教育実習を行う。
11回 教育実習（3）
　教育実習を行う。
12回 教育実習（4）
　教育実習を行う。
13回 教育実習（5）
　教育実習を行う。
14回 教育実習（6）
　教育実習を行う。
15回 教育実習（7）
　教育実習を行う。
16回 事後指導
　教育実習を振り返り、反省点や今後の課題を抽出する。

授業の進め方

事前事後指導は講義と討論で、模擬授業後には全員で改善点等について話し合う。

実習期間中は、実習校の先生の指導に服すること。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 模擬授業を通して、教育実践力の基礎を身につける。
2.
教育実習を通して、実際の学校の様子について理解するとともに、教育実践力のさらなる向上を目指す。

成績評価の基準および評価方法

事前事後指導・模擬授業の様子　50%
実習校からの評価　50%

授業外学習（予習・復習）の指示

日頃より指導する教科の教材や問題集等に目を通し、授業で利用できるものなどを収集し、教材を作成すること。
教案を丁寧に作成し、1時間の授業を滞りなく進められるよう、十分に準備すること。

キーワード

事前事後指導　模擬授業　観察実習　指導実習　研究授業

教科書

用いない。

参考書

それぞれの教科の高等学校学習指導要領

備考

【履修上の注意事項】
3年次に実習申込みの手続きを行っていない者は履修できない。
実習先の確保は基本的に各自で行うこと。

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教職論 (Teaching Profession)

科目コード：01009215
担当教員：東野　充成
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：査定外,　単位数：2, 2.0,　対象学年：1年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:24

授業の概要

●授業の目的

教員免許法に規定されている「教職の意義等に関する科目」として、教員の役割および職務内容について講義を行い、進路選択に資する機会を提供する。

●授業の位置付け

①学校や教員を取り巻く制度や実態を知るとともに、教職の意義や教員の役割等についての理解を深める。
②教員の職務内容を理解した上で、学校・教員と家族や地域社会との関係について考察し、教員に求められる資質や能力について理解する。
③教職に対する意欲や適性を自らで理解し、目指すべき教師像を描けるようにする。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

教員免許状取得のための必修科目である。工業の免許の取得希望者も、履修することが望ましい。

授業項目

1回 学校生活の振り返りと理想の教師像
自らの学校生活を振り返って、履修開始時点での理想の教師像を書き記す。
2回 教育基本法・学校教育法の概要と教員の役割
教育基本法と学校教育法の概要、同法に規定された教員の役割について講義する。
3回 教員の地位・身分と教育職員免許制度
公務員法制の中での教員の地位と身分及び教育職員免許制度について講義する。
4回 体罰に関する法律と判例
体罰に関する法律、判例などについて講義し、体罰が禁止されていることを確認する。
5回 学習指導要領の変遷と概要
学習指導要領の変遷過程と現在の概要及び次期の改訂ポイントについて講義する。
6回 教員の職務（1）教科指導
教員の職務としての教科指導の実際と課題について講義する。
7回 教員の職務（2）特別活動等
教員の職務としての特別活動等の実際と課題について講義する。
8回 教員の職務（3）生徒指導・進路指導
教員の職務としての生徒指導・進路指導の実際と課題について講義する。
9回 教員の職務（4）教育相談

教員の職務としての教育相談の実際と課題について講義する。

10回 教員の職務（５）子どもの安全確保

教員の職務としての子どもの安全確保義務について講義する。

11回 教員の過労とメンタルヘルス

教員が過労に陥る原因と対応策について講義する。

12回 学校・教員と家族・地域社会

学校・教員と家族・地域社会の関係性及び協働のあり方について講義する。

13回 教員採用の仕組みと本学の取り組み

教員採用試験の仕組みと、本学で行っている取り組みについて説明する。

14回 理想の教師像の省察

本講義を振り合えって、改めて理想の教師像について省察する。

15回 まとめ

これまでの講義のまとめを行う。

16回 試験

これまでの内容から試験を行う。

授業の進め方

レジュメを基にした講義形式で進める。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
現場の教員をとりまく現実を知るとともに、教職の意義や教員の役割等について理解を深める。

2.
生徒や保護者、地域住民等との関係について考え、教員に求められる資質・能力について理解する。

3.
教職に対する意欲や適性を受講生自らが認識し、めざすべき教師像を各自が描けるようになる。

成績評価の基準および評価方法

期末試験　100％

授業外学習（予習・復習）の指示

①講義内容を十分に理解するため、下記の参考文献のうち少なくともひとつを開講期間中に一読すること。

②開講期間中は、教育に関する最新の動向を摂取するため、新聞等に必ず目を通すこと。

キーワード

学習指導、生徒指導、聖職観、労働者観、専門職論、同僚、学校文化、教師文化

教科書

●教科書は指定しない（必要に応じて資料を配付する）

参考書

油布佐和子『転換期の教師』放送大学教育振興会　375.9/H-2/1062

山崎準二『教師という仕事・生き方』日本標準　374.3/Y-1

永井聖二・古賀正義『＜教師＞という仕事＝ワーク』学文社 374.3/N-3

備考

【履修上の注意事項】

教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することがのぞましい。

【オフィスアワー等】

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

電子メールアドレス

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育社会学 (Sociology of Education)

科目コード：01009310
担当教員：東野　充成
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：査定外,　単位数：2, 2.0,　対象学年：1年
開講学期：後期,　クラス：01,
曜日・時限：水曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:24

授業の概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に関して講義を行い、以下の点を目標とする。

①教育と社会の相互規定的な関係について理解する。

②教育制度を他の社会制度との関連の中で理解し、その役割や課題等について考察を深める。

③現代の学校制度や学校経営の役割及び課題について理解する。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

①教育は社会からいかなる影響を受け、また社会にいかなる影響を及ぼしているのか。階層、エスニシティ、ジェンダーといった社会学の基礎概念をもとに講義する。

②現代の教育制度はそれ単独で存在するわけではなく、雇用制度や法制度、行政組織などとの関連の中で位置づけられる。このような、教育制度の構造、機能及び他の社会制度との関連について講義する。

③教育を取り巻く社会情勢や教育制度の構造などを踏まえて、現代的な学校経営のあり方について講義する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

教員免許状取得のための必修科目である。工業の免許状取得希望者も、受講することが望ましい。

授業項目

1回 教育社会学の対象と方法
教育社会学という学問の分析対象と分析方法について講義する。
2回　家族と教育
家族の中で文化の伝達がどのように行われているのかを講義する。
3回　階層と教育
家庭の階層によって教育や地位の達成にどのような差が出るのか、講義する。
4回　グローバリゼーションと教育
グローバル化が教育にもたらす影響について講義する。
5回　ジェンダーと教育
様々な教育の場面に潜む、ジェンダーのもたらす影響や格差について講義する。
6回　情報社会と教育
メディアの進展が教育や子どもの発達に与える影響について講義する。
7回　子ども・若者文化の変容と現在
戦後の子ども・若者文化の足跡と、現在の文化の様相について講義する。
8回　少年非行の原因論
少年非行がなぜ発生するのか、これまでに提唱された学説について講義する。
9回　少年非行と学校教育
少年事件の分析を通して、学校教育が果たすべき役割について講義する。
10回　学校におけるリスクと安全
学校の中で出来する様々なリスクと安全対策のあり方について講義する。
11回　学校と家族・地域社会
学校と家族や地域社会の関係性、その変容の過程、協働のあり方について講義する。
12回　学校制度・学校組織・学校文化
学校という存在の特徴を、制度面、組織面、文化面から解説する。
13回　カリキュラムと学校・学級経営
カリキュラムが出来上がる過程とそれが学校で運用される過程について講義する。
14回　学校から職業への移行
学校と職業の連結経路、それが抱える現代の諸問題について講義する。
15回　まとめ
これまでの講義に関するまとめを行う。
16回　試験
これまでの講義内容から試験を行う。

授業の進め方

レジュメを基にした講義形式で進める。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
教育社会学の考え方を理解すると同時に、社会科学の基本的な概念についても理解できるようにする。
2.
教育という現象を他の様々な社会現象との関係の中で捉えられるようにする。
3.
教育という現象の理解を通して、現代社会・現代文化・現代学校教育に対する相対的な視点を獲得する。

成績評価の基準および評価方法

期末テスト　100%

授業外学習（予習・復習）の指示

①講義内容を十分に理解するため、夏季の参考文献のうち少なくともひとつを開講期間中に一読すること。

②開講期間中は、教育に関する最新の動向を摂取するため、新聞等に必ず目を通すこと。

キーワード

文化伝達・文化的再生産　エスニシティ　ジェンダー　サブカルチャー　教育制度・教育政策　学校経営・学級経営

教科書

特に指定しないが、参考書をそのつど指示する。

参考書

苅谷剛彦ほか著『教育の社会学』有斐閣 371.3/K-6

柴野昌山ほか著『教育社会学』有斐閣 371.3/S-8

備考

【履修上の注意事項】
教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することがのぞましい。

【オフィスアワー等】
研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

電子メールアドレス

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

哲学 II (Philosophy II)

科目コード：01009402
担当教員：中村　雅之
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:37

授業の概要

●授業の概要

ほとんど死滅したかに思われる「知識人」について、その必要性、役割を考察する。

●授業の目的

現代における死の哲学的問題を考察することにより、これらの問題を自らの問題として引き受け、自ら考える能力の獲得を目指す。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

受講には、特段の前提知識は要求されない。

授業項目

第１回　　知識人の登場
第２回　インテリゲンチャ
第3回　　総合雑誌
第4回　　マルクス主義
第5回　　週刊誌の登場
第6回　　テレビの普及
第7回　テレビ文化人の台頭
第8回　　知識人は絶滅したか？

授業の進め方

講義形式でおこなう。配布プリントを精読すること。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

合理的思考の前提となる、他人の文章を精読する能力・習慣を身につけることを目指す。
1.
特定の問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
2. それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

成績評価の基準および評価方法

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

キーワード

知識人、産業知識人、大衆

教科書

授業時に資料を配布。

参考書

ボタン『知識人』（文庫クセジュ、）。本館 閲覧室 1 階 文庫 081/Q-1/340学生用図書。

備考

【履修上の注意事項】　講義をよく聴き、ノートを作成すること。

【オフィスアワー等】　月曜日：15：00～16：00

電子メールアドレス

nakamura@dhs.kyutech.ac.jp

哲学 II (Philosophy II)

科目コード：01009402
担当教員：中村　雅之
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:30

授業の概要

（月曜２限）

●授業の概要

ほとんど死滅したかに思われる「知識人」について、その必要性、役割を考察する。

●授業の目的

現代における死の哲学的問題を考察することにより、これらの問題を自らの問題として引き受け、自ら考える能力の獲得を目指す。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

受講には、特段の前提知識は要求されない。

授業項目

第１回　　知識人の登場
第２回　インテリゲンチャ
第3回　　総合雑誌
第4回　　マルクス主義
第5回　　週刊誌の登場
第6回　　テレビの普及
第7回　　テレビ文化人の台頭
第8回　知識人は絶滅したか？

授業の進め方

講義形式でおこなう。配布プリントを精読すること。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

合理的思考の前提となる、他人の文章を精読する能力・習慣を身につけることを目指す。
1.
特定の問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
2. それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

成績評価の基準および評価方法

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

キーワード

知識人、産業知識人、大衆

教科書

授業時に資料を配布。

参考書

ボタン『知識人』（文庫クセジュ、）。

本館 閲覧室 1 階 文庫 081/Q-1/340学生用図書。

備考

【履修上の注意事項】
講義をよく聴き、ノートを作成すること。

【オフィスアワー等】
月曜日：15：00〜16：00

電子メールアドレス

nakamura@dhs.kyutech.ac.jp

教育学 II (Pedagogy II)

科目コード：01009406
担当教員：東野　充成
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：03,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-1C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:37

授業の概要

本授業では、教育と法律との関係について、法学の基礎理論を基に講義する。国民は憲法によって教育を受ける権利を保障されているが、強制性や権力性を伴った現代の学校教育制度は子どもの自由を抑制するという側面も持つ。また、すべての国民が平等に教育を受ける機会が保障されているとも限らない。このような、教育という現場で自由や平等との相克が問題化した様々な事件を取り上げ、教育における自由や平等について考究する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

1年生向けの人文社会科目選択必修のひとつである。

授業項目

1回 オリエンテーションと子どもの権利条約
　オリエンテーションを行うとともに、子どもの権利条約について解説する。
2回 校則と自由
　私人間適用論及び校則の法理について講義する。
3回 信仰の自由・政教分離と学校
　信仰の自由と政教分離を解説した上で、学校における宗教問題について講義する。
4回 法の下の平等と学校
　学校における法の下の平等、機会均等について講義する。
5回 プライバシーと学校
　プライバシー権の理論を基に、学校における情報の問題について講義する。
6回 学問の自由と教育の自由
　学問の自由の限界、教育権論争について講義する。
7回 体罰と刑法
　刑法の犯罪成立要件をもとに、体罰問題について講義する。
8回 まとめと試験
　講義のまとめを行った上で、試験を実施する。

授業の進め方

レジュメを基にした講義形式で進める。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 教育法学の基礎的な概念や理論について理解する。
2. 法学の基礎的な概念や理論を事例に適応できる。
3. 事例の検証と意見の表明を的確に行う。

成績評価の基準および評価方法

毎回のリアクションペーパー　50%
期末試験（レポート）　50%

授業外学習（予習・復習）の指示

教育や裁判に関する最新の記事等に目を通すこと。

キーワード

子どもの権利条約　日本国憲法　民法　刑法　私人間適用
信仰の自由　政教分離　法の下の平等　プライバシー権

教科書

指定しない。

参考書

授業内で適宜指示する。

備考

電子メールアドレス

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育学Ⅱ (Pedagogy Ⅱ)

科目コード：01009406
担当教員：東野　充成
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：04,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-1C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:37

授業の概要

本授業では、教育と法律との関係について、法学の基礎理論を基に講義する。国民は憲法によって教育を受ける権利を保障されているが、強制性や権力性を伴った現代の学校教育制度は子どもの自由を抑制するという側面も持つ。また、すべての国民が平等に教育を受ける機会が保障されているとも限らない。このような、教育という現場で自由や平等との相克が問題化した様々な事件を取り上げ、教育における自由や平等について考究する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

1年生向けの人文社会科目選択必修のひとつである。

授業項目

1回 オリエンテーションと子どもの権利条約
　オリエンテーションを行うとともに、子どもの権利条約について解説する。
2回 校則と自由
　私人間適用論及び校則の法理について講義する。
3回 信仰の自由・政教分離と学校
　信仰の自由と政教分離を解説した上で、学校における宗教問題について講義する。
4回 法の下の平等と学校
　学校における法の下の平等、機会均等について講義する。
5回 プライバシーと学校
　プライバシー権の理論を基に、学校における情報の問題について講義する。
6回 学問の自由と教育の自由
　学問の自由の限界、教育権論争について講義する。
7回 体罰と刑法
　刑法の犯罪成立要件をもとに、体罰問題について講義する。
8回 まとめと試験
　講義のまとめを行った上で、試験を実施する。

授業の進め方

レジュメを基にした講義形式で進める。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 教育法学の基礎的な概念や理論について理解する。
2. 法学の基礎的な概念や理論を事例に適応できる。
3. 事例の検証と意見の表明を的確に行う。

成績評価の基準および評価方法

毎回のリアクションペーパー　50%
期末試験（レポート）　50%

授業外学習（予習・復習）の指示

教育や裁判に関する最新の記事等に目を通すこと。

キーワード

子どもの権利条約　日本国憲法　民法　刑法　私人間適用
信仰の自由　政教分離　法の下の平等　プライバシー権

教科書

指定しない。

参考書

授業内で適宜指示する。

備考

電子メールアドレス

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育学Ⅱ (Pedagogy Ⅱ)

科目コード：01009406
担当教員：東野　充成
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-1C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

本授業では、教育と法律との関係について、法学の基礎理論を基に講義する。国民は憲法によって教育を受ける権利を保障されているが、強制性や権力性を伴った現代の学校教育制度は子どもの自由を抑制するという側面も持つ。また、すべての国民が平等に教育を受ける機会が保障されているとも限らない。このような、教育という現場で自由や平等との相克が問題化した様々な事件を取り上げ、教育における自由や平等について考究する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

1年生向けの人文社会科目選択必修のひとつである。

授業項目

1回 オリエンテーションと子どもの権利条約
　オリエンテーションを行うとともに、子どもの権利条約について解説する。
2回 校則と自由
　私人間適用論及び校則の法理について講義する。
3回 信仰の自由・政教分離と学校
　信仰の自由と政教分離を解説した上で、学校における宗教問題について講義する。
4回 法の下の平等と学校
　学校における法の下の平等、機会均等について講義する。
5回 プライバシーと学校
　プライバシー権の理論を基に、学校における情報の問題について講義する。
6回 学問の自由と教育の自由
　学問の自由の限界、教育権論争について講義する。
7回 体罰と刑法
　刑法の犯罪成立要件をもとに、体罰問題について講義する。
8回 まとめと試験
　講義のまとめを行った上で、試験を実施する。

授業の進め方

レジュメを基にした講義形式で進める。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 教育法学の基礎的な概念や理論について理解する。
2. 法学の基礎的な概念や理論を事例に適応できる。
3. 事例の検証と意見の表明を的確に行う。

成績評価の基準および評価方法

毎回のリアクションペーパー　50%
期末試験（レポート）　50%

授業外学習（予習・復習）の指示

教育や裁判に関する最新の記事等に目を通すこと。

キーワード

子どもの権利条約　日本国憲法　民法　刑法　私人間適用
信仰の自由　政教分離　法の下の平等　プライバシー権

教科書

指定しない。

参考書

授業内で適宜指示する。

備考

電子メールアドレス

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育学 II (Pedagogy II)

科目コード：01009406
担当教員：東野　充成
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-1C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

本授業では、教育と法律との関係について、法学の基礎理論を基に講義する。国民は憲法によって教育を受ける権利を保障されているが、強制性や権力性を伴った現代の学校教育制度は子どもの自由を抑制するという側面も持つ。また、すべての国民が平等に教育を受ける機会が保障されているとも限らない。このような、教育という現場で自由や平等との相克が問題化した様々な事件を取り上げ、教育における自由や平等について考究する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

1年生向けの人文社会科目選択必修のひとつである。

授業項目

1回 オリエンテーションと子どもの権利条約
　オリエンテーションを行うとともに、子どもの権利条約について解説する。
2回 校則と自由
　私人間適用論及び校則の法理について講義する。
3回 信仰の自由・政教分離と学校
　信仰の自由と政教分離を解説した上で、学校における宗教問題について講義する。
4回 法の下の平等と学校
　学校における法の下の平等、機会均等について講義する。
5回 プライバシーと学校
　プライバシー権の理論を基に、学校における情報の問題について講義する。
6回 学問の自由と教育の自由
　学問の自由の限界、教育権論争について講義する。
7回 体罰と刑法
　刑法の犯罪成立要件をもとに、体罰問題について講義する。
8回 まとめと試験
　講義のまとめを行った上で、試験を実施する。

授業の進め方

レジュメを基にした講義形式で進める。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 教育法学の基礎的な概念や理論について理解する。
2. 法学の基礎的な概念や理論を事例に適応できる。
3. 事例の検証と意見の表明を的確に行う。

成績評価の基準および評価方法

毎回のリアクションペーパー　50%
期末試験（レポート）　50%

授業外学習（予習・復習）の指示

教育や裁判に関する最新の記事等に目を通すこと。

キーワード

子どもの権利条約　日本国憲法　民法　刑法　私人間適用
信仰の自由　政教分離　法の下の平等　プライバシー権

教科書

指定しない。

参考書

授業内で適宜指示する。

備考

電子メールアドレス

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

歴史学Ⅱ (History Ⅱ)

科目コード：01009412
担当教員：水井　万里子
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(教育研究1号棟)1-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

３Q＜月曜１限＞

●授業の背景

ヨーロッパの人々が未知の世界に航海し、次々と新しい世界を発見し世界の一体化と世界的な市場の成立が促されたというイメージが「大航海時代」（15世紀末から18世紀）という概念にあてはまる。しかし、最近の歴史学の研究は、この時代に既にアジアやイスラム圏に優れた航海技術が確立され、豊かな地域交易圏が広がっていたことを明らかにしている。大航海時代初めの頃のヨーロッパはそれらを「発見・征服」したのではなく、むしろそれらに「参入」していったのである。授業ではこのような歴史学の新しい視点をとりいれて西洋と東洋の出会いについて考える。

●授業の目的

15
世紀末から18世紀を対象時期として、モノの流通に焦点をあてる。交易の成立、国際商業に携わるヒトにも着目し、さまざまな歴史背景を理解した上で具体的なモノ（コーヒーとスパイス）の歴史と結びつける。広域エリアの人や文化の交流について考えを深める。この当時の歴史が現代の様々な問題につながっていることを理解する。

●授業の位置づけ

近世から近代にかけてのモノの流れを時間軸に沿って理解していき、地球規模の流通や食文化、交易ネットワークの成立について考えていく。これらが植民地の形成と大きく関り、その結果現代まで続く経済的な問題を生み出したことを認識する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

人文社会系選択必修科目に含まれる。2017年度入学の1年生から履修できる科目である。多様な文化を理解するための基本的な学習能力を身につける。

授業項目

① ガイダンス
② 地中海貿易と東西交流
③ 情報検索とレポート作成
④ スパイス交易史
⑤ 交易ネットワーク
⑥ コーヒー交易史と伝播
⑦ 異文化間の交易と文化の伝播
⑧ まとめとテスト

授業の進め方

授業はスライドを用いた講義形式で行う。期末テストの前にはキーワードをあげて内容を振返る。自由課題レポートは時間学習として行い学期末に提出する。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

本授業では多様な文化理解を目標とし、以下の達成目標を置く。

1. 歴史学の考え方を理解できる。
2. 多様な文化の交流について歴史的に理解できる。
3. 文献や資料の調査、論理的な表現力を身につける。

成績評価の基準および評価方法

期末時に提出するレポートは自由論題で、主に授業外の学習として自主的に行う。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。テストは論述式。

●成績評価

レポート　40％

期末テスト　60％

授業外学習（予習・復習）の指示

自由課題のレポートを計画的に作成するので、授業時間外に付属図書館やインターネットなどで情報収集を進めておく。

キーワード

モノの歴史学、東西交易、多文化間の交流、商業ネットワーク

教科書

教科書は用いない。

参考書

宮崎正勝『モノの世界史』原書房、2002年。204/M-3

備考

【履修上の注意事項】

第一回目の授業で注意点を述べます。授業中に紹介する図書や文献を参考にし、自ら積極的に理解を深めることに努めてください。

【オフィスアワー等】

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスまで。

学期中のオフィスアワーは月曜日12時30分から13時30分まで（Ｃ－３０５）

電子メールアドレス

mizui@dhs.kyutech.ac.jp

歴史学Ⅱ (History Ⅱ)

科目コード：01009412
担当教員：水井　万里子
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(教育研究1号棟)1-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

３Q＜月曜2限＞

●授業の背景

ヨーロッパの人々が未知の世界に航海し、次々と新しい世界を発見し世界の一体化と世界的な市場の成立が促されたというイメージが「大航海時代」（15世紀末から18世紀）という概念にあてはまる。しかし、最近の歴史学の研究は、この時代に既にアジアやイスラム圏に優れた航海技術が確立され、豊かな地域交易圏が広がっていたことを明らかにしている。大航海時代初めの頃のヨーロッパはそれらを「発見・征服」したのではなく、むしろそれらに「参入」していったのである。授業ではこのような歴史学の新しい視点をとりいれて西洋と東洋の出会いについて考える。

●授業の目的

15

世紀末から18世紀を対象時期として、モノの流通に焦点をあてる。交易の成立、国際商業に携わるヒトにも着目し、さまざまな歴史背景を理解した上で具体的なモノ（コーヒーとスパイス）の歴史と結びつける。広域エリアの人や文化の交流について考えを深める。この当時の歴史が現代の様々な問題につながっていることを理解する。

●授業の位置づけ

近世から近代にかけてのモノの流れを時間軸に沿って理解していき、地球規模の流通や食文化、交易ネットワークの成立について考えていく。これらが植民地の形成と大きく関り、その結果現代まで続く経済的な問題を生み出したことを認識する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

人文社会系選択必修科目に含まれる。2017年度入学の1年生から履修できる科目である。多様な文化を理解するための基本的な学習能力を身につける。

授業項目

① ガイダンス
② 地中海貿易と東西交流
③ 情報検索とレポート作成
④ スパイス交易史
⑤ 交易ネットワーク
⑥ コーヒー交易史と伝播
⑦ 異文化間の交易と文化の伝播
⑧ まとめとテスト

授業の進め方

授業はスライドを用いた講義形式で行う。期末テストの前にはキーワードをあげて内容を振返る。自由課題レポートは時間学習として行い学期末に提出する。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

本授業では多様な文化理解を目標とし、以下の達成目標を置く。

1. 歴史学の考え方を理解できる。
2. 多様な文化の交流について歴史的に理解できる。
3. 文献や資料の調査、論理的な表現力を身につける。

成績評価の基準および評価方法

期末時に提出するレポートは自由論題で、主に授業外の学習として自主的に行う。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。テストは論述式。

●成績評価

レポート　40％

期末テスト　60％

授業外学習（予習・復習）の指示

自由課題のレポートを計画的に作成するので、授業時間外に付属図書館やインターネットなどで情報収集を進めておく。

キーワード

モノの歴史学、東西交易、多文化間の交流、商業ネットワーク

教科書

教科書は用いない。

参考書

宮崎正勝『モノの世界史』原書房、2002年。204/M-3

備考

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスまで。

学期中のオフィスアワーは月曜日12時30分から13時30分まで（Ｃ－３０５）

電子メールアドレス

mizui@dhs.kyutech.ac.jp

歴史学Ⅱ (History Ⅱ)

科目コード：01009412
担当教員：水井　万里子
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：03,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(教育研究1号棟)1-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:37

授業の概要

4Q<月曜1限>

●授業の背景

ヨーロッパの人々が未知の世界に航海し、次々と新しい世界を発見し世界の一体化と世界的な市場の成立が促されたというイメージが「大航海時代」（15世紀末から18世紀）という概念にあてはまる。しかし、最近の歴史学の研究は、この時代に既にアジアやイスラム圏に優れた航海技術が確立され、豊かな地域交易圏が広がっていたことを明らかにしている。大航海時代初めの頃のヨーロッパはそれらを「発見・征服」したのではなく、むしろそれらに「参入」していったのである。授業ではこのような歴史学の新しい視点をとりいれて西洋と東洋の出会いについて考える。

●授業の目的

15

世紀末から18世紀を対象時期として、モノの流通に焦点をあてる。交易の成立、国際商業に携わるヒトにも着目し、さまざまな歴史背景を理解した上で具体的なモノ（茶）の歴史と結びつける。広域エリアの人や文化の交流について考えを深める。この当時の歴史が現代の様々な問題につながっていることを理解する。

●授業の位置づけ

中国原産の茶が、インド洋沿岸、アラビア半島、地中海、ヨーロッパへと地球的な規模で流通していった、近世から近代にかけての歴史を追う。茶というモノの流れを時間軸に沿って理解していき、地球規模の流通や食文化、交易ネットワークの成立について考えていく。これらが植民地の形成と大きく関り、その結果現代まで続く経済的な問題を生み出したことを認識する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

人文社会系選択必修科目に含まれる。2017年度入学の1年生から履修できる科目である。多様な文化を理解するための基本的な学習能力を身につける。

授業項目

① ガイダンス
② ポルトガル・スペインの海洋進出
③ 資料検索とレポート作成
④ オランダとイギリスの海外交易
⑤ 東インド会社
⑥ イギリスの紅茶交易史
⑦ 紅茶と植民地経済
⑧ まとめとテスト

授業の進め方

授業はスライドを用いた講義形式で行う。期末テストの前にはキーワードをあげて内容を振返る。自由課題レポートは時間学習として行い学期末に提出する。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

本授業では多様な文化理解を目標とし、以下の達成目標を置く。

1. 歴史学の考え方を理解できる
2. 多様な文化の交流について歴史的に理解できる
3. 文献や資料の調査、論理的な表現力を身につける

成績評価の基準および評価方法

期末時に提出するレポートは自由論題で、主に授業外の学習として自主的に行う。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。テストは論述式。

●成績評価

レポート　40％

期末テスト　60％

授業外学習（予習・復習）の指示

自由課題のレポートを計画的に作成するので、授業時間外に付属図書館やインターネットなどで情報収集を進めておく。

キーワード

モノの歴史学、東西交易、多文化間の交流、商業ネットワーク

教科書

教科書は用いない。

参考書

川北稔『砂糖の世界史』岩波書店、1996年。209/K-4

備考

【履修上の注意事項】

第一回目の授業で注意点を述べます。授業中に紹介する図書や文献を参考にし、自ら積極的に理解を深めることに努めてください。

【オフィスアワー等】

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスまで。

学期中のオフィスアワーは月曜日12時30分から13時30分まで（Ｃ－３０５）

電子メールアドレス

mizui@dhs.kyutech.ac.jp

歴史学Ⅱ (History Ⅱ)

科目コード：01009412
担当教員：水井　万里子
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：04,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(教育研究1号棟)1-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:37

授業の概要

4Q<月曜2限>

●授業の背景

ヨーロッパの人々が未知の世界に航海し、次々と新しい世界を発見し世界の一体化と世界的な市場の成立が促されたというイメージが「大航海時代」（15世紀末から18世紀）という概念にあてはまる。しかし、最近の歴史学の研究は、この時代に既にアジアやイスラム圏に優れた航海技術が確立され、豊かな地域交易圏が広がっていたことを明らかにしている。大航海時代初めの頃のヨーロッパはそれらを「発見・征服」したのではなく、むしろそれらに「参入」していったのである。授業ではこのような歴史学の新しい視点をとりいれて西洋と東洋の出会いについて考える。

●授業の目的

15

世紀末から18世紀を対象時期として、モノの流通に焦点をあてる。交易の成立、国際商業に携わるヒトにも着目し、さまざまな歴史背景を理解した上で具体的なモノ（茶）の歴史と結びつける。広域エリアの人や文化の交流について考えを深める。この当時の歴史が現代の様々な問題につながっていることを理解する。

●授業の位置づけ

中国原産の茶が、インド洋沿岸、アラビア半島、地中海、ヨーロッパへと地球的な規模で流通していった、近世から近代にかけての歴史を追う。茶というモノの流れを時間軸に沿って理解していき、地球規模の流通や食文化、交易ネットワークの成立について考えていく。これらが植民地の形成と大きく関り、その結果現代まで続く経済的な問題を生み出したことを認識する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

人文社会系選択必修科目に含まれる。2017年度入学の1年生から履修できる科目である。多様な文化を理解するための基本的な学習能力を身につける。

授業項目

① ガイダンス
② ポルトガル・スペインの海洋進出
③ 資料検索とレポート作成
④ オランダとイギリスの海外交易
⑤ 東インド会社
⑥ イギリスの紅茶交易史
⑦ 紅茶と植民地経済
⑧ まとめとテスト

授業の進め方

授業はスライドを用いた講義形式で行う。期末テストの前にはキーワードをあげて内容を振返る。自由課題レポートは時間学習として行い学期末に提出する。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

本授業では多様な文化理解を目標とし、以下の達成目標を置く。

1. 歴史学の考え方を理解できる
2. 多様な文化の交流について歴史的に理解できる
3. 文献や資料の調査、論理的な表現力を身につける

成績評価の基準および評価方法

期末時に提出するレポートは自由論題で、主に授業外の学習として自主的に行う。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。テストは論述式。

●成績評価

レポート　40％

期末テスト　60％

授業外学習（予習・復習）の指示

自由課題のレポートを計画的に作成するので、授業時間外に付属図書館やインターネットなどで情報収集を進めておく。

キーワード

モノの歴史学、東西交易、多文化間の交流、商業ネットワーク

教科書

教科書は用いない。

参考書

備考

【履修上の注意事項】

第一回目の授業で注意点を述べます。授業中に紹介する図書や文献を参考にし、自ら積極的に理解を深めることに努めてください。

【オフィスアワー等】

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスまで。

学期中のオフィスアワーは月曜日12時30分から13時30分まで（Ｃ－３０５）

電子メールアドレス

mizui@dhs.kyutech.ac.jp

経済学Ⅱ (Economics Ⅱ)

科目コード：01009425
担当教員：小江　茂徳
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(総合教育棟北)C-3A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

この講義は、マクロ経済学の基礎を理解することを目的とします。

マクロ経済学は、ミクロ経済学と並んで経済理論の基礎をなす学問です。ミクロ経済学が家計や企業といった個々の主体の経済活動を分析するのに対し、マクロ経済学では一国の経済を分析します。この講義では、マクロ経済学の中心的なトピックを取り上げるとともに、日本経済が直面する今日の課題についてもマクロ経済学の観点から解説していきます。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

特に経済学の知識を必要としません。ミクロ経済学を扱う経済学Ⅰも履修し経済学の理解を深めましょう。

授業項目

第１回 イントロダクション
　講義の概要、経済学の基本について説明します
第２回 経済思想史
　代表的な経済思想について学びます
第３回 GDPとは何か
　GDPの概念について学びます
第４回 インフレとデフレ
　インフレとデフレについて学びます
第５回 比較優位と貿易
　貿易の経済的意味について学びます
第６回 財政政策
　政府の役割と財政政策の基本について学びます
第７回 金融政策
　日本銀行の役割と金融政策の基本について学びます
第８回 復習と定期試験
　全体の復習と定期試験を実施します

授業の進め方

講義形式で進めていきます。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

本講義は、経済学とりわけマクロ経済学の基礎を理解することを目的とし、以下を達成目標とします。

1. マクロ経済学の基礎的な概念について理解している。
2.

マクロ経済学の基礎的な概念を用いて、実際の経済現象について説明できる。

成績評価の基準および評価方法

定期試験（100％）で評価します。

授業外学習（予習・復習）の指示

講義の最初に前回の復習をするので、ノートや資料を見直しておくようにしてください。

キーワード

マクロ経済学、GDP、インフレ、デフレ、経済成長、財政政策、金融政策、物価

教科書

特になし

参考書

テーマに応じて適宜紹介します。

備考

【履修上の注意事項】
日頃からニュースや新聞に目を通し、経済の動向について理解を深めるようにしてください。

【オフィスアワー等】
月曜日・3限

電子メールアドレス

講義中にお知らせします。

経済学Ⅱ (Economics Ⅱ)

科目コード：01009425
担当教員：小江　茂徳
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(総合教育棟北)C-3A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:37

授業の概要

この講義は、マクロ経済学の基礎を理解することを目的とします。
マクロ経済学は、ミクロ経済学と並んで経済理論の基礎をなす学問です。ミクロ経済学が家計や企業といった個々の主体の経済活動を分析するのに対し、マクロ経済学では一国の経済を分析します。この講義では、マクロ経済学の中心的なトピックを取り上げるとともに、日本経済が直面する今日の課題についてもマクロ経済学の観点から解説していきます。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

特に経済学の知識を必要としません。ミクロ経済学を扱う経済学Ⅰも履修し経済学の理解を深めましょう。

授業項目

第１回 イントロダクション
　講義の概要、経済学の基本について説明します
第２回 経済思想史
　代表的な経済思想について学びます
第３回 GDPとは何か
　GDPの概念について学びます
第４回 インフレとデフレ
　インフレとデフレについて学びます
第５回 比較優位と貿易
　貿易の本質的意味について学びます
第６回 財政政策
　政府の役割と財政政策の基本について学びます
第７回 金融政策
　日本銀行の役割と金融政策の基本について学びます
第８回 復習と定期試験
　全体の復習と定期試験を実施します

授業の進め方

講義形式で進めていきます。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

本講義は、経済学とりわけマクロ経済学の基礎を理解することを目的とし、以下を達成目標とします。
1. マクロ経済学の基礎的な概念について理解している。
2.
マクロ経済学の基礎的な概念を用いて、実際の経済現象について説明できる。

成績評価の基準および評価方法

定期試験（100%）で評価します。

授業外学習（予習・復習）の指示

講義の最初に前回の復習をするので、ノートや資料を見直しておくようにしてください。

キーワード

マクロ経済学、GDP、インフレ、デフレ、経済成長、財政政策、金融政策、物価

教科書

特になし

参考書

テーマに応じて適宜紹介します。

備考

【履修上の注意事項】
日頃からニュースや新聞に目を通し、経済の動向について理解を深めるようにしてください。

【オフィスアワー等】
月曜日・3限

電子メールアドレス

講義中にお知らせします。

経営学Ⅱ (Business Administration Ⅱ)

科目コード：01009427
担当教員：小江　茂徳
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟北)C-3A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:37

授業の概要

本講義は、経営学、とりわけ経営管理の基本概念や理論を理解することを目的としています。具体的には、モチベーション論を中心として企業内部のマネジメントに関わるテーマを取り上げていきます。
我々の社会は企業の生産物である商品やサービスに溢れており、日常生活をより豊かにしています。しかし、それらについて我々が知っていることと言えば、せいぜい商品・サービスの名称や機能ぐらいではないでしょうか。実際には、それらの商品・サービスは、企業の掲げる経営理念の下、緻密な市場調査や試作品の製作、ライバル企業との駆け引き、組織の管理、業務の効率化など、企業による不断の熟考や試行錯誤、努力によって生み出されています。経営学は、こうした商品・サービスを生み出す様々な企業行動について研究してきた学問です。この講義を通じて経営学的な視点を身に付けることで、皆さんが日常的に目にする商品やサービスに対する見方が変わる端緒となればと考えています。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

予め経営学の知識を必要としません。経営学Ⅰ、経営組織論を受講し、経営に関する理解を深めてください。

授業項目

第１回 イントロダクション
　講義の概要と経営学について概説します
第２回 組織均衡論
　組織とその存続条件について学びます
第３回　 科学的管理法
　経営管理の礎について学びます
第４回 人間関係論
　経営管理における人間関係の影響について学びます
第５回 仕事とモチベーション①
　モチベーションの内容理論について学びます
第６回 仕事とモチベーション②
　内発的動機付け、職務特性モデル、職務充実について学びます
第７回 仕事とモチベーション③
　モチベーションの過程理論について学びます
第８回 復習と定期試験
　全体の復習と期末試験を実施します

授業の進め方

主に講義形式で進めていきます。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

本講義では、経営管理に関する基礎を学ぶことを目的とし、以下を達成目標とします。
1. 経営学（経営管理）の基本概念を理解する。

2.
モチベーションの概念や理論を理解し、日常行動を説明できる。

成績評価の基準および評価方法
期末テスト（100%）で評価します。

授業外学習（予習・復習）の指示
講義の最初に前回の復習をするので、ノートや資料を見直しておくこと。

キーワード
企業、モチベーション、組織の存続

教科書
特に指定しません。

参考書
テーマに応じて適宜お知らせします。

備考
【履修上の注意事項】
日頃からニュースや新聞に目を通し、企業行動に関する情報を得ておくようにしてください。

【オフィスアワー等】
月曜日・3限

電子メールアドレス
講義中にお知らせします。

経営学Ⅱ (Business Administration Ⅱ)
科目コード：01009427
担当教員：小江　茂徳
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟北)C-3A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要
本講義は、経営学、とりわけ経営管理の基本概念や理論を理解することを目的としています。具体的には、モチベーション論を中心として企業内部のマネジメントに関わるテーマを取り上げていきます。
我々の社会は企業の生産物である商品やサービスに溢れており、日常生活をより豊かにしています。しかし、それらについて我々が知っていることと言えば、せいぜい商品・サービスの名称や機能ぐらいではないでしょうか。実際には、企業の掲げる経営理念の下、緻密な市場調査や試作品の製作、ライバル企業との駆け引き、組織の管理、業務の効率化など、企業による不断の熟考や試行錯誤、努力によってそれらの商品・サービスは生み出されています。経営学は、こうした商品・サービスを生み出す様々な企業行動について研究してきた学問です。この講義を通じて経営学的な視点を身に付けることで、皆さんが日常的に目にする商品やサービスに対する見方が変わる端緒となればと考えています。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ
あらかじめ経営学の知識を必要としません。経営学Ⅰ、経営組織論を受講し、経営に関する理解を深めてください。

授業項目
第１回 イントロダクション
　講義の概要と経営学について概説します
第２回 組織均衡論
　組織とその存続条件について学びます
第３回　 科学的管理法
　経営管理の礎について学びます
第４回 人間関係論
　経営管理における人間関係の影響について学びます
第５回 仕事とモチベーション①
　モチベーションの内容理論について学びます
第６回 仕事とモチベーション②
　内発的動機付け、職務特性モデル、職務充実について学びます
第７回 仕事とモチベーション③
　モチベーションの過程理論について学びます
第８回 復習と定期試験
　全体の復習と期末試験を実施します

授業の進め方
主に講義形式で進めていきます。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）
本講義では、経営管理に関する基礎を学ぶことを目的とし、以下を達成目標とします。
1. 経営学（経営管理）の基本概念を理解する。

2.
モチベーションの概念や理論を理解し、日常行動を説明できる。

成績評価の基準および評価方法
期末テスト（100%）で評価します。

授業外学習（予習・復習）の指示
講義の最初に前回の復習をするので、ノートや資料を見直しておくこと。

キーワード
企業、モチベーション、組織の存続

教科書
特に指定しません。

参考書
テーマに応じて適宜お知らせします。

備考
【履修上の注意事項】
日頃からニュースや新聞に目を通し、企業行動に関する情報を得ておくようにしてください。

【オフィスアワー等】
月曜日・3限

電子メールアドレス
講義中にお知らせします。

社会学 II (Sociology II)
科目コード：01009429
担当教員：未定
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要
社会科学における社会学の位置づけを理解した上で、社会学という学問の特色を学ぶ。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ
理系を専攻した学生に、社会科学の1分野である社会学の講義を通して、社会科学という学問の特色を理解してもらう。

授業項目
1.0 社会科学のなかの社会学
2.0 社会現象を客観的に捉えることはできるか
3.0 行為と意味
4.0 正常と異常
5.0 規範と制度
6.0 不平等と正義
7.0 国家と市民社会
8.0 総括：社会学的思考とは・定期試験

授業の進め方
基本的に講義であるが、現代社会の様々な側面について何名かの学生に質問して、質疑応答をします。基礎知識は不要ですが、自分なりに考えて自分の意見を発表し、聞き手に理解してもらう場にしてもらいたいと考えています。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）
1. 社会科学における社会学という学問の特色を理解する。
2.
社会現象を客観的に捉えることができるのかということについて、
3. 自然現象との比較で考える。
4. 社会学の基礎概念である「行為と意味」について学ぶ。
5. 社会学の基礎概念である「正常と異常」ついて学ぶ。
6. 社会学の基礎概念である「規範と制度」について学ぶ。
7. 社会学の基礎概念である「不平等と正義」について学ぶ。
8.
社会学の基礎概念である「国家と市民社会」について学ぶ。
9.
基礎概念の学習を通して、社会学的パースペクティブを習得する。

成績評価の基準および評価方法
出席点を4割程度、試験もしくはレポートによる評価を6割程度とする予定です。

授業外学習（予習・復習）の指示
教科書の予習・復習をすること。

キーワード
社会科学、社会学、社会現象、社会学の基礎概念、社会学的

パースペクティブ

教科書

友枝・竹沢・正村・坂本著『社会学のエッセンス　新版』有斐閣,2007年

参考書

講義中に随時紹介する予定である。

備考

電子メールアドレス

社会学 II (Sociology II)

科目コード：01009429
担当教員：未定
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

社会科学における社会学の位置づけを理解した上で、社会学という学問の特色を学ぶ。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

理系を専攻した学生に、社会科学の1分野である社会学の講義を通して、社会科学という学問の特色を理解してもらう。

授業項目

1.0 社会科学のなかの社会学
2.0 社会現象を客観的に捉えることはできるか
3.0 行為と意味
4.0 正常と異常
5.0 規範と制度
6.0 不平等と正義
7.0 国家と市民社会
8.0 総括：社会学的思考とは・定期試験

授業の進め方

基本的に講義であるが、現代社会の様々な側面について何名かの学生に質問して、質疑応答をします。基礎知識は不要ですが、自分なりに考えて自分の意見を発表し、聞き手に理解してもらう場にしてもらいたいと考えています。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 社会科学における社会学という学問の特色を理解する。
2.
社会現象を客観的に捉えることができるのかということについて、
3. 自然現象との比較で考える。
4. 社会学の基礎概念である「行為と意味」について学ぶ。
5. 社会学の基礎概念である「正常と異常」ついて学ぶ。
6. 社会学の基礎概念である「規範と制度」について学ぶ。
7. 社会学の基礎概念である「不平等と正義」について学ぶ。
8.
社会学の基礎概念である「国家と市民社会」について学ぶ。
9.
基礎概念の学習を通して、社会学的パースペクティブを習得する。

成績評価の基準および評価方法

出席点を4割程度、試験もしくはレポートによる評価を6割程度とする予定です。

授業外学習（予習・復習）の指示

教科書の予習・復習をすること。

キーワード

社会科学、社会学、社会現象、社会学の基礎概念、社会学的

パースペクティブ

教科書
友枝・竹沢・正村・坂本著『社会学のエッセンス　新版』有斐閣,2007年

参考書
講義中に随時紹介する予定である。

備考

電子メールアドレス

社会学 II (Sociology II)

科目コード：01009429
担当教員：未定
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：04,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:37

授業の概要
社会科学における社会学の位置づけを理解した上で、社会学という学問の特色を学ぶ。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ
理系を専攻した学生に、社会科学の1分野である社会学の講義を通して、社会科学という学問の特色を理解してもらう。

授業項目
1.0 社会科学のなかの社会学
2.0 社会現象を客観的に捉えることはできるか
3.0 行為と意味
4.0 正常と異常
5.0 規範と制度
6.0 不平等と正義
7.0 国家と市民社会
8.0 総括：社会学的思考とは・定期試験

授業の進め方
基本的に講義であるが、現代社会の様々な側面について何名かの学生に質問して、質疑応答をします。基礎知識は不要ですが、自分なりに考えて自分の意見を発表し、聞き手に理解してもらう場にしてもらいたいと考えています。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）
1. 社会科学における社会学という学問の特色を理解する。
2.
社会現象を客観的に捉えることができるのかということについて、
3. 自然現象との比較で考える。
4. 社会学の基礎概念である「行為と意味」について学ぶ。
5. 社会学の基礎概念である「正常と異常」ついて学ぶ。
6. 社会学の基礎概念である「規範と制度」について学ぶ。
7. 社会学の基礎概念である「不平等と正義」について学ぶ。
8.
社会学の基礎概念である「国家と市民社会」について学ぶ。
9.
基礎概念の学習を通して、社会学的パースペクティブを習得する。

成績評価の基準および評価方法
出席点を4割程度、試験もしくはレポートによる評価を6割程度とする予定です。

授業外学習（予習・復習）の指示
教科書の予習・復習をすること。

キーワード
社会科学、社会学、社会現象、社会学の基礎概念、社会学的

パースペクティブ

教科書

友枝・竹沢・正村・坂本著『社会学のエッセンス　新版』有斐閣,2007年

参考書

講義中に随時紹介する予定である。

備考

電子メールアドレス

社会学 II (Sociology II)

科目コード：01009429
担当教員：未定
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：03,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:37

授業の概要

社会科学における社会学の位置づけを理解した上で、社会学という学問の特色を学ぶ。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

理系を専攻した学生に、社会科学の1分野である社会学の講義を通して、社会科学という学問の特色を理解してもらう。

授業項目

1.0 社会科学のなかの社会学
2.0 社会現象を客観的に捉えることはできるか
3.0 行為と意味
4.0 正常と異常
5.0 規範と制度
6.0 不平等と正義
7.0 国家と市民社会
8.0 総括：社会学的思考とは・定期試験

授業の進め方

基本的に講義であるが、現代社会の様々な側面について何名かの学生に質問して、質疑応答をします。基礎知識は不要ですが、自分なりに考えて自分の意見を発表し、聞き手に理解してもらう場にしてもらいたいと考えています。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 社会科学における社会学という学問の特色を理解する。
2.
社会現象を客観的に捉えることができるのかということについて、
3. 自然現象との比較で考える。
4. 社会学の基礎概念である「行為と意味」について学ぶ。
5. 社会学の基礎概念である「正常と異常」ついて学ぶ。
6. 社会学の基礎概念である「規範と制度」について学ぶ。
7. 社会学の基礎概念である「不平等と正義」について学ぶ。
8.
社会学の基礎概念である「国家と市民社会」について学ぶ。
9.
基礎概念の学習を通して、社会学的パースペクティブを習得する。

成績評価の基準および評価方法

出席点を4割程度、試験もしくはレポートによる評価を6割程度とする予定です。

授業外学習（予習・復習）の指示

教科書の予習・復習をすること。

キーワード

社会科学、社会学、社会現象、社会学の基礎概念、社会学的

パースペクティブ

教科書
友枝・竹沢・正村・坂本著『社会学のエッセンス　新版』有斐閣,2007年

参考書
講義中に随時紹介する予定である。

備考

電子メールアドレス

心理学 II (Psychology II)

科目コード：01009434
担当教員：佐藤　友美
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：04,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(総合教育棟北)C-2A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:37

授業の概要
自分らしさとはなんだろうか。本講義では，特に人格・性格心理学について取り上げ，人格・性格についての心理学的観点からの基礎的な知識を学ぶ。その上で，自分らしさとは何か，自分らしさを形成しているものは何かを考えていきたい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ
講義の前提知識は特に必要ではない。人の心のあり方に興味がある学生の履修が望ましい。

授業項目
1 自分らしさとは何か　イントロダクション
2 性格のとらえ方
3 性格の測り方
4 性格の神経科学
5 性格の発達
6 性格とアイデンティティ
7 性格と人間関係
8 まとめ・定期試験

授業の進め方
上記の項目にしたがって講義する。講義の内容の理解をより深めるための小レポートを課す。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）
1. 性格・人格とは何かを理解する
2.
性格・人格がどのように形成され変化していくのかを理解する
3. 日常的な問題を心理学的に捉える視点を持つ

成績評価の基準および評価方法
小レポートおよび期末試験により評価する。小レポート40%，期末試験60%の割合で成績を評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示
予習を必要とする場合は事前に資料を配布するので授業前に事前に見ておくこと。理解を確認するために小レポート課題を課すので，必ず提出すること。

キーワード
人格心理学，性格心理学，人間関係，環境と遺伝

教科書
特になし。適宜資料を配布する。

参考書
授業中に適宜紹介する。

備考

電子メールアドレス

心理学 II (Psychology II)

科目コード：01009434
担当教員：山口　雄介
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：03,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟北)C-2A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:37

授業の概要

（月曜１限）

●授業の目的

さまざま心理的問題を取り上げ、その現状、原因や背景について講義し、私達がそれらの問題にどのように対応したらよいのかを共に考えながら学ぶことを目的とする。

●授業の位置づけ

大学生が属する青年期は、「もはや子どもではないが、まだ大人ではない」という構造のあいまいな境界性を特徴とする時期である。そのため、青年期はライフサイクルの中でもっとも心理的混乱が生じやすい時期とされている。メンタルヘルスに関する正しい知識を身につけ、健やかな生活を送る基盤作りを目指す。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識はとくに必要ではない。

授業項目

1回 オリエンテーション・心の健康とは
2回 青年期を生きる
3回 ストレス・心身症
4回 神経症
5回 人格障害
6回 うつ病・統合失調症
7回 その他の精神病理・心の健康を保つために
8回 復習・定期試験

授業の進め方

上記の項目にしたがって講義する．講義内容の理解を促すための演習や復習レポート，予習を目的としたレポートを課す．

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
自己と他者に対する理解を深め、人間全般に対する関心を持つことができる。
2.
心の問題についての知識を深め、自分自身のメンタルヘルスに関心を持つことができる。

成績評価の基準および評価方法

試験80%、レポート20%で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回に記載されているキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

キーワード

発達、人格、臨床心理学、社会心理学

教科書

●教科書

使用しない。適宜資料を配付する。

●参考書

榎本博明著『はじめてふれる心理学』（2013）サイエンス社　140/E-7/2　第２版

川瀬正裕・松本真理子・松本英夫著『心とかかわる臨床心理　第２版』（2006）ナカニシヤ出版　146/K-8/2

参考書

備考

【履修上の注意事項】

授業には積極的に参加すること。適宜紹介する図書を参考にし、理解を深めること。

【オフィスアワー等】

月曜日４限目

電子メールアドレス

yusuke.yamagucci@gmail.com

心理学 II (Psychology II)

科目コード：01009434
担当教員：佐藤　友美
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：(総合教育棟北)C-2A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

自分らしさとはなんだろうか。本講義では，特に人格・性格心理学について取り上げ，人格・性格についての心理学的観点からの基礎的な知識を学ぶ。その上で，自分らしさとは何か，自分らしさを形成しているものは何かを考えていきたい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識は特に必要ではない。人の心のあり方に興味がある学生の履修が望ましい。

授業項目

1 自分らしさとは何か　イントロダクション
2 性格のとらえ方
3 性格の測り方
4 性格の神経科学
5 性格の発達
6 性格とアイデンティティ
7 性格と人間関係
8 まとめ・定期試験

授業の進め方

上記の項目にしたがって講義する。講義の内容の理解をより深めるための小レポートを課す。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 性格・人格とは何かを理解する
2.
性格・人格がどのように形成され変化していくのかを理解する
3. 日常的な問題を心理学的に捉える視点を持つ

成績評価の基準および評価方法

小レポートおよび期末試験により評価する。小レポート40%，期末試験60%の割合で成績を評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

予習を必要とする場合は事前に資料を配布するので授業前に事前に見ておくこと。理解を確認するために小レポート課題を課すので，必ず提出すること。

キーワード

人格心理学，性格心理学，人間関係，環境と遺伝

教科書

特になし。適宜資料を配布する。

参考書

授業中に適宜紹介する。

備考

電子メールアドレス

心理学 II (Psychology II)

科目コード：01009434
担当教員：山口　雄介
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟北)C-2A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

（月曜１限）

●授業の目的

さまざま心理的問題を取り上げ、その現状、原因や背景について講義し、私達がそれらの問題にどのように対応したらよいのかを共に考えながら学ぶことを目的とする。

●授業の位置づけ

大学生が属する青年期は、「もはや子どもではないが、まだ大人ではない」という構造のあいまいな境界性を特徴とする時期である。そのため、青年期はライフサイクルの中でもっとも心理的混乱が生じやすい時期とされている。メンタルヘルスに関する正しい知識を身につけ、健やかな生活を送る基盤作りを目指す。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識はとくに必要ではない。

授業項目

1回 オリエンテーション・心の健康とは
2回 青年期を生きる
3回 ストレス・心身症
4回 神経症
5回 人格障害
6回 うつ病・統合失調症
7回 その他の精神病理・心の健康を保つために
8回 復習・定期試験

授業の進め方

上記の項目にしたがって講義する．講義内容の理解を促すための演習や復習レポート，予習を目的としたレポートを課す．

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
"自己と他者に対する理解を深め、人間全般に対する関心を持つことができる。
2.
心の問題についての知識を深め、自分自身のメンタルヘルスに関心を持つことができる。

成績評価の基準および評価方法

試験80%、レポート20%で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回に記載されているキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

キーワード

発達、人格、臨床心理学、社会心理学

教科書

●教科書

使用しない。適宜資料を配付する。

●参考書

榎本博明著『はじめてふれる心理学』（2013）サイエンス社　140/E-7/2　第２版

川瀬正裕・松本真理子・松本英夫著『心とかかわる臨床心理　第２版』（2006）ナカニシヤ出版　146/K-8/2

参考書

備考

【履修上の注意事項】

授業には積極的に参加すること。適宜紹介する図書を参考にし、理解を深めること。

【オフィスアワー等】

月曜日４限目

電子メールアドレス

yusuke.yamagucci@gmail.com

健康スポーツ科学論 (Exercise Prescription)

科目コード：01009435
担当教員：小幡　博基
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：04,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2F講義室
更新日：2017/06/12 07:03:37

授業の概要

現代社会の急激な変化は、ヒトの生物学的・心理学的・社会学的不適応を招来し、いろいろな健康問題をなげかけている。特に、車社会に代表されるように、日常生活の身体活動水準の低下とそれに関わる健康問題（運動不足病）は象徴的である。本講義では、健康科学とスポーツ科学の関連性から、現代社会が抱える健康問題について概説し、Quality of Life（QOL）達成のための積極的な健康獲得方法について講義する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

大学生が身に付けるべき教養として、健康の概念やヒトの生理的機能の仕組みに関する講義を行う。

授業項目

1 オリエンテーション（授業概要、評価方法の説明）
2
現代社会の健康問題（１）～疾病構造の変遷、平均寿命、健康寿命～
3
現代社会の健康問題（２）～社会構造の変化と生活習慣病発症の関連性～
4
健康獲得のためのスポーツ科学の基礎　～生理的：心理的側面からのアプローチ～
5
健康獲得のためのスポーツ科学の応用　～生理的：心理的側面からのアプローチ～
6 運動処方論（身体的側面・心理的側面）の概念
7 健康獲得のための具体的運動処方プログラムの作成
8 まとめとテスト

授業の進め方

講義形式で進める。身近な例を挙げたり、視聴覚教材を活用することで、わかりやすい講義をこころがける。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 健康概念の理解（身体と心の健康）
2.
ヒトの生理的・心理的機能の基礎および運動の仕組みに関する基本的知識の習得
3. 運動処方やトレーニング計画の立案・実施

成績評価の基準および評価方法

レポート・小テスト（30%）および期末テスト（70%）で評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

毎回、次の講義のキーワードを挙げるので、事前に調べてくること。

キーワード

健康、生活習慣病、ヒトの生理機能、身体のトレーニング

教科書

指定しない。

参考書

・「現代人のからだと心の健康」、杏林書店　平木場浩二編　（2014年発行）

備考

受講生は年度始めの健康診断を受けて、その結果の大略を把握しておくこと。

電子メールアドレス

obata@dhs.kyutech.ac.jp

健康スポーツ科学論 (Exercise Prescription)

科目コード：01009435
担当教員：小幡　博基
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(コラボ教育支援棟)Co-1A
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

現代社会の急激な変化は、ヒトの生物学的・心理学的・社会学的不適応を招来し、いろいろな健康問題をなげかけている。特に、車社会に代表されるように、日常生活の身体活動水準の低下とそれに関わる健康問題（運動不足病）は象徴的である。本講義では、健康科学とスポーツ科学の関連性から、現代社会が抱える健康問題について概説し、Quality of Life（QOL）達成のための積極的な健康獲得方法について講義する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

大学生が身に付けるべき教養として、健康の概念やヒトの生理的機能の仕組みに関する講義を行う。

授業項目

1 オリエンテーション（授業概要、評価方法の説明）
2
現代社会の健康問題（１）～疾病構造の変遷、平均寿命、健康寿命～
3
現代社会の健康問題（２）～社会構造の変化と生活習慣病発症の関連性～
4
健康獲得のためのスポーツ科学の基礎　～生理的：心理的側面からのアプローチ～
5
健康獲得のためのスポーツ科学の応用　～生理的：心理的側面からのアプローチ～
6 運動処方論（身体的側面・心理的側面）の概念
7 健康獲得のための具体的運動処方プログラムの作成
8 まとめとテスト

授業の進め方

講義形式で進める。身近な例を挙げたり、視聴覚教材を活用することで、わかりやすい講義をこころがける。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 健康概念の理解（身体と心の健康）
2.
ヒトの生理的・心理的機能の基礎および運動の仕組みに関する基本的知識の習得
3. 運動処方やトレーニング計画の立案・実施

成績評価の基準および評価方法

レポート・小テスト（30%）および期末テスト（70%）で評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

毎回、次の講義のキーワードを挙げるので、事前に調べてくること。

キーワード

健康、生活習慣病、ヒトの生理機能、身体のトレーニング

教科書

指定しない。

参考書

・「現代人のからだと心の健康」、杏林書店　平木場浩二編　（2014年発行）

備考

受講生は年度始めの健康診断を受けて、その結果の大略を把握しておくこと。

電子メールアドレス

obata@dhs.kyutech.ac.jp

健康スポーツ科学論 (Exercise Prescription)

科目コード：01009435
担当教員：小幡　博基
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(コラボ教育支援棟)Co-1A
更新日：2017/06/12 07:03:15

授業の概要

現代社会の急激な変化は、ヒトの生物学的・心理学的・社会学的不適応を招来し、いろいろな健康問題をなげかけている。特に、車社会に代表されるように、日常生活の身体活動水準の低下とそれに関わる健康問題（運動不足病）は象徴的である。本講義では、健康科学とスポーツ科学の関連性から、現代社会が抱える健康問題について概説し、Quality of Life（QOL）達成のための積極的な健康獲得方法について講義する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

大学生が身に付けるべき教養として、健康の概念やヒトの生理的機能の仕組みに関する講義を行う。

授業項目

1 オリエンテーション（授業概要、評価方法の説明）
2
現代社会の健康問題（１）～疾病構造の変遷、平均寿命、健康寿命～
3
現代社会の健康問題（２）～社会構造の変化と生活習慣病発症の関連性～
4
健康獲得のためのスポーツ科学の基礎　～生理的：心理的側面からのアプローチ～
5
健康獲得のためのスポーツ科学の応用　～生理的：心理的側面からのアプローチ～
6 運動処方論（身体的側面・心理的側面）の概念
7 健康獲得のための具体的運動処方プログラムの作成
8 まとめとテスト

授業の進め方

講義形式で進める。身近な例を挙げたり、視聴覚教材を活用することで、わかりやすい講義をこころがける。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 健康概念の理解（身体と心の健康）
2.
ヒトの生理的・心理的機能の基礎および運動の仕組みに関する基本的知識の習得
3. 運動処方やトレーニング計画の立案・実施

成績評価の基準および評価方法

レポート・小テスト（30%）および期末テスト（70%）で評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

毎回、次の講義のキーワードを挙げるので、事前に調べてくること。

キーワード

健康、生活習慣病、ヒトの生理機能、身体のトレーニング

教科書

指定しない。

参考書

・「現代人のからだと心の健康」、杏林書店　平木場浩二編　（2014年発行）

備考

受講生は年度始めの健康診断を受けて、その結果の大略を把握しておくこと。

電子メールアドレス

obata@dhs.kyutech.ac.jp

健康スポーツ科学論 (Exercise Prescription)

科目コード：01009435
担当教員：小幡　博基
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：03,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2F講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

現代社会の急激な変化は、ヒトの生物学的・心理学的・社会学的不適応を招来し、いろいろな健康問題をなげかけている。特に、車社会に代表されるように、日常生活の身体活動水準の低下とそれに関わる健康問題（運動不足病）は象徴的である。本講義では、健康科学とスポーツ科学の関連性から、現代社会が抱える健康問題について概説し、Quality of Life（QOL）達成のための積極的な健康獲得方法について講義する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

大学生が身に付けるべき教養として、健康の概念やヒトの生理的機能の仕組みに関する講義を行う。

授業項目

1 オリエンテーション（授業概要、評価方法の説明）
2
現代社会の健康問題（１）～疾病構造の変遷、平均寿命、健康寿命～
3
現代社会の健康問題（２）～社会構造の変化と生活習慣病発症の関連性～
4
健康獲得のためのスポーツ科学の基礎　～生理的：心理的側面からのアプローチ～
5
健康獲得のためのスポーツ科学の応用　～生理的：心理的側面からのアプローチ～
6 運動処方論（身体的側面・心理的側面）の概念
7 健康獲得のための具体的運動処方プログラムの作成
8 まとめとテスト

授業の進め方

講義形式で進める。身近な例を挙げたり、視聴覚教材を活用することで、わかりやすい講義をこころがける。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 健康概念の理解（身体と心の健康）
2.
ヒトの生理的・心理的機能の基礎および運動の仕組みに関する基本的知識の習得
3. 運動処方やトレーニング計画の立案・実施

成績評価の基準および評価方法

レポート・小テスト（30%）および期末テスト（70%）で評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

毎回、次の講義のキーワードを挙げるので、事前に調べてくること。

キーワード

健康、生活習慣病、ヒトの生理機能、身体のトレーニング

教科書

指定しない。

参考書

・「現代人のからだと心の健康」、杏林書店　平木場浩二編　（2014年発行）

備考

受講生は年度始めの健康診断を受けて、その結果の大略を把握しておくこと。

電子メールアドレス

obata@dhs.kyutech.ac.jp

スポーツ実技 I (Sport and Exercise I)

科目コード：01009436
担当教員：小幡　博基
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

一般に普及しているスポーツ種目の学習をとおして、スポーツ文化やスポーツ技能習得および身体運動に対する科学的思考能力を育成し、健康および体力を増進する態度を養う。健康や体力増進の方法を学習するとともに、スポーツ障害を未然に防ぐための基礎知識の習得を図る。スポーツ実技Iでは、個人競技を中心としたスポーツ種目を開設する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

毎回、身体運動をとおして（あるいは身体運動に関する）学習を行なう。
通常の教室における講義と異なる。

授業項目

1 オリエンテーション
2 当該スポーツの基本原則、基本技術、諸ルールの説明
3 個人技術の基本練習
4 個人技術の応用練習
5 戦術の理解と練習
6 ルールの理解と模擬試合
7 試合と審判法
8 まとめ、当該ゲームの成績集計とレポート作成

授業の進め方

基本技術を習得し、応用技術・ゲームへと発展させる。また並行して、ルール・審判法を身に付ける。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 各種スポーツに関する運動文化の理解
2. 各種スポーツ・運動技能の向上
3. スポーツ活動の実践力の習得

成績評価の基準および評価方法

スポーツ活動への参加・成績の集計結果を基にしたレポート作成・提出と授業に対する「積極的継続性」の有無や授業態度等も含めて総合的に評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

体調管理を十分行い、前回の授業の学習事項を確認しておくこと。

キーワード

スポーツ活動、身体のトレーニング

教科書

使用しない。

参考書

・「観るまえに読む大修館スポーツルール」、大修館書店編集部編（2016年発行）

・「教養としての身体運動・健康科学」、東京大学身体運動科学研究室編、東京大学出版会（2014年発行）

備考

・比較的運動強度の軽い個人スポーツ種目を男女混合で開設する。
・受講生は年度始めの健康診断を受けておくこと。

電子メールアドレス

obata@dhs.kyutech.ac.jp

スポーツ実技 I (Sport and Exercise I)

科目コード：01009436
担当教員：小幡　博基
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：
更新日：2017/06/12 07:03:15

授業の概要

一般に普及しているスポーツ種目の学習をとおして、スポーツ文化やスポーツ技能習得および身体運動に対する科学的思考能力を育成し、健康および体力を増進する態度を養う。健康や体力増進の方法を学習するとともに、スポーツ障害を未然に防ぐための基礎知識の習得を図る。スポーツ実技Iでは、個人競技を中心としたスポーツ種目を開設する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

毎回、身体運動をとおして（あるいは身体運動に関する）学習を行なう。
通常の教室における講議と異なる。

授業項目

1 オリエンテーション
2 当該スポーツの基本原則、基本技術、諸ルールの説明
3 個人技術の基本練習
4 個人技術の応用練習
5 戦術の理解と練習
6 ルールの理解と模擬試合
7 試合と審判法
8 まとめ、当該ゲームの成績集計とレポート作成

授業の進め方

基本技術を習得し、応用技術・ゲームへと発展させる。また並行して、ルール・審判法を身に付ける。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 各種スポーツに関する運動文化の理解
2. 各種スポーツ・運動技能の向上
3. スポーツ活動の実践力の習得

成績評価の基準および評価方法

スポーツ活動への参加・成績の集計結果を基にしたレポート作成・提出と授業に対する「積極的継続性」の有無や授業態度等も含めて総合的に評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

体調管理を十分行い、前回の授業の学習事項を確認しておくこと。

キーワード

スポーツ活動、身体のトレーニング

教科書

使用しない。

参考書

・「観るまえに読む大修館スポーツルール」、大修館書店編集部編（2016年発行）

・「教養としての身体運動・健康科学」、東京大学身体運動科学研究室編、東京大学出版会（2014年発行）

備考

・比較的運動強度の軽い個人スポーツ種目を男女混合で開設する。
・受講生は年度始めの健康診断を受けておくこと。

電子メールアドレス

obata@dhs.kyutech.ac.jp

スポーツ実技 II (Sport and Exercise II)

科目コード：01009437
担当教員：小幡　博基
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

一般に普及しているスポーツ種目の学習をとおして、スポーツ文化やスポーツ技能習得および身体運動に対する科学的思考能力を育成し、健康および体力を増進する態度を養う。健康や体力増進の方法を学習するとともに、スポーツ障害を未然に防ぐための基礎知識の習得を図る。スポーツ実技Iでは、個人競技を中心としたスポーツ種目を開設する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

毎回、身体運動をとおして（あるいは身体運動に関する）学習を行なう。
通常の教室における講義と異なる。

授業項目

1 オリエンテーション
2 当該スポーツの基本原則、基本技術、諸ルールの説明
3 個人技術の練習
4 集団技術の練習
5 戦術の理解と練習
6 ルールの理解と模擬試合
7 試合と審判法
8 まとめ、当該ゲームの成績集計とレポート作成

授業の進め方

個人技術を習得し、集団技術や戦術、ゲームへと発展させる。また並行して、ルール・審判法を身に付ける。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 各種スポーツに関する運動文化の理解
2. 各種スポーツ・運動技能の向上
3. スポーツ活動の実践力の習得

成績評価の基準および評価方法

スポーツ活動への参加・成績の集計結果を基にしたレポート作成・提出と授業に対する「積極的継続性」の有無や授業態度等も含めて総合的に評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

体調管理を十分行い、前回の授業の学習事項を確認しておくこと。

キーワード

スポーツ活動、身体のトレーニング

教科書

使用しない。

参考書

・「観るまえに読む大修館スポーツルール」、大修館書店編集部編（2016年発行）

・「教養としての身体運動・健康科学」、東京大学身体運動科学研究室編、東京大学出版会（2014年発行）

備考

・比較的運動強度の強い団体スポーツ種目を男女混合で開設する。
・受講生は年度始めの健康診断を受けておくこと。

電子メールアドレス

obata@dhs.kyutech.ac.jp

スポーツ実技 II (Sport and Exercise II)

科目コード：01009437
担当教員：小幡　博基
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 2限,　講義室：
更新日：2017/06/12 07:03:37

授業の概要

一般に普及しているスポーツ種目の学習をとおして、スポーツ文化やスポーツ技能習得および身体運動に対する科学的思考能力を育成し、健康および体力を増進する態度を養う。健康や体力増進の方法を学習するとともに、スポーツ障害を未然に防ぐための基礎知識の習得を図る。スポーツ実技Iでは、個人競技を中心としたスポーツ種目を開設する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

毎回、身体運動をとおして（あるいは身体運動に関する）学習を行なう。
通常の教室における講議と異なる。

授業項目

1 オリエンテーション
2 当該スポーツの基本原則、基本技術、諸ルールの説明
3 個人技術の練習
4 集団技術の練習
5 戦術の理解と練習
6 ルールの理解と模擬試合
7 試合と審判法
8 まとめ、当該ゲームの成績集計とレポート作成

授業の進め方

個人技術を習得し、集団技術や戦術、ゲームへと発展させる。また並行して、ルール・審判法を身に付ける。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 各種スポーツに関する運動文化の理解
2. 各種スポーツ・運動技能の向上
3. スポーツ活動の実践力の習得

成績評価の基準および評価方法

スポーツ活動への参加・成績の集計結果を基にしたレポート作成・提出と授業に対する「積極的継続性」の有無や授業態度等も含めて総合的に評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

体調管理を十分行い、前回の授業の学習事項を確認しておくこと。

キーワード

スポーツ活動、身体のトレーニング

教科書

使用しない。

参考書

・「観るまえに読む大修館スポーツルール」、大修館書店編集部編（2016年発行）

・「教養としての身体運動・健康科学」、東京大学身体運動科学研究室編、東京大学出版会（2014年発行）

備考

・比較的運動強度の強い団体スポーツ種目を男女混合で開設する。
・受講生は年度始めの健康診断を受けておくこと。

電子メールアドレス

obata@dhs.kyutech.ac.jp

異文化間コミュニケーション論 (Intercultural Communication)

科目コード：01009438
担当教員：加藤　鈴子
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

グローバル化がますます進む現在、ヒト、カネ、モノ、情報が、国境を越えて地球上を行き来している。グローバル化の影響は、政治、経済、社会、文化などいずれの領域にも及んでおり、地球に暮らす私たちの日常生活に深く関わっている。日本においても多様化する社会の認知、受容が大切な課題となっており、私たち一人ひとりが地球市民(グローバル社会の一員)として、多文化共生社会の構築を担っていくことが求められている。

そこでこの授業では、私たちがこの地球社会において多様な人々と共に暮らしていくために必要な以下の技能・態度を涵養し、地球市民の一員としての自覚を喚起することとを目的とする。

１）多様化する社会の現状に関して適切な情報や知識を得る力（幅広い視野、情報収集能力、批判的思考など）。
２）多文化社会で対話する力（異文化コミュニケーション能力、豊かな感受性と想像力など）
３）「異質性を楽しむ」態度
４）共生のための新文化を構築する豊かな発想力や創造力
５）自分自身の文化を理解し、客観的に説明する力

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

グローバル教養科目の一つでありGEコースの修了要件単位となる。GEコースに所属しない学生には、人文社会系選択必修科目となる。

授業項目

第１回 異文化コミュニケーション力とは
　履修のための心構えの確認と異文化コミュニケーションについての導入を行う。
第２回 多文化環境でのコミニケーション
　文化的差異を克服するためのコミュニケーションのポイントを体験的に確認する。
第３回 文化と差別
　社会に存在する様々な差別を文化的視点から再考える。
第４回 文化と個人の多様性
　個人に内在する文化的多様性について内省する。
第５回 コミュニケーションの阻害要因
　コミュニケーションを阻む要因を文化的視点のみにとどまらず分析する。
第６回 文化とメディア
　文化の構築・継承に及ぼすメディアの影響を分析する

。

第７回 グローバル社会における異文化接触

グローバル化する社会における異文化接触のダイナミズムを理解する

第８回 多文化とうまくつきあう

差別や不平等を克服するため、社会・個人の多様性を受容することの意義について理解を深める。

授業の進め方

この授業ではアクティブ・ラーニングの考え方に基づき、学修者の能動的な学修への参加を前提に、授業内・外におけるグループ活動を行う。具体的には、グループ・ディスカッション、グループによる調査学習、グループ発表などを行う。そのため、授業への能動的参加が必須である。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

本授業は自文化・母国文化の多様性の認識、地球社会に存在する文化の多様性の認識、文化的差異を克服するコミュニケーションスキル、そして社会的力関係の批判的分析にもとづくより平等な多文化共生社会のあり方を模索することを目標とする。具体的には以下の項目を目標とする。

1.
自文化・母国文化を世界の文化の一つとして捉え、他者との差異を文化的観点から説明することができる。

2.
自文化・母国文化の多様性を具体的・論理的に説明することができる。

3.
多様なものの見方・考え方を理解し、その背景にある文化的価値観を説明することができる。

4.
より平等な多文化共生社会を構築するための意見・アイデアを述べることができる。

5. 氾濫する情報を批判的視点から分析することができる。

6.
文化的差異を乗り越え相互理解を図るためのコミュニケーションスキルを意識し、実践することができる。

成績評価の基準および評価方法

到達目標1～2および6について、グループ学習課題への取り組みにより評価する（課題実施20%および発表20%)。3～5ついては、事前読物課題を用いた授業内ディスカッションへの準備、貢献、共有により評価する（30%）。また1˜5について学期末レポート課題（20%)により総合的に評価する。6については授業内活動への貢献に対する自己・相互評価と授業内課題（ミニッツペーパー）（10%）により評価する。
合計で６０点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

授業外学習（グループ学習など）を元に、授業内でディスカッションや発表を行うため、授業外学習が評価の重要な部分を占める。また、授業内ディスカッションの準備として、課題読み物の理解確認をMoodleにて提出する。

キーワード

グローバル化、異文化コミュニケーション能力、多文化共生、人権、文化と偏見・差別、メディア・リテラシー

教科書

教科書は使用しないが、参考文献は授業中に紹介する。

参考書

原沢伊都夫(2013)『異文化理解入門』研究社
八島智子・久保田真弓(2012)『異文化コミュニケーション論:グローバル・マインドとローカル・アフェクト』松柏社
松尾知明(2011)『多文化共生のためのテキストブック』明石書店
池田理知子編(2010)『よくわかる異文化コミュニケーション』ミネルヴァ書房
八代京子他編(2009)『異文化トレーニング:ボーダレス社会を生きる[改訂版]』三修社
久米昭元・長谷川典子(2007)『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣選書

備考

電子メールアドレス

kato@ltc.kyutech.ac.jp

西洋近現代史 (Modern History of Europe)

科目コード：01009441
担当教員：水井　万里子
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:15

授業の概要

2Q（月曜 1 限）

●授業の背景

現代日本に暮らす私たちは「近代化」「工業化」というキーワードに対して過去をどう見つめればよいのか。西洋は最初に近代化と工業化を経験し、その後海外植民地を有するようになった国家を抱えている。グローバル化を経験する現代において、これらの西洋の国々がどのような歴史を経て現代にあるのか、理解することは世界の中の日本の位置づけを理解することに役立つ。

●授業の目的

18世紀から20世紀を対象時期として、西洋における工業化、植民地形成、人々の移動と人権の歴史について考える。そして、グローバル化した現代における多様な文化のあり方を長期的な時間軸で理解する。

●授業の位置づけ

「工業化」または「産業革命」や「近代化」といったキーワードは、現代の世界を理解するための基礎的な概念である。これらを経験した西洋の国々が形成した植民地やその他の地域に人々が移動し、現代世界はできあがってきた。多様な文化はその過程でそれぞれの地域で受け入れられ、融合してきたのである。授業ではこの過程をしっかりと理解する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

人文社会系のグローバル教養科目に含まれる。2017年度入学の1年生から履修できる科目である。多様な文化を理解するための基本的な学習能力を身につける。

授業項目

① ガイダンス
② 西洋と工業化
③ 情報検索とレポート作成
④ 都市化と工業化
⑤ 植民地形成
⑥ 人々の移動
⑦ 啓蒙と人権
⑧ まとめとテスト

授業の進め方

授業はスライドを用いた講義形式で行う。期末テストの前にはキーワードをあげて内容を振返る。自由課題レポートは時間学習として行い学期末に提出する。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

本授業では多様な文化理解を目標とし、以下の達成目標を置く。

1. 近現代の西洋の歴史を理解できる
2. 多様な文化の交流について歴史的に理解できる
3. 文献や資料の調査、論理的な表現力を身につける。

成績評価の基準および評価方法

期末時に提出するレポートは自由論題で、主に授業外の学習として自主的に行う。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。テストは論述式。

●成績評価

レポート　40%
期末テスト　60%

授業外学習（予習・復習）の指示

自由課題のレポートを計画的に作成するので、授業時間外に付属図書館やインターネットなどで情報収集を進めておく。

キーワード

西洋近現代、工業化、産業革命、都市化、植民地、移動、人権

教科書

参考書

備考

電子メールアドレス

mizui@dhs.kyutech.ac.jp

西洋近現代史 (Modern History of Europe)

科目コード：01009441
担当教員：水井　万里子
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

１Ｑ（月曜１限）

●授業の背景

現代日本に暮らす私たちは「近代化」「工業化」というキーワードに対して過去をどう見つめればよいのか。西洋は最初に近代化と工業化を経験し、その後海外植民地を有するようになった国家を抱えている。グローバル化を経験する現代において、これらの西洋の国々がどのような歴史を経て現代にあるのか、理解することは世界の中の日本の位置づけを理解することに役立つ。

●授業の目的

18世紀から20世紀を対象時期として、西洋における工業化、植民地形成、人々の移動と人権の歴史について考える。そして、グローバル化した現代における多様な文化のあり方を長期的な時間軸で理解する。

●授業の位置づけ

「工業化」または「産業革命」や「近代化」といったキーワードは、現代の世界を理解するための基礎的な概念である。これらを経験した西洋の国々が形成した植民地やその他の地域に人々が移動し、現代世界はできあがってきた。多様な文化はその過程でそれぞれの地域で受け入れられ、融合してきたのである。授業ではこの過程をしっかりと理解する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

人文社会系のグローバル教養科目に含まれる。2017年度入学の1年生から履修できる科目である。多様な文化を理解するための基本的な学習能力を身につける。

授業項目

① ガイダンス
② 西洋と工業化
③ 情報検索とレポート作成
④ 都市化と工業化
⑤ 植民地形成
⑥ 人々の移動
⑦ 啓蒙と人権
⑧ まとめとテスト

授業の進め方

授業はスライドを用いた講義形式で行う。期末テストの前にはキーワードをあげて内容を振返る。自由課題レポートは時間学習として行い学期末に提出する。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

本授業では多様な文化理解を目標とし、以下の達成目標を置く。

1. 近現代の西洋の歴史を理解できる
2. 多様な文化の交流について歴史的に理解できる
3. 文献や資料の調査、論理的な表現力を身につける。

成績評価の基準および評価方法

期末時に提出するレポートは自由論題で、主に授業外の学習として自主的に行う。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。テストは論述式。

●成績評価

レポート　40%
期末テスト　60%

授業外学習（予習・復習）の指示

自由課題のレポートを計画的に作成するので、授業時間外に付属図書館やインターネットなどで情報収集を進めておく。

キーワード

西洋近現代、工業化、産業革命、都市化、植民地、移動、人権

教科書

教科書は使用しない。

参考書

木畑洋一・秋田茂編『近代イギリスの歴史　16世紀から現代まで』ミネルヴァ書房、2011年。233/K-8

備考

【履修上の注意事項】

第一回目の授業で注意点を述べます。授業中に紹介する図書や文献を参考にし、自ら積極的に理解を深めることに努めてください。

【オフィスアワー等】

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスまで。
学期中のオフィスアワーは月曜日12時30分から13時30分まで（Ｃ－３０５）

電子メールアドレス

mizui@dhs.kyutech.ac.jp

東南アジア文化論 ()

科目コード：01009442
担当教員：成末　繁郎
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(教育研究3号棟)3-1A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

講師自身のフィールドであるタイとインドネシアを中心に、それぞれ国々の人々の思考パターンや行為のパターンを神話や儀礼、王権及び国家に関するトピックを通して紹介し、分析する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

文化人類学や記号論の方法論を使用して講義を進めるので、それぞれの分野の入門書を読んでおくと理解が深まる。

授業項目

1.0 東南アジア諸国の概況と講義概要
　取り扱うタイとインドネシアに関する概説と講義概要解説
2.0 分析の基礎をなす文化人類学と記号論の解説
　文化人類学の他者理解の戦略の解説と記号論入門
3.0 タイの仏教と王権の関係01
　タイの人々に絶大な影響力を持つ王権と仏教の実態を解説する。
4.0 タイの仏教徒王権の関係02
　タイの王権と仏教の相互依存的な関係を検討する。
5.0
グローバル化を考える：タイのポップカルチャー最新情報
　タイの今現在を伝える映像を鑑賞する。
6.0 インドネシアのイスラム・ヒンドゥ世界
　ここではインドネシアのバリの人々の生活世界を解説する。
7.0 劇場国家論と想像の共同体：バリ島のコスモロジー
　バリの民族誌をもとにした非常に有名な国家概念を解説する
8.0 定期試験と解説

授業の進め方

上記の項目にしたがって講義する.

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
.東南アジア、特にタイ、インドネシア等の文化の地域的な特徴と他の地域と共通する普遍的な特徴について理解し説明できる。
2.
.相対主義的に考えるというdispositionを身につけること。

成績評価の基準および評価方法

期末試験（95%）及びレポート（５%）で評価する。
60点以上を合格とする

授業外学習（予習・復習）の指示

講義で取り扱う地域の具体的な慣習や儀礼などを動画サイトを使って視聴しておくとより講義の理解が深まるのでお勧めする。

キーワード

仏教、イスラム教、王権、国家、儀礼

教科書

なし。適宜プリントを配布する。

参考書

1)Tambiah, S.J., 1977, World Conqueror and World Renouncer : A Study of Buddhism and Polity in Thailand against a historical background., Cambridge University Press.
2)Tambiah, S. J., 1984. The Buddhist saints of the forest and the cult of amulets. Cambridge University Press.
3)C.ギアーツ　1987　『文化の解釈学』　(訳　吉田禎吾、中牧弘允、柳川啓一、板橋作美)(岩波現代選書)

備考

電子メールアドレス

東南アジア文化論 ()

科目コード：01009442
担当教員：成末　繁郎
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(教育研究3号棟)3-1A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:15

授業の概要

講師自身のフィールドであるタイとインドネシアを中心に、それぞれ国々の人々の思考パターンや行為のパターンを神話や儀礼、王権及び国家に関するトピックを通して紹介し、分析する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

文化人類学や記号論の方法論を使用して講義を進めるので、それぞれの分野の入門書を読んでおくと理解が深まる。

授業項目

1.0 東南アジア諸国の概況と講義概要
　取り扱うタイとインドネシアに関する概説と講義概要解説
2.0 分析の基礎をなす文化人類学と記号論の解説
　文化人類学の他者理解の戦略の解説と記号論入門
3.0 タイの仏教と王権の関係01
　タイの人々に絶大な影響力を持つ王権と仏教の実態を解説する。
4.0 タイの仏教徒王権の関係02
　タイの王権と仏教の相互依存的な関係を検討する。
5.0
グローバル化を考える：タイのポップカルチャー最新情報
　タイの今現在を伝える映像を鑑賞する。
6.0 インドネシアのイスラム・ヒンドゥ世界
　ここではインドネシアのバリの人々の生活世界を解説する。
7.0 劇場国家論と想像の共同体：バリ島のコスモロジー
　バリの民族誌をもとにした非常に有名な国家概念を解説する
8.0 定期試験と解説

授業の進め方

上記の項目にしたがって講義する.

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
.東南アジア、特にタイ、インドネシア等の文化の地域的な特徴と他の地域と共通する普遍的な特徴について理解し説明できる。
2.
.相対主義的に考えるというdispositionを身につけること。

成績評価の基準および評価方法

期末試験（95%）及びレポート（５%）で評価する。
60点以上を合格とする

授業外学習（予習・復習）の指示

講義で取り扱う地域の具体的な慣習や儀礼などを動画サイトを使って視聴しておくとより講義の理解が深まるのでお勧めする。

キーワード

仏教、イスラム教、王権、国家、儀礼

教科書

なし。適宜プリントを配布する。

参考書

1)Tambiah, S.J., 1977, World Conqueror and World Renouncer : A Study of Buddhism and Polity in Thailand against a historical background., Cambridge University Press.
2)Tambiah, S. J., 1984. The Buddhist saints of the forest and the cult of amulets. Cambridge University Press.
3)C.ギアーツ　1987　『文化の解釈学』　(訳　吉田禎吾、中牧弘允、柳川啓一、板橋作美)(岩波現代選書)

備考

電子メールアドレス

心理適応論 ()

科目コード：01009443
担当教員：山口　雄介
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟北)C-1A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:15

授業の概要

この授業では，適応にまつわる諸問題や，心理学の理論を学び，自己理解や他者理解を深め，授業で学んだことを自分自身の日常生活に役立てられるようになることをねらいとする。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

グローバルで活躍するために必要な一般教養を身につけることが目的の科目の一つである。前提知識などは必要ではない。

授業項目

1.0 オリエンテーション
2.0 適応と不適応
3.0 適応とストレス
4.0 適応とパーソナリティー
5.0 適応と人間関係
6.0 適応と異文化
7.0 適応とライフサイクル
8.0 おさらい・期末試験

授業の進め方

各回のテーマに沿って講義を行う。アンケートを行うなどして，受講者の意見を取り入れながら授業を進めたい。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
適応にまつわる諸問題や心理学の概念について関心を持ち，授業で学んだ内容を自分自身の日常生活に活かせるようになること。
2.
授業を通じて適応について複数の視点から考えられるようになること。

成績評価の基準および評価方法

試験80%、レポート20%で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

予習が必要な場合は事前に指示をする。復習は日常生活を授業で学んだことと関連づけることで行っていただきたい。

キーワード

心理学，適応

教科書

なし。必要に応じて資料を配付する。

参考書

授業中に適宜紹介する。

備考

電子メールアドレス

心理適応論 ()

科目コード：01009443
担当教員：山口　雄介
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟北)C-1A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

この授業では，適応にまつわる諸問題や，心理学の理論を学び，自己理解や他者理解を深め，授業で学んだことを自分自身の日常生活に役立てられるようになることをねらいとする。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

グローバルで活躍するために必要な一般教養を身につけることが目的の科目の一つである。前提知識などは必要ではない。

授業項目

1.0 オリエンテーション
2.0 適応と不適応
3.0 適応とストレス
4.0 適応とパーソナリティー
5.0 適応と人間関係
6.0 適応と異文化
7.0 適応とライフサイクル
8.0 おさらい・期末試験

授業の進め方

各回のテーマに沿って講義を行う。アンケートを行うなどして，受講者の意見を取り入れながら授業を進めたい。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
適応にまつわる諸問題や心理学の概念について関心を持ち，授業で学んだ内容を自分自身の日常生活に活かせるようになること。
2.
授業を通じて適応について複数の視点から考えられるようになること。

成績評価の基準および評価方法

試験80%、レポート20%で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

予習が必要な場合は事前に指示をする。復習は日常生活を授業で学んだことと関連づけることで行っていただきたい。

キーワード

心理学，適応

教科書

なし。必要に応じて資料を配付する。

参考書

授業中に適宜紹介する。

備考

電子メールアドレス

東アジア論 (East Asian Studies)

科目コード：01009444
担当教員：後藤　啓倫
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟北)C-1B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

●授業の背景

現在の東アジアとりわけ日本、中国、韓国は、歴史認識や国境に関する様々な問題を抱えています。しかし、日本、中国、韓国は、これら問題の解決の糸口を見つけるどころか、これらをめぐって相互の対立を深めているように見えます。日中韓がともに納得するような共通理解はすぐには出てこないかもしれませんが、今後も模索し続ける必要はあるでしょう。そこで、この授業では、第一次世界大戦からアジア太平洋戦争までの東アジアの歴史を学び今後の日本と東アジアとのかかわりについて考えます。

●授業の目的

本授業では、近代以降の日本がどのように東アジア（特に中国・韓国）とかかわってきたのかついて学びます。主に、戦争や植民地支配に関する事実と背景を解説していきます。日本と東アジアの関係史には現在でも未だに争点となる問題が多く含まれれています。東アジアの歴史を学ぶことで現在の日本を取り巻く国際環境の成り立ちを理解するとともに、自国だけでなく他国の立場からもみた近代以降の東アジアの歴史を理解することを目指します。

●授業の位置づけ

本授業では、現在の東アジア（特に日中韓）が抱える諸問題について歴史的観点からアプローチすることで、東アジアの歴史的事実に関する知識を習得し、東アジアを多角的な観点から論じる姿勢を身につけます。歴史的に考察することを通じて、現在の問題を相対化する視点を養います。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識は特に必要ない。関心のある学生は歴史学、政治学、日本政治論の受講を勧める。

授業項目

第１回　ガイダンス
第２回　第一次世界大戦後の東アジア
第３回　満洲事変
第４回　日中戦争
第５回　日中戦争の長期化
第６回　アジア太平洋戦争
第７回　戦時下の人々
第８回 総括・期末試験

授業の進め方

授業は講義形式で行なう。配布資料等を用いて補足説明をする。授業項目は学生の理解、関心に応じて変更する場合もある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 日本と東アジアの歴史的事実に関する知識の習得
2. 歴史認識において多様な立場があることを理解する
3.
歴史的に考察することを通じて、現在の東アジアが抱える問題とそれ
に関する報道などを相対化して考える姿勢を養う

成績評価の基準および評価方法

期末試験（100%）の結果で評価する。60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

授業で扱う事件や登場人物に関する参考文献をその都度紹介するので、参考文献を通じて復習し、理解に努めること。

キーワード

日本、中国、韓国、東アジア、歴史

教科書

教科書は使用しない。参考文献は授業中に紹介する。

参考書

備考

【履修上の注意事項】
教科書を使わないので、自分で講義を聴いてノートをとる必要がある。

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

東アジア論 (East Asian Studies)

科目コード：01009444
担当教員：後藤　啓倫
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟北)C-1B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:37

授業の概要

●授業の背景

現在の東アジアとりわけ日本、中国、韓国は、歴史認識や国境に関する様々な問題を抱えています。しかし、日本、中国、韓国は、これら問題の解決の糸口を見つけるどころか、これらをめぐって相互の対立を深めているように見えます。日中韓がともに納得するような共通理解はすぐには出てこないかもしれませんが、今後も模索し続ける必要はあるでしょう。そこで、この授業では、第一次世界大戦からアジア太平洋戦争までの東アジアの歴史を学び今後の日本と東アジアとのかかわりについて考えます。

●授業の目的

本授業では、近代以降の日本がどのように東アジア（特に中国・韓国）とかかわってきたのかついて学びます。主に、戦争や植民地支配に関する事実と背景を解説していきます。日本と東アジアの関係史には現在でも未だに争点となる問題が多く含まれれています。東アジアの歴史を学ぶことで現在の日本を取り巻く国際環境の成り立ちを理解するとともに、自国だけでなく他国の立場からもみた近代以降の東アジアの歴史を理解することを目指します。

●授業の位置づけ

本授業では、現在の東アジア（特に日中韓）が抱える諸問題について歴史的観点からアプローチすることで、東アジアの歴史的事実に関する知識を習得し、東アジアを多角的な観点から論じる姿勢を身につけます。歴史的に考察することを通じて、現在の問題を相対化する視点を養います。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識は特に必要ない。関心のある学生は歴史学、政治学、日本政治論の受講を勧める。

授業項目

第１回　ガイダンス
第２回　第一次世界大戦後の東アジア
第３回　満洲事変
第４回　日中戦争
第５回　日中戦争の長期化
第６回　アジア太平洋戦争
第７回　戦時下の人々
第８回 総括・期末試験

授業の進め方

授業は講義形式で行なう。配布資料等を用いて補足説明をする。授業項目は学生の理解、関心に応じて変更する場合もある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 日本と東アジアの歴史的事実に関する知識の習得
2. 歴史認識において多様な立場があることを理解する
3.
歴史的に考察することを通じて、現在の東アジアが抱える問題とそれ
に関する報道などを相対化して考える姿勢を養う

成績評価の基準および評価方法

期末試験（100%）の結果で評価する。60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

授業で扱う事件や登場人物に関する参考文献をその都度紹介するので、参考文献を通じて復習し、理解に努めること。

キーワード

日本、中国、韓国、東アジア、歴史

教科書

教科書は使用しない。参考文献は授業中に紹介する。

参考書

備考

【履修上の注意事項】
教科書を使わないので、自分で講義を聴いてノートをとる必要がある。

【オフィスアワー等】

電子メールアドレス

国際経営論 (International Business)

科目コード：01009447
担当教員：小江　茂徳
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:15

授業の概要

この講義は国際経営論の基礎的な知識を修得することを目的とします。
今日の企業経営において求められるのは、グローバルな視点です。この講義を通じて、グローバルに展開する企業がどのような経営を行っているのかを学びます。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

特に経営学の知識は必要としません。他の経営学関連の科目も履修し、経営に関する理解を深めましょう。

授業項目

第１回 イントロダクション
　講義の概要や国際経営について説明します
第２回 国際経営の基礎
　国際経営の時代的背景、基礎について学びます
第３回 国際経営戦略
　国際経営における戦略について学びます
第４回 国際マーケティング
　国際経営におけるマーケティングについて学びます
第５回 多国籍企業の組織形態
　国籍企業の組織形態と設計について学びます
第６回 海外子会社の経営
　海外子会社の経営の基礎について学びます
第７回 グローバル社会における日本：観光
　グローバル社会における日本の観光の現状について学びます
第８回 復習と定期試験
　全体の復習と定期試験を行います

授業の進め方

主に講義形式で進めます。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

本講義は国際経営の基礎を学ぶことを目的とし、以下を到達目標とします。
1. 国際経営に関する基礎的な概念や理論を理解する
2.
国際経営に関する基礎的な概念・理論を用いて、具体的な企業行動を説明できる

成績評価の基準および評価方法

定期試験（100%）で評価します。

授業外学習（予習・復習）の指示

講義の最初に前回の復習をするので、ノートや資料を見直しておくようにしてください。

キーワード

国際経営、国際経営戦略、海外生産、海外直接投資、グローバル化

教科書

特に使用しません。

参考書

・吉原英樹『国際経営（第4版）』有斐閣アルマ、2015年
・中川功一他『はじめての国際経営』有斐閣、2015年

備考

【履修上の注意事項】
日頃からニュースや新聞に目を通し、国際経営に関する情報を得ておくようにしてください。

【オフィスアワー等】
月曜日・3限

電子メールアドレス

講義中にお知らせします。

国際経営論 (International Business)

科目コード：01009447
担当教員：小江　茂徳
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

この講義は国際経営論の基礎的な知識を修得することを目的とします。
今日の企業経営において求められるのは、グローバルな視点です。この講義を通じて、グローバルに展開する企業がどのような経営を行っているのかを学びます。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

特に経営学の知識は必要としません。他の経営学関連の科目も履修し、経営に関する理解を深めましょう。

授業項目

第１回 イントロダクション
　講義の概要や国際経営について説明します
第２回 国際経営の基礎
　国際経営の時代的背景、基礎について学びます
第３回 国際経営戦略
　国際経営における戦略について学びます
第４回 国際マーケティング
　国際経営におけるマーケティングについて学びます
第５回 多国籍企業の組織形態
　国籍企業の組織形態と設計について学びます
第６回 海外子会社の経営
　海外子会社の経営の基礎について学びます
第７回 グローバル社会における日本：観光
　グローバル社会における日本の観光の現状について学びます
第８回 復習と定期試験
　全体の復習と定期試験を行います

授業の進め方

主に講義形式で進めます。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

本講義は国際経営の基礎を学ぶことを目的とし、以下を到達目標とします。
1. 国際経営に関する基礎的な概念や理論を理解する
2.
国際経営に関する基礎的な概念・理論を用いて、具体的な企業行動を説明できる

成績評価の基準および評価方法

定期試験（100%）で評価します。

授業外学習（予習・復習）の指示

講義の最初に前回の復習をするので、ノートや資料を見直しておくようにしてください。

キーワード

国際経営、国際経営戦略、海外生産、海外直接投資、グローバル化

教科書

特に使用しません。

参考書

・吉原英樹『国際経営（第4版）』有斐閣アルマ、2015年
・中川功一他『はじめての国際経営』有斐閣、2015年

備考

【履修上の注意事項】
日頃からニュースや新聞に目を通し、国際経営に関する情報を得ておくようにしてください。

【オフィスアワー等】
月曜日・3限

電子メールアドレス

講義中にお知らせします。

サスティナビリティ論 (Introduction to Sustainability)

科目コード：01009448
担当教員：大田　真彦
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(教育研究1号棟)1-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

1980年代以降、地球規模の環境破壊・劣化等を背景として、グローバルなサステイナビリティ（持続可能性）への認識が高まっている。国連は昨今、環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な課題を自らの問題として捉え、サステイナビリティの実現に向けた新たな価値観や行動を生み出すための「持続可能な開発のための教育(ESD)」を推進している。

本授業では、ESDの一環として、アブラヤシという作物を具体的な題材とし、アジア途上国・新興国の開発・環境・人間生活のあり方、そしてこれらの点と我々の生活とのグローバルな連関について学んでゆく。受講者は、本授業を通して、持続可能な開発の実現に貢献できる知識・技能・態度を発達させることが期待される。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

本授業は、人文社会系グローバル教養科目のうちの1単位であり、GEコースの修了要件単位となる。GEコースに所属しない学生には、人文社会系選択必修科目となる。

授業項目

1 持続可能な開発の考え方とテーマとしてのアブラヤシ
　背景、テーマ、および授業の進め方について概観する。
2 文脈としての世界システム: 途上国と一次産品生産
　アブラヤシに代表される途上国での一次産品の生産を、世界システムという考え方の中で理解する。
3 大規模開発の環境的影響
　アブラヤシ農園開発の熱帯雨林生態系への影響を理解する。
4 大規模開発の社会的影響
　アブラヤシ農園開発の人々の生活や土地権利への影響を理解する。
5 大規模開発の政治経済的背景
　パーム油が必要とされるグローバル、ナショナル、およびリージョナルな政治経済的背景を理解する。
6 小活とグループリサーチプロジェクトへの導入
　小活を行うとともに、アブラヤシ開発を持続可能にするための方策についてのグループリサーチプロジェクトを開始する。
7 グループリサーチプロジェクト
　グループリサーチプロジェクトの進捗を確認する。講師に質問や相談をし、アドバイス等を受ける。
8 プレゼンテーションと振り返り
　調査した内容についてグループプレゼンテーションを行う。その後、最終的な総括・振り返りを行う。

授業の進め方

本授業は、受講者が、講師からの講義を「聴く」だけでなく、「書く」、「話し合う」、「発表する」といったアウトプット活動を通して能動的な学習を実践することを重視する。

全8回の授業は、講義とグループ学習を組み合わせて実施される。第5回までは講義を中心に進め、物事の見方や考え方を身につける。授業終了後、自身の理解に関する簡潔な小レポートを、Moodleというシステムを通して提出してもらう。

第6回以降、少人数グループに分かれ、アブラヤシ開発を持続可能にするための方策についてのグループリサーチプロジェクトを開始する。具体的な進め方は授業中に説明する。第7回で、進捗確認を行い、第8回で、グループごとに調査した内容についてプレゼンテーションを実施する。

上記の予定は、受講人数や授業の進捗状況に応じて変更する。特に、受講人数が多数の場合は、第7回の段階でプレゼンテーションを開始する場合もある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

本授業は、「持続可能な開発のための教育(ESD)」の観点から、下記の点を達成目標とする。

1.
アジア途上国・新興国における大規模開発とその環境的・社会的影響の現状を理解できる
2.
どのような政治経済的背景およびプロセスで大規模開発が実施されるか説明できる
3.
立場によって見方や意見が異なり、唯一の明確な解決策が存在しない「社会的論争問題」に対し、自分で情報収集をし、価値判断を行い、解決策を模索できる

成績評価の基準および評価方法

・講義内容の理解に関する小レポート: 20%
・グループリサーチプロジェクトのプレゼンテーション: 20%
・期末レポート: 60%

60点以上を合格とする。いずれも、テーマおよび評価基準は授業中に提示する。

授業外学習（予習・復習）の指示

毎週、予習用の文章を配布する。
グループリサーチプロジェクトにおいては、授業外にもグループメンバーで適宜集まり、課題を遂行する。

キーワード

持続可能な開発、環境、生活、社会的論争問題、価値判断、問題解決、東南アジア、アブラヤシ

教科書

教科書は指定せず、毎週、予習用の文章を配布する。

参考書

アジア太平洋資料センター（PARC）（2009）パームオイル: 近くて遠い油のはなし. PARC（視聴覚教材）（図書館本館 997.6 A-2）
井上真（2004）コモンズの思想を求めて:

カリマンタンの森で考える. 岩波書店 （図書館本館 652.2 I-1）
信州大学森林政策学研究会編（2013）日本・アジアの森林と林業労働. 川辺書林 （図書館本館 651.7 S-1）
田中治彦ら編著（2016）SDGsと開発教育:
持続可能な開発目標のための学び. 学文社
永田成文（2013）市民性を育成する地理授業の開発:
「社会的論争問題学習」を視点として. 風間書房

備考

電子メールアドレス

ota@ltc.kyutech.ac.jp

日本近現代史 (Modern Japanese History)

科目コード：01009450
担当教員：宮浦　崇
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(教育研究1号棟)1-3C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:37

授業の概要

この講義では、日本の近代化の歴史的変遷を追う。現代の諸課題を考察する際の基盤として存在する歴史的前提を確認する作業でもある。日本の明治維新前後から太平洋戦争敗戦前後までの期間の事象について取り扱う。グローバル化が進む現代にあって、自らの暮らす「国」「地域」についての歴史的な知識を持っていること、および自らの見解を交えて話題化できることは、グローバルなコミュニケーションを促進する上で重要なだけでなく、世界の中に自分自身を位置付ける際の重要な素材を獲得することでもある。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

本授業は
日本の「近代化」のプロセスを概観し、各々考察を加えることを通して、現在我々が生きる時代の諸課題との関連性や、世界的な視野で日本を位置付ける際の素材を受講者が獲得することを目的としている。また「歴史」という素材を通しての調査や発表を通して、自分自身で問題探求できるような力をつけること、グローバルな歴史的世界観を獲得することも目的としている。

授業項目

1 受講ガイダンス、近代世界の中の日本
　世界近代における日本の位置付け
2 「近代」について考える
　「近代」「近代化」について
3 「翻訳」を通しての知識移入
　明治期の外国語翻訳と思想形成
4 明治・大正期の政治・経済・文化（１）
　時代の連続性、非連続性について
5 日本の近代化と大学制度の歴史
　大学に期待された役割について
6 殖産興業と福岡地域
　明治期の殖産工業政策と北部九州
7 昭和（戦前期）の政治・経済・文化
　戦争がもたらした「近代」について
8 講義総括と確認テスト
　日本の「近代化」について総括する

授業の進め方

授業は講義形式と受講者同士のディスカッション形式の混合で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。Moodle等のオンラインシステムの利用をすることがあるが利用に際しては説明を行う。授業内課題の作成や確認テストを実施することがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

この授業では、以下に示す達成目標（獲得目標）を掲げ授業

をすすめる。
1. 歴史学における時間的空間的枠組みについて説明できる。
2. 日本語による歴史事象の調査ができる。
3.
歴史的事象と現代社会との接続や関係について意見を述べることができる。
4.
グローバルな歴史観・世界観について意見を述べることができる。

成績評価の基準および評価方法

小課題・発表等　30%
期末の確認レポート　　20%
期末の確認テスト　50%

授業外学習（予習・復習）の指示

各講義回に、次回までの課題や作業の指示をおこなう。講義に基づき、知識や理解を深めるために質問がある学生は随時質問に来ると良い。事前の配布資料はかならず一読の上で授業に出席すること。またオンラインツール等によって授業のキーワード提示や事前の予習の指示をおこなった場合、事前にある程度のリサーチをおこなうこと。それらを前提に授業を進行することがある。

キーワード

日本近代史、社会政策、地域の歴史、殖産興業

教科書

教科書は使用しない。

参考書

柳父章『翻訳語成立事情』岩波書店、1982年。081/I-2-3/189
※その他、必要がある場合は、授業内で適宜紹介する。

備考

各回の講義内容は受講人数や進度に応じて変更することがある。（変更のある場合は連絡する）

電子メールアドレス

講義ガイダンス時に教員への連絡方法について指示する。

日本近現代史 (Modern Japanese History)

科目コード：01009450
担当教員：宮浦　崇
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(教育研究1号棟)1-3C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

この講義では、日本の近代化の歴史的変遷を追う。現代の諸課題を考察する際の基盤として存在する歴史的前提を確認する作業でもある。日本の明治維新前後から太平洋戦争敗戦前後までの期間の事象について取り扱う。グローバル化が進む現代にあって、自らの暮らす「国」「地域」についての歴史的な知識を持っていること、および自らの見解を交えて話題化できることは、グローバルなコミュニケーションを促進する上で重要なだけでなく、世界の中に自分自身を位置付ける際の重要な素材を獲得することでもある。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

本授業は
日本の「近代化」のプロセスを概観し、各々考察を加えることを通して、現在我々が生きる時代の諸課題との関連性や、世界的な視野で日本を位置付ける際の素材を受講者が獲得することを目的としている。また「歴史」という素材を通しての調査や発表を通して、自分自身で問題探求できるような力をつけること、グローバルな歴史的世界観を獲得することも目的としている。

授業項目

1 受講ガイダンス、近代世界の中の日本
　世界近代における日本の位置付け
2 「近代」について考える
　「近代」「近代化」について
3 「翻訳」を通しての知識移入
　明治期の外国語翻訳と思想形成
4 明治・大正期の政治・経済・文化（1）
　時代の連続性、非連続性について
5 日本の近代化と大学制度の歴史
　大学に期待された役割について
6 殖産興業と福岡地域
　明治期の殖産工業政策と北部九州
7 昭和（戦前期）の政治・経済・文化
　戦争がもたらした「近代」について
8 講義総括と確認テスト
　日本の「近代化」について総括する

授業の進め方

授業は講義形式と受講者同士のディスカッション形式の混合で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。Moodle等のオンラインシステムの利用をすることがあるが利用に際しては説明を行う。授業内課題の作成や確認テストを実施することがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

この授業では、以下に示す達成目標（獲得目標）を掲げ授業

をすすめる。
1. 歴史学における時間的空間的枠組みについて説明できる。
2. 日本語による歴史事象の調査ができる。
3.
歴史的事象と現代社会との接続や関係について意見を述べることができる。
4.
グローバルな歴史観・世界観について意見を述べることができる。

成績評価の基準および評価方法

小課題・発表等　30%
期末の確認レポート　　20%
期末の確認テスト　50%

授業外学習（予習・復習）の指示

各講義回に、次回までの課題や作業の指示をおこなう。講義に基づき、知識や理解を深めるために質問がある学生は随時質問に来ると良い。事前の配布資料はかならず一読の上で授業に出席すること。またオンラインツール等によって授業のキーワード提示や事前の予習の指示をおこなった場合、事前にある程度のリサーチをおこなうこと。それらを前提に授業を進行することがある。

キーワード

日本近代史、社会政策、地域の歴史、殖産興業

教科書

教科書は使用しない。

参考書

柳父章『翻訳語成立事情』岩波書店、1982年。081/I-2-3/189
※その他、必要がある場合は、授業内で適宜紹介する。

備考

各回の講義内容は受講人数や進度に応じて変更することがある。（変更のある場合は連絡する）

電子メールアドレス

講義ガイダンス時に教員への連絡方法について指示する。

日本文学 ()

科目コード：01009451
担当教員：荻原　桂子
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-3C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

活字離れが危惧される現代において、学生の読書力の低下が危惧されている。
文学作品を深く読むことによって、読書力と生きる力を高める。読書には、自分をつくるという働きのほかに、他者の視点をを自分のなかにもつというも働きもある。読書を通じて、自分を客観的にみるという視点がうまれるのである。自分の主観から少し離れて、他者から自分を見るという客観的な視点をもつことができるようになる。自分の主観とは独立した他者の観点に接することで、自分に距離をもって接することができるようになる。こうした言語行為の経過が、焦げ付いた状況から自分を解放してくれる。授業では、考えながら読む古典読みに焦点をあわせ、文学作品を読んでみる。ここでいう古典とは、古文ではなく時間や空間の変遷にも色褪せず、文学作品の魅力を普遍的に発揮するものである。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

宮沢賢治の作品を読みながら、文学作品の読みかたを修得し、文学への関心・興味を深める。

授業項目

第１回　文学について
第２回　宮沢賢治の童話について
第３回　宮沢賢治「どんぐりと山猫」
第４回　宮沢賢治「注文の多い料理店」
第５回　宮沢賢治「水仙月の四日」
第６回　宮沢賢治「月夜のでんしんばしら」
第７回　宮沢賢治「鹿踊りのはじまり」
第８回　まとめ・期末試験

授業の進め方

文学作品講読を中心に、文体論・物語論・言語行為論について講義する。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 文章理解を深めること。
2. 時代背景、文化状況の中で作品を読解すること。
3.
通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。
4.
文学に興味を持ち、文学作品を読むことで、読解力・表現力をつける。

成績評価の基準および評価方法

授業への積極的態度（20%）と期末試験（80%）で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

予習として次回取り上げる作品を通読しておくこと。復習として全文が掲載されていない作品については全文を読む。

キーワード

文体論・物語論・言語行為論

教科書

『教室の中の宮沢賢治』花書院

参考書

授業中に紹介する。

備考

毎回出席を取るので、遅れずに着席すること。
教科書で取り上げる作品以外も、授業で紹介した作品は積極的に読むこと。

電子メールアドレス

ogihara@kwuc.ac.jp

日本文学 ()

科目コード：01009451
担当教員：荻原　桂子
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-3C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:15

授業の概要

活字離れが危惧される現代において、学生の読書力の低下が危惧されている。
文学作品を深く読むことによって、読書力と生きる力を高める。読書には、自分をつくるという働きのほかに、他者の視点をを自分のなかにもつというも働きもある。読書を通じて、自分を客観的にみるという視点がうまれるのである。自分の主観から少し離れて、他者から自分を見るという客観的な視点をもつことができるようになる。自分の主観とは独立した他者の観点に接することで、自分に距離をもって接することができるようになる。こうした言語行為の経過が、焦げ付いた状況から自分を解放してくれる。授業では、考えながら読む古典読みに焦点をあわせ、文学作品を読んでみる。ここでいう古典とは、古文ではなく時間や空間の変遷にも色褪せず、文学作品の魅力を普遍的に発揮するものである。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

宮沢賢治の作品を読みながら、文学作品の読みかたを修得し、文学への関心・興味を深める。

授業項目

第１回　文学について
第２回　宮沢賢治の少年小説について
第３回　宮沢賢治『銀河鉄道の夜』について
第４回　宮沢賢治「午后の授業」「活版所」「家」
第５回　宮沢賢治「ケンタウル祭の夜」「天気輪」
第６回　宮沢賢治「銀河ステーション」「北十字」
第７回　宮沢賢治「鳥捕り」「ジョバンニの切符」
第８回　まとめ・期末試験

授業の進め方

文学作品講読を中心に、文体論・物語論・言語行為論について講義する。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 文章理解を深めること。
2. 時代背景、文化状況の中で作品を読解すること。
3.
通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。
4.
文学に興味を持ち、文学作品を読むことで、読解力・表現力をつける。

成績評価の基準および評価方法

授業への積極的態度（20%）と期末試験（80%）で評価する。

60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

予習として次回取り上げる作品を通読しておくこと。復習として全文が掲載されていない作品については全文を読む。

キーワード

文体論・物語論・言語行為論

教科書

『教室の中の宮沢賢治』花書院

参考書

授業中に紹介する。

備考

毎回出席を取るので、遅れずに着席すること。
教科書で取り上げる作品以外も、授業で紹介した作品は積極的に読むこと。

電子メールアドレス

ogihara@kwuc.ac.jp

コンピテンシー論 (Competency Study)

科目コード：01009452
担当教員：東野　充成
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-1C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

グローバル化した現代社会において、既存の知の枠組みがどのような変容をこうむり、またどのような知や能力が現在求められているのか、知そのものの焦点を合わせて、知と能力の再編過程について講義する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

グローバル教養科目のひとつである。

授業項目

1回 グローバル化と教育
　グローバリゼーションの進行が教育にどのような影響を与えているのか講義する。
2回 新しい能力を飼いならす
　新しい能力とは何を指すのか、その問題点について講義する。
3回 グローバル人材と高校・大学

　国際バカロレアなど、日本の高校・大学におけるグローバル人材育成の現状と課題について講義する。
4回 グローバル化とESD
　持続可能な社会を形成する上で、教育の果たす役割について講義する。
5回 多文化社会とリテラシー
　社会の多文化化が進行する中でのリテラシー教育のあり方について講義する。
6回 ケイパビリティとは何か？
　教育開発における重要な概念のひとつである、ケイパビリティについて講義する。
7回 教育と労働の接続
　教育と職業の接続のあり方について講義する。
8回 まとめと試験
　これまでの総括を行ったうえで、期末試験を実施する。

授業の進め方

レジュメを基にした講義形式で進める。毎回リアクションペーパーを提出すること。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
グローバル社会において知の枠組みがどのように変容したのかを理解すること。
2.
現在、世界的にどのような知や能力が求められているのかを理解すること。

成績評価の基準および評価方法

毎回提出するリアクションペーパー　50%
期末試験　50%

授業外学習（予習・復習）の指示

PISA、国際バカロレアなどに関する各種報告書に目を通すこと。

キーワード

新しい能力　PISA　ESD　ケイパビリティ　国際バカロレア

教科書

使用しない。

参考書

授業内で適宜指示する。

備考

電子メールアドレス

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

コンピテンシー論 (Competency Study)

科目コード：01009452
担当教員：東野　充成
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-1C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:15

授業の概要

グローバル化した現代社会において、既存の知の枠組みがどのような変容をこうむり、またどのような知や能力が現在求められているのか、知そのものの焦点を合わせて、知と能力の再編過程について講義する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

グローバル教養科目のひとつである。

授業項目

1回 グローバル化と教育
　グローバリゼーションの進行が教育にどのような影響を与えているのか講義する。
2回 新しい能力を飼いならす
　新しい能力とは何を指すのか、その問題点について講義する。
3回 グローバル人材と高校・大学

　国際バカロレアなど、日本の高校・大学におけるグローバル人材育成の現状と課題について講義する。
4回 グローバル化とESD
　持続可能な社会を形成する上で、教育の果たす役割について講義する。
5回 多文化社会とリテラシー
　社会の多文化化が進行する中でのリテラシー教育のあり方について講義する。
6回 ケイパビリティとは何か？
　教育開発における重要な概念のひとつである、ケイパビリティについて講義する。
7回 教育と労働の接続
　教育と職業の接続のあり方について講義する。
8回 まとめと試験
　これまでの総括を行ったうえで、期末試験を実施する。

授業の進め方

レジュメを基にした講義形式で進める。毎回リアクションペーパーを提出すること。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
グローバル社会において知の枠組みがどのように変容したのかを理解すること。
2.
現在、世界的にどのような知や能力が求められているのかを理解すること。

成績評価の基準および評価方法

毎回提出するリアクションペーパー　50%
期末試験　50%

授業外学習（予習・復習）の指示

PISA、国際バカロレアなどに関する各種報告書に目を通すこと。

キーワード

新しい能力　PISA　ESD　ケイパビリティ　国際バカロレア

教科書

使用しない。

参考書

授業内で適宜指示する。

備考

電子メールアドレス

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

日本社会論 ()

科目コード：01009454
担当教員：森　康司
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟北)C-2A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

今までに一度は「あの組織（人）は日本的だ」「日本社会特有の」という言葉を耳にしたこと、あるいは口にしたことがあるだろう。しかし、私たちの多くは日本に住んでいながら、「日本社会」がどのような特徴を持った社会なのか、実はよく分かっていないのではないだろうか。いや、むしろ日本に住んでいるからこそ（長く住んでいればいるほど）、普段空気の存在を意識しないように、日本社会の特徴について意識する機会がないのかもしれない。
その空気のような日本社会の特徴を意識するためには、①日本以外の社会の常識を知り（異なる社会との比較）、その常識を知った目で日本社会を見つめ直すこと、②過去の日本社会の常識を知り（過去との比較）、その常識を知った目で日本社会を見つめ直すことが有効な手段となる。
本講義は、社会学をベースとしながら、比較社会的視点から日本社会を見つめ直し、日本社会の特徴を自覚するのみならず、日本社会の抱える様々な課題について考察する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

受講に際して、特に専門知識は必要ない。自明なものと思い込んでいながら、あまり意識しない日本社会を意識して捉えなおすという内容であり、誰でも参加できるという特徴がある。

授業項目

1. イントロダクション：社会学的想像力
2. 日本文化論の変容
3. 日本的コミュニケーションとは何か
4. 日本的経営の功罪
5. 日本家族の「理想像」：サザエさんとちびまる子ちゃん
6. 日本的スポーツ観とは何か
7. 日本人は「日本的」か
8. 復習・期末試験

授業の進め方

上記項目に沿って講義形式で行う。ただし、順番・内容は社会情勢の変化、受講者数、受講生の希望などによって変更する場合がある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 社会学的なものの見方の意義を理解できる。
2.
他者理解、異文化理解の基礎をなす、相対主義的視点の意義を理解できる。
3. 日本社会の特徴について分析・理解できる。
4. 自分自身で「日本社会論」を始めるきっかけを掴む。

成績評価の基準および評価方法

一定の出席を条件とした上で、期末試験で100%評価する。
ただし、授業妨害行為は減点の対象とし、「代返」が発覚した場合は失格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

配布した資料を一読した上で出席すること。
わからない用語があった場合は、自分で意味を調べるか、質問して確認をすること。

キーワード

日本的経営、タテ社会、日本的スポーツ観、日本文化論、日本人論、和の精神、空気を読む

教科書

適宜、資料を配布する。

参考書

備考

【履修上の注意事項】
配付資料に頼りきるのではなく、授業中の説明をよく聞き、口頭の説明で重要だと思った点や関心を惹かれた点、疑問点等を適宜メモすること。

【オフィスアワー等】
質問等は講義中、講義終了後に受けつける。

電子メールアドレス

日本社会論 ()

科目コード：01009454
担当教員：森　康司
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選必,　単位数：1, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 1限,　講義室：(総合教育棟北)C-2A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:15

授業の概要

今までに一度は「あの組織（人）は日本的だ」「日本社会特有の」という言葉を耳にしたこと、あるいは口にしたことがあるだろう。しかし、私たちの多くは日本に住んでいながら、「日本社会」がどのような特徴を持った社会なのか、実はよく分かっていないのではないだろうか。いや、むしろ日本に住んでいるからこそ（長く住んでいればいるほど）、普段空気の存在を意識しないように、日本社会の特徴について意識する機会がないのかもしれない。
その空気のような日本社会の特徴を意識するためには、①日本以外の社会の常識を知り（異なる社会との比較）、その常識を知った目で日本社会を見つめ直すこと、②過去の日本社会の常識を知り（過去との比較）、その常識を知った目で日本社会を見つめ直すことが有効な手段となる。
本講義は、社会学をベースとしながら、比較社会的視点から日本社会を見つめ直し、日本社会の特徴を自覚するのみならず、日本社会の抱える様々な課題について考察する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

受講に際して、特に専門知識は必要ない。自明なものと思い込んでいながら、あまり意識しない日本社会を意識して捉えなおすという内容であり、誰でも参加できるという特徴がある。

授業項目

1. イントロダクション：社会学的想像力
2. 日本文化論の変容
3. 日本的コミュニケーションとは何か
4. 日本的経営の功罪
5. 日本家族の「理想像」：サザエさんとちびまる子ちゃん
6. 日本的スポーツ観とは何か
7. 日本人は「日本的」か
8. 復習・期末試験

授業の進め方

上記項目に沿って講義形式で行う。ただし、順番・内容は社会情勢の変化、受講者数、受講生の希望などによって変更する場合がある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 社会学的なものの見方の意義を理解できるようになる。
2.
他者理解、異文化理解の基礎をなす、相対主義的視点の意義を理解できるようになる。
3. 日本社会の特徴について分析・理解できる。
4. 自分自身で「日本社会論」を始めるきっかけを掴む。

成績評価の基準および評価方法

一定の出席を条件とした上で、期末試験で100%評価する。
ただし、授業妨害行為は減点の対象とし、「代返」が発覚した場合は失格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

配布した資料を一読した上で出席すること。
わからない用語があった場合は、自分で意味を調べるか、質問して確認をすること。

キーワード

日本的経営、タテ社会、日本的スポーツ観、日本文化論、日本人論、和の精神、空気を読む

教科書

適宜、資料を配布する。

参考書

備考

【履修上の注意事項】
配付資料に頼りきるのではなく、授業中の説明をよく聞き、口頭の説明で重要だと思った点や関心を惹かれた点、疑問点等を適宜メモすること。

【オフィスアワー等】
質問等は講義中、講義終了後に受けつける。

電子メールアドレス

国際協働演習 (International Collaborative Learning)

科目コード：01009470
担当教員：玉村　健志, 加藤　鈴子, 大田　真彦, 水井　万里子
学部・学科：電子通信システム工学コース
単位区分：査定外,　単位数：0, 0.0,　対象学年：4年
開講学期：前期,　クラス：01,
曜日・時限：,　講義室：
更新日：2017/06/12 07:03:02

授業の概要

本学では、グローバル化が加速する社会において、活躍し続けることのできる技術者（グローバル・エンジニア）に必要な要素をグローバル・コンピテンシー（GCE）として、それらの涵養を目指している。GCE教育の重要な部分として、多様な文化理解・尊重、多文化協働ワーク、国際的なチームで働く力、など多文化環境での問題発見・解決力が挙げられる。

そこで、本授業では履修者が、多文化環境において自主的・自律的に課題を設定し、あらゆる道具（言語、非言語、知識、情報など）を用いて課題を解決する力を、体験型学習を通して身につけることを目的とする。一つの課題に対して多数の見方・解決方法がある異文化間の体験型学習には、２１世紀のグローバル社会で求められる１）異質な集団で交流する、２）自律的に活動する、３）相互作用的に道具（言語、知識や情報、技術など）を用いる、の３つの要素が含まれている。また、本授業では、単に英語によるコミュニケーション力を高めることに留まらず、グローバルな課題について理解を深め、またあらゆる道具を用いてグローバルな課題について議論できるようになり、さらには、グローバルな課題解決のために、自らの専門分野の知識・技術を活かせる態度を涵養することを目指す。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

GCE実践科目であり、GEコースの修了要件単位となる。

授業項目

第１回 オリエンテーション
本授業の進め方、履修の心構え等を理解する
第２回 異文化適応セルフチェック
1)
多様な文化的背景を持つ集団でのコミュニケーションについて留意事項を理解する
2)
自分のコミュニケーションの傾向を分析し、理解する
3)
協働学習を通してみにつけたい多文化の受容力、コミュニケーション力等について各自目　標設定を行う
第３回 グループワーク演習
1)
演習を通してアサーティブコミュニケーションについて理解を深める
2)
アサーティブネスを意識してグループ討議を実践する
3) ディスカッションに慣れる

第４回 持続可能な世界を目指して（グローバル教養）
1)持続可能な社会の構築のためのグローバルな課題を理解する
2)
グローバルな課題にも様々な見方・考え方があることを理解する
3) グローバルな課題を選び、調査計画を立てる
第５回 協働学習準備
スケジュール確認、企画など
第６回 協働学習(1)
1) 持続可能な社会について理解を深める
2)
地域社会の課題を「持続可能性」の視点から分析する
3) 分析ツールを理解する
4) グループで協働して調査学習計画を立てる
第７回 協働学習(2)
グループで設定した課題について地域社会の現状を、分析ツールを用いて調査する
第８回 協働学習(3)
1) 調査結果を元に、地域社会の現状・課題をまとめる
2)
発見した課題について、解決方法を討議し、提言としてまとめる
3)
調査結果と提言を他者に伝えるためのプレゼンテーションを作る
4) 調査結果をより広いグループと共有する
第９回 振り返り（まとめ）
1) 留学生との協働学習から獲得した GCE を内省する
2)
留学生との交流からグローバル課題について理解が深まった、認識が変化したこと等、発見したことを発表する
3) 今後の目標設定を行う
第１０回 成果発表
本授業を通して学んだことを総合的にまとめ、発表する

授業の進め方

本学に短期滞在する留学生との協働学習を主軸とし、その事前準備学習から事後の振り返りおよび成果報告を一連の学習として捉え、より効果的にGCE獲得を目指す。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 多様な文化受容（１）持続可能性への理解
2. 多様な文化受容（２）多様な文化理解
3. 多様な文化受容（３）グローバルな関係性理解
4. コミュニケーション力（１）自己認識
5. コミュニケーション力（２）エンパシー
6. コミュニケーション力（３）アサーティブ・コミュニケーション
7. 問題解決力（１）情報収取
8. 問題解決力（２）多文化協働ワーク
9. 問題解決力（３）合意形成
10. 持続的学習力（１）自主学習
11. 持続的学習力（２）継続学習
12. 持続的学習力（３）語学学習
13. グローバルな志向性（１）自己認識・自己理解
14. グローバルな志向性（２）多様な文化の尊重・寛容性
15. グローバルな志向性（３）キャリア認識

成績評価の基準および評価方法

上記の授業の達成目標の各項目の達成度を、ルーブリック、協働学習への取り組み状況、成果報告レポート、成果報告発表から評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

授業中に課された課題，報告やプレゼンテーション資料作成等授業外の学習に積極的に取り組むこと。

キーワード

多様な文化の受容、留学生との協働、グループ学習、課題解決、コミュニケーション能力

教科書

教科書は使用しないが、協働学習を進める上で必要な資料を配布することがある。

参考書

備考

電子メールアドレス

kato@ltc.kyutech.ac.jp

英語ＩＣ-１ (English IC-1)

科目コード：01009601
担当教員：林　惠子
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：15,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(教育研究1号棟)1-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1
3.0 Previewing 2
4.0 Finding the Main Idea 1
5.0 Finding the Main Idea 2
6.0 Scanning 1
7.0 Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-１ (English IC-1)

科目コード：01009601
担当教員：山本　将司
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：09,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-2F講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1
3.0 Previewing 2
4.0 Finding the Main Idea 1
5.0 Finding the Main Idea 2
6.0 Scanning 1
7.0 Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-１ (English IC-1)

科目コード：01009601
担当教員：八丁　由比
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：10,
曜日・時限：木曜 3限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1
3.0 Previewing 2
4.0 Finding the Main Idea 1
5.0 Finding the Main Idea 2
6.0 Scanning 1
7.0 Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-１ (English IC-1)

科目コード：01009601
担当教員：大野　瀬津子
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：11,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1
3.0 Previewing 2
4.0 Finding the Main Idea 1
5.0 Finding the Main Idea 2
6.0 Scanning 1
7.0 Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-１ (English IC-1)

科目コード：01009601
担当教員：前田　雅子
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：12,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1
3.0 Previewing 2
4.0 Finding the Main Idea 1
5.0 Finding the Main Idea 2
6.0 Scanning 1
7.0 Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-１ (English IC-1)

科目コード：01009601
担当教員：田吹　昌俊
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：13,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-1C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1
3.0 Previewing 2
4.0 Finding the Main Idea 1
5.0 Finding the Main Idea 2
6.0 Scanning 1
7.0 Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-１ (English IC-1)

科目コード：01009601
担当教員：才津　絢子
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：14,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1
3.0 Previewing 2
4.0 Finding the Main Idea 1
5.0 Finding the Main Idea 2
6.0 Scanning 1
7.0 Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-１ (English IC-1)

科目コード：01009601
担当教員：圍迫　雅彦
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：06,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(教育研究1号棟)1-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1
3.0 Previewing 2
4.0 Finding the Main Idea 1
5.0 Finding the Main Idea 2
6.0 Scanning 1
7.0 Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-１ (English IC-1)

科目コード：01009601
担当教員：池田　景子
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：05,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟北)C-3A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1
3.0 Previewing 2
4.0 Finding the Main Idea 1
5.0 Finding the Main Idea 2
6.0 Scanning 1
7.0 Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-１ (English IC-1)

科目コード：01009601
担当教員：前田　雅子
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：04,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1
3.0 Previewing 2
4.0 Finding the Main Idea 1
5.0 Finding the Main Idea 2
6.0 Scanning 1
7.0 Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-１ (English IC-1)

科目コード：01009601
担当教員：八丁　由比
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：金曜 2限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1
3.0 Previewing 2
4.0 Finding the Main Idea 1
5.0 Finding the Main Idea 2
6.0 Scanning 1
7.0 Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-１ (English IC-1)

科目コード：01009601
担当教員：漆原　朗子
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 2限,
講義室：(教育研究3号棟)プロジェクトラボラトリ
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1
3.0 Previewing 2
4.0 Finding the Main Idea 1
5.0 Finding the Main Idea 2
6.0 Scanning 1
7.0 Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-１ (English IC-1)

科目コード：01009601
担当教員：大野　瀬津子
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：03,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1
3.0 Previewing 2
4.0 Finding the Main Idea 1
5.0 Finding the Main Idea 2
6.0 Scanning 1
7.0 Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-１ (English IC-1)

科目コード：01009601
担当教員：山本　将司
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：08,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(教育研究5号棟)5-2B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1
3.0 Previewing 2
4.0 Finding the Main Idea 1
5.0 Finding the Main Idea 2
6.0 Scanning 1
7.0 Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-１ (English IC-1)

科目コード：01009601
担当教員：渡邉　裕子
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：07,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-1C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1
3.0 Previewing 2
4.0 Finding the Main Idea 1
5.0 Finding the Main Idea 2
6.0 Scanning 1
7.0 Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-２ (English IC-2)

科目コード：01009602
担当教員：田吹　昌俊
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：13,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-1C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1/ Previewing and Predicting 1
3.0 Previewing 2/ Previewing and Predicting 2
4.0 Pronoun References 1/ Finding the Main Idea 1
5.0 Pronoun References 2/ Finding the Main Idea 2
6.0 Identifying Definitions 1/ Scanning 1
7.0 Identifying Definitions 2/ Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-２ (English IC-2)

科目コード：01009602
担当教員：才津　絢子
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：14,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1/ Previewing and Predicting 1
3.0 Previewing 2/ Previewing and Predicting 2
4.0 Pronoun References 1/ Finding the Main Idea 1
5.0 Pronoun References 2/ Finding the Main Idea 2
6.0 Identifying Definitions 1/ Scanning 1
7.0 Identifying Definitions 2/ Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-２ (English IC-2)

科目コード：01009602
担当教員：林　惠子
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：15,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(教育研究1号棟)1-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1/ Previewing and Predicting 1
3.0 Previewing 2/ Previewing and Predicting 2
4.0 Pronoun References 1/ Finding the Main Idea 1
5.0 Pronoun References 2/ Finding the Main Idea 2
6.0 Identifying Definitions 1/ Scanning 1
7.0 Identifying Definitions 2/ Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-２ (English IC-2)

科目コード：01009602
担当教員：山本　将司
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：09,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-2F講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1/ Previewing and Predicting 1
3.0 Previewing 2/ Previewing and Predicting 2
4.0 Pronoun References 1/ Finding the Main Idea 1
5.0 Pronoun References 2/ Finding the Main Idea 2
6.0 Identifying Definitions 1/ Scanning 1
7.0 Identifying Definitions 2/ Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-２ (English IC-2)

科目コード：01009602
担当教員：八丁　由比
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：10,
曜日・時限：木曜 3限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1/ Previewing and Predicting 1
3.0 Previewing 2/ Previewing and Predicting 2
4.0 Pronoun References 1/ Finding the Main Idea 1
5.0 Pronoun References 2/ Finding the Main Idea 2
6.0 Identifying Definitions 1/ Scanning 1
7.0 Identifying Definitions 2/ Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-２ (English IC-2)

科目コード：01009602
担当教員：大野　瀬津子
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：11,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1/ Previewing and Predicting 1
3.0 Previewing 2/ Previewing and Predicting 2
4.0 Pronoun References 1/ Finding the Main Idea 1
5.0 Pronoun References 2/ Finding the Main Idea 2
6.0 Identifying Definitions 1/ Scanning 1
7.0 Identifying Definitions 2/ Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-２ (English IC-2)

科目コード：01009602
担当教員：前田　雅子
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：12,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1/ Previewing and Predicting 1
3.0 Previewing 2/ Previewing and Predicting 2
4.0 Pronoun References 1/ Finding the Main Idea 1
5.0 Pronoun References 2/ Finding the Main Idea 2
6.0 Identifying Definitions 1/ Scanning 1
7.0 Identifying Definitions 2/ Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-２ (English IC-2)

科目コード：01009602
担当教員：八丁　由比
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：金曜 2限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1/ Previewing and Predicting 1
3.0 Previewing 2/ Previewing and Predicting 2
4.0 Pronoun References 1/ Finding the Main Idea 1
5.0 Pronoun References 2/ Finding the Main Idea 2
6.0 Identifying Definitions 1/ Scanning 1
7.0 Identifying Definitions 2/ Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-２ (English IC-2)

科目コード：01009602
担当教員：漆原　朗子
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1/ Previewing and Predicting 1
3.0 Previewing 2/ Previewing and Predicting 2
4.0 Pronoun References 1/ Finding the Main Idea 1
5.0 Pronoun References 2/ Finding the Main Idea 2
6.0 Identifying Definitions 1/ Scanning 1
7.0 Identifying Definitions 2/ Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-２ (English IC-2)

科目コード：01009602
担当教員：池田　景子
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：05,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟北)C-3A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1/ Previewing and Predicting 1
3.0 Previewing 2/ Previewing and Predicting 2
4.0 Pronoun References 1/ Finding the Main Idea 1
5.0 Pronoun References 2/ Finding the Main Idea 2
6.0 Identifying Definitions 1/ Scanning 1
7.0 Identifying Definitions 2/ Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-２ (English IC-2)

科目コード：01009602
担当教員：前田　雅子
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：04,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1/ Previewing and Predicting 1
3.0 Previewing 2/ Previewing and Predicting 2
4.0 Pronoun References 1/ Finding the Main Idea 1
5.0 Pronoun References 2/ Finding the Main Idea 2
6.0 Identifying Definitions 1/ Scanning 1
7.0 Identifying Definitions 2/ Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-２ (English IC-2)

科目コード：01009602
担当教員：圍迫　雅彦
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：06,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(教育研究1号棟)1-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1/ Previewing and Predicting 1
3.0 Previewing 2/ Previewing and Predicting 2
4.0 Pronoun References 1/ Finding the Main Idea 1
5.0 Pronoun References 2/ Finding the Main Idea 2
6.0 Identifying Definitions 1/ Scanning 1
7.0 Identifying Definitions 2/ Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-２ (English IC-2)

科目コード：01009602
担当教員：渡邉　裕子
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：07,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-1C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1/ Previewing and Predicting 1
3.0 Previewing 2/ Previewing and Predicting 2
4.0 Pronoun References 1/ Finding the Main Idea 1
5.0 Pronoun References 2/ Finding the Main Idea 2
6.0 Identifying Definitions 1/ Scanning 1
7.0 Identifying Definitions 2/ Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-２ (English IC-2)

科目コード：01009602
担当教員：山本　将司
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：08,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(教育研究5号棟)5-2B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1/ Previewing and Predicting 1
3.0 Previewing 2/ Previewing and Predicting 2
4.0 Pronoun References 1/ Finding the Main Idea 1
5.0 Pronoun References 2/ Finding the Main Idea 2
6.0 Identifying Definitions 1/ Scanning 1
7.0 Identifying Definitions 2/ Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＩＣ-２ (English IC-2)

科目コード：01009602
担当教員：大野　瀬津子
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：03,
曜日・時限：金曜 2限,
講義室：(戸畑インタラクティブ学習棟)戸畑MILAIS
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Previewing 1/ Previewing and Predicting 1
3.0 Previewing 2/ Previewing and Predicting 2
4.0 Pronoun References 1/ Finding the Main Idea 1
5.0 Pronoun References 2/ Finding the Main Idea 2
6.0 Identifying Definitions 1/ Scanning 1
7.0 Identifying Definitions 2/ Scanning 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 1 (English IIC-1)

科目コード：01009603
担当教員：ロング　Ⅲ　ロバート　ウィリアム
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：10,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction: overview of the seven skills to writing and presenting
2.0 Resourcing materials and analyzing information - Become familiar with Powerpoint fundamentals
3.0 Outlining key ideas and words
4.0 Paragraph skill 1: Writing topic sentences - Explain key ideas
5.0 Paragraph skill 2: Writing details and clear explanations - Summarize theme
6.0 Paragraph skill 3: Using transitional signals, working with syntax - Rehearse PowerPoint presentation
7.0 Paragraph skill 4: Editing and proofing -Present your theme, answer questions
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 1 (English IIC-1)

科目コード：01009603
担当教員：ラックストン　イアン　チャールズ
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：09,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction: overview of the seven skills to writing and presenting
2.0 Resourcing materials and analyzing information - Become familiar with Powerpoint fundamentals
3.0 Outlining key ideas and words
4.0 Paragraph skill 1: Writing topic sentences - Explain key ideas
5.0 Paragraph skill 2: Writing details and clear explanations - Summarize theme
6.0 Paragraph skill 3: Using transitional signals, working with syntax - Rehearse PowerPoint presentation
7.0 Paragraph skill 4: Editing and proofing -Present your theme, answer questions
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 1 (English IIC-1)

科目コード：01009603
担当教員：渡邉　浩明
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：11,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2E講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction: overview of the seven skills to writing and presenting
2.0 Resourcing materials and analyzing information - Become familiar with Powerpoint fundamentals
3.0 Outlining key ideas and words
4.0 Paragraph skill 1: Writing topic sentences - Explain key ideas
5.0 Paragraph skill 2: Writing details and clear explanations - Summarize theme
6.0 Paragraph skill 3: Using transitional signals, working with syntax - Rehearse PowerPoint presentation
7.0 Paragraph skill 4: Editing and proofing -Present your theme, answer questions
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 1 (English IIC-1)

科目コード：01009603
担当教員：福永　淳
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：12,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction: overview of the seven skills to writing and presenting
2.0 Resourcing materials and analyzing information - Become familiar with Powerpoint fundamentals
3.0 Outlining key ideas and words
4.0 Paragraph skill 1: Writing topic sentences - Explain key ideas
5.0 Paragraph skill 2: Writing details and clear explanations - Summarize theme
6.0 Paragraph skill 3: Using transitional signals, working with syntax - Rehearse PowerPoint presentation
7.0 Paragraph skill 4: Editing and proofing -Present your theme, answer questions
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 1 (English IIC-1)

科目コード：01009603
担当教員：ﾋｯｸｽ　ｼﾞｪｰﾑｽ　ｴﾄﾞﾜｰﾄ
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：13,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2F講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction: overview of the seven skills to writing and presenting
2.0 Resourcing materials and analyzing information - Become familiar with Powerpoint fundamentals
3.0 Outlining key ideas and words
4.0 Paragraph skill 1: Writing topic sentences - Explain key ideas
5.0 Paragraph skill 2: Writing details and clear explanations - Summarize theme
6.0 Paragraph skill 3: Using transitional signals, working with syntax - Rehearse PowerPoint presentation
7.0 Paragraph skill 4: Editing and proofing -Present your theme, answer questions
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 1 (English IIC-1)

科目コード：01009603
担当教員：ｳｨｱ　ｹｳﾞｨﾝ　ﾓｰﾘｽ
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：14,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction: overview of the seven skills to writing and presenting
2.0 Resourcing materials and analyzing information - Become familiar with Powerpoint fundamentals
3.0 Outlining key ideas and words
4.0 Paragraph skill 1: Writing topic sentences - Explain key ideas
5.0 Paragraph skill 2: Writing details and clear explanations - Summarize theme
6.0 Paragraph skill 3: Using transitional signals, working with syntax - Rehearse PowerPoint presentation
7.0 Paragraph skill 4: Editing and proofing -Present your theme, answer questions
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 1 (English IIC-1)

科目コード：01009603
担当教員：ランパート　メイソン
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：15,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-1C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction: overview of the seven skills to writing and presenting
2.0 Resourcing materials and analyzing information - Become familiar with Powerpoint fundamentals
3.0 Outlining key ideas and words
4.0 Paragraph skill 1: Writing topic sentences - Explain key ideas
5.0 Paragraph skill 2: Writing details and clear explanations - Summarize theme
6.0 Paragraph skill 3: Using transitional signals, working with syntax - Rehearse PowerPoint presentation
7.0 Paragraph skill 4: Editing and proofing -Present your theme, answer questions
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 1 (English IIC-1)

科目コード：01009603
担当教員：渡邉　浩明
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：03,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2E講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction: overview of the seven skills to writing and presenting
2.0 Resourcing materials and analyzing information - Become familiar with Powerpoint fundamentals
3.0 Outlining key ideas and words
4.0 Paragraph skill 1: Writing topic sentences - Explain key ideas
5.0 Paragraph skill 2: Writing details and clear explanations - Summarize theme
6.0 Paragraph skill 3: Using transitional signals, working with syntax - Rehearse PowerPoint presentation
7.0 Paragraph skill 4: Editing and proofing -Present your theme, answer questions
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 1 (English IIC-1)

科目コード：01009603
担当教員：ランパート　メイソン
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：08,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-1C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction: overview of the seven skills to writing and presenting
2.0 Resourcing materials and analyzing information - Become familiar with Powerpoint fundamentals
3.0 Outlining key ideas and words
4.0 Paragraph skill 1: Writing topic sentences - Explain key ideas
5.0 Paragraph skill 2: Writing details and clear explanations - Summarize theme
6.0 Paragraph skill 3: Using transitional signals, working with syntax - Rehearse PowerPoint presentation
7.0 Paragraph skill 4: Editing and proofing -Present your theme, answer questions
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 1 (English IIC-1)

科目コード：01009603
担当教員：ｳｨｱ　ｹｳﾞｨﾝ　ﾓｰﾘｽ
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：07,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction: overview of the seven skills to writing and presenting
2.0 Resourcing materials and analyzing information - Become familiar with Powerpoint fundamentals
3.0 Outlining key ideas and words
4.0 Paragraph skill 1: Writing topic sentences - Explain key ideas
5.0 Paragraph skill 2: Writing details and clear explanations - Summarize theme
6.0 Paragraph skill 3: Using transitional signals, working with syntax - Rehearse PowerPoint presentation
7.0 Paragraph skill 4: Editing and proofing -Present your theme, answer questions
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 1 (English IIC-1)

科目コード：01009603
担当教員：ﾋｯｸｽ　ｼﾞｪｰﾑｽ　ｴﾄﾞﾜｰﾄ
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：06,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2F講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction: overview of the seven skills to writing and presenting
2.0 Resourcing materials and analyzing information - Become familiar with Powerpoint fundamentals
3.0 Outlining key ideas and words
4.0 Paragraph skill 1: Writing topic sentences - Explain key ideas
5.0 Paragraph skill 2: Writing details and clear explanations - Summarize theme
6.0 Paragraph skill 3: Using transitional signals, working with syntax - Rehearse PowerPoint presentation
7.0 Paragraph skill 4: Editing and proofing -Present your theme, answer questions
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 1 (English IIC-1)

科目コード：01009603
担当教員：マッカイ　マイケル　トーマス
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：05,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction: overview of the seven skills to writing and presenting
2.0 Resourcing materials and analyzing information - Become familiar with Powerpoint fundamentals
3.0 Outlining key ideas and words
4.0 Paragraph skill 1: Writing topic sentences - Explain key ideas
5.0 Paragraph skill 2: Writing details and clear explanations - Summarize theme
6.0 Paragraph skill 3: Using transitional signals, working with syntax - Rehearse PowerPoint presentation
7.0 Paragraph skill 4: Editing and proofing -Present your theme, answer questions
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 1 (English IIC-1)

科目コード：01009603
担当教員：福永　淳
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：04,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction: overview of the seven skills to writing and presenting
2.0 Resourcing materials and analyzing information - Become familiar with Powerpoint fundamentals
3.0 Outlining key ideas and words
4.0 Paragraph skill 1: Writing topic sentences - Explain key ideas
5.0 Paragraph skill 2: Writing details and clear explanations - Summarize theme
6.0 Paragraph skill 3: Using transitional signals, working with syntax - Rehearse PowerPoint presentation
7.0 Paragraph skill 4: Editing and proofing -Present your theme, answer questions
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 1 (English IIC-1)

科目コード：01009603
担当教員：ラックストン　イアン　チャールズ
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction: overview of the seven skills to writing and presenting
2.0 Resourcing materials and analyzing information - Become familiar with Powerpoint fundamentals
3.0 Outlining key ideas and words
4.0 Paragraph skill 1: Writing topic sentences - Explain key ideas
5.0 Paragraph skill 2: Writing details and clear explanations - Summarize theme
6.0 Paragraph skill 3: Using transitional signals, working with syntax - Rehearse PowerPoint presentation
7.0 Paragraph skill 4: Editing and proofing -Present your theme, answer questions
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 1 (English IIC-1)

科目コード：01009603
担当教員：ロング　Ⅲ　ロバート　ウィリアム
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction: overview of the seven skills to writing and presenting
2.0 Resourcing materials and analyzing information - Become familiar with Powerpoint fundamentals
3.0 Outlining key ideas and words
4.0 Paragraph skill 1: Writing topic sentences - Explain key ideas
5.0 Paragraph skill 2: Writing details and clear explanations - Summarize theme
6.0 Paragraph skill 3: Using transitional signals, working with syntax - Rehearse PowerPoint presentation
7.0 Paragraph skill 4: Editing and proofing -Present your theme, answer questions
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

授業開始時に指示する。

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 2 (English IIC-2)

科目コード：01009604
担当教員：ロング　Ⅲ　ロバート　ウィリアム
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：10,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Descriptive Language 1/ Analyzing a Narrative 1
3.0 Descriptive Language 2/ Analyzing a Narrative 2
4.0 Problem-Solution Organization 1/ Audience and Purpose 1
5.0 Problem-Solution Organization 2/ Audience and Purpose 2
6.0 Main Ideas and Details 1/ Supporting Opinions with Facts 1
7.0 Main Ideas and Details 2/ Supporting Opinions with Facts 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 2 (English IIC-2)

科目コード：01009604
担当教員：渡邉　浩明
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：11,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2E講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Descriptive Language 1/ Analyzing a Narrative 1
3.0 Descriptive Language 2/ Analyzing a Narrative 2
4.0 Problem-Solution Organization 1/ Audience and Purpose 1
5.0 Problem-Solution Organization 2/ Audience and Purpose 2
6.0 Main Ideas and Details 1/ Supporting Opinions with Facts 1
7.0 Main Ideas and Details 2/ Supporting Opinions with Facts 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 2 (English IIC-2)

科目コード：01009604
担当教員：福永　淳
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：12,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Descriptive Language 1/ Analyzing a Narrative 1
3.0 Descriptive Language 2/ Analyzing a Narrative 2
4.0 Problem-Solution Organization 1/ Audience and Purpose 1
5.0 Problem-Solution Organization 2/ Audience and Purpose 2
6.0 Main Ideas and Details 1/ Supporting Opinions with Facts 1
7.0 Main Ideas and Details 2/ Supporting Opinions with Facts 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 2 (English IIC-2)

科目コード：01009604
担当教員：ﾋｯｸｽ　ｼﾞｪｰﾑｽ　ｴﾄﾞﾜｰﾄ
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：13,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2F講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Descriptive Language 1/ Analyzing a Narrative 1
3.0 Descriptive Language 2/ Analyzing a Narrative 2
4.0 Problem-Solution Organization 1/ Audience and Purpose 1
5.0 Problem-Solution Organization 2/ Audience and Purpose 2
6.0 Main Ideas and Details 1/ Supporting Opinions with Facts 1
7.0 Main Ideas and Details 2/ Supporting Opinions with Facts 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 2 (English IIC-2)

科目コード：01009604
担当教員：ｳｨｱ　ｹｳﾞｨﾝ　ﾓｰﾘｽ
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：14,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Descriptive Language 1/ Analyzing a Narrative 1
3.0 Descriptive Language 2/ Analyzing a Narrative 2
4.0 Problem-Solution Organization 1/ Audience and Purpose 1
5.0 Problem-Solution Organization 2/ Audience and Purpose 2
6.0 Main Ideas and Details 1/ Supporting Opinions with Facts 1
7.0 Main Ideas and Details 2/ Supporting Opinions with Facts 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 2 (English IIC-2)

科目コード：01009604
担当教員：ランパート　メイソン
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：15,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-1C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Descriptive Language 1/ Analyzing a Narrative 1
3.0 Descriptive Language 2/ Analyzing a Narrative 2
4.0 Problem-Solution Organization 1/ Audience and Purpose 1
5.0 Problem-Solution Organization 2/ Audience and Purpose 2
6.0 Main Ideas and Details 1/ Supporting Opinions with Facts 1
7.0 Main Ideas and Details 2/ Supporting Opinions with Facts 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 2 (English IIC-2)

科目コード：01009604
担当教員：ラックストン　イアン　チャールズ
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：09,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Descriptive Language 1/ Analyzing a Narrative 1
3.0 Descriptive Language 2/ Analyzing a Narrative 2
4.0 Problem-Solution Organization 1/ Audience and Purpose 1
5.0 Problem-Solution Organization 2/ Audience and Purpose 2
6.0 Main Ideas and Details 1/ Supporting Opinions with Facts 1
7.0 Main Ideas and Details 2/ Supporting Opinions with Facts 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 2 (English IIC-2)

科目コード：01009604
担当教員：ロング　Ⅲ　ロバート　ウィリアム
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Descriptive Language 1/ Analyzing a Narrative 1
3.0 Descriptive Language 2/ Analyzing a Narrative 2
4.0 Problem-Solution Organization 1/ Audience and Purpose 1
5.0 Problem-Solution Organization 2/ Audience and Purpose 2
6.0 Main Ideas and Details 1/ Supporting Opinions with Facts 1
7.0 Main Ideas and Details 2/ Supporting Opinions with Facts 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 2 (English IIC-2)

科目コード：01009604
担当教員：福永　淳
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：04,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Descriptive Language 1/ Analyzing a Narrative 1
3.0 Descriptive Language 2/ Analyzing a Narrative 2
4.0 Problem-Solution Organization 1/ Audience and Purpose 1
5.0 Problem-Solution Organization 2/ Audience and Purpose 2
6.0 Main Ideas and Details 1/ Supporting Opinions with Facts 1
7.0 Main Ideas and Details 2/ Supporting Opinions with Facts 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 2 (English IIC-2)

科目コード：01009604
担当教員：マッカイ　マイケル　トーマス
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：05,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Descriptive Language 1/ Analyzing a Narrative 1
3.0 Descriptive Language 2/ Analyzing a Narrative 2
4.0 Problem-Solution Organization 1/ Audience and Purpose 1
5.0 Problem-Solution Organization 2/ Audience and Purpose 2
6.0 Main Ideas and Details 1/ Supporting Opinions with Facts 1
7.0 Main Ideas and Details 2/ Supporting Opinions with Facts 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 2 (English IIC-2)

科目コード：01009604
担当教員：ﾋｯｸｽ　ｼﾞｪｰﾑｽ　ｴﾄﾞﾜｰﾄ
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：06,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2F講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Descriptive Language 1/ Analyzing a Narrative 1
3.0 Descriptive Language 2/ Analyzing a Narrative 2
4.0 Problem-Solution Organization 1/ Audience and Purpose 1
5.0 Problem-Solution Organization 2/ Audience and Purpose 2
6.0 Main Ideas and Details 1/ Supporting Opinions with Facts 1
7.0 Main Ideas and Details 2/ Supporting Opinions with Facts 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 2 (English IIC-2)

科目コード：01009604
担当教員：ｳｨｱ　ｹｳﾞｨﾝ　ﾓｰﾘｽ
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：07,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Descriptive Language 1/ Analyzing a Narrative 1
3.0 Descriptive Language 2/ Analyzing a Narrative 2
4.0 Problem-Solution Organization 1/ Audience and Purpose 1
5.0 Problem-Solution Organization 2/ Audience and Purpose 2
6.0 Main Ideas and Details 1/ Supporting Opinions with Facts 1
7.0 Main Ideas and Details 2/ Supporting Opinions with Facts 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 2 (English IIC-2)

科目コード：01009604
担当教員：ランパート　メイソン
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：08,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-1C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Descriptive Language 1/ Analyzing a Narrative 1
3.0 Descriptive Language 2/ Analyzing a Narrative 2
4.0 Problem-Solution Organization 1/ Audience and Purpose 1
5.0 Problem-Solution Organization 2/ Audience and Purpose 2
6.0 Main Ideas and Details 1/ Supporting Opinions with Facts 1
7.0 Main Ideas and Details 2/ Supporting Opinions with Facts 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 2 (English IIC-2)

科目コード：01009604
担当教員：ラックストン　イアン　チャールズ
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Descriptive Language 1/ Analyzing a Narrative 1
3.0 Descriptive Language 2/ Analyzing a Narrative 2
4.0 Problem-Solution Organization 1/ Audience and Purpose 1
5.0 Problem-Solution Organization 2/ Audience and Purpose 2
6.0 Main Ideas and Details 1/ Supporting Opinions with Facts 1
7.0 Main Ideas and Details 2/ Supporting Opinions with Facts 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語 II C - 2 (English IIC-2)

科目コード：01009604
担当教員：渡邉　浩明
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：03,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2E講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Descriptive Language 1/ Analyzing a Narrative 1
3.0 Descriptive Language 2/ Analyzing a Narrative 2
4.0 Problem-Solution Organization 1/ Audience and Purpose 1
5.0 Problem-Solution Organization 2/ Audience and Purpose 2
6.0 Main Ideas and Details 1/ Supporting Opinions with Facts 1
7.0 Main Ideas and Details 2/ Supporting Opinions with Facts 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語III C - 1 (English IIIC-1)

科目コード：01009605
担当教員：前田　雅子
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-2F講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1 Introduction

2 Identifying Cause and Result 1

3 Identifying Cause and Result 2

4 Identifying Examples 1

5 Identifying Examples 2

6 Identifying Time Signals 1

7 Identifying Time Signals 2

8 まとめ及び定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。課題と中間及び期末試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, introduction

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

maeda@dhs.kyutech.ac.jp

英語III C - 1 (English IIIC-1)

科目コード：01009605
担当教員：前田　雅子
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1 Introduction

2 Identifying Cause and Result 1

3 Identifying Cause and Result 2

4 Identifying Examples 1

5 Identifying Examples 2

6 Identifying Time Signals 1

7 Identifying Time Signals 2

8 まとめ及び定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。課題と中間及び期末試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, introduction

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

maeda@dhs.kyutech.ac.jp

英語III C - 2 (English IIIC-2)

科目コード：01009606
担当教員：前田　雅子
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-2F講義室
更新日：2017/06/12 07:03:37

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1 Identifying Steps in a Sequence 1
2 Identifying Steps in a Sequence 2
3 Using a Dictionary 1
4 Using a Dictionary 2
5 Identifying Contrast Signals 1
6 Identifying Contrast Signals 2
7 Review
8 まとめ及び定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。課題と中間及び期末試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Introduction

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

maeda@dhs.kyutech.ac.jp

英語III C - 2 (English IIIC-2)

科目コード：01009606
担当教員：前田　雅子
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:37

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1 Identifying Steps in a Sequence 1
2 Identifying Steps in a Sequence 2
3 Using a Dictionary 1
4 Using a Dictionary 2
5 Identifying Contrast Signals 1
6 Identifying Contrast Signals 2
7 Review
8 まとめ及び定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。課題と中間及び期末試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Introduction

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

maeda@dhs.kyutech.ac.jp

英語IV C - 1 (English IVC-1)

科目コード：01009607
担当教員：ランパート　メイソン
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：09,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-1C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Supporting Opinions 1
3.0 Supporting Opinions 2
4.0 Analyzing a Narrative 1
5.0 Analyzing a Narrative 2
6.0 Analyzing Test Questions and Responses 1
7.0 Analyzing Test Questions and Responses 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 1, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語IV C - 1 (English IVC-1)

科目コード：01009607
担当教員：福永　淳
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：06,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Supporting Opinions 1
3.0 Supporting Opinions 2
4.0 Analyzing a Narrative 1
5.0 Analyzing a Narrative 2
6.0 Analyzing Test Questions and Responses 1
7.0 Analyzing Test Questions and Responses 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 1, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語IVC-1 (English IVC-1)

科目コード：01009607
担当教員：ｳｨｱ　ｹｳﾞｨﾝ　ﾓｰﾘｽ
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：10,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Supporting Opinions 1
3.0 Supporting Opinions 2
4.0 Analyzing a Narrative 1
5.0 Analyzing a Narrative 2
6.0 Analyzing Test Questions and Responses 1
7.0 Analyzing Test Questions and Responses 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 1, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語IV C - 1 (English IVC-1)

科目コード：01009607
担当教員：ロング　Ⅲ　ロバート　ウィリアム
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：08,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Supporting Opinions 1
3.0 Supporting Opinions 2
4.0 Analyzing a Narrative 1
5.0 Analyzing a Narrative 2
6.0 Analyzing Test Questions and Responses 1
7.0 Analyzing Test Questions and Responses 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 1, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語IVC-1 (English IVC-1)

科目コード：01009607
担当教員：ラックストン　イアン　チャールズ
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：07,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Supporting Opinions 1
3.0 Supporting Opinions 2
4.0 Analyzing a Narrative 1
5.0 Analyzing a Narrative 2
6.0 Analyzing Test Questions and Responses 1
7.0 Analyzing Test Questions and Responses 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 1, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語IV C - 1 (English IVC-1)

科目コード：01009607
担当教員：ラックストン　イアン　チャールズ
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Supporting Opinions 1
3.0 Supporting Opinions 2
4.0 Analyzing a Narrative 1
5.0 Analyzing a Narrative 2
6.0 Analyzing Test Questions and Responses 1
7.0 Analyzing Test Questions and Responses 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 1, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語IV C - 1 (English IVC-1)

科目コード：01009607
担当教員：マッカイ　マイケル　トーマス
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：05,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-1C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Supporting Opinions 1
3.0 Supporting Opinions 2
4.0 Analyzing a Narrative 1
5.0 Analyzing a Narrative 2
6.0 Analyzing Test Questions and Responses 1
7.0 Analyzing Test Questions and Responses 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 1, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語IV C - 1 (English IVC-1)

科目コード：01009607
担当教員：ランパート　メイソン
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：03,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(教育研究5号棟)5-2B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Supporting Opinions 1
3.0 Supporting Opinions 2
4.0 Analyzing a Narrative 1
5.0 Analyzing a Narrative 2
6.0 Analyzing Test Questions and Responses 1
7.0 Analyzing Test Questions and Responses 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 1, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語IV C - 1 (English IVC-1)

科目コード：01009607
担当教員：ｳｨｱ　ｹｳﾞｨﾝ　ﾓｰﾘｽ
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：04,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Supporting Opinions 1
3.0 Supporting Opinions 2
4.0 Analyzing a Narrative 1
5.0 Analyzing a Narrative 2
6.0 Analyzing Test Questions and Responses 1
7.0 Analyzing Test Questions and Responses 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 1, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語IV C - 1 (English IVC-1)

科目コード：01009607
担当教員：福永　淳
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Supporting Opinions 1
3.0 Supporting Opinions 2
4.0 Analyzing a Narrative 1
5.0 Analyzing a Narrative 2
6.0 Analyzing Test Questions and Responses 1
7.0 Analyzing Test Questions and Responses 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 1, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語IV C - 2 (English IVC-2)

科目コード：01009608
担当教員：ランパート　メイソン
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：09,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-1C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Comparisons 1
2.0 Comparison s 2
3.0 Analyzing Audience 1
4.0 Analyzing Audience 2
5.0 Describing a Process 1
6.0 Describing a Process 2
7.0 Presentation Practice
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 1, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語IVC-2 (English IVC-2)

科目コード：01009608
担当教員：福永　淳
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：06,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Comparisons 1
2.0 Comparison s 2
3.0 Analyzing Audience 1
4.0 Analyzing Audience 2
5.0 Describing a Process 1
6.0 Describing a Process 2
7.0 Presentation Practice
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 1, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語IV C - 2 (English IVC-2)

科目コード：01009608
担当教員：ラックストン　イアン　チャールズ
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：07,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Comparisons 1
2.0 Comparison s 2
3.0 Analyzing Audience 1
4.0 Analyzing Audience 2
5.0 Describing a Process 1
6.0 Describing a Process 2
7.0 Presentation Practice
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 1, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語IV C - 2 (English IVC-2)

科目コード：01009608
担当教員：ロング　Ⅲ　ロバート　ウィリアム
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：08,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Comparisons 1
2.0 Comparison s 2
3.0 Analyzing Audience 1
4.0 Analyzing Audience 2
5.0 Describing a Process 1
6.0 Describing a Process 2
7.0 Presentation Practice
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 1, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語IVC-2 (English IVC-2)

科目コード：01009608
担当教員：ｳｨｱ　ｹｳﾞｨﾝ　ﾓｰﾘｽ
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：10,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Comparisons 1
2.0 Comparison s 2
3.0 Analyzing Audience 1
4.0 Analyzing Audience 2
5.0 Describing a Process 1
6.0 Describing a Process 2
7.0 Presentation Practice
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 1, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語IV C - 2 (English IVC-2)

科目コード：01009608
担当教員：マッカイ　マイケル　トーマス
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：05,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-1C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Comparisons 1
2.0 Comparison s 2
3.0 Analyzing Audience 1
4.0 Analyzing Audience 2
5.0 Describing a Process 1
6.0 Describing a Process 2
7.0 Presentation Practice
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 1, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語IV C - 2 (English IVC-2)

科目コード：01009608
担当教員：ｳｨｱ　ｹｳﾞｨﾝ　ﾓｰﾘｽ
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：04,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Comparisons 1
2.0 Comparison s 2
3.0 Analyzing Audience 1
4.0 Analyzing Audience 2
5.0 Describing a Process 1
6.0 Describing a Process 2
7.0 Presentation Practice
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 1, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語IVC-2 (English IVC-2)

科目コード：01009608
担当教員：ランパート　メイソン
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：03,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(教育研究5号棟)5-2B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Comparisons 1
2.0 Comparison s 2
3.0 Analyzing Audience 1
4.0 Analyzing Audience 2
5.0 Describing a Process 1
6.0 Describing a Process 2
7.0 Presentation Practice
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 1, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語IV C - 2 (English IVC-2)

科目コード：01009608
担当教員：ラックストン　イアン　チャールズ
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Comparisons 1
2.0 Comparison s 2
3.0 Analyzing Audience 1
4.0 Analyzing Audience 2
5.0 Describing a Process 1
6.0 Describing a Process 2
7.0 Presentation Practice
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 1, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語IV C - 2 (English IVC-2)

科目コード：01009608
担当教員：福永　淳
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Comparisons 1
2.0 Comparison s 2
3.0 Analyzing Audience 1
4.0 Analyzing Audience 2
5.0 Describing a Process 1
6.0 Describing a Process 2
7.0 Presentation Practice
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 1, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-１ (English VC-1)

科目コード：01009609
担当教員：八丁　由比
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：12,
曜日・時限：木曜 3限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:32

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Outlining 1
3.0 Outlining 2
4.0 Reading Charts and Graphs 1
5.0 Reading Charts and Graphs 2
6.0 Summarizing 1
7.0 Summarizing 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press,.

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-１ (English VC-1)

科目コード：01009609
担当教員：才津　絢子
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：11,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Outlining 1
3.0 Outlining 2
4.0 Reading Charts and Graphs 1
5.0 Reading Charts and Graphs 2
6.0 Summarizing 1
7.0 Summarizing 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press,.

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-１ (English VC-1)

科目コード：01009609
担当教員：山本　将司
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：10,
曜日・時限：木曜 3限,
講義室：(教育研究3号棟)プロジェクトラボラトリ
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Outlining 1
3.0 Outlining 2
4.0 Reading Charts and Graphs 1
5.0 Reading Charts and Graphs 2
6.0 Summarizing 1
7.0 Summarizing 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press,.

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-１ (English VC-1)

科目コード：01009609
担当教員：田吹　昌俊
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：09,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Outlining 1
3.0 Outlining 2
4.0 Reading Charts and Graphs 1
5.0 Reading Charts and Graphs 2
6.0 Summarizing 1
7.0 Summarizing 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press,.

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-１ (English VC-1)

科目コード：01009609
担当教員：大野　瀬津子
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：08,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟北)C-3A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Outlining 1
3.0 Outlining 2
4.0 Reading Charts and Graphs 1
5.0 Reading Charts and Graphs 2
6.0 Summarizing 1
7.0 Summarizing 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press,.

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-１ (English VC-1)

科目コード：01009609
担当教員：林　惠子
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：13,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:32

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Outlining 1
3.0 Outlining 2
4.0 Reading Charts and Graphs 1
5.0 Reading Charts and Graphs 2
6.0 Summarizing 1
7.0 Summarizing 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press,.

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-１ (English VC-1)

科目コード：01009609
担当教員：八丁　由比
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：05,
曜日・時限：金曜 2限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Outlining 1
3.0 Outlining 2
4.0 Reading Charts and Graphs 1
5.0 Reading Charts and Graphs 2
6.0 Summarizing 1
7.0 Summarizing 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press,.

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-１ (English VC-1)

科目コード：01009609
担当教員：大野　瀬津子
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2E講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Outlining 1
3.0 Outlining 2
4.0 Reading Charts and Graphs 1
5.0 Reading Charts and Graphs 2
6.0 Summarizing 1
7.0 Summarizing 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press,.

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-１ (English VC-1)

科目コード：01009609
担当教員：圍迫　雅彦
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2F講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Outlining 1
3.0 Outlining 2
4.0 Reading Charts and Graphs 1
5.0 Reading Charts and Graphs 2
6.0 Summarizing 1
7.0 Summarizing 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press,.

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-１ (English VC-1)

科目コード：01009609
担当教員：渡邉　裕子
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：03,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(教育研究5号棟)5-2A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Outlining 1
3.0 Outlining 2
4.0 Reading Charts and Graphs 1
5.0 Reading Charts and Graphs 2
6.0 Summarizing 1
7.0 Summarizing 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press,.

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-１ (English VC-1)

科目コード：01009609
担当教員：山本　将司
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：04,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(教育研究5号棟)5-2B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Outlining 1
3.0 Outlining 2
4.0 Reading Charts and Graphs 1
5.0 Reading Charts and Graphs 2
6.0 Summarizing 1
7.0 Summarizing 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press,.

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-１ (English VC-1)

科目コード：01009609
担当教員：池田　景子
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：06,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Outlining 1
3.0 Outlining 2
4.0 Reading Charts and Graphs 1
5.0 Reading Charts and Graphs 2
6.0 Summarizing 1
7.0 Summarizing 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press,.

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-１ (English VC-1)

科目コード：01009609
担当教員：漆原　朗子
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：07,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:31

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Outlining 1
3.0 Outlining 2
4.0 Reading Charts and Graphs 1
5.0 Reading Charts and Graphs 2
6.0 Summarizing 1
7.0 Summarizing 2
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press,.

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-２ (English VC-2)

科目コード：01009610
担当教員：田吹　昌俊
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：09,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Making Inferences 1
2.0 Making Inferences 2
3.0 Highlighting and Annotating 1
4.0 Highlighting and Annotating 2
5.0 Understanding Sequences 1
6.0 Understanding Sequences 2
7.0 Review
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-２ (English VC-2)

科目コード：01009610
担当教員：山本　将司
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：10,
曜日・時限：木曜 3限,
講義室：(教育研究3号棟)プロジェクトラボラトリ
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Making Inferences 1
2.0 Making Inferences 2
3.0 Highlighting and Annotating 1
4.0 Highlighting and Annotating 2
5.0 Understanding Sequences 1
6.0 Understanding Sequences 2
7.0 Review
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-２ (English VC-2)

科目コード：01009610
担当教員：才津　絢子
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：11,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Making Inferences 1
2.0 Making Inferences 2
3.0 Highlighting and Annotating 1
4.0 Highlighting and Annotating 2
5.0 Understanding Sequences 1
6.0 Understanding Sequences 2
7.0 Review
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-２ (English VC-2)

科目コード：01009610
担当教員：八丁　由比
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：12,
曜日・時限：木曜 3限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Making Inferences 1
2.0 Making Inferences 2
3.0 Highlighting and Annotating 1
4.0 Highlighting and Annotating 2
5.0 Understanding Sequences 1
6.0 Understanding Sequences 2
7.0 Review
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-２ (English VC-2)

科目コード：01009610
担当教員：大野　瀬津子
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：08,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟北)C-3A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Making Inferences 1
2.0 Making Inferences 2
3.0 Highlighting and Annotating 1
4.0 Highlighting and Annotating 2
5.0 Understanding Sequences 1
6.0 Understanding Sequences 2
7.0 Review
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-２ (English VC-2)

科目コード：01009610
担当教員：林　惠子
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：13,
曜日・時限：木曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Making Inferences 1
2.0 Making Inferences 2
3.0 Highlighting and Annotating 1
4.0 Highlighting and Annotating 2
5.0 Understanding Sequences 1
6.0 Understanding Sequences 2
7.0 Review
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-２ (English VC-2)

科目コード：01009610
担当教員：八丁　由比
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：05,
曜日・時限：金曜 2限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Making Inferences 1
2.0 Making Inferences 2
3.0 Highlighting and Annotating 1
4.0 Highlighting and Annotating 2
5.0 Understanding Sequences 1
6.0 Understanding Sequences 2
7.0 Review
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-２ (English VC-2)

科目コード：01009610
担当教員：山本　将司
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：04,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(教育研究5号棟)5-2B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Making Inferences 1
2.0 Making Inferences 2
3.0 Highlighting and Annotating 1
4.0 Highlighting and Annotating 2
5.0 Understanding Sequences 1
6.0 Understanding Sequences 2
7.0 Review
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-２ (English VC-2)

科目コード：01009610
担当教員：池田　景子
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：06,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Making Inferences 1
2.0 Making Inferences 2
3.0 Highlighting and Annotating 1
4.0 Highlighting and Annotating 2
5.0 Understanding Sequences 1
6.0 Understanding Sequences 2
7.0 Review
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-２ (English VC-2)

科目コード：01009610
担当教員：大野　瀬津子
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2E講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Making Inferences 1
2.0 Making Inferences 2
3.0 Highlighting and Annotating 1
4.0 Highlighting and Annotating 2
5.0 Understanding Sequences 1
6.0 Understanding Sequences 2
7.0 Review
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-２ (English VC-2)

科目コード：01009610
担当教員：圍迫　雅彦
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2F講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Making Inferences 1
2.0 Making Inferences 2
3.0 Highlighting and Annotating 1
4.0 Highlighting and Annotating 2
5.0 Understanding Sequences 1
6.0 Understanding Sequences 2
7.0 Review
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-２ (English VC-2)

科目コード：01009610
担当教員：渡邉　裕子
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：03,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(教育研究5号棟)5-2A講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Making Inferences 1
2.0 Making Inferences 2
3.0 Highlighting and Annotating 1
4.0 Highlighting and Annotating 2
5.0 Understanding Sequences 1
6.0 Understanding Sequences 2
7.0 Review
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語ＶＣ-２ (English VC-2)

科目コード：01009610
担当教員：漆原　朗子
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：07,
曜日・時限：金曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に「読む」能力の向上に焦点をあて、偶数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Making Inferences 1
2.0 Making Inferences 2
3.0 Highlighting and Annotating 1
4.0 Highlighting and Annotating 2
5.0 Understanding Sequences 1
6.0 Understanding Sequences 2
7.0 Review
8.0 まとめ、定期試験

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

読解能力、聴解能力、英作文

教科書

Inside Reading, Level 2, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語VI C - 1 (English VIC-1)

科目コード：01009611
担当教員：渡邉　浩明
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：04,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2E講義室
更新日：2017/06/12 07:03:32

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Supporting a Point of View 1
3.0 Supporting a Point of View 2
4.0 Selecting Relevant Information 1
5.0 Selecting Relevant Information 2
6.0 Analyzing Ideas 1
7.0 Analyzing Ideas 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 2, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語VI C - 1 (English VIC-1)

科目コード：01009611
担当教員：ﾋｯｸｽ　ｼﾞｪｰﾑｽ　ｴﾄﾞﾜｰﾄ
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：05,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2F講義室
更新日：2017/06/12 07:03:32

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Supporting a Point of View 1
3.0 Supporting a Point of View 2
4.0 Selecting Relevant Information 1
5.0 Selecting Relevant Information 2
6.0 Analyzing Ideas 1
7.0 Analyzing Ideas 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 2, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語VI C - 1 (English VIC-1)

科目コード：01009611
担当教員：ロング　Ⅲ　ロバート　ウィリアム
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:32

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Supporting a Point of View 1
3.0 Supporting a Point of View 2
4.0 Selecting Relevant Information 1
5.0 Selecting Relevant Information 2
6.0 Analyzing Ideas 1
7.0 Analyzing Ideas 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 2, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語VI C - 1 (English VIC-1)

科目コード：01009611
担当教員：ﾋｯｸｽ　ｼﾞｪｰﾑｽ　ｴﾄﾞﾜｰﾄ
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：03,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2F講義室
更新日：2017/06/12 07:03:32

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Supporting a Point of View 1
3.0 Supporting a Point of View 2
4.0 Selecting Relevant Information 1
5.0 Selecting Relevant Information 2
6.0 Analyzing Ideas 1
7.0 Analyzing Ideas 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 2, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語VI C - 1 (English VIC-1)

科目コード：01009611
担当教員：渡邉　浩明
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2E講義室
更新日：2017/06/12 07:03:32

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Introduction
2.0 Supporting a Point of View 1
3.0 Supporting a Point of View 2
4.0 Selecting Relevant Information 1
5.0 Selecting Relevant Information 2
6.0 Analyzing Ideas 1
7.0 Analyzing Ideas 2
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 2, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語VI C - 2 (English VIC-2)

科目コード：01009612
担当教員：ﾋｯｸｽ　ｼﾞｪｰﾑｽ　ｴﾄﾞﾜｰﾄ
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：05,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2F講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Analyzing a Casual Explanation 1
2.0 Analyzing a Casual Explanation 2
3.0 Anecdotes 1
4.0 Anecdotes 2
5.0 Analyzing a Conclusion 1
6.0 Analyzing a Conclusion 2
7.0 Presentation Practice
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 2, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語VI C - 2 (English VIC-2)

科目コード：01009612
担当教員：渡邉　浩明
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：04,
曜日・時限：水曜 2限,　講義室：(総合教育棟南)C-2E講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Analyzing a Casual Explanation 1
2.0 Analyzing a Casual Explanation 2
3.0 Anecdotes 1
4.0 Anecdotes 2
5.0 Analyzing a Conclusion 1
6.0 Analyzing a Conclusion 2
7.0 Presentation Practice
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 2, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語VI C - 2 (English VIC-2)

科目コード：01009612
担当教員：ロング　Ⅲ　ロバート　ウィリアム
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Analyzing a Casual Explanation 1
2.0 Analyzing a Casual Explanation 2
3.0 Anecdotes 1
4.0 Anecdotes 2
5.0 Analyzing a Conclusion 1
6.0 Analyzing a Conclusion 2
7.0 Presentation Practice
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 2, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語VI C - 2 (English VIC-2)

科目コード：01009612
担当教員：渡邉　浩明
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2E講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Analyzing a Casual Explanation 1
2.0 Analyzing a Casual Explanation 2
3.0 Anecdotes 1
4.0 Anecdotes 2
5.0 Analyzing a Conclusion 1
6.0 Analyzing a Conclusion 2
7.0 Presentation Practice
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 2, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

英語VI C - 2 (English VIC-2)

科目コード：01009612
担当教員：ﾋｯｸｽ　ｼﾞｪｰﾑｽ　ｴﾄﾞﾜｰﾄ
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：03,
曜日・時限：水曜 1限,　講義室：(総合教育棟南)C-2F講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の4技能をバランス良く含んだ総合的科目である。段階的に履修することで、体系的に英語コミュニケーション能力のさらなる涵養を行う

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

初年次を中心とした選択必修科目として、主に英語での発信能力の向上に焦点をあて、奇数ローマ数字の英語科目と並列して履修（初年次の場合）する。

授業項目

1.0 Analyzing a Casual Explanation 1
2.0 Analyzing a Casual Explanation 2
3.0 Anecdotes 1
4.0 Anecdotes 2
5.0 Analyzing a Conclusion 1
6.0 Analyzing a Conclusion 2
7.0 Presentation Practice
8.0 Review, Examination

授業の進め方

授業項目に関連するテキストの練習問題を予習してきている事を前提に質問を受け付け、実習形式で進める。小テスト、課題、定期試験を行う。
クラスごとに担当教員が必要に応じて授業項目の順序を入れ替えたり、教材・項目を補完・追加し、小テスト・追加課題を課すことがある。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
論理的な思考に基づいた表現力、外国語によるコミュニケーションの基礎能力を養い、それらを積極的に活用できる力を育てる。
2.
選択必修英語科目で求められる最低限の運用能力、基本的な聴解・会話能力、及び簡易な英文作成の形式・構成に関する基礎技能を身に付けることを目的とする。

成績評価の基準および評価方法

1. 定期試験　40%
2. リーディング小テスト　10%
3. リスニング小テスト 10%
4. スピーキング小テスト　10%
5. ライティング課題10%
6. 2-5のうちから20%

授業外学習（予習・復習）の指示

各授業の進度に即して、事前に知らない単語は全て調べておくこと。

キーワード

スピーチ、プレゼンテーション、会話能力、英作文

教科書

Inside Writing, Level 2, Oxford University Press

参考書

英和及び和英の大学用中辞典。その他、各担当教員より適宜指示する。

備考

クラス分けについては、掲示により発表する。

電子メールアドレス

選択英語４ Ｔ-１ (Elective English 4T-1)

科目コード：01009645
担当教員：渡邉　浩明
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:32

授業の概要

Intended for students with the score of 450 or higher on TOEIC, this advanced intermediate course aims at helping the students achieve 600 or higher. With this objective in mind, all classes are conducted entirely in English to improve students’ overall English proficiencies and TOEIC score without relying on test taking techniques. The students, therefore, will be asked to do various English trainings: reading aloud, dictation while reading aloud, sentence retention, and shadowing, as well as practices on Moodle.

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

This course is a first quarter of Selective English 4T-2.

授業項目

1. Introduction, demonstration of training menu
   Course introduction: explanation of textbooks, training sheet and grading method, instructions on training menu
2. TOEIC pre-test
   Taking a TOEIC mock test
3. English training and textbook study 1
   English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and studying textbooks
4. Quiz, English training and textbook study 2
   Taking a quiz, followed by English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and studying textbooks
5. Quiz, English training and textbook study 3
   Taking a quiz, followed by English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and studying textbooks
6. Quiz, English training and textbook study 4
   Taking a quiz, followed by English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and studying textbooks
7. Quiz, English training and textbook study 5
   Taking a quiz, followed by English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and studying textbooks
8. Review and final exam
   Review and Listening & Reading exam based on the quarter-term materials

授業の進め方

All class sessions are conducted in English.
This class has quizzes, followed by English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and learning textbooks.

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

This course aims at helping students to achieve 600 or higher on TOEIC test without relying on test taking techniques.
1. To learn the expressions used in the TOEIC reading section and to demonstrate the competency by completing training assignments.
2. To learn the expressions used in the TOEIC listening section and to demonstrate the competency by completing Moodle practices
3. To improve shadowing accuracy to demonstrate listening and speaking proficiencies
4. To raise TOEIC score by improving overall English proficiency
5. To achieve 600 points or higher on TOEIC without relying on test taking techniques

成績評価の基準および評価方法

Quiz 20%, Class activities 15%, Weekly English Training 20%, Moodle Practice 15%, Mid-Term Exam 10%, Final Exam 10%, TOEIC score improvement 10%
Students must have at least 60 % to pass.
Cheating on the training or Moodle practice results in failure (-100%).

授業外学習（予習・復習）の指示

Daily practice is required to complete Weekly English Training. Students must show the evidence of their training on the training sheet provided.
Moodle practice is mandatory.
Students are also expected to preview the textbook contents and look up unfamiliar words and phrases in the dictionary before attending each class session.

キーワード

TOEIC, shadowing, reading, listening, all English class

教科書

『TOEICテスト出まくりリスニング』神崎正哉著
コスモピア ISBN: 978-4902091922
『TOEICテスト出まくりリーディング』早川幸治著
コスモピア ISBN: 978-4864540490
『公式TOEIC Listening & Reading 問題集２』
Educational Testing Service (著)
国際ビジネスコミュニケーション協会 ISBN: 9784906033508

参考書

備考

【履修上の注意事項】
This course should be taken with Selective English 4T-2.
Two-third attendance is required for this class.
Dictionaries will be needed.
This course is intended for students with 450 or higher on TOEIC. Students with less than 450 on TOEIC should consult the instructor before taking this class.
Submit the copy of TOEIC score on the first day of class.

【オフィスアワー等】
Tuesday 14：40－16：00 (総合教育棟３Ｆ)

電子メールアドレス

選択英語４Ｔ-２ (Elective English 4T-2)

科目コード：01009646
担当教員：渡邉　浩明
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：選,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：金曜 5限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

Intended for students with the score of 450 or higher on TOEIC, this advanced intermediate course aims at helping the students achieve 600 or higher. With this objective in mind, all classes are conducted entirely in English to improve students' overall English proficiencies and TOEIC score without relying on test taking techniques. The students, therefore, will be asked to do various English trainings: reading aloud, dictation while reading aloud, sentence retention, and shadowing, as well as practices on Moodle.

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

This course is a second quarter class of Selective English 4T-1.

授業項目

1. English training and textbook study 1
   English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and studying textbooks
2. Quiz, English training and textbook study 2
   Taking a quiz, followed by English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and studying textbooks
3. Quiz, English training and textbook study 3
   Taking a quiz, followed by English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and studying textbooks
4. Quiz, English training and textbook study 4
   Taking a quiz, followed by English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and studying textbooks
5. Quiz, English training and textbook study 6
   Taking a quiz, followed by English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and studying textbooks
7. Quiz, English training and textbook study 7
   Taking a quiz, followed by English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and studying textbooks
8. Review and final exam

Review and Listening & Reading exam based on the quarter-term materials

授業の進め方

All class sessions are conducted in English.
This class has quizzes, followed by English training: listening, reading aloud, dictation while speaking aloud, repeating, retention, shadowing, and learning textbooks.

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

This course aims at helping students to achieve 600 or higher on TOEIC test without relying on test taking techniques.
1. To learn the expressions used in the TOEIC reading section and to demonstrate the competency by completing training assignments.
2. To learn the expressions used in the TOEIC listening section and to demonstrate the competency by completing Moodle practices
3. To improve shadowing accuracy to demonstrate listening and speaking proficiencies
4. To raise TOEIC score by improving overall English proficiency
5. To achieve 600 points or higher on TOEIC without relying on test taking techniques

成績評価の基準および評価方法

Quiz 20%, Class activities 15%, Weekly English Training 20%, Moodle Practice 15%, Mid-Term Exam 10%, Final Exam 10%, TOEIC score improvement 10%
Students must have at least 60 % to pass.
Cheating on the training or Moodle practice results in failure (-100%).

授業外学習（予習・復習）の指示

Daily practice is required to complete Weekly English Training. Students must show the evidence of their training on the training sheet provided.
Moodle practice is mandatory.
Students are also expected to preview the textbook contents and look up unfamiliar words and phrases in the dictionary before attending each class session.

キーワード

TOEIC, shadowing, reading, listening, all English class

教科書

『TOEICテスト出まくりリスニング』神崎正哉著
コスモピア ISBN: 978-4902091922
『TOEICテスト出まくりリーディング』早川幸治著
コスモピア ISBN: 978-4864540490
『公式TOEIC Listening & Reading 問題集２』
Educational Testing Service (著)
国際ビジネスコミュニケーション協会 ISBN: 9784906033508

参考書

備考

【履修上の注意事項】
This course should be taken with Selective English 4T-1.
Two-third attendance is required for this class.
Dictionaries will be needed.
This course is intended for students with 450 or higher on TOEIC. Students with less than 450 on TOEIC should consult the instructor before taking this class.
Submit the copy of TOEIC score on the first day of class.

【オフィスアワー等】
Tuesday 14：40－16：00 (総合教育棟３Ｆ)

電子メールアドレス

ドイツ語ＩＡ (German IA)

科目コード：01009701
担当教員：渡辺　アンゲリカ　ペートラ
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：03,
曜日・時限：月曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

サッカー、バウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで２番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることである。

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話力を身につけてもらいたい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

ドイツ語の基礎文法を学びつつ、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らす。
1年間で、ドイツ語初級の読み書き、聞き取り、会話ができることを目指す。

授業項目

1 ドイツ語とドイツ語圏について、簡単な自己紹介Ｉ
2 飲み物を注文しよう
3 アルファベート、つづりと発音
4 挨拶　≪国民性や常識の違いに注意≫
5 自己紹介Ⅱ　≪名前、呼び方、敬語？≫
6 趣味や特技、好き嫌いについて話し合う
7 趣味や特技、好き嫌いについて話し合う
8 復習と試験

授業の進め方

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習をし、ロールプレイにも挑戦する。ドイツの日常生活や文化を紹介する

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 音素を把握することができる。
2. 語句を区切って読むことができる。
3. 単語を書くことができる。
4. 個人についての情報を伝えることができる。

成績評価の基準および評価方法

授業への取り組み20％＋ロールプレイ20％＋期末テスト60％を総合的に評価し、６割以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

復習を欠かさないこと。
・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみること。
・授業時間に行ったロールプレイや会話を身につけていくこと。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォーメーション　neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

参考書

備考

電子メールアドレス

angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語ＩＡ (German IA)

科目コード：01009701
担当教員：渡辺　アンゲリカ　ペートラ
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 4限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

サッカー、バウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで２番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることである。

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話力を身につけてもらいたい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

ドイツ語の基礎文法を学びつつ、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らす。
1年間で、ドイツ語初級の読み書き、聞き取り、会話ができることを目指す。

授業項目

1 ドイツ語とドイツ語圏について、簡単な自己紹介Ｉ
2 飲み物を注文しよう
3 アルファベート、つづりと発音
4 挨拶　≪国民性や常識の違いに注意≫
5 自己紹介Ⅱ　≪名前、呼び方、敬語？≫
6 趣味や特技、好き嫌いについて話し合う
7 趣味や特技、好き嫌いについて話し合う
8 復習と試験

授業の進め方

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習をし、ロールプレイにも挑戦する。ドイツの日常生活や文化を紹介する

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 音素を把握することができる。
2. 語句を区切って読むことができる。
3. 単語を書くことができる。
4. 個人についての情報を伝えることができる。

成績評価の基準および評価方法

授業への取り組み20％＋ロールプレイ20％＋期末テスト60％を総合的に評価し、６割以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

復習を欠かさないこと。
・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみること。
・授業時間に行ったロールプレイや会話を身につけていくこと。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォーメーション　neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

参考書

備考

電子メールアドレス

angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語ＩＡ (German IA)

科目コード：01009701
担当教員：平川　要
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 4限,　講義室：(総合教育棟南)C-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

大学では外国語として英語以外に、第2外国語を学習する。英語圏以外の文化や言語、ものの考え方・見方を学ぶことによって複眼的な思考を培う。ドイツは西欧近代思想の中心的な担い手であったが、現在においてもEUの旗頭としてヨーロッパの政治・経済・文化の発展に寄与している。学生諸君には、学生時代に直接ヨーロッパの伝統・文化に触れ、日本の将来のあり方を見つめ直して欲しい。

ドイツ語文法の基礎（独検4級程度）を学習する。外国語を学ぶことは、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことを主たる目的とする。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことを通して、西欧近代的な思想の枠組みを考えなおす。さらに学生諸君には日本語や英語との比較から、今一度、日本語の特異性を顧みて欲しい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

ドイツ語を学ぶことによって、はっきりした効果が目に見える形でははないものの、強靱で幅広い思考力が培われる。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

授業項目

1 ドイツおよびドイツ語について
2 ドイツ語の発音
3 「おはようございます」ドイツ語のあいさつ、数詞
4 「タナカマコトと申します①」人称代名詞
5
「タナカマコトと申します②」動詞の現在人称変化、seinの人称変化
6 「何をしているの①」　habenの人称変化
7 「何をしているの②」　名詞の性、語順
8 発音のテスト、期末テスト

授業の進め方

下記の項目にしたがう。授業は教員の一方的な講義によるのではなく、学生との共同作業によって進められ、理解を深める。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 音素を把握することができる。
2. 語句を区切って読むことができる。
3. 単語を書くことができる。
4. 個人についての情報を伝えることができる。

成績評価の基準および評価方法

授業への取り組み（出席等）30%　発音のテスト20%
期末テスト50%

授業外学習（予習・復習）の指示

教科書についているCDを何度も聞いて復習すること。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォーメーション　neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

参考書

備考

電子メールアドレス

k.hirakawa@uma.bbiq.jp

ドイツ語ＩＢ (German IB)

科目コード：01009702
担当教員：渡辺　アンゲリカ　ペートラ
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：03,
曜日・時限：月曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

サッカー、バウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで２番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることである。

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話力を身につけてもらいたい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

ドイツ語の基礎文法を学びつつ、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らす。
1年間で、ドイツ語初級の読み書き、聞き取り、会話ができることを目指す。

授業項目

1 持っている物、欲しい物について話す
2 買い物のロールプレイ
3 買い物のロールプレイ
4 自分の家族を紹介しよう
5 自分の家族を紹介しよう
6 一緒に温泉へ行こう
7 ドイツの映画を見よう　現代ドイツの様子を感じ取る
8 復習と試験

授業の進め方

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習をし、ロールプレイにも挑戦する。ドイツの日常生活や文化を紹介する

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 音素を把握することができる。
2. 語句を区切って読むことができる。
3. 単語を書くことができる。
4. 個人についての情報を伝えることができる。

成績評価の基準および評価方法

授業への取り組み20％＋ロールプレイ20％＋期末テスト60％を総合的に評価し、６割以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

"復習を欠かさないこと。
・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみること。
・授業時間に行ったロールプレイや会話を身につけていくこと。"

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォーメーション　neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

参考書

備考

電子メールアドレス

angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語ＩＢ (German IB)

科目コード：01009702
担当教員：平川　要
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 4限,　講義室：(総合教育棟南)C-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

大学では外国語として英語以外に、第2外国語を学習する。英語圏以外の文化や言語、ものの考え方・見方を学ぶことによって複眼的な思考を培う。ドイツは西欧近代思想の中心的な担い手であったが、現在においてもEUの旗頭としてヨーロッパの政治・経済・文化の発展に寄与している。学生諸君には、学生時代に直接ヨーロッパの伝統・文化に触れ、日本の将来のあり方を見つめ直して欲しい。

ドイツ語文法の基礎（独検4級程度）を学習する。外国語を学ぶことは、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことを主たる目的とする。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことを通して、西欧近代的な思想の枠組みを考えなおす。さらに学生諸君には日本語や英語との比較から、今一度、日本語の特異性を顧みて欲しい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

ドイツ語を学ぶことによって、はっきりした効果が目に見える形でははないものの、強靱で幅広い思考力が培われる。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

授業項目

1 「その帽子はいくらですか？」
定冠詞と名詞の格変化、名詞の複数形
2 「コーヒーが一杯欲しい」 所有冠詞、否定冠詞
3 「こちらザビーネです①」 不規則な動詞(1)
4 「こちらザビーネです②」 名詞の３格、疑問代名詞
5 「何を注文する？①」 不規則な動詞(2)
6 「何を注文する？②」 人称代名詞、非人称のes

7 発音のテスト、前期授業内容の総括
8 期末テスト

授業の進め方

下記の項目にしたがう。授業は教員の一方的な講義によるのではなく、学生との共同作業によって進められ、理解を深め

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 音素を把握することができる。
2. 語句を区切って読むことができる。
3. 単語を書くことができる。
4. 個人についての情報を伝えることができる。

成績評価の基準および評価方法

授業への取り組み（出席等）30%　発音のテスト20%
期末テスト50%

授業外学習（予習・復習）の指示

教科書についているCDを何度も聞いて復習すること。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォーメーション　neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

参考書

備考

電子メールアドレス

k.hirakawa@uma.bbiq.jp

ドイツ語ＩＢ (German IB)

科目コード：01009702
担当教員：渡辺　アンゲリカ　ペートラ
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 4限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

サッカー、バウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで２番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることである。

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話力を身につけてもらいたい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

ドイツ語の基礎文法を学びつつ、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らす。
1年間で、ドイツ語初級の読み書き、聞き取り、会話ができることを目指す。

授業項目

1 持っている物、欲しい物について話す
2 買い物のロールプレイ
3 買い物のロールプレイ
4 自分の家族を紹介しよう
5 自分の家族を紹介しよう
6 一緒に温泉へ行こう
7 ドイツの映画を見よう　現代ドイツの様子を感じ取る
8 復習と試験

授業の進め方

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習をし、ロールプレイにも挑戦する。ドイツの日常生活や文化を紹介する

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 音素を把握することができる。
2. 語句を区切って読むことができる。
3. 単語を書くことができる。
4. 個人についての情報を伝えることができる。

成績評価の基準および評価方法

授業への取り組み20％＋ロールプレイ20％＋期末テスト60％を総合的に評価し、６割以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

"復習を欠かさないこと。
・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみること。
・授業時間に行ったロールプレイや会話を身につけていくこと。"

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォーメーション　neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

参考書

備考

電子メールアドレス

angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語 II A (German IIA)

科目コード：01009703
担当教員：平川　要
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：03,
曜日・時限：月曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:32

授業の概要

英語圏以外の文化や言語、ものの考え方・見方を学ぶことによって複眼的な思考を培う。ドイツは西欧近代思想の中心的な担い手であったが、現在においてもEUの旗頭としてヨーロッパの政治・経済・文化の発展に中心的な役割を果たしている。学生諸君には、学生時代に直接ヨーロッパの伝統に触れ、日本の将来のあり方を見つめ直してほしい。

ドイツ語文法の基礎（独検4級程度）を学習する。外国語を学ぶことは、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことを通して、西欧近代的な思想の枠組みを視野に入れる。さらに日本語や英語との比較から、今一度、日本語の特異性を顧みる。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

「ドイツ語ＩA,B」に引き続きドイツ語の基礎（独検4級程度）を学習する。ドイツ語を学ぶことによって、強靱で幅広い思考力、複眼的なものの見方を培う。さらにヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できるようにする。

授業項目

1 前期学習内容の復習
2 「市庁舎へはどう行ったらいいのですか？①」　前置詞
3 「市庁舎へはどういったらいいのですか？②」　前置詞と定冠詞の融合形
4 「歩いてホテルまで行くことができますか？①」　話法の助動詞の人称変化
5 「歩いてホテルまで行くことができますか？②」　話法の助動詞の意味
6 「その列車は何時に発車しますか？①」　分離動詞
7 「その列車は何時に発車しますか？②」　命令形、時刻表現
8 発音のテスト、　期末テスト

授業の進め方

下記の項目にしたがう。授業は教員の一方的な講義によるのではなく、学生との共同作業によって進められ、理解を深める。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
2. 基本構文を理解することができる。
3. 短い言い回しを書き写すことができる。
4. 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

成績評価の基準および評価方法

授業への取り組み（出席等）30％　発音のテスト20％　期末テスト50％

授業外学習（予習・復習）の指示

教科書についているCDを何度も聞いて復習すること。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォーメーション　neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

参考書

備考

電子メールアドレス

k.hirakawa@uma.bbiq.jp

ドイツ語 II A (German IIA)

科目コード：01009703
担当教員：未定
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 4限,　講義室：(総合教育棟南)C-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:32

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

電子メールアドレス

ドイツ語 II A (German IIA)

科目コード：01009703
担当教員：平川　要
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 4限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:32

授業の概要

英語圏以外の文化や言語、ものの考え方・見方を学ぶことによって複眼的な思考を培う。ドイツは西欧近代思想の中心的な担い手であったが、現在においてもEUの旗頭としてヨーロッパの政治・経済・文化の発展に中心的な役割を果たしている。学生諸君には、学生時代に直接ヨーロッパの伝統に触れ、日本の将来のあり方を見つめ直してほしい。

ドイツ語文法の基礎（独検4級程度）を学習する。外国語を学ぶことは、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことを通して、西欧近代的な思想の枠組みを視野に入れる。さらに日本語や英語との比較から、今一度、日本語の特異性を顧みる。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

「ドイツ語ＩA,B」に引き続きドイツ語の基礎（独検4級程度）を学習する。ドイツ語を学ぶことによって、強靱で幅広い思考力、複眼的なものの見方を培う。さらにヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できるようにする。

授業項目

1 前期学習内容の復習
2 「市庁舎へはどう行ったらいいのですか？①」　前置詞
3
「市庁舎へはどういったらいいのですか？②」　前置詞と定冠詞の融合形
4
「歩いてホテルまで行くことができますか？①」　話法の助動詞の人称変化
5
「歩いてホテルまで行くことができますか？②」　話法の助動詞の意味
6 「その列車は何時に発車しますか？①」　分離動詞
7
「その列車は何時に発車しますか？②」　命令形、時刻表現
8 発音のテスト、　期末テスト

授業の進め方

下記の項目にしたがう。授業は教員の一方的な講義によるのではなく、学生との共同作業によって進められ、理解を深める。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
2. 基本構文を理解することができる。

3. 短い言い回しを書き写すことができる。
4. 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

成績評価の基準および評価方法

授業への取り組み（出席等）30%　発音のテスト20%
期末テスト50%

授業外学習（予習・復習）の指示

教科書についているCDを何度も聞いて復習すること。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォーメーション　neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

参考書

備考

電子メールアドレス

k.hirakawa@uma.bbiq.jp

ドイツ語 II B (German IIB)

科目コード：01009704
担当教員：平川　要
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：03,
曜日・時限：月曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

英語圏以外の文化や言語、ものの考え方・見方を学ぶことによって複眼的な思考を培う。ドイツは西欧近代思想の中心的な担い手であったが、現在においてもEUの旗頭としてヨーロッパの政治・経済・文化の発展に中心的な役割を果たしている。学生諸君には、学生時代に直接ヨーロッパの伝統に触れ、日本の将来のあり方を見つめ直してほしい。

ドイツ語文法の基礎（独検4級程度）を学習する。外国語を学ぶことは、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことを通して、西欧近代的な思想の枠組みを視野に入れる。さらに日本語や英語との比較から、今一度、日本語の特異性を顧みる。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

「ドイツ語ⅡA」に引き続きドイツ語の基礎（独検4級程度）を学習する。ドイツ語を学ぶことによって、強靱で幅広い思考力、複眼的なものの見方を培う。さらにヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できるようにする。

授業項目

1 「音楽に興味があります」　再帰代名詞と再帰動詞
2 「とてもよかった！①」　動詞の３基本形
3 「とてもよかった！②」　過去人称変化
4 「おいしかった！①」　現在完了
5 「おいしかった！②」　分離動詞の現在完了
6 後期授業内容の総括
7 発音のテスト、　中級へのステップ
8 期末テスト

授業の進め方

下記の項目にしたがう。授業は教員の一方的な講義によるのではなく、学生との共同作業によって進められ、理解を深める。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
2. 基本構文を理解することができる。
3. 短い言い回しを書き写すことができる。
4. 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

成績評価の基準および評価方法

授業への取り組み（出席等）30%　発音のテスト20%
期末テスト50%

授業外学習（予習・復習）の指示

教科書についているCDを何度も聞いて復習すること。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォーメーション　neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

参考書

備考

電子メールアドレス

k.hirakawa@uma.bbiq.jp

ドイツ語 II B (German IIB)

科目コード：01009704
担当教員：未定
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 4限,　講義室：(総合教育棟南)C-3D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

キーワード

教科書

参考書

備考

電子メールアドレス

ドイツ語 II B (German IIB)

科目コード：01009704
担当教員：平川　要
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 4限,　講義室：(総合教育棟南)C-1D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

英語圏以外の文化や言語、ものの考え方・見方を学ぶことによって複眼的な思考を培う。ドイツは西欧近代思想の中心的な担い手であったが、現在においてもEUの旗頭としてヨーロッパの政治・経済・文化の発展に中心的な役割を果たしている。学生諸君には、学生時代に直接ヨーロッパの伝統に触れ、日本の将来のあり方を見つめ直してほしい。

ドイツ語文法の基礎（独検4級程度）を学習する。外国語を学ぶことは、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことを通して、西欧近代的な思想の枠組みを視野に入れる。さらに日本語や英語との比較から、今一度、日本語の特異性を顧みる。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

「ドイツ語ⅡA」に引き続きドイツ語の基礎（独検4級程度）を学習する。ドイツ語を学ぶことによって、強靱で幅広い思考力、複眼的なものの見方を培う。さらにヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できるようにする。

授業項目

1 「音楽に興味があります」　再帰代名詞と再帰動詞
2 「とてもよかった！①」　動詞の３基本形
3 「とてもよかった！②」　過去人称変化
4 「おいしかった！①」　現在完了
5 「おいしかった！②」　分離動詞の現在完了
6 後期授業内容の総括
7 発音のテスト、　中級へのステップ
8 期末テスト

授業の進め方

下記の項目にしたがう。授業は教員の一方的な講義によるのではなく、学生との共同作業によって進められ、理解を深める。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
2. 基本構文を理解することができる。
3. 短い言い回しを書き写すことができる。
4. 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

成績評価の基準および評価方法

授業への取り組み（出席等）30%　発音のテスト20%
期末テスト50%

授業外学習（予習・復習）の指示

教科書についているCDを何度も聞いて復習すること。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォーメーション　neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

参考書

備考

電子メールアドレス

k.hirakawa@uma.bbiq.jp

中国語ＩＡ (Chinese IA)

科目コード：01009709
担当教員：一木　達彦
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：03,
曜日・時限：月曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識はとくに必要ではないが、一般的な外国語課目であるので、一般外国語額の基礎的知識がある方が望ましい。

授業項目

1 概説
2 発音（声調・単母音）
3 発音（複母音）
4 発音（鼻音をともなう母音）
5 発音（子音）
6 発音（音節練習・綴りの規則）
7 発音（声調の変調・復習）
8 期末試験

授業の進め方

別欄の授業項目にしたがって講義する。語学の講義なので、発音、訳などは全体的或いは個別に指示し、講義に積極的に参加してもらう。講義内容の理解を促すための演習を課し、１課終わる毎に小テストを行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
2. 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
3. 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
4.
自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

成績評価の基準および評価方法

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）　60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。

一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。次の授業で確認のための小テストを行う。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

参考書

備考

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

電子メールアドレス

中国語ＩＡ (Chinese IA)

科目コード：01009709
担当教員：野村　和代
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：04,
曜日・時限：月曜 3限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識はとくに必要ではないが、一般的な外国語課目であるので、一般外国語額の基礎的知識がある方が望ましい。

授業項目

1 概説
2 発音（声調・単母音）
3 発音（複母音）
4 発音（鼻音をともなう母音）
5 発音（子音）
6 発音（音節練習・綴りの規則）
7 発音（声調の変調・復習）
8 期末試験

授業の進め方

別欄の授業項目にしたがって講義する。語学の講義なので、発音、訳などは全体的或いは個別に指示し、講義に積極的に参加してもらう。講義内容の理解を促すための演習を課し、１課終わる毎に小テストを行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
2. 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
3. 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
4.
自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

成績評価の基準および評価方法

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）　60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。

一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。次の授業で確認のための小テストを行う。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

参考書

備考

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

電子メールアドレス

中国語ＩＡ (Chinese IA)

科目コード：01009709
担当教員：野村　和代
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 4限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識はとくに必要ではないが、一般的な外国語課目であるので、一般外国語額の基礎的知識がある方が望ましい。

授業項目

1 概説
2 発音（声調・単母音）
3 発音（複母音）
4 発音（鼻音をともなう母音）
5 発音（子音）
6 発音（音節練習・綴りの規則）
7 発音（声調の変調・復習）
8 期末試験

授業の進め方

別欄の授業項目にしたがって講義する。語学の講義なので、発音、訳などは全体的或いは個別に指示し、講義に積極的に参加してもらう。講義内容の理解を促すための演習を課し、１課終わる毎に小テストを行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
2. 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
3. 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
4.
自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

成績評価の基準および評価方法

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）　60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。

一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。次の授業で確認のための小テストを行う。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

参考書

備考

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

電子メールアドレス

中国語ＩＡ (Chinese IA)

科目コード：01009709
担当教員：一木　達彦
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 4限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:10

授業の概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識はとくに必要ではないが、一般的な外国語課目であるので、一般外国語額の基礎的知識がある方が望ましい。

授業項目

1 概説
2 発音（声調・単母音）
3 発音（複母音）
4 発音（鼻音をともなう母音）
5 発音（子音）
6 発音（音節練習・綴りの規則）
7 発音（声調の変調・復習）
8 期末試験

授業の進め方

別欄の授業項目にしたがって講義する。語学の講義なので、発音、訳などは全体的或いは個別に指示し、講義に積極的に参加してもらう。講義内容の理解を促すための演習を課し、１課終わる毎に小テストを行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
2. 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
3. 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
4.
自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

成績評価の基準および評価方法

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）　60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。

一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。次の授業で確認のための小テストを行う。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

参考書

備考

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

電子メールアドレス

中国語ＩＢ (Chinese IB)

科目コード：01009710
担当教員：一木　達彦
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：03,
曜日・時限：月曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識はとくに必要ではないが、一般的な外国語課目であるので、一般外国語額の基礎的知識がある方が望ましい。

授業項目

1 期末試験解説
2 第1課（本文）
3 第1課（ポイント）
4 第2課（本文）
5 第2課（ポイント）
6 第3課（本文）
7 第3課（ポイント）
8 期末試験

授業の進め方

別欄の授業項目にしたがって講義する。語学の講義なので、発音、訳などは全体的或いは個別に指示し、講義に積極的に参加してもらう。講義内容の理解を促すための演習を課し、１課終わる毎に小テストを行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
2. 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
3. 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
4.
自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

成績評価の基準および評価方法

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）　60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。

一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。次の授業で確認のための小テストを行う。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

参考書

備考

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

電子メールアドレス

中国語ＩＢ (Chinese IB)

科目コード：01009710
担当教員：野村　和代
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：04,
曜日・時限：月曜 3限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識はとくに必要ではないが、一般的な外国語課目であるので、一般外国語額の基礎的知識がある方が望ましい。

授業項目

1 期末試験解説
2 第1課（本文）
3 第1課（ポイント）
4 第2課（本文）
5 第2課（ポイント）
6 第3課（本文）
7 第3課（ポイント）
8 期末試験

授業の進め方

別欄の授業項目にしたがって講義する。語学の講義なので、発音、訳などは全体的或いは個別に指示し、講義に積極的に参加してもらう。講義内容の理解を促すための演習を課し、１課終わる毎に小テストを行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
2. 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
3. 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
4.

自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

成績評価の基準および評価方法

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）　60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。

一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。次の授業で確認のための小テストを行う。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

参考書

備考

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

電子メールアドレス

中国語ＩＢ (Chinese IB)

科目コード：01009710
担当教員：一木　達彦
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 4限,　講義室：(総合教育棟南)C-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識はとくに必要ではないが、一般的な外国語課目であるので、一般外国語額の基礎的知識がある方が望ましい。

授業項目

1 期末試験解説
2 第1課（本文）
3 第1課（ポイント）
4 第2課（本文）
5 第2課（ポイント）
6 第3課（本文）
7 第3課（ポイント）
8 期末試験

授業の進め方

別欄の授業項目にしたがって講義する。語学の講義なので、発音、訳などは全体的或いは個別に指示し、講義に積極的に参加してもらう。講義内容の理解を促すための演習を課し、１課終わる毎に小テストを行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
2. 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
3. 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
4.

自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

成績評価の基準および評価方法

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）　60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。

一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。次の授業で確認のための小テストを行う。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

参考書

備考

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

電子メールアドレス

中国語ＩＢ (Chinese IB)

科目コード：01009710
担当教員：野村　和代
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 4限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識はとくに必要ではないが、一般的な外国語課目であるので、一般外国語額の基礎的知識がある方が望ましい。

授業項目

1 期末試験解説
2 第1課（本文）
3 第1課（ポイント）
4 第2課（本文）
5 第2課（ポイント）
6 第3課（本文）
7 第3課（ポイント）
8 期末試験

授業の進め方

別欄の授業項目にしたがって講義する。語学の講義なので、発音、訳などは全体的或いは個別に指示し、講義に積極的に参加してもらう。講義内容の理解を促すための演習を課し、１課終わる毎に小テストを行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
2. 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
3. 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
4.

自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

成績評価の基準および評価方法

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）　60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。

一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。次の授業で確認のための小テストを行う。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

参考書

備考

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

電子メールアドレス

中国語 II A (Chinese IIA)

科目コード：01009711
担当教員：一木　達彦
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：03,
曜日・時限：月曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:32

授業の概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識はとくに必要ではないが、一般的な外国語課目であるので、一般外国語額の基礎的知識がある方が望ましい。

授業項目

1 期末試験解説、復習
2 第4課（本文）
3 第4課（ポイント）
4 第5課（本文）
5 第5課（ポイント）
6 第6課（本文）
7 第6課（ポイント）
8 期末試験

授業の進め方

別欄の授業項目にしたがって講義する。語学の講義なので、発音、訳などは全体的或いは個別に指示し、講義に積極的に参加してもらう。講義内容の理解を促すための演習を課し、１課終わる毎に小テストを行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
2. 基本構文を理解することができる。
3. 短い言い回しを書き写すことができる。
4. 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

成績評価の基準および評価方法

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）　60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。

一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。次の授業で確認のための小テストを行う。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

参考書

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

備考

電子メールアドレス

yimu77@yahoo.co.jp

中国語 II A (Chinese IIA)

科目コード：01009711
担当教員：野村　和代
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：04,
曜日・時限：月曜 3限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:32

授業の概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識はとくに必要ではないが、一般的な外国語課目であるので、一般外国語額の基礎的知識がある方が望ましい。

授業項目

1 期末試験解説、復習
2 第4課（本文）
3 第4課（ポイント）
4 第5課（本文）
5 第5課（ポイント）
6 第6課（本文）
7 第6課（ポイント）
8 期末試験

授業の進め方

別欄の授業項目にしたがって講義する。語学の講義なので、発音、訳などは全体的或いは個別に指示し、講義に積極的に参加してもらう。講義内容の理解を促すための演習を課し、１課終わる毎に小テストを行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
2. 基本構文を理解することができる。
3. 短い言い回しを書き写すことができる。
4. 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

成績評価の基準および評価方法

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）　60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。

一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。次の授業で確認のための小テストを行う。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

参考書

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

備考

電子メールアドレス

yimu77@yahoo.co.jp

中国語 II A (Chinese IIA)

科目コード：01009711
担当教員：平川　要
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 4限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:32

授業の概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識はとくに必要ではないが、一般的な外国語課目であるので、一般外国語額の基礎的知識がある方が望ましい。

授業項目

1 期末試験解説、復習
2 第4課（本文）
3 第4課（ポイント）
4 第5課（本文）
5 第5課（ポイント）
6 第6課（本文）
7 第6課（ポイント）
8 期末試験

授業の進め方

別欄の授業項目にしたがって講義する。語学の講義なので、発音、訳などは全体的或いは個別に指示し、講義に積極的に参加してもらう。講義内容の理解を促すための演習を課し、１課終わる毎に小テストを行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
2. 基本構文を理解することができる。
3. 短い言い回しを書き写すことができる。
4. 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

成績評価の基準および評価方法

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）　60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。

一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。次の授業で確認のための小テストを行う。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

参考書

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

備考

電子メールアドレス

yimu77@yahoo.co.jp

中国語 II A (Chinese IIA)

科目コード：01009711
担当教員：一木　達彦
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 4限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:32

授業の概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識はとくに必要ではないが、一般的な外国語課目であるので、一般外国語額の基礎的知識がある方が望ましい。

授業項目

1 期末試験解説、復習
2 第4課（本文）
3 第4課（ポイント）
4 第5課（本文）
5 第5課（ポイント）
6 第6課（本文）
7 第6課（ポイント）
8 期末試験

授業の進め方

別欄の授業項目にしたがって講義する。語学の講義なので、発音、訳などは全体的或いは個別に指示し、講義に積極的に参加してもらう。講義内容の理解を促すための演習を課し、１課終わる毎に小テストを行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
2. 基本構文を理解することができる。
3. 短い言い回しを書き写すことができる。
4. 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

成績評価の基準および評価方法

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）　60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。

一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。次の授業で確認のための小テストを行う。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

参考書

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

備考

電子メールアドレス

yimu77@yahoo.co.jp

中国語 II B (Chinese IIB)

科目コード：01009712
担当教員：一木　達彦
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：03,
曜日・時限：月曜 3限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識はとくに必要ではないが、一般的な外国語課目であるので、一般外国語額の基礎的知識がある方が望ましい。

授業項目

1 期末試験解説
2 第7課（本文）
3 第7課（ポイント）
4 第8課（本文）
5 第8課（ポイント）
6 第9課（本文）
7 第9課（ポイント）
8 期末試験

授業の進め方

別欄の授業項目にしたがって講義する。語学の講義なので、発音、訳などは全体的或いは個別に指示し、講義に積極的に参加してもらう。講義内容の理解を促すための演習を課し、１課終わる毎に小テストを行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
2. 基本構文を理解することができる。
3. 短い言い回しを書き写すことができる。
4. 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

成績評価の基準および評価方法

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）　60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。

一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。次の授業で確認のための小テストを行う。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

参考書

備考

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

電子メールアドレス

yimu77@yahoo.co.jp

中国語 II B (Chinese IIB)

科目コード：01009712
担当教員：野村　和代
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：04,
曜日・時限：月曜 3限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識はとくに必要ではないが、一般的な外国語課目であるので、一般外国語額の基礎的知識がある方が望ましい。

授業項目

1 期末試験解説
2 第7課（本文）
3 第7課（ポイント）
4 第8課（本文）
5 第8課（ポイント）
6 第9課（本文）
7 第9課（ポイント）
8 期末試験

授業の進め方

別欄の授業項目にしたがって講義する。語学の講義なので、発音、訳などは全体的或いは個別に指示し、講義に積極的に参加してもらう。講義内容の理解を促すための演習を課し、１課終わる毎に小テストを行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
2. 基本構文を理解することができる。
3. 短い言い回しを書き写すことができる。
4. 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

成績評価の基準および評価方法

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）　60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。

一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。次の授業で確認のための小テストを行う。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

参考書

備考

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

電子メールアドレス

yimu77@yahoo.co.jp

中国語 II B (Chinese IIB)

科目コード：01009712
担当教員：野村　和代
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 4限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識はとくに必要ではないが、一般的な外国語課目であるので、一般外国語額の基礎的知識がある方が望ましい。

授業項目

1 期末試験解説
2 第7課（本文）
3 第7課（ポイント）
4 第8課（本文）
5 第8課（ポイント）
6 第9課（本文）
7 第9課（ポイント）
8 期末試験

授業の進め方

別欄の授業項目にしたがって講義する。語学の講義なので、発音、訳などは全体的或いは個別に指示し、講義に積極的に参加してもらう。講義内容の理解を促すための演習を課し、１課終わる毎に小テストを行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
2. 基本構文を理解することができる。
3. 短い言い回しを書き写すことができる。
4. 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

成績評価の基準および評価方法

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）　60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。

一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。次の授業で確認のための小テストを行う。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

参考書

備考

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

電子メールアドレス

yimu77@yahoo.co.jp

中国語 II B (Chinese IIB)

科目コード：01009712
担当教員：一木　達彦
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 4限,　講義室：(総合教育棟南)C-2D講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

講義の前提知識はとくに必要ではないが、一般的な外国語課目であるので、一般外国語額の基礎的知識がある方が望ましい。

授業項目

1 期末試験解説
2 第7課（本文）
3 第7課（ポイント）
4 第8課（本文）
5 第8課（ポイント）
6 第9課（本文）
7 第9課（ポイント）
8 期末試験

授業の進め方

別欄の授業項目にしたがって講義する。語学の講義なので、発音、訳などは全体的或いは個別に指示し、講義に積極的に参加してもらう。講義内容の理解を促すための演習を課し、１課終わる毎に小テストを行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
2. 基本構文を理解することができる。
3. 短い言い回しを書き写すことができる。
4. 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

成績評価の基準および評価方法

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）　60点以上を合格とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。

一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。次の授業で確認のための小テストを行う。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

参考書

備考

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

電子メールアドレス

yimu77@yahoo.co.jp

フランス語ＩＡ (French IA)

科目コード：01009717
担当教員：コモン　ティエリ
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 3限,　講義室：(教育研究1号棟)1-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:11

授業の概要

フランス語を初めて学ぶ大学一年生を対象とした、初級文法と会話の授業です。アルファベットやつづり字の読み方からはじめ、フランス語で「話す」能力を身に付けるために必要な文法事項を、順序よく学習します。同時に、あいさつや自己紹介、身近なテーマについての話など、実際にフランスで生活をするさいに使う表現を中心に、少人数で会話の練習を繰り返し行い、楽しくフランス語で話すことに慣れていきます。

　授業では随時、フランス映画などの映像やＣＤを用いて、フランス語の音声に親しみながらゆっくりとしたペースで進めます。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

英語に次ぐ第2外国語として学習します。殆どの受講者が初めて学ぶ言語となるため、事前知識は不要です。2〜3年次以降にフランスへ留学する場合に必要となる、基本的な文法知識と会話表現を習得します。

授業項目

1. ガイダンス
   アルファベット ・ つづり字記号 ・ 発音のルール① ・ あいさつ ・ 数詞（1〜10）
2. Leçon 1 : Tu es japonais ?「きみは日本人？」①
   発音のルール② ・ 主語代名詞 ・ 動詞 être（〜である） の活用 ・ 男性形と女性形
3. Leçon 1 : Tu es japonais ?「きみは日本人？」②
   発音のルール☒ ・ 否定表現 ・ 出身地と学部を表現する
4. Leçon 2 : Est-ce que tu travailles ?「きみはバイトしてるの？」①
   発音のルール④ ・ -er 動詞の活用 ・ Est-ce que を用いた疑問文 ・ 数詞（11〜20）
5. Leçon 2 : Est-ce que tu travailles ?「きみはバイトしてるの？」②
   肯定疑問と否定疑問
6. フランス映画の紹介
   フランス語の音に慣れ、フランスの文化・社会的背景についての知識を深める。簡単な挨拶の聞き取り。
7. 文法復習
8. まとめ及び定期試験
   まとめ及び第1クォーター試験

授業の進め方

上記の項目にしたがって授業を行います。授業内容の理解を促すために、小テストなどを課しながら授業を進めます。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

「初歩的なフランス語を理解し、聞き、話すことができる」（実用フランス語技能検定試験5級レベル）の準備段階への到達が目標です。
具体的には以下の項目を目標とします。
1. 音素を把握することができる。
2. 語句を区切って読むことができる。
3. 単語を書くことができる。
4. 個人についての情報を伝えることができる。

成績評価の基準および評価方法

到達目標の達成度は、つぎの方法と割合で評価します。
①平常点 : 40%（学習状況、ペアでの会話の練習状況等）
②定期試験 : 60%
（小テスト等、数回に分ける場合があります）

授業外学習（予習・復習）の指示

（予習）
授業範囲内に出てくる単語を単語集で確認し、大まかな内容を理解しておいてください。
（復習）　ノートを見て授業内容を思い出しながら、繰り返し声に出して練習してください。

キーワード

フランス語，フランス文化，フランス語圏，フランス留学，仏検

教科書

レナ・ジュンタ，清岡智比古『ぜんぶ話して！（MP3 CD-ROM 付）』白水社，2500円（税別）。

参考書

倉方秀憲　編『プチ・ロワイヤル仏和辞典　第４版』旺文社，2010年3月。
※辞書購入は必須ではありません。希望の場合は、上記の仏和辞書には紙媒体と、電子辞書がありますので、好きな方を入手してください。辞書については、授業でも紹介します。
※教科書には、学習範囲の単語が収録された単語集が付いています。

備考

必要に応じて随時、練習問題や参考文献などの資料を配布します。

電子メールアドレス

授業内で周知。

フランス語ＩＡ (French IA)

科目コード：01009717
担当教員：コモン　ティエリ
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 4限,　講義室：(教育研究1号棟)1-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:11

授業の概要

フランス語を初めて学ぶ大学一年生を対象とした、初級文法と会話の授業です。アルファベットやつづり字の読み方からはじめ、フランス語で「話す」能力を身に付けるために必要な文法事項を、順序よく学習します。同時に、あいさつや自己紹介、身近なテーマについての話など、実際にフランスで生活をするさいに使う表現を中心に、少人数で会話の練習を繰り返し行い、楽しくフランス語で話すことに慣れていきます。

　授業では随時、フランス映画などの映像やＣＤを用いて、フランス語の音声に親しみながらゆっくりとしたペースで進めます。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

英語に次ぐ第2外国語として学習します。殆どの受講者が初めて学ぶ言語となるため、事前知識は不要です。2〜3年次以降にフランスへ留学する場合に必要となる、基本的な文法知識と会話表現を習得します。

授業項目

1. ガイダンス
   アルファベット ・ つづり字記号 ・ 発音のルール① ・ あいさつ ・ 数詞（1〜10）
2. Leçon 1 : Tu es japonais ?「きみは日本人？」①
   発音のルール② ・ 主語代名詞 ・ 動詞 être（〜である） の活用 ・ 男性形と女性形
3. Leçon 1 : Tu es japonais ?「きみは日本人？」②
   発音のルール☒ ・ 否定表現 ・ 出身地と学部を表現する
4. Leçon 2 : Est-ce que tu travailles ?「きみはバイトしてるの？」①
   発音のルール④ ・ -er 動詞の活用 ・ Est-ce que を用いた疑問文 ・ 数詞（11〜20）
5. Leçon 2 : Est-ce que tu travailles ?「きみはバイトしてるの？」②
   肯定疑問と否定疑問
6. フランス映画の紹介
   フランス語の音に慣れ、フランスの文化・社会的背景についての知識を深める。簡単な挨拶の聞き取り。
7. 文法復習
8. まとめ及び定期試験
   まとめ及び第1クォーター試験

授業の進め方

上記の項目にしたがって授業を行います。授業内容の理解を促すために、小テストなどを課しながら授業を進めます。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

「初歩的なフランス語を理解し、聞き、話すことができる」（実用フランス語技能検定試験5級レベル）の準備段階への到達が目標です。
具体的には以下の項目を目標とします。
1. 音素を把握することができる。
2. 語句を区切って読むことができる。
3. 単語を書くことができる。
4. 個人についての情報を伝えることができる。

成績評価の基準および評価方法

到達目標の達成度は、つぎの方法と割合で評価します。
①平常点 : 40%（学習状況、ペアでの会話の練習状況等）
②定期試験 : 60%
（小テスト等、数回に分ける場合があります）

授業外学習（予習・復習）の指示

（予習）
授業範囲内に出てくる単語を単語集で確認し、大まかな内容を理解しておいてください。
（復習）　ノートを見て授業内容を思い出しながら、繰り返し声に出して練習してください。

キーワード

フランス語，フランス文化，フランス語圏，フランス留学，仏検

教科書

レナ・ジュンタ，清岡智比古『ぜんぶ話して！（MP3 CD-ROM 付）』白水社，2500円（税別）。

参考書

倉方秀憲　編『プチ・ロワイヤル仏和辞典　第４版』旺文社，2010年3月。
※辞書購入は必須ではありません。希望の場合は、上記の仏和辞書には紙媒体と、電子辞書がありますので、好きな方を入手してください。辞書については、授業でも紹介します。
※教科書には、学習範囲の単語が収録された単語集が付いています。

備考

必要に応じて随時、練習問題や参考文献などの資料を配布します。

電子メールアドレス

授業内で周知。

フランス語ＩＢ (French IB)

科目コード：01009718
担当教員：コモン　ティエリ
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 3限,　講義室：(教育研究1号棟)1-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

フランス語の初級文法と会話の授業です。フランス語で「話す」能力を身に付けるために必要な文法事項を、順序よく学習します。同時に、自己紹介や身近なテーマについての話など、実際にフランスで生活をするさいに使う表現を中心に、少人数で会話の練習を繰り返し行い、楽しくフランス語で話すことに慣れていきます。

授業では随時、フランス映画などの映像やＣＤを用いて、フランス語の音声に親しみながらゆっくりとしたペースで進めます。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

英語に次ぐ第2外国語として学習します。殆どの受講者が初めて学ぶ言語となるため、事前知識は不要です。2〜3年次以降にフランスへ留学する場合に必要となる、基本的な文法知識と会話表現を習得します。

授業項目

1. Leçon 3 : Tu aimes le sport ?「スポーツは好き？」①
   名詞と定冠詞 ・ 好き嫌いのさまざまな表現
2. Leçon 3 : Tu aimes le sport ?「スポーツは好き？」②
   形容詞を使ってコメントする ・
   C'est〜（それは〜です）
3. 前半まとめ
   Leçon 3のまとめと練習問題 ・ 数詞（21〜69）
4. Leçon 4 : Tu déjeunes où ?
「どこでお昼食べるの？」①
   3つの疑問の形 ・疑問詞 où （どこへ)
5. Leçon 4 : Tu déjeunes où ?
「どこでお昼食べるの？」②
   前置詞と定冠詞の縮約 ・ 不定冠詞 ・
   「できれば〜したい」
6. フランス映画の紹介
   フランス語の音に慣れ、フランスの文化・社会的背景についての知識を深める。簡単な挨拶の聞き取り。
7. 文法復習
   文法復習
8. まとめ及び定期試験
   まとめ及び第2クォーター試験

授業の進め方

上記の項目にしたがって授業を行います。授業内容の理解を促すために、小テストなどを課しながら授業を進めます。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

「初歩的なフランス語を理解し、聞き、話すことができる」（実用フランス語技能検定試験5級レベル）の準備段階への到達が目標です。
具体的には以下の項目を目標とします。
1. 音素を把握することができる。
2. 語句を区切って読むことができる。
3. 単語を書くことができる。
4. 個人についての情報を伝えることができる。

成績評価の基準および評価方法

到達目標の達成度は、つぎの方法と割合で評価します。
①平常点：40%（学習状況、ペアでの会話の練習状況等）
②定期試験：60%
（小テスト等、数回に分ける場合があります）

授業外学習（予習・復習）の指示

（予習）
授業範囲内に出てくる単語を単語集で確認し、大まかな内容を理解しておいてください。
（復習）　ノートを見て授業を思い出しながら、繰り返し声に出して読んでください。

キーワード

フランス語，フランス文化，フランス語圏，フランス留学，仏検

教科書

レナ・ジュンタ，清岡智比古『ぜんぶ話して！（MP3 CD-ROM 付）』白水社。

参考書

倉方秀憲　編『プチ・ロワイヤル仏和辞典　第４版』旺文社，2010年3月。

※教科書には、学習範囲の単語が収録された単語集が付いています。

備考

必要に応じて随時、練習問題や参考文献などの資料を配布します。

電子メールアドレス

授業内で周知

フランス語ＩＢ (French IB)

科目コード：01009718
担当教員：コモン　ティエリ
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 4限,　講義室：(教育研究1号棟)1-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

フランス語の初級文法と会話の授業です。フランス語で「話す」能力を身に付けるために必要な文法事項を、順序よく学習します。同時に、自己紹介や身近なテーマについての話など、実際にフランスで生活をするさいに使う表現を中心に、少人数で会話の練習を繰り返し行い、楽しくフランス語で話すことに慣れていきます。

授業では随時、フランス映画などの映像やＣＤを用いて、フランス語の音声に親しみながらゆっくりとしたペースで進めます。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

英語に次ぐ第2外国語として学習します。殆どの受講者が初めて学ぶ言語となるため、事前知識は不要です。2〜3年次以降にフランスへ留学する場合に必要となる、基本的な文法知識と会話表現を習得します。

授業項目

1. Leçon 3 : Tu aimes le sport ?「スポーツは好き？」①
   名詞と定冠詞 ・ 好き嫌いのさまざまな表現
2. Leçon 3 : Tu aimes le sport ?「スポーツは好き？」②
   形容詞を使ってコメントする ・
   C'est〜（それは〜です）
3. 前半まとめ
   Leçon 3のまとめと練習問題 ・ 数詞（21〜69）
4. Leçon 4 : Tu déjeunes où ?
「どこでお昼食べるの？」①
   3つの疑問の形 ・疑問詞 où （どこへ)
5. Leçon 4 : Tu déjeunes où ?
「どこでお昼食べるの？」②
   前置詞と定冠詞の縮約 ・ 不定冠詞 ・
   「できれば〜したい」
6. フランス映画の紹介
   フランス語の音に慣れ、フランスの文化・社会的背景についての知識を深める。簡単な挨拶の聞き取り。
7. 文法復習
   文法復習
8. まとめ及び定期試験
   まとめ及び第2クォーター試験

授業の進め方

上記の項目にしたがって授業を行います。授業内容の理解を促すために、小テストなどを課しながら授業を進めます。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

「初歩的なフランス語を理解し、聞き、話すことができる」（実用フランス語技能検定試験5級レベル）の準備段階への到達が目標です。
具体的には以下の項目を目標とします。
1. 音素を把握することができる。
2. 語句を区切って読むことができる。
3. 単語を書くことができる。
4. 個人についての情報を伝えることができる。

成績評価の基準および評価方法

到達目標の達成度は、つぎの方法と割合で評価します。
①平常点：40%（学習状況、ペアでの会話の練習状況等）
②定期試験：60%
（小テスト等、数回に分ける場合があります）

授業外学習（予習・復習）の指示

（予習）
授業範囲内に出てくる単語を単語集で確認し、大まかな内容を理解しておいてください。
（復習）　ノートを見て授業を思い出しながら、繰り返し声に出して読んでください。

キーワード

フランス語，フランス文化，フランス語圏，フランス留学，仏検

教科書

レナ・ジュンタ，清岡智比古『ぜんぶ話して！（MP3 CD-ROM 付）』白水社。

参考書

倉方秀憲　編『プチ・ロワイヤル仏和辞典　第４版』旺文社，2010年3月。

※教科書には、学習範囲の単語が収録された単語集が付いています。

備考

必要に応じて随時、練習問題や参考文献などの資料を配布します。

電子メールアドレス

授業内で周知

フランス語 II A (French IIA)

科目コード：01009719
担当教員：コモン　ティエリ
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 3限,　講義室：(教育研究1号棟)1-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:32

授業の概要

フランス語の初級文法と会話の授業です。第２クォーター期間のつづきとして、フランス語で「話す」能力を身に付けるために必要な文法事項を、順序よく学習します。同時に、自分の日常生活や身近なテーマについての話など、実際にフランスで生活をするさいに使う表現を中心に、少人数で会話の練習を繰り返し行い、楽しくフランス語で話すことに慣れていきます。

授業では随時、フランス映画などの映像やＣＤを用いて、フランス語の音声に親しみながらゆっくりとしたペースで進めます。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

英語に次ぐ第2外国語として学習します。週1コマの授業で半年間フランス語を学習した方が対象です。2～3年次以降にフランスへ留学する場合に必要となる、基本的な文法知識と会話表現を習得します。

授業項目

1. 前回までの復習
   第2クォーター期間の学習内容の復習 ・ 数詞（70～100）
2. Leçon 5 : Tu as des frères et sœurs ?「兄弟姉妹はいる？」①
   動詞 avoir（～を持っている）・ 形容詞 ・ avoir と否定の de
3. Leçon 5 : Tu as des frères et sœurs ?「兄弟姉妹はいる？」②
   疑問形容詞 ・ 序数詞
4. 前半まとめ
   Leçon 5のまとめと練習問題
5. Leçon 6 : Votre grande sœur, elle est comment ?「あなたのお姉さんは、どんな感じですか？」①
   所有形容詞 ・ 疑問詞 comment （どのように）
6. Leçon 6 : Votre grande sœur, elle est comment ?「あなたのお姉さんは、どんな感じですか？」②
   人について好き嫌いを言い、その人がどんな風か言う
7. 文法復習
   文法復習
8. まとめ及び定期試験
   まとめ及び第3クォーター試験

授業の進め方

上記の項目にしたがって授業を行います。授業内容の理解を促すために、小テストなどを課しながら授業を進めます。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

初歩的なフランス語を聞き、話し、読み、書くことができる（実用フランス語技能検定試験5級レベル）への到達が目標です。
具体的には以下の項目を目標とします。
1.
ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
2. 基本構文を理解することができる。
3. 短い言い回しを書き写すことができる。
4. 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

成績評価の基準および評価方法

到達目標の達成度は、つぎの方法と割合で評価します。
①平常点 : 40%（学習状況、ペアでの会話の練習状況等）
②定期試験 : 60%
（小テスト等、数回に分ける場合があります）

授業外学習（予習・復習）の指示

（予習）
授業範囲内に出てくる単語を単語集で確認し、大まかな内容を理解しておいてください。
（復習）　ノートを見て授業内容を思い出しながら、繰り返し声に出して練習してください。

キーワード

フランス語，フランス文化，フランス語圏，フランス留学，仏検

教科書

レナ・ジュンタ，清岡智比古『ぜんぶ話して！（MP3 CD-ROM 付）』白水社。

参考書

倉方秀憲　編『プチ・ロワイヤル仏和辞典　第４版』旺文社，2010年3月。

備考

必要に応じて随時、練習問題や参考文献などの資料を配布します。

電子メールアドレス

授業内で周知。

フランス語 II A (French IIA)

科目コード：01009719
担当教員：コモン　ティエリ
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 4限,　講義室：(教育研究1号棟)1-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:32

授業の概要

フランス語の初級文法と会話の授業です。第２クォーター期間のつづきとして、フランス語で「話す」能力を身に付けるために必要な文法事項を、順序よく学習します。同時に、自分の日常生活や身近なテーマについての話など、実際にフランスで生活をするさいに使う表現を中心に、少人数で会話の練習を繰り返し行い、楽しくフランス語で話すことに慣れていきます。

授業では随時、フランス映画などの映像やＣＤを用いて、フランス語の音声に親しみながらゆっくりとしたペースで進めます。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

英語に次ぐ第2外国語として学習します。週1コマの授業で半年間フランス語を学習した方が対象です。2～3年次以降にフランスへ留学する場合に必要となる、基本的な文法知識と会話表現を習得します。

授業項目

1. 前回までの復習
   第2クォーター期間の学習内容の復習 ・ 数詞（70～100）
2. Leçon 5 : Tu as des frères et sœurs ?「兄弟姉妹はいる？」①
   動詞 avoir（～を持っている）・ 形容詞 ・ avoir と否定の de
3. Leçon 5 : Tu as des frères et sœurs ?「兄弟姉妹はいる？」②
   疑問形容詞 ・ 序数詞
4. 前半まとめ
   Leçon 5のまとめと練習問題
5. Leçon 6 : Votre grande sœur, elle est comment ?「あなたのお姉さんは、どんな感じですか？」①
   所有形容詞 ・ 疑問詞 comment （どのように）
6. Leçon 6 : Votre grande sœur, elle est comment ?「あなたのお姉さんは、どんな感じですか？」②
   人について好き嫌いを言い、その人がどんな風か言う
7. 文法復習
   文法復習
8. まとめ及び定期試験
   まとめ及び第3クォーター試験

授業の進め方

上記の項目にしたがって授業を行います。授業内容の理解を促すために、小テストなどを課しながら授業を進めます。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

初歩的なフランス語を聞き、話し、読み、書くことができる（実用フランス語技能検定試験5級レベル）への到達が目標です。
具体的には以下の項目を目標とします。
1.
ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
2. 基本構文を理解することができる。
3. 短い言い回しを書き写すことができる。
4. 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

成績評価の基準および評価方法

到達目標の達成度は、つぎの方法と割合で評価します。
①平常点 : 40%（学習状況、ペアでの会話の練習状況等）
②定期試験 : 60%
（小テスト等、数回に分ける場合があります）

授業外学習（予習・復習）の指示

（予習）
授業範囲内に出てくる単語を単語集で確認し、大まかな内容を理解しておいてください。
（復習）　ノートを見て授業内容を思い出しながら、繰り返し声に出して練習してください。

キーワード

フランス語，フランス文化，フランス語圏，フランス留学，仏検

教科書

レナ・ジュンタ，清岡智比古『ぜんぶ話して！（MP3 CD-ROM 付）』白水社。

参考書

倉方秀憲　編『プチ・ロワイヤル仏和辞典　第４版』旺文社，2010年3月。

備考

必要に応じて随時、練習問題や参考文献などの資料を配布します。

電子メールアドレス

授業内で周知。

フランス語 II B (French IIB)

科目コード：01009720
担当教員：コモン　ティエリ
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 3限,　講義室：(教育研究1号棟)1-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

フランス語の初級文法と会話の授業です。フランス語で「話す」能力を身に付けるために必要な文法事項を、引きつづき順序よく学習します。同時に、自分の日常生活や身近なテーマについての話など、実際にフランスで生活をするさいに使う表現を中心に、少人数で会話の練習を繰り返し行い、楽しくフランス語で話すことに慣れていきます。

授業では随時、フランス映画などの映像やＣＤを用いて、フランス語の音声に親しみながらゆっくりとしたペースで進めます。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

英語に次ぐ第2外国語として学習します。週1コマの授業で半年間フランス語を学習した方が対象です。2〜3年次以降にフランスへ留学する場合に必要となる、基本的な文法知識と会話表現を習得します。

授業項目

1. Leçon 7 : Tu fais quoi en général le soir ?「ふだん、夜は何してる？」①
   動詞 faire（〜をする）で表すさまざまな活動 ・ faire と否定の de
2. Leçon 7 : Tu fais quoi en général le soir ?「ふだん、夜は何してる？」②
   動詞 sortir（外出する）・voir（見る、会う）等の活用 ・ 否定の復習
3. 前半まとめ
   まとめと練習問題
4. Leçon 8 : Tu prends quoi en général le matin ?「ふだん、朝は何食べる？」①
   動詞 prendre（とる）, manger（食べる）, boire（飲む）の活用 ・ 部分冠詞
5. Leçon 8 : Tu prends quoi en général le matin ?「ふだん、朝は何食べる？」②
   指示代名詞 ça と中性代名詞 en ・ 頻度の表現
6. フランス映画の紹介
   フランス語の音に慣れ、フランスの文化・社会的背景について知識を深める。簡単な挨拶の聞き取り。
7. 文法復習
   文法復習
8. まとめ及び定期試験
   まとめ及び第4クォーター試験

授業の進め方

上記の項目にしたがって授業を行います。授業内容の理解を促すために、小テストなどを課しながら授業を進めます。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

初歩的なフランス語を聞き、話し、読み、書くことができる（実用フランス語技能検定試験5級レベル）への到達が目標です。
具体的には以下の項目を目標とします。
1.
ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
2. 基本構文を理解することができる。
3. 短い言い回しを書き写すことができる。
4. 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

成績評価の基準および評価方法

到達目標の達成度は、つぎの方法と割合で評価します。
①平常点 : 40%（学習状況、ペアでの会話の練習状況等）
②定期試験 :
60%　（小テスト等、数回に分ける場合があります）

授業外学習（予習・復習）の指示

（予習）
授業範囲内に出てくる単語を単語集で確認し、大まかな内容を理解しておいてください。
（復習）　ノートを見て授業内容を思い出しながら、繰り返し声に出して練習してください。

キーワード

フランス語，フランス文化，フランス語圏，フランス留学，仏検

教科書

レナ・ジュンタ，清岡智比古『ぜんぶ話して！（MP3 CD-ROM 付）』白水社。

参考書

倉方秀憲　編『プチ・ロワイヤル仏和辞典　第４版』旺文社，2010年3月。

備考

必要に応じて随時、練習問題や参考文献などの資料を配布します。

電子メールアドレス

授業内で周知。

フランス語 II B (French IIB)

科目コード：01009720
担当教員：コモン　ティエリ
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 4限,　講義室：(教育研究1号棟)1-2C講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

フランス語の初級文法と会話の授業です。フランス語で「話す」能力を身に付けるために必要な文法事項を、引きつづき順序よく学習します。同時に、自分の日常生活や身近なテーマについての話など、実際にフランスで生活をするさいに使う表現を中心に、少人数で会話の練習を繰り返し行い、楽しくフランス語で話すことに慣れていきます。

授業では随時、フランス映画などの映像やＣＤを用いて、フランス語の音声に親しみながらゆっくりとしたペースで進めます。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

英語に次ぐ第2外国語として学習します。週1コマの授業で半年間フランス語を学習した方が対象です。2〜3年次以降にフランスへ留学する場合に必要となる、基本的な文法知識と会話表現を習得します。

授業項目

1. Leçon 7 : Tu fais quoi en général le soir ?「ふだん、夜は何してる？」①
   動詞 faire（〜をする）で表すさまざまな活動 ・ faire と否定の de
2. Leçon 7 : Tu fais quoi en général le soir ?「ふだん、夜は何してる？」②
   動詞 sortir（外出する）・voir（見る、会う）等の活用 ・ 否定の復習
3. 前半まとめ
   まとめと練習問題
4. Leçon 8 : Tu prends quoi en général le matin ?「ふだん、朝は何食べる？」①
   動詞 prendre（とる）, manger（食べる）, boire（飲む）の活用 ・ 部分冠詞
5. Leçon 8 : Tu prends quoi en général le matin ?「ふだん、朝は何食べる？」②
   指示代名詞 ça と中性代名詞 en ・ 頻度の表現
6. フランス映画の紹介
   フランス語の音に慣れ、フランスの文化・社会的背景について知識を深める。簡単な挨拶の聞き取り。
7. 文法復習
   文法復習
8. まとめ及び定期試験
   まとめ及び第4クォーター試験

授業の進め方

上記の項目にしたがって授業を行います。授業内容の理解を促すために、小テストなどを課しながら授業を進めます。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

初歩的なフランス語を聞き、話し、読み、書くことができる（実用フランス語技能検定試験5級レベル）への到達が目標です。
具体的には以下の項目を目標とします。
1.
ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
2. 基本構文を理解することができる。
3. 短い言い回しを書き写すことができる。
4. 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

成績評価の基準および評価方法

到達目標の達成度は、つぎの方法と割合で評価します。
①平常点 : 40%（学習状況、ペアでの会話の練習状況等）
②定期試験 :
60%　（小テスト等、数回に分ける場合があります）

授業外学習（予習・復習）の指示

（予習）
授業範囲内に出てくる単語を単語集で確認し、大まかな内容を理解しておいてください。
（復習）　ノートを見て授業内容を思い出しながら、繰り返し声に出して練習してください。

キーワード

フランス語，フランス文化，フランス語圏，フランス留学，仏検

教科書

レナ・ジュンタ，清岡智比古『ぜんぶ話して！（MP3 CD-ROM 付）』白水社。

参考書

倉方秀憲　編『プチ・ロワイヤル仏和辞典　第４版』旺文社，2010年3月。

備考

必要に応じて随時、練習問題や参考文献などの資料を配布します。

電子メールアドレス

授業内で周知。

韓国語ＩＡ (Korean IA)

科目コード：01009725
担当教員：崔　相振
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 3限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:11

授業の概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。先ず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現（例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など）を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

はじめて韓国語を学習する学生がほとんどなので、授業を通じて韓国語に触れ、また韓国語のみならず、韓国の様々な文化に触れることで、異文化理解やコミュニケーション能力を見に付ける。

授業項目

1 ハングルとは？
2 ハングル文字（基本母音）
3 ハングル文字（基本子音）
4 ハングル文字を読む（１）
5 ハングル文字（激音）
6 ハングル文字（濃音）
7 ハングル文字（二重母音）
8 試験

授業の進め方

基本は講義になるが、韓国語をたくさん話す、聞く環境を作るために、友達、またはグループで会話の練習を行う。また、韓国の文化を紹介するために、四コマ漫画や映像などを使う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

①音素を把握することができる。
②語句を区切って読むことができる。
③単語を書くことができる。
④個人についての情報を伝えることができる。
1. ハングルの特徴、仕組みを理解する
2. 基本母音（10個）を覚える
3. 基本子音（１４個）を覚える
4. 母音と子音を組み合わせて単語を読む
5. 激音（５個）を覚える
6. 濃音（５個）を覚える
7. 二重母音（11個）を覚える
8. 試験

成績評価の基準および評価方法

出席、小テスト、課題…50％、試験…50％

授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

参考書

備考

２／３以上出席すること。

電子メールアドレス

csjmimi@gmail.com

韓国語ＩＡ (Korean IA)

科目コード：01009725
担当教員：崔　相振
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 4限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:11

授業の概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。先ず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現（例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など）を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

はじめて韓国語を学習する学生がほとんどなので、授業を通じて韓国語に触れ、また韓国語のみならず、韓国の様々な文化に触れることで、異文化理解やコミュニケーション能力を見に付ける。

授業項目

1 ハングルとは？
2 ハングル文字（基本母音）
3 ハングル文字（基本子音）
4 ハングル文字を読む（１）
5 ハングル文字（激音）
6 ハングル文字（濃音）
7 ハングル文字（二重母音）
8 試験

授業の進め方

基本は講義になるが、韓国語をたくさん話す、聞く環境を作るために、友達、またはグループで会話の練習を行う。また、韓国の文化を紹介するために、四コマ漫画や映像などを使う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

①音素を把握することができる。
②語句を区切って読むことができる。
③単語を書くことができる。
④個人についての情報を伝えることができる。
1. ハングルの特徴、仕組みを理解する
2. 基本母音（10個）を覚える
3. 基本子音（１４個）を覚える
4. 母音と子音を組み合わせて単語を読む
5. 激音（５個）を覚える
6. 濃音（５個）を覚える
7. 二重母音（11個）を覚える
8. 試験

成績評価の基準および評価方法

出席、小テスト、課題…50％、試験…50％

授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

参考書

備考

２／３以上出席すること。

電子メールアドレス

csjmimi@gmail.com

韓国語ＩＢ (Korean IB)

科目コード：01009726
担当教員：崔　相振
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 3限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。先ず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現（例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など）を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

はじめて韓国語を学習する学生がほとんどなので、授業を通じて韓国語に触れ、また韓国語のみならず、韓国の様々な文化に触れることで、異文化理解やコミュニケーション能力を見に付ける。

授業項目

9 ハングル文字（パッチム）
10 ハングル文字（２文字パッチム）
11 ハングル文字を読む（２）
12 発音（有声音化、連音化）
13 発音（激音化、濃音化）
14 自己紹介
15 韓国の短文を読む
16 試験

授業の進め方

基本は講義になるが、韓国語をたくさん話す、聞く環境を作るために、友達、またはグループで会話の練習を行う。また、韓国の文化を紹介するために、四コマ漫画や映像などを使う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

①音素を把握することができる。
②語句を区切って読むことができる。
③単語を書くことができる。
④個人についての情報を伝えることができる。
1. 9 パッチムの仕組みを理解し、覚える
2. 10 ２文字パッチムを覚える
3. 11
今まで習ったハングル文字を駆使し、色々な単語を読む
4. 12 発音ルール（有声音か、連音化）を覚える
5. 13 発音ルール（激音化、濃音化）を覚える
6. 14 韓国語で名前と自己紹介文を作る
7. 15
今まで学習した文字と発音を駆使し、色々な韓国語の短文を読む
8. 16 試験

成績評価の基準および評価方法

出席、小テスト、課題…50％、試験…50％

授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

参考書

備考

２／３以上出席すること。

電子メールアドレス

csjmimi@gmail.com

韓国語ＩＢ (Korean IB)

科目コード：01009726
担当教員：崔　相振
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 4限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。先ず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現（例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など）を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

はじめて韓国語を学習する学生がほとんどなので、授業を通じて韓国語に触れ、また韓国語のみならず、韓国の様々な文化に触れることで、異文化理解やコミュニケーション能力を見に付ける。

授業項目

9 ハングル文字（パッチム）
10 ハングル文字（２文字パッチム）
11 ハングル文字を読む（２）
12 発音（有声音化、連音化）
13 発音（激音化、濃音化）
14 自己紹介
15 韓国の短文を読む
16 試験

授業の進め方

基本は講義になるが、韓国語をたくさん話す、聞く環境を作るために、友達、またはグループで会話の練習を行う。また、韓国の文化を紹介するために、四コマ漫画や映像などを使う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

①音素を把握することができる。
②語句を区切って読むことができる。
③単語を書くことができる。
④個人についての情報を伝えることができる。
1. 9 パッチムの仕組みを理解し、覚える
2. 10 ２文字パッチムを覚える
3. 11
今まで習ったハングル文字を駆使し、色々な単語を読む
4. 12 発音ルール（有声音か、連音化）を覚える
5. 13 発音ルール（激音化、濃音化）を覚える
6. 14 韓国語で名前と自己紹介文を作る
7. 15
今まで学習した文字と発音を駆使し、色々な韓国語の短文を読む
8. 16 試験

成績評価の基準および評価方法

出席、小テスト、課題…50％、試験…50％

授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

参考書

備考

２／３以上出席すること。

電子メールアドレス

csjmimi@gmail.com

韓国語 II A (Korean IIA)

科目コード：01009727
担当教員：崔　相振
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 3限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:32

授業の概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。先ず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現（例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など）を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

はじめて韓国語を学習する学生がほとんどなので、授業を通じて韓国語に触れ、また韓国語のみならず、韓国の様々な文化に触れることで、異文化理解やコミュニケーション能力を見に付ける。

授業項目

1 第１課（挨拶と紹介）本文とポイント
2 第１課（挨拶と紹介）レベルアップ
3 第２課（指示・疑問文）本文とポイント
4 第２課（指示・疑問文）レベルアップ
5 第３課（存在文）本文とポイント
6 第３課（存在文）レベルアップ
7 第４課（否定文）本文とポイント
8 試験

授業の進め方

基本は講義になるが、韓国語をたくさん話す、聞く環境を作るために、友達、またはグループで会話の練習を行う。また、韓国の文化を紹介するために、四コマ漫画や映像などを使う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

①音素を把握することができる。
②語句を区切って読むことができる。
③単語を書くことができる。
④個人についての情報を伝えることができる。
1.
本文を使って友達と会話する、学習ポイントをグループで練習する
2. 練習問題を解きながら、前回学習したポイントを復習する
3.
本文を使って友達と会話する、学習ポイントをグループで練習する
4. 練習問題を解きながら、前回学習したポイントを復習する
5.
本文を使って友達と会話する、学習ポイントをグループで練習する
6. 練習問題を解きながら、前回学習したポイントを復習する
7.
本文を使って友達と会話する、学習ポイントをグループで練習する
8. 試験

成績評価の基準および評価方法

出席、小テスト、課題…50%、試験…50%

授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

参考書

備考

２／３以上出席すること。

電子メールアドレス

csjmimi@gmail.com

韓国語 II A (Korean IIA)

科目コード：01009727
担当教員：崔　相振
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 4限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:32

授業の概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。先ず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現（例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など）を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

はじめて韓国語を学習する学生がほとんどなので、授業を通じて韓国語に触れ、また韓国語のみならず、韓国の様々な文化に触れることで、異文化理解やコミュニケーション能力を見に付ける。

授業項目

1 第１課（挨拶と紹介）本文とポイント
2 第１課（挨拶と紹介）レベルアップ
3 第２課（指示・疑問文）本文とポイント
4 第２課（指示・疑問文）レベルアップ
5 第３課（存在文）本文とポイント
6 第３課（存在文）レベルアップ
7 第４課（否定文）本文とポイント
8 試験

授業の進め方

基本は講義になるが、韓国語をたくさん話す、聞く環境を作るために、友達、またはグループで会話の練習を行う。また、韓国の文化を紹介するために、四コマ漫画や映像などを使う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

①音素を把握することができる。
②語句を区切って読むことができる。
③単語を書くことができる。
④個人についての情報を伝えることができる。
1.
本文を使って友達と会話する、学習ポイントをグループで練習する
2. 練習問題を解きながら、前回学習したポイントを復習する
3.
本文を使って友達と会話する、学習ポイントをグループで練習する
4. 練習問題を解きながら、前回学習したポイントを復習する
5.
本文を使って友達と会話する、学習ポイントをグループで練習する
6. 練習問題を解きながら、前回学習したポイントを復習する
7.
本文を使って友達と会話する、学習ポイントをグループで練習する
8. 試験

成績評価の基準および評価方法

出席、小テスト、課題…50%、試験…50%

授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

参考書

備考

２／３以上出席すること。

電子メールアドレス

csjmimi@gmail.com

韓国語 II B (Korean IIB)

科目コード：01009728
担当教員：崔　相振
学部・学科：共通コース,
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：月曜 3限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。先ず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現（例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など）を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

はじめて韓国語を学習する学生がほとんどなので、授業を通じて韓国語に触れ、また韓国語のみならず、韓国の様々な文化に触れることで、異文化理解やコミュニケーション能力を見に付ける。

授業項目

9　１Ｑ・２Ｑの復習
10　第４課（否定文）レベルアップ
11　第５課（漢数字）本文とポイント
12　第５課（漢数字）レベルアップ
13　第６課（用言の活用）本文とポイント
14　第６課（用言の活用）レベルアップ
15　試験

授業の進め方

基本は講義になるが、韓国語をたくさん話す、聞く環境を作るために、友達、またはグループで会話の練習を行う。また、韓国の文化を紹介するために、四コマ漫画や映像などを使う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

"①音素を把握することができる。
②語句を区切って読むことができる。
③単語を書くことができる。
④個人についての情報を伝えることができる。"
1. 9 ハングル文字、発音、会話文を復習する
2. 10 本文とポイントを復習する、練習問題を解く
3. 11
本文を使って友達と会話する、学習ポイントをグループで練習する
4. 12
練習問題を解きながら、前回学習したポイントを復習する
5. 13
本文を使って友達と会話する、学習ポイントをグループで練習する
6. 14
練習問題を解きながら、前回学習したポイントを復習する
7. 15 試験

成績評価の基準および評価方法

出席、小テスト、課題…50％、試験…50％

授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

参考書

備考

２／３以上出席すること。

電子メールアドレス

csjmimi@gmail.com

韓国語 II B (Korean IIB)

科目コード：01009728
担当教員：崔　相振
学部・学科：共通コース, 共通コース
単位区分：選必,　単位数：.5, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 4限,　講義室：(総合教育棟北)C-3B講義室
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。先ず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現（例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など）を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

はじめて韓国語を学習する学生がほとんどなので、授業を通じて韓国語に触れ、また韓国語のみならず、韓国の様々な文化に触れることで、異文化理解やコミュニケーション能力を見に付ける。

授業項目

9　１Ｑ・２Ｑの復習
10　第４課（否定文）レベルアップ
11　第５課（漢数字）本文とポイント
12　第５課（漢数字）レベルアップ
13　第６課（用言の活用）本文とポイント
14　第６課（用言の活用）レベルアップ
15　試験

授業の進め方

基本は講義になるが、韓国語をたくさん話す、聞く環境を作るために、友達、またはグループで会話の練習を行う。また、韓国の文化を紹介するために、四コマ漫画や映像などを使う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

"①音素を把握することができる。
②語句を区切って読むことができる。
③単語を書くことができる。
④個人についての情報を伝えることができる。"
1. 9 ハングル文字、発音、会話文を復習する
2. 10 本文とポイントを復習する、練習問題を解く
3. 11
本文を使って友達と会話する、学習ポイントをグループで練習する
4. 12
練習問題を解きながら、前回学習したポイントを復習する
5. 13
本文を使って友達と会話する、学習ポイントをグループで練習する
6. 14
練習問題を解きながら、前回学習したポイントを復習する
7. 15 試験

成績評価の基準および評価方法

出席、小テスト、課題…50％、試験…50％

授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

教科書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

参考書

備考

２／３以上出席すること。

電子メールアドレス

csjmimi@gmail.com

日本語ＩＡ (Japanese I A)

科目コード：01009771
担当教員：アプドゥハン　恭子
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：査定外, 選,　単位数：0, 0.0, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：火曜 5限,
講義室：(戸畑インタラクティブ学習棟)戸畑MILAIS
更新日：2017/06/12 07:03:11

授業の概要

様々なタイプの文章を読むことによって、ストラテジーを意識した読み方を学ぶ。大学生として必要な語彙の拡充、書き言葉特有の表現なども学習する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

日本語能力試験N1程度の日本語レベルの学生を対象とする。

授業項目

１～３　新聞の各欄を読む
４～６　エッセイ
７～８　雑誌
８　期末試験

授業の進め方

速読、内容確認、語彙の拡張、練習

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1.
文書の種類によるリーディングストラテジーの違いを身に付ける
2.
新聞や雑誌、エッセイなどの内容が速読によっておおよそ理解できる。

成績評価の基準および評価方法

授業への参加度・課題（50%）、期末試験（50%）で評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

授業で読んだ種類の文章で自分の興味ある文書を探して読んでみること。

キーワード

リーディングストラテジー、雑誌、新聞、エッセイ

教科書

特になし

参考書

備考

オフィスアワー：月曜15時半以降

電子メールアドレス

日本語ＩＡ (Japanese I A)

科目コード：01009771
担当教員：上野　まり子
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：査定外, 選,　単位数：0, 0.0, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 5限,
講義室：(戸畑インタラクティブ学習棟)戸畑MILAIS
更新日：2017/06/12 07:03:11

授業の概要

日本の社会的・文化的な話題をもとに、読む力、聞く力を向上させるとともに、語彙を拡充して、考えたことを適切に表現する力をつける。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

中級レベルの日本語能力を定着させるためのものである。大学の講義を理解するための基礎を固める。語彙や文法を予習復習して学んでいく習慣を確立する。

授業項目

第1回 第1課　舌を出したアインシュタイン
第2回 第1課　文法（時間・空間を表わす）
第3回 第2課　わたしと小鳥とすずと
第4回 第2課　文法（対比・例示）
第5回 第3課　ロボットの始まりは
第6回 第3課　文法（強調・立場）
第7回 第3課　話し合ってみよう
第8回 まとめとテスト

授業の進め方

上記の項目にしたがって講義する。講義の内容理解を促すための課題を課す。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

大学の講義を理解するための基礎を固める。
1. 読む力、聞く力を向上させる。
2. 社会的・文化的な話題について語彙を拡充する。
3. 考えたこと、感じたことを日本語で表現する力をつける。

成績評価の基準および評価方法

課題（20%）、学期末試験（60%）、授業への参加度（20%）で評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

毎回課題を課すので、それをもとに復習すること

キーワード

「日本の社会・文化」「「語彙」「文法練習」「ディスコース練習」

教科書

石沢弘子他：日本語中級J301－中級前期－（スリーエーネットワーク）

参考書

備考

【履修上の注意事項】
図書館３階の日本語学習書コーナーに参考となる本があるので、自分に合う本を探して学習すること。

【オフィスアワー等】
質問がある場合は授業前後か下記メールにて随時受け付ける。

電子メールアドレス

日本語ＩＢ (Japanese I B)

科目コード：01009772
担当教員：上野　まり子
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：査定外, 選,　単位数：0, 0.0, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 5限,
講義室：(戸畑インタラクティブ学習棟)戸畑MILAIS
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要
日本の社会的・文化的な話題をもとに、読む力、聞く力を向上させるとともに、語彙を拡充して、考えたことを適切に表現する力をつける。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ
中級レベルの日本語能力を定着させるためのものである。大学の講義を理解するための基礎を固める。語彙や文法を予習復習して学んでいく習慣を確立する。

授業項目
第1回
第4課　写真好きの日本人は、なぜ家族の写真を職場に飾らないのか
第2回 第4課　文法（疑問・仮定）
第3回 第4課　話し合ってみよう
第4回 第5課　どのくらい待たされるとイライラしますか
第5回 第5課　文法（使役受け身）
第6回 第5課　話し合ってみよう
第7回 まとめ
第8回 テスト

授業の進め方
上記の項目にしたがって講義する。講義の内容理解を促すための課題を課す。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）
大学の講義を理解するための基礎を固める。
1. 読む力、聞く力を向上させる。
2. 社会的・文化的な話題について語彙を拡充する。
3. 考えたこと、感じたことを日本語で表現する力をつける。

成績評価の基準および評価方法
課題（20%）、学期末試験（60%）、授業への参加度（20%）で評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示
毎回課題を課すので、それをもとに復習すること

キーワード
「日本の社会・文化」「「語彙」「文法練習」「ディスコース練習」

教科書
石沢弘子他：日本語中級J301－中級前期－（スリーエーネットワーク）

参考書

備考

【履修上の注意事項】
図書館３階の日本語学習書コーナーに参考となる本があるので、自分に合う本を探して学習すること。

【オフィスアワー等】
質問がある場合は授業前後か下記メールにて随時受け付ける。

電子メールアドレス
mari_426_yuzu@yahoo.co.jp

日本語ＩＢ (Japanese I B)

科目コード：01009772
担当教員：アプドゥハン　恭子
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：査定外, 選,　単位数：0, 0.0, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：火曜 5限,
講義室：(戸畑インタラクティブ学習棟)戸畑MILAIS
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要
様々なタイプの文章を読むことによって、ストラテジーを意識した読み方を学ぶ。大学生として必要な語彙の拡充、書き言葉特有の表現なども学習する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ
日本語能力試験N1程度の日本語レベルの学生を対象とする。

授業項目
１～３　ネット上の情報
４～５　歌詞
６～８　小説・伝記
８　期末試験

授業の進め方
速読、内容確認、語彙の拡張、練習

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）
1.
文書の種類によるリーディングストラテジーの違いを身に付ける
2. 文章の内容が速読によっておおよそ理解できる。

成績評価の基準および評価方法
授業への参加度・課題（50%）、期末試験（50%）で評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示
授業で読んだ種類の文章で自分の興味ある文書を探して読んでみること。

キーワード
リーディングストラテジー、速読、語彙拡充

教科書
特になし

参考書

備考
オフィスアワー：月曜15時半以降

電子メールアドレス

日本語 II A (Japanese II A)

科目コード：01009773
担当教員：上野　まり子
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：査定外, 選,　単位数：0, 0.0, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 5限,
講義室：(戸畑インタラクティブ学習棟)戸畑MILAIS
更新日：2017/06/12 07:03:32

授業の概要

日本の社会的・文化的な話題をもとに、読む力、聞く力を向上させるとともに、語彙を拡充して、考えたことを適切に表現する力をつける。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

中級レベルの日本語能力を定着させるためのものである。大学の講義を理解するための基礎を固める。語彙や文法を予習復習して学んでいく習慣を確立する。

授業項目

第1回 第6課　妖怪ブームが根強いのはなぜ？
第2回 第6課　文法（「である」体）
第3回 第6課　話し合ってみよう
第4回 第7課　”想定がい”の地震だった？
第5回 第7課　文法（否定・接続詞）
第6回 第7課　話し合ってみよう
第7回 まとめ
第8回 テスト

授業の進め方

上記の項目にしたがって講義する。講義の内容理解を促すための課題を課す。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

大学の講義を理解するための基礎を固める。
1. 読む力、聞く力を向上させる。
2. 社会的・文化的な話題について語彙を拡充する。
3. 考えたこと、感じたことを日本語で表現する力をつける。

成績評価の基準および評価方法

課題（20%）、学期末試験（60%）、授業への参加度（20%）で評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

毎回課題を課すので、それをもとに復習すること

キーワード

「日本の社会・文化」「「語彙」「文法練習」「ディスコース練習」

教科書

石沢弘子他：日本語中級J301－中級前期－（スリーエーネットワーク）

参考書

備考

【履修上の注意事項】
図書館３階の日本語学習書コーナーに参考となる本があるので、自分に合う本を探して学習すること。

【オフィスアワー等】
質問がある場合は授業前後か下記メールにて随時受け付ける。

電子メールアドレス

mari_426_yuzu@yahoo.co.jp

日本語 II A (Japanese II A)

科目コード：01009773
担当教員：アプドゥハン　恭子
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：査定外, 選,　単位数：0, 0.0, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：火曜 5限,
講義室：(戸畑インタラクティブ学習棟)戸畑MILAIS
更新日：2017/06/12 07:03:32

授業の概要

一般向けのテレビの科学番組を聴き取ることで、科学に関する基本的な日本語の知識を確認する。情報を正確に受信し、日本語で自分の考えを深め、まとめて発信する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

学部1年生にとって、専門の講義を理解するための基本練習となる。

授業項目

第1回 説明文の表現練習
第2回 超音速旅客機
第3回 新型風車
第4回 スペースシャトル事故
第5回 3Dプリンター
第6回 超能力はあるのか
第7回 ロボットカー
第8回 まとめと試験

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 説明文の表現が使用できる
2. 科学番組のおよその内容把握ができる
3.

科学に関する話題に関して、自分なりに考え、日本語で表現できる

成績評価の基準および評価方法

授業への参加度20％ 、毎回の課題30％ 、試験50％

授業外学習（予習・復習）の指示

課題を毎回提出し、身につけたい用語を書き出してリストを作成する

キーワード

科学技術、聞き取り、大意把握、語彙の拡充

教科書

なし

参考書

備考

電子メールアドレス

日本語 II B (Japanese II B)

科目コード：01009774
担当教員：上野　まり子
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：査定外, 選,　単位数：0, 0.0, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 5限,
講義室：(戸畑インタラクティブ学習棟)戸畑MILAIS
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

日本の社会的・文化的な話題をもとに、読む力、聞く力を向上させるとともに、語彙を拡充して、考えたことを適切に表現する力をつける。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

中級レベルの日本語能力を定着させるためのものである。大学の講義を理解するための基礎を固める。語彙や文法を予習復習して学んでいく習慣を確立する。

授業項目

第1回 第8課　クジラと日本人
第2回 第8課　文法（接続詞）
第3回 第8課　話し合ってみよう
第4回 第9課　サルの視力検査
第5回 第9課　文法（例示・時間の経過に伴う変化）
第6回 第10課　子どもの絵
第7回 第10課　文法（主格の「の」）
第8回 まとめとテスト

授業の進め方

上記の項目にしたがって講義する。講義の内容理解を促すための課題を課す。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

大学の講義を理解するための基礎を固める。
1. 読む力、聞く力を向上させる。
2. 社会的・文化的な話題について語彙を拡充する。
3. 考えたこと、感じたことを日本語で表現する力をつける。

成績評価の基準および評価方法

課題（20%）、学期末試験（60%）、授業への参加度（20%）で評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

毎回課題を課すので、それをもとに復習すること

キーワード

「日本の社会・文化」「「語彙」「文法練習」「ディスコース練習」

教科書

石沢弘子他：日本語中級J301－中級前期－（スリーエーネットワーク）

参考書

備考

【履修上の注意事項】
図書館３階の日本語学習書コーナーに参考となる本があるので、自分に合う本を探して学習すること。

【オフィスアワー等】
質問がある場合は授業前後か下記メールにて随時受け付ける。

電子メールアドレス
mari_426_yuzu@yahoo.co.jp

日本語 II B (Japanese II B)

科目コード：01009774
担当教員：アプドゥハン　恭子
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：査定外, 選,　単位数：0, 0.0, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：02,
曜日・時限：火曜 5限,
講義室：(戸畑インタラクティブ学習棟)戸畑MILAIS
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要
一般向けのテレビの科学番組を聴き取ることで、科学に関する基本的な日本語の知識を確認する。情報を正確に受信し、日本語で自分の考えを深め、まとめて発信する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ
学部1年生にとって、専門の講義を理解するための基本練習となる。

授業項目
第1回 顔認証
第2回 双腕ロボット
第3回 ウルトラファインバブル
第4回 スペースデブリ
第5回 サハラ砂漠で発電
第6回 宇宙エレベーター
第7回 研究室見学
第8回 まとめと試験

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）
1. 説明文の表現が使用できる
2. 科学番組のおよその内容把握ができる
3.
科学に関する話題に関して、自分なりに考え、日本語で表現できる

成績評価の基準および評価方法
授業への参加度20％、毎回の課題30％、試験50％

授業外学習（予習・復習）の指示
課題を毎回提出し、身につけたい用語を書き出してリストを作成する

キーワード
科学技術、聞き取り、大意把握、語彙の拡充

教科書
なし

参考書

備考

電子メールアドレス

日本語III A (Japanese III A)

科目コード：01009775
担当教員：アプドゥハン　恭子
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：査定外, 選,　単位数：0, 0.0, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：水曜 5限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:11

授業の概要

一般向けのテレビの科学番組を聴き取ることで、科学に関する基本的な日本語の知識を確認する。情報を正確に受信し、日本語で自分の考えを深め、まとめて発信する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

学部1年生にとって、専門の講義を理解するための基本練習となる。

授業項目

第1回 説明文の表現練習
第2回 超音速旅客機
第3回 新型風車
第4回 スペースシャトル事故
第5回 3Dプリンター
第6回 超能力はあるのか
第7回 ロボットカー
第8回 まとめと試験

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 説明文の表現が使用できる
2. 科学番組のおよその内容把握ができる
3.
科学に関する話題に関して、自分なりに考え、日本語で表現できる

成績評価の基準および評価方法

授業への参加度20％、毎回の課題30％、試験50％

授業外学習（予習・復習）の指示

課題を毎回提出し、身につけたい用語を書き出してリストを作成する

キーワード

科学技術、聞き取り、大意把握、語彙の拡充

教科書

なし

参考書

備考

電子メールアドレス

日本語III B (Japanese III B)

科目コード：01009776
担当教員：アプドゥハン　恭子
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：査定外, 選,　単位数：0, 0.0, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第2クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：水曜 5限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:16

授業の概要

一般向けのテレビの科学番組を聴き取ることで、科学に関する基本的な日本語の知識を確認する。情報を正確に受信し、日本語で自分の考えを深め、まとめて発信する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

学部1年生にとって、専門の講義を理解するための基本練習となる。

授業項目

第1回 顔認証
第2回 双腕ロボット
第3回 ウルトラファインバブル
第4回 スペースデブリ
第5回 サハラ砂漠で発電
第6回 宇宙エレベーター
第7回 研究室見学
第8回 まとめと試験

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 説明文の表現が使用できる
2. 科学番組のおよその内容把握ができる
3.
科学に関する話題に関して、自分なりに考え、日本語で表現できる

成績評価の基準および評価方法

授業への参加度20％、毎回の課題30％、試験50％

授業外学習（予習・復習）の指示

課題を毎回提出し、身につけたい用語を書き出してリストを作成する

キーワード

科学技術、聞き取り、大意把握、語彙の拡充

教科書

なし

参考書

備考

電子メールアドレス

日本語IV A (Japanese IV A)

科目コード：01009777
担当教員：アプドゥハン　恭子
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：査定外, 選,　単位数：0, 0.0, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：水曜 5限,
講義室：(戸畑インタラクティブ学習棟)戸畑MILAIS
更新日：2017/06/12 07:03:32

授業の概要

一般向けのテレビの科学番組を聴き取ることで、科学に関する基本的な日本語の知識を確認する。情報を正確に受信し、日本語で自分の考えを深め、まとめて発信する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

学部1年生にとって、専門の講義を理解するための基本練習となる。

授業項目

第1回 説明文の表現練習
第2回 巨大津波
第3回 折り紙工学
第4回 レスキューロボット
第5回 自動車エンジン開発
第6回 マインドフルネス
第7回 長寿遺伝子
第8回 まとめと試験

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 説明文の表現が使用できる
2. 科学番組のおよその内容把握ができる
3.
科学に関する話題に関して、自分なりに考え、日本語で表現できる

成績評価の基準および評価方法

授業への参加度20％ 、毎回の課題30％ 、試験50％

授業外学習（予習・復習）の指示

課題を毎回提出し、身につけたい用語を書き出してリストを作成する

キーワード

科学技術、聞き取り、大意把握、語彙の拡充

教科書

なし

参考書

備考

電子メールアドレス

日本語IV B (Japanese IV B)

科目コード：01009778
担当教員：アプドゥハン　恭子
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：査定外, 選,　単位数：0, 0.0, 0.5,　対象学年：1年
開講学期：第4クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：水曜 5限,
講義室：(戸畑インタラクティブ学習棟)戸畑MILAIS
更新日：2017/06/12 07:03:38

授業の概要

一般向けのテレビの科学番組を聴き取ることで、科学に関する基本的な日本語の知識を確認する。情報を正確に受信し、日本語で自分の考えを深め、まとめて発信する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

学部1年生にとって、専門の講義を理解するための基本練習となる。

授業項目

第1回 人工筋肉
第2回 自動運転車
第3回 バイオミメティクス
第4回 触感テクノロジー
第5回 マインドフルネス
第6回 人工知能
第7回 研究室見学
第8回 まとめと試験

授業の進め方

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 説明文の表現が使用できる
2. 科学番組のおよその内容把握ができる
3.
科学に関する話題に関して、自分なりに考え、日本語で表現できる

成績評価の基準および評価方法

授業への参加度20％ 、毎回の課題30％ 、試験50％

授業外学習（予習・復習）の指示

課題を毎回提出し、身につけたい用語を書き出してリストを作成する

キーワード

科学技術、聞き取り、大意把握、語彙の拡充

教科書

なし

参考書

備考

電子メールアドレス

日本事情Ⅰ A (Japanese Study I A)

科目コード：01009785
担当教員：アプドゥハン　恭子
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：査定外, 選,　単位数：0, 0.0, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第1クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 2限,
講義室：(戸畑インタラクティブ学習棟)戸畑MILAIS
更新日：2017/06/12 07:03:11

授業の概要

日本の社会や文化に関する知見を広め、考えを深める。日本を自らの出身地や他の地域と比較して、日本の事情について様々な視野から考察する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

留学生が本学に入学して間もない時期、留学生同士で母国の事情を交えて、日本の事情について討議する。

授業項目

第1回 自己紹介、北九州市の紹介
第2回 日本の生活の便利と不便
第4,5回 日本の家族
第6,7回 子供と教育
第8回 まとめと試験

授業の進め方

課題の設定と解説、グループで討議、討議内容の発表、コメント

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 相手の理解を確かめながら話すことができる
2. 背景の異なる相手に積極的に自己開示することができる
3. 異なる文化や価値観を客観的に分析することができる
4. 日本の社会について考えを深める

成績評価の基準および評価方法

毎回のノート（20%）、討議への参加度（30%）、試験（50%）で評価する

授業外学習（予習・復習）の指示

テーマについて事前課題を考えて授業に臨む

キーワード

日本社会、文化、グループ討議、異文化理解

教科書

特になし

参考書

備考

オフィスアワー：木曜３、４限　総合教育棟C−303号室

電子メールアドレス

日本事情Ⅱ A (Japanese Study II A)

科目コード：01009787
担当教員：アプドゥハン　恭子
学部・学科：共通コース, 共通コース, 共通コース,　,　,
単位区分：査定外, 選,　単位数：0, 0.0, 1.0,　対象学年：1年
開講学期：第3クォーター,　クラス：01,
曜日・時限：月曜 2限,
講義室：(未来型インタラクティブ教育棟）インタラクティブ学習室
更新日：2017/06/12 07:03:32

授業の概要

最近のニュースの話題について日本人学生と共に討議する。自らの出身地や他の地域と比較して、日本の事情について様々な視点から考察する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置づけ

授業項目

第1回 アイスブレーキング
第2〜7回 問題提起と討議、グループ発表
第8回 まとめと試験

授業の進め方

最近のニュースから、学生自身が興味ある話題を取り上げ、皆で討議する問題を提起する。討議のための資料を作成し、皆に討議資料を説明する。グループで意見を出し合い、その内容を発表する。自分の意見をまとめ、振り返る。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 相手の理解を確かめながら話すことができる
2. 背景の異なる相手に積極的に自己開示することができる
3. 異なる文化や価値観を客観的に分析することができる
4.
グループで協働して討議を深め、意見をまとめる姿勢を獲得する

成績評価の基準および評価方法

授業外学習（予習・復習）の指示

ニュースに関心を持ち、日本や世界の最新の動向を確認しておくこと。

キーワード

日本社会、ニュース、グループ討議、異文化理解

教科書

特になし

参考書

備考

オフィスアワー：木曜３、４限　総合教育棟C−303号室

電子メールアドレス